

XSL Report Designer V2.5

Jan 2009



Antenna House, Inc.

Copyright © 2004-2009 Antenna House, Inc. All rights reserved.

目次

はじめに

1	本製品の目的.....	2
2	レイアウト設計と組版処理の仕組み	2
3	特徴.....	3
4	動作環境.....	4
5	サポート.....	4

基本概念

6	XML データ構造とレポートのレイアウトへの対応.....	6
6.1	固定型.....	6
6.2	フロー型.....	6
6.3	タックシール.....	7
7	XML データから XSL-FO を生成して印刷する仕組み.....	7
7.1	XSL スタイルシートを使う場合.....	8
8	オブジェクト.....	9
8.1	ドキュメントとリポート.....	10
8.2	テーブル.....	10
9	プロパティ.....	11

実際に体験してみよう

10	はじめの一步.....	14
10.1	印刷対象 XML データの構造.....	14
10.2	起動から PDF の生成まで.....	15
10.3	表の作成.....	25
11	サンプルファイルによるレイアウト設計.....	33
11.1	レポートを設計する.....	35
11.2	レポートを印刷/PDF 保存する.....	48

機能説明

12	メイン画面.....	52
12.1	レイアウトペイン.....	54
12.2	オブジェクトツリーウィンドウ.....	55
12.3	プロパティウィンドウ.....	56
12.4	参照 XML 構造ウィンドウ.....	57
13	メニューバー.....	58

13.1	ファイルメニュー.....	58
13.2	編集メニュー.....	65
13.3	表示メニュー.....	67
13.4	プロジェクトメニュー.....	70
13.5	構成メニュー.....	74
13.6	オブジェクトメニュー.....	77
13.7	プロパティメニュー.....	79
13.8	テーブルメニュー.....	86
13.9	ウィンドウメニュー.....	91
13.10	ヘルプメニュー.....	91
14	コンテキストメニュー.....	91
15	ドッキングウィンドウ.....	92
15.1	初期状態.....	92
15.2	フローティング状態.....	93
15.3	ウィンドウの表示・非表示.....	94
15.4	ウィンドウの配置.....	96
16	レイアウトペインでのオブジェクト編集操作.....	102
16.1	一般.....	103
16.2	テーブル.....	106
プロジェクト設定とオブジェクト		
17	プロジェクト設定.....	124
17.1	プロジェクト設定の内容.....	124
17.2	レイアウトタイプ.....	124
17.3	参照するデータファイルとXMLパス.....	125
18	オブジェクトとプロパティ.....	129
18.1	オブジェクトの一覧.....	129
18.2	ドキュメントオブジェクト.....	130
19	レイアウトタイプ別構成用オブジェクトとプロパティ.....	131
19.1	固定型.....	132
19.2	フロー型.....	143
19.3	タックシール.....	153
レイアウト用オブジェクト		
20	フレーム・ページ・ラベル内のオブジェクトと内容.....	162
20.1	配置できるオブジェクト.....	162
20.2	設定できるプロパティ.....	163
20.3	オブジェクト内容の入力.....	163
21	XML データから内容を取得するためのプロパティ設定.....	164

21.1	XML データ参照のためのプロパティ.....	164
21.2	式を設定する.....	165
22	各オブジェクトのプロパティ設定.....	171
22.1	テキストオブジェクト.....	171
22.2	画像オブジェクト.....	182
22.3	バーコードオブジェクト.....	186
22.4	テーブルオブジェクト.....	190
22.5	ラインオブジェクト.....	202
対応プロパティ一覧		
23	rxl ファイルと XSL ファイルの出力するプロパティ一覧.....	206
24	プロパティ一覧.....	210
組込関数		
25	組込関数一覧.....	218
ランタイムエンジン		
26	動作環境.....	224
27	バッチファイルによる起動.....	224
28	コマンドラインインターフェース.....	224
29	Java インターフェース.....	225
29.1	rx.....	225
29.2	RxEngine.....	226
サンプルファイル		
30	サンプルファイル一覧.....	232
31	「固定型」レイアウトタイプのサンプル.....	232
31.1	サンプルプロジェクトファイル (Jorder-fix.rxl).....	233
31.2	出力される XSL-FO ファイル (Jorder-fix.fo).....	234
31.3	出力される XSL-FO ファイルその 2 (Jorder-fix2.fo).....	234
32	「フロー型」レイアウトタイプのサンプル.....	235
32.1	サンプルプロジェクトファイル (Jorder-flow.rxl).....	236
32.2	出力される XSL-FO ファイル (Jorder-flow.fo).....	236
33	「タックシール」レイアウトタイプのサンプル.....	237
33.1	サンプルプロジェクトファイル (Jlabel.rxl).....	237
33.2	出力される XSL-FO ファイル (Jlabel.fo).....	238
34	「バーコード」のサンプル.....	238
34.1	サンプルプロジェクトファイル (Jbarcode-flow-repeat.rxl).....	239

34.2	出力される XSL-FO ファイル (Jbarcode-flow-repeat.fo)	239
35	「式」のサンプル	240
35.1	サンプルプロジェクトファイル (Jexp-sample2.rxl)	240
35.2	出力される XSL-FO ファイル (Jexp-sample2.fo)	241
36	「コントロールブレイクとまとめ」のサンプル	242
36.1	サンプルプロジェクトファイル (Jc-break.rxl)	243
36.2	出力される XSL-FO ファイル (Jc-break.fo)	243

改訂履歴

37	V2.5 (2009 年 1 月 28 日リリース)	246
38	V2.1 (2007 年 6 月 1 日リリース)	246
39	V2.0 MR4 (2007 年 3 月 5 日リリース)	246
40	V2.0 MR3 (2006 年 8 月 9 日リリース)	246
41	V2.0 MR2 (2005 年 11 月 30 日リリース)	246
41.1	XSL スタイルシートへの四則演算の出力	246
41.2	XSL スタイルシートへのページ番号の出力	247
42	V2.0 MR1a (2005 年 5 月 16 日リリース)	247
43	V2.0 MR1 (2005 年 2 月 22 日リリース)	247
44	V2.0 (2004 年 12 月 20 日リリース)	248
	索引	250

はじめに

ここでは、XSL Report Designer の目的、仕組み、特徴、動作環境を説明します。

1 本製品の目的

XSL Report Designer は XML データをレポートや 帳票（以下、まとめて「レポート」と言います。）の形式に組版するための出力レイアウトを設計するソフトです。出力レイアウト設計には、レポートの見栄えとレポートのどの項目に XML のどの要素の内容を印刷するかといった対応関係の設計などが含まれます。

レイアウト指定言語として、World Wide Web Consortium (W3C) 勧告である「Extensible Stylesheet Language (XSL-FO) Version 1.0 および Version 1.1」を採用しています。XSL-FO を組版する処理は、弊社の別製品「XSL Formatter V4.0」以上を使用して行うことを前提としています。

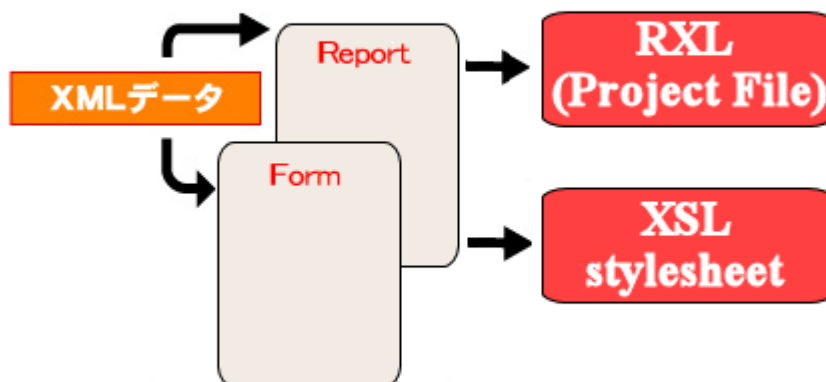
2 レイアウト設計と組版処理の仕組み

本製品では、以下の流れでレイアウト設計と組版処理を行います。

ステップ1. レイアウト設計

Windows の画面上グラフィック・ユーザ・インターフェイス (GUI) を使って対話的にレポートのレイアウト設計を行います。設計した内容は、「プロジェクトファイル (拡張子は、".rxl")」として保存します。または「XSL スタイルシート (拡張子は、".xsl")」として保存することもできます。

ステップ1. クライアント側で設計

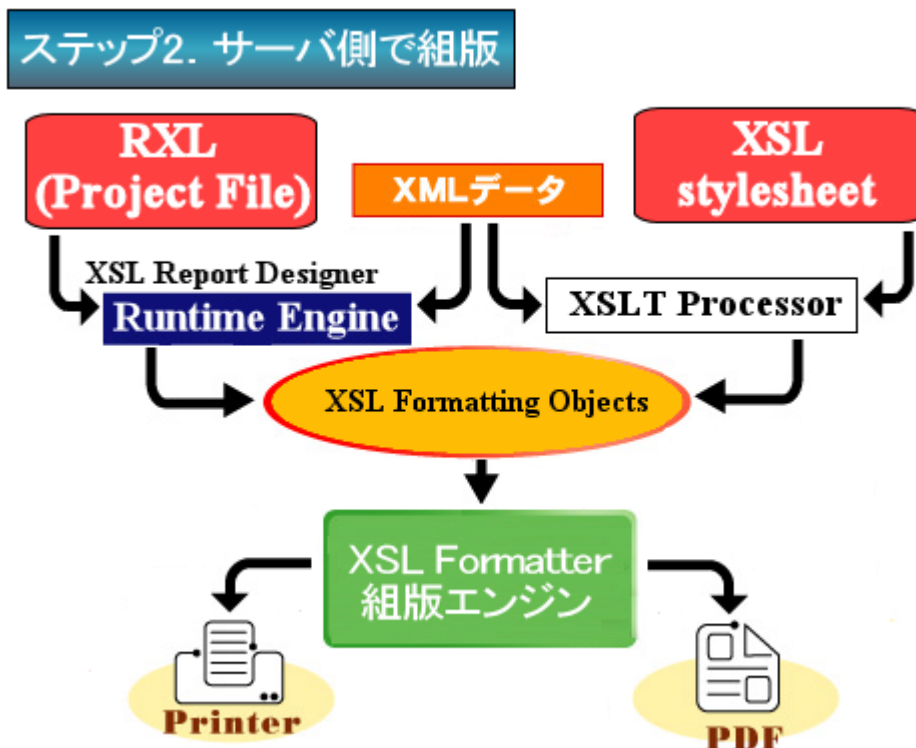


ステップ2. レポートの印刷・PDF 生成

印刷または PDF 化したい XML データを、ステップ1で作成した「プロジェクトファイル」を本製品に同梱している「ランタイムエンジン (Runtime Engine)」に入力し、出力として XSL Formatting Object (XSL-FO) を得ます。

この XSL-FO を XSL Formatter に入力して、印刷したり、PDF 出力を得ることができます。

これとは別に、XML データとステップ1で作成した「XSL スタイルシート」を XSLT プロセサに入力して、XSL-FO に変換し、この XSL-FO を XSL Formatter に入力して、印刷したり、PDF 出力を得ることもできます。



3 特徴

XSL Report Designer は以下の特徴を持っています。

- XSL スタイルシートや XSL-FO の専門的な知識がなくても XML データからのレポートの設計が可能
XML データを印刷するために、複雑なスタイルシートを設計してプログラミングする必要はありません。GUI 上で、マウスを使い、レポートをレイアウトできます。
- 3 種類のレイアウトタイプを作成可能
固定型帳票、フロー型帳票、およびタックシール型帳票の、3 種類のレイアウトタイプを作成することができます。
- 複雑な書式や式も簡単設定
豊富な書式指定、組み込み関数（文字列処理・集計処理・条件判定・XPath 指定など）により、複雑な式などの処理も簡単に指定・実行することが可能です。
- XSL スタイルシートの生成（V2.0 から）
レイアウトされた内容から、「XSL スタイルシート」を自動生成できます。XML データから XSL-FO への変換に標準の XSLT プロセサを使うことができます。
- TSV/CSV データの読み込みに対応（V2.0 から）
既存の TSV（タブ区切り）/ CSV（コンマ区切り）形式のファイルをレコードの並んだデータファイルとみなし、そこから XML データファイルを自動生成して、レイアウト設計を自動生成できます。
- PDF を下絵に使用することが可能（V2.5 から）

レイアウトデザイン時に、既存の PDF を下絵として使えます。これによって、既存帳票の PDF と同じデザインのレイアウトを設計することが格段に便利になります。
下絵に使用した PDF を、背景イメージとしてデータと一緒に出力することも可能です。

- オブジェクト属性を動的に変更することが可能 (V2.5 から)
印刷・PDF 出力時に、データの値によってオブジェクトの属性(テキストの色など)を動的に変更することができます。
- 分離設計の「ランタイムエンジン」を搭載
製品が出力する「プロジェクトファイル」を XML データと組み合わせて、XSL-FO を生成する「ランタイムエンジン」を用意しています。「ランタイムエンジン」は Java から直接呼び出し可能ですので、サーバサイドのシステム構築・帳票印刷にも最適です。また、コマンドラインインターフェースで Java 以外の言語からの呼び出しにも対応しています。

4 動作環境

XSL Report Designer (GUI)	Windows XP SP3 以上、Windows Vista SP1 以上。 ディスプレイ: 解像度 1024×768 以上を推奨。ハイカラー (16bit 色) 以上 メモリ: 512MB 以上
Runtime Engine	Jave SE (Java Platform, Standard Edition) 1.5.0 以上、あるいは JRE (Java Runtime Environment) 1.5.0 以上 メモリ: 512MB 以上

- XSL スタイルシートを使って、XML データから XSL-FO 変換を行うには、XSLT プロセサが必要です。XSLT プロセサは本製品には同梱されていません。
- XSL-FO の生成には、Java 環境が必要です。画面表示 (プレビュー)・印刷・PDF 出力には Antenna House XSL Formatter V4.0 以上が必要です。Formatter の動作環境については、同製品のオンラインヘルプか弊社ウェブサイトをご覧ください。
- バーコード印刷には、弊社製 XSL Formatter バーコードオプションが必要です。現在、バーコードオプションは、Windows 版のみを販売しております。

5 サポート

XSL Report Designer に関するお問い合わせにつきましては、下記までメールでご連絡ください。

技術的なご質問:

e-mail: xml-info@antenna.co.jp

購入方法、価格のご相談、ライセンス体系や契約関連のご質問、その他ご意見:

e-mail: sis@antenna.co.jp

基本概念

ここでは XSL Report Designer で行うレイアウト設計の基本概念を説明します。

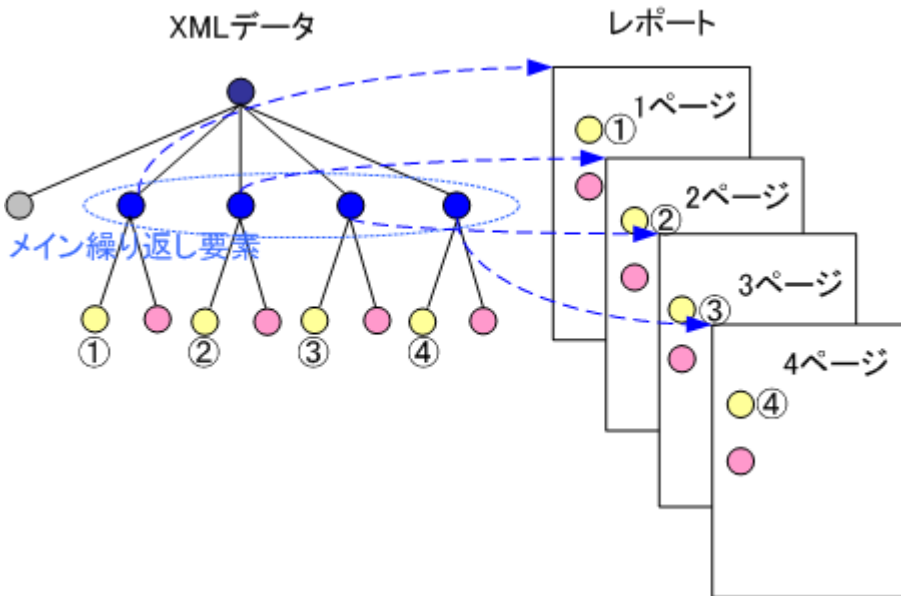
6 XML データ構造とレポートのレイアウトへの対応

XSL Report Designer で行うことは、XML データを 定型のレイアウトパターンをもつレポートに印刷するためのレイアウト設計です。出力の対象となる XML データはツリー構造の一部に一定の繰り返しパターンを持っていなければなりません。一般の書籍や操作説明書のようにツリー構造に一定の繰り返しパターンを期待できない XML ドキュメントのレイアウト設計を行うことはできません。

XSL Report Designer は、XML データの繰り返しパターンをレポートの印刷レイアウトの中における繰り返しパターンに対応させます。レポートの印刷レイアウトという観点からみると、XSL Report Designer は、「固定型」、「フロー型」、「タックシール」の 3 種類の印刷レイアウトを設計できます。次に、XML データのツリー構造の繰り返しパターンを 3 種類の印刷レイアウトの中の繰り返しパターンに対応つける方法について説明します。

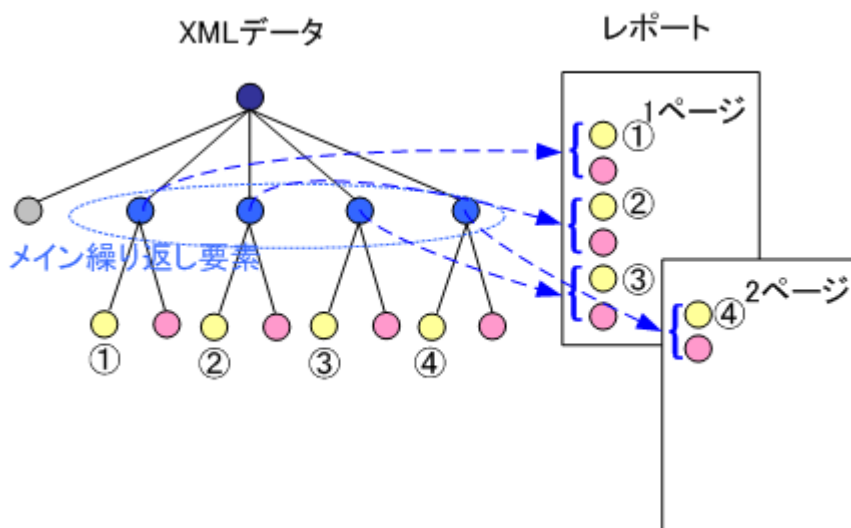
6.1 固定型

「固定型」は、図のように用紙単位で同一の出力を繰り返す レイアウトパターンです。この場合、XML ツリーの上でのひとつの繰り返しを用紙の 1 枚ないし複数枚からなる組に対応つけて印刷します。XML ツリーの中で、用紙に対応つけるような位置にある要素がメイン繰り返し要素です。XML データの中にメイン繰り返し要素が 1 回現われる毎に、レポートにはそれに対応する用紙または用紙のセットの内容が 1 回印刷されます。



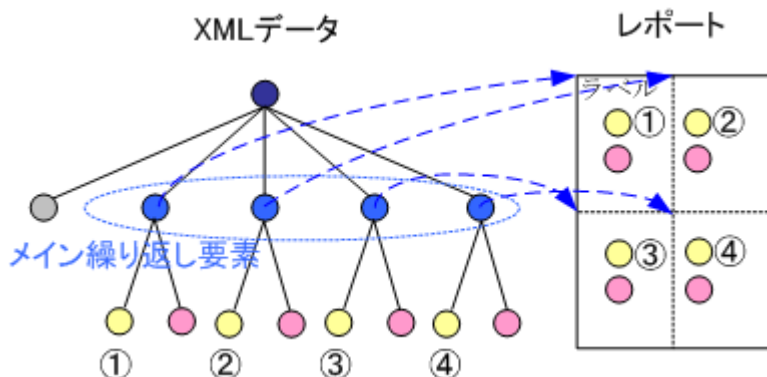
6.2 フロー型

「フロー型」レイアウトは、図のように用紙の上に、XML ツリーの中で繰り返される要素を出現した順に印刷していくレイアウトパターンです。用紙は繰り返しの単位で新しくなるのではなく、内容が用紙の領域に収まらなくなった時に新しくなります。



6.3 タックシール

「タックシール」レイアウトは、次の図のように用紙を縦横に分割します。分割した各領域をラベルと言います。ラベルひとつひとつに同一の出力パターンを繰り返します。ラベルにメイン繰り返し要素を対応つけ、ラベルの中にその下位の要素をレイアウトします。



7 XML データから XSL-FO を生成して印刷する仕組み

XSL Report Designer のレイアウト設計データは「プロジェクト」と呼びます。設計作業の情報は、プロジェクトファイルとして保存されます。

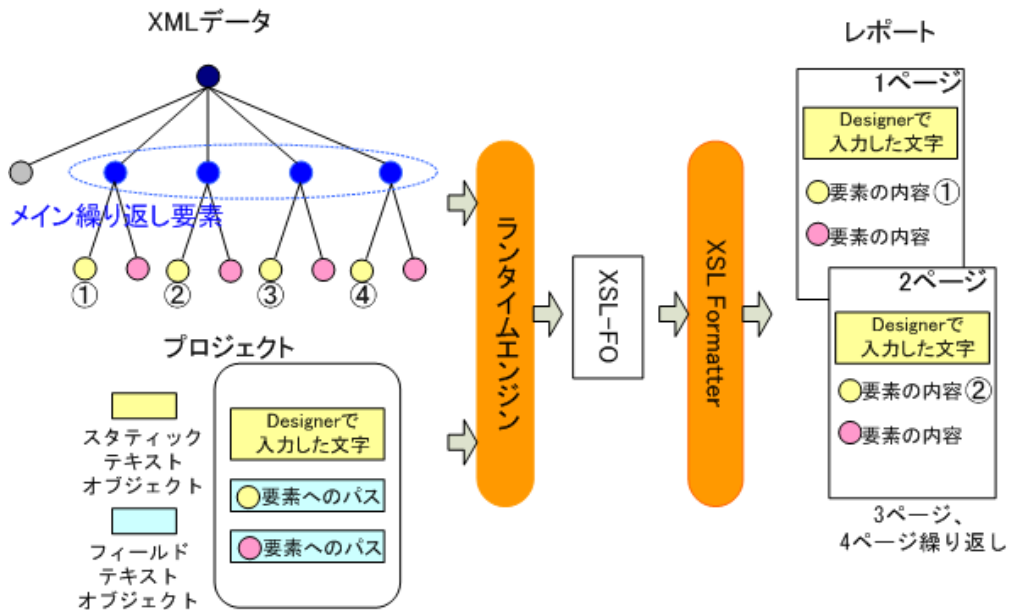
XSL Report Designer によるレイアウト設計時に取り扱う対象を「オブジェクト」といいます。オブジェクトにはいろいろな種類がありますが、最も頻繁に使用するものはテキストオブジェクトです。そこで、次にテキストオブジェクトを例にとり、印刷までの処理がどのようになるかを簡単に説明します。

XSL Report Designer のテキストオブジェクトは DTP やワードプロセサのような具体的なテキスト文字列ではありません。むしろテキストオブジェクトは空の入れ物に近いものです。

テキストオブジェクトの種類には「スタティック」と「フィールド」の 2 種類あります。スタティック・テキストオブジェクトには XSL Report Designer で文字列を入力します。フィールド・テキストオブジェクトには印刷対象 XML データの要素へのパス（「XML パス」といいます）を設定します。

XSL Report Designer に同梱しているランタイムエンジン (Runtime Engine) に印刷対象 XML データとプロジェクトを入力すると、印刷対象 XML データとプロジェクトの内容から XSL-FO を出力します。このとき、スタティック・テキストオブジェクトの場合は、XSL Report Designer で入力した内容がそのまま XSL-FO のブロックオブジェクト (fo:block) の内容になります。フィールド・テキストオブジェクトの場合は、印刷対象 XML データの中から、XML パスで指定した要素の内容が XSL-FO のブロックオブジェクト (fo:block) の内容として出力されます。こうしてできた XSL-FO を XSL Formatter に入力すると、印刷したり、PDF にすることができます。

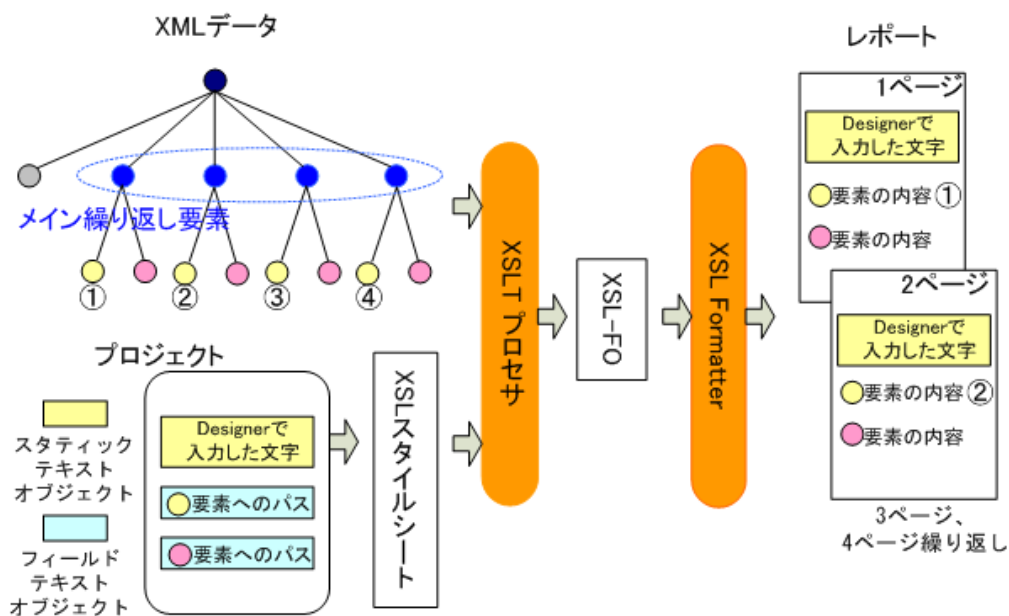
ここで重要なことは、ランタイムエンジンが出力する XSL-FO には、印刷対象 XML データのツリー構造が反映されているということです。プロジェクトの中で、印刷対象 XML データのメイン繰り返し要素を設定すると、XML ツリーでその下位にある要素のテキストオブジェクトは、メイン繰り返し要素の出現回数分繰り返し、XSL-FO に出力されます。



7.1 XSL スタイルシートを使う場合

XSL Report Designer はプロジェクトから XSL スタイルシートを生成することができます。

プロジェクトから生成した XSL スタイルシートを使う場合は、印刷対象 XML データと XSL スタイルシートを XSLT プロセッサに入力すると、XSLT プロセッサが XSL-FO を出力します。出力される XSL-FO に XSL Report Designer のオブジェクトとプロパティの設定内容がどのように反映されるかランタイムエンジンが出力する XSL-FO と同様です。ただし、XSL スタイルシートには、XSL Report Designer のプロジェクトで設定した計算式が使えないなどの制限があります。



8 オブジェクト

XSL Report Designer で扱えるオブジェクトには次の種類があります。

- ドキュメント (document) オブジェクト
- レポートヘッダ (report-header) オブジェクト
- レポートフッタ (report-footer) オブジェクト
- リピート (repeat) オブジェクト
- ページ (page) オブジェクト
- フレーム (frame) オブジェクト
- ラベル (label) オブジェクト
- テキスト (text) オブジェクト
- 画像 (image) オブジェクト
- バーコード (barcode) オブジェクト
- テーブル (table) オブジェクト
- キャプション (caption) オブジェクト
- カラムインフォ (column-info) オブジェクト
- テーブルヘッダ (table-header) オブジェクト・テーブルフッタ (table-footer) オブジェクト
- テーブルボディ (table-body) オブジェクト
- テーブル行 (table-row) オブジェクト
- テーブルセル (table-cell) オブジェクト

■ ライン (line) オブジェクト

次に重要なオブジェクトのみ解説します。各オブジェクトについては、「プロジェクト設定とオブジェクト」内「オブジェクトとプロパティ」(129 ページ)または「レイアウト用オブジェクト」(162 ページ)で詳しく説明していますのでそちらをご覧ください。なお、以下の説明では、指示する内容が明確な場合、オブジェクトという言葉を省略することがあります。

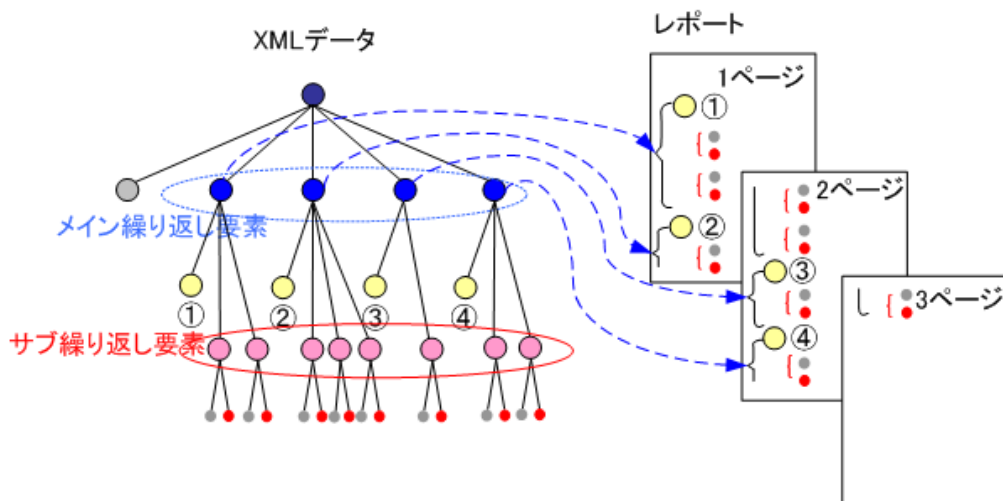
8.1 ドキュメントとリポート

印刷するレポート全体を表すオブジェクトをドキュメントオブジェクトといいます。オブジェクト全体はツリー構造となりますが、ドキュメントがツリーのルートにあたります。

リピートオブジェクトは、レポートの印刷レイアウトの中で繰り返す部分に相当するオブジェクトです。例えば、データ中のレコードひとつずつを1枚の用紙に出力する場合、用紙がリピートオブジェクトに相当します。XSL Report Designerではドキュメントの直下に必ずリピートをおきます。これがメインリピートです。メインリピートは、固定型・フロー型・タックシールの3つのレイアウトでいずれもひとつです。固定型・タックシールではリピートオブジェクトはメインリピートのみです。

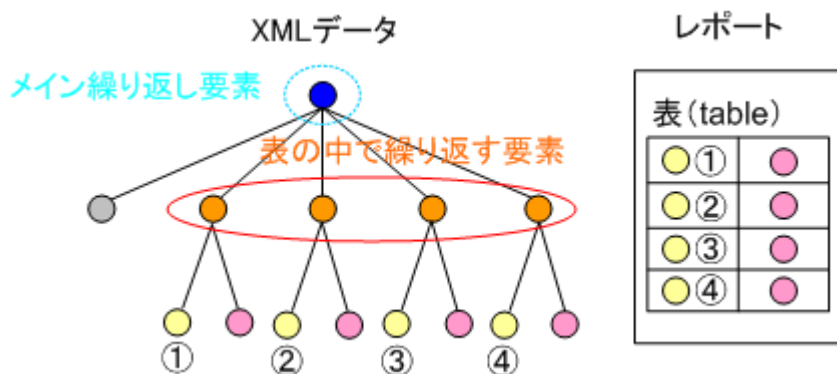
メインリピートには印刷対象となるXMLデータのツリー構造の中で、「メイン繰り返し要素」のパスを対応付けます。レポート印刷時には、印刷しようとするXMLデータの中で、メインリピートに対応付けた「メイン繰り返し要素」が出現した回数だけ、メインリピートの下位のオブジェクトが繰り返されることとなります。

フロー型のレイアウトでは、メインリピートの下位に複数のリピートを置くことができます。これをサブリピートといいます。次の図のように印刷対象XMLツリーの構造にサブ繰り返し要素があるとき、サブリピートにこのサブ繰り返し要素のパスを指定すると右のような印刷出力を得ることができます。



8.2 テーブル

XMLデータの繰り返し要素をレポートのレイアウト上のブロックの繰り返しに対応つけるのではなく、テーブルオブジェクトを使用して、表の形式に出力することができます。次の図は、印刷対象XMLデータをひとつの表として、繰り返し要素を表の行に対応付け、繰り返し要素の子要素を各行のセルに出力する例です。表の行の数は、印刷対象XMLデータの中で繰り返し回数と同じになります。



9 プロパティ

オブジェクトには、その印刷のレイアウト上の特性、表示スタイルなどを指定することができます。これをプロパティといいます。

例えば、テキストオブジェクトのプロパティには印刷位置（X座標、Y座標、幅、高さ）、フォント名、フォントサイズ、文字スタイル、文字飾り、文字の配置などを指定することができます。

オブジェクト毎に設定できるプロパティが決まっています。オブジェクトとプロパティの対応一覧表は「対応プロパティ一覧」(206 ページ) を参照してください。

実際に体験してみましよう

ここでは、XSL Report Designer を使って XML データをレポートに出力する過程を実際に体験してみましょう。

10 はじめの一步

まず、簡単な XML データをレポートに出力してみます。なお、以下で、レイアウトのプレビュー表示と PDF 化しますが、プレビュー表示・PDF 生成のためには XSL FormatterV4.0 以上がお使いの PC にインストールされていることが前提となります。XSL Formatter をまだインストールしていない方は、次へ進む前にインストールして、正常に動作することを確認してください。

10.1 印刷対象 XML データの構造

最初に扱う XML データは簡単な書籍リスト XML データです。サンプルフォルダ内の sample-bib.xml を使用します。ファイルの内容は次のとおりです。

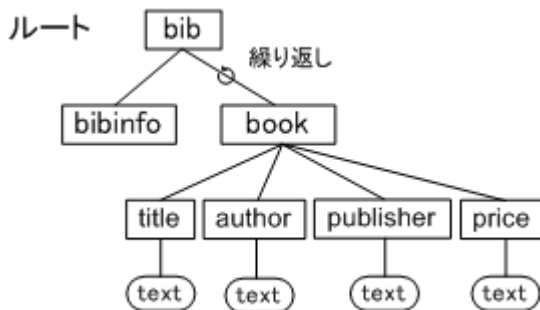
```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" ?>
<bib>
  <bibinfo>
    <title>
      XSL Report Designer Sample
    </title>
    <date>
      2004 年 12 月 6 日
    </date>
  </bibinfo>
  <book year="2001">
    <title>
      Arabic typography
    </title>
    <author>
      Huda Smitshuijzen AbiFar?s
    </author>
    <publisher>
      SAQI Books
    </publisher>
    <price>
      35.95
    </price>
  </book>
  <book year="1995">
    <title>
      The Story of Writing
    </title>
    <author>
      Andrew Robinson
    </author>
    <publisher>
      Thames & Hudson
    </publisher>
    <price>
      19.95
    </price>
  </book>
  <book year="2004">
    <title>
```

```

XML Handbook 5th Edition
</title>
<author>
  Charles F. Goldfarb, Paul Prescod
</author>
<publisher>
  Prentice Hall
</publisher>
<price>
  49.99
</price>
</book>
<book year="2004">
  <title>
    XQuery Kick Start
  </title>
  <author>
    James McGovern, Per Bothner, Kurt Cagle, James Linn, Vaidyanathan
    Nagarajan
  </author>
  <publisher>
    SAMS
  </publisher>
  <price>
    34.99
  </price>
</book>
</bib>

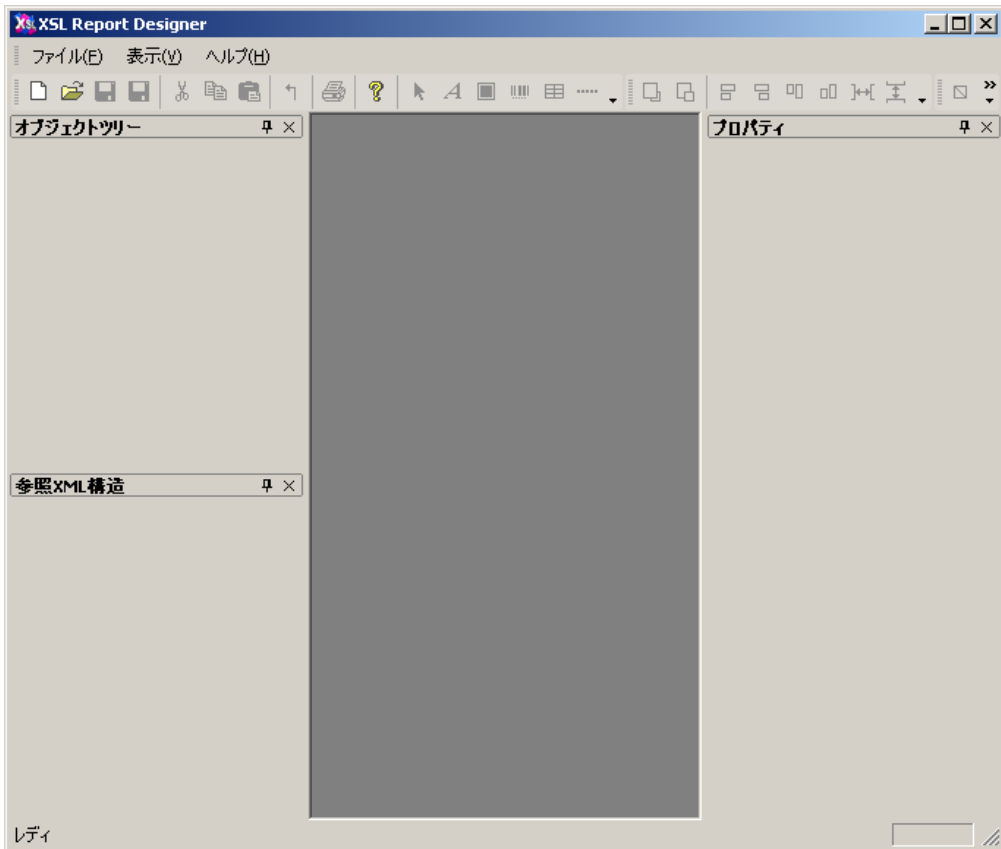
```

このXMLデータのツリー構造は次の図のとおりです。ルート要素が bib で、その子供として bibinfo と book 要素があり、book 要素は本の数だけ繰り返します。book の子供として、title, author, publisher, price がこの順番で出現する構造になっています。title から price まではいづれも内容にテキストのみを含みます。

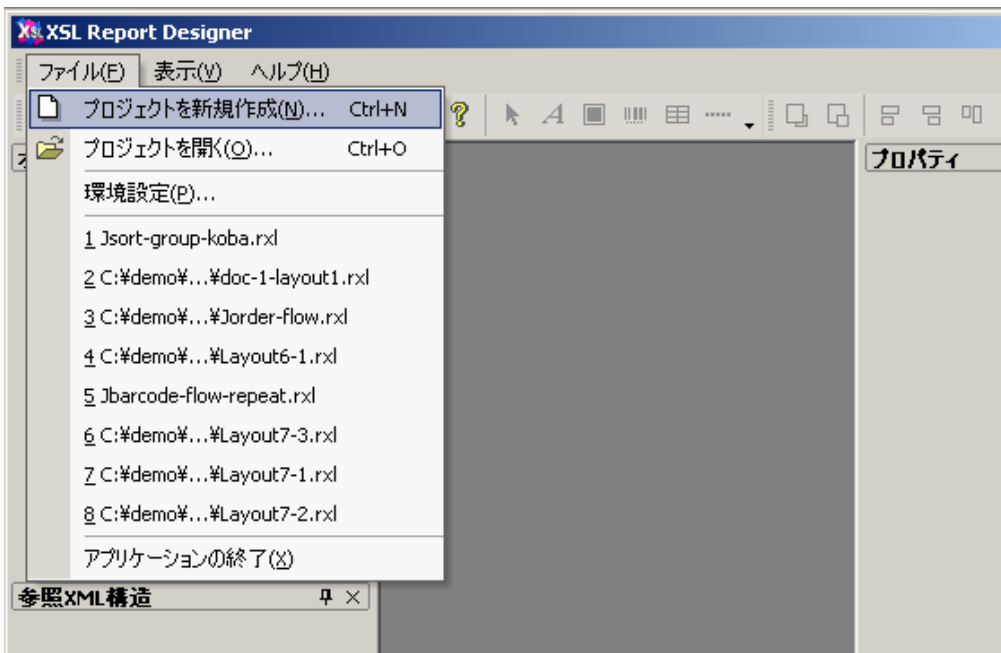


10.2 起動から PDF の生成まで

最初に、書籍リスト XML データの「title」要素の内容を PDF に出力するところまで一連の流れを試してみます。まず、XSL Report Designer を起動します。すると、次の初期画面が表示されます。

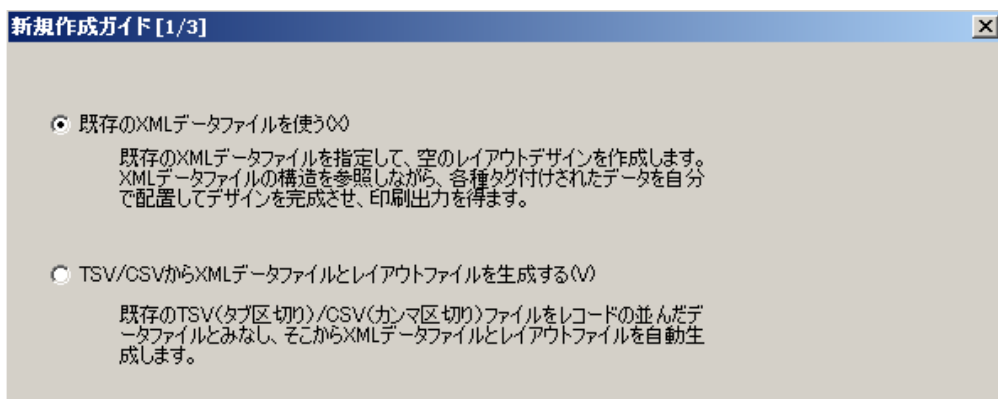


そこで、[ファイル] メニューの [プロジェクトを新規作成] を実行します。

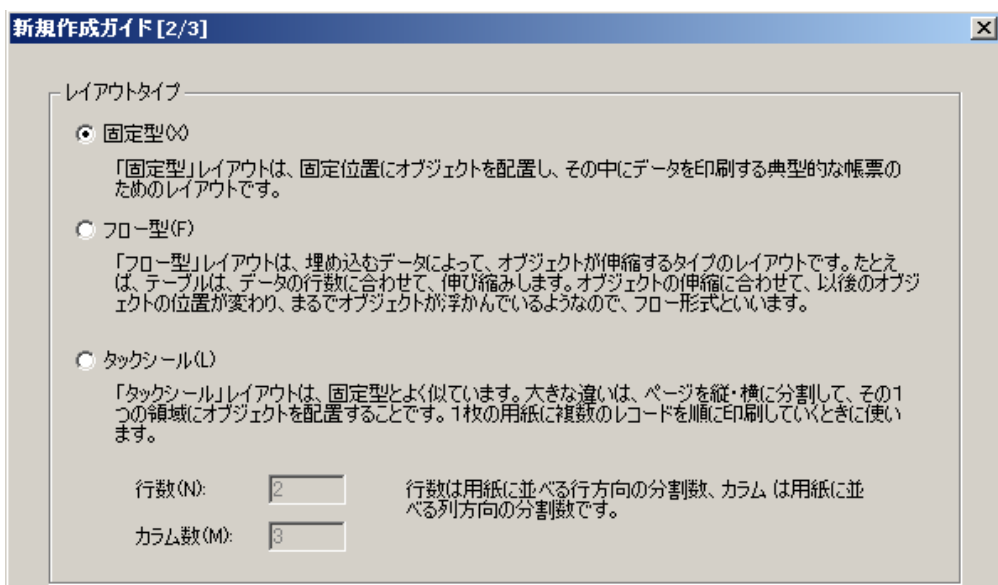


新規プロジェクトの作成では、XSL Report Designer のウィザードがプロジェクト設定をガイドします。最初に構造を参照するXMLとして、[既存のXML データファイルを使う] か、[TSV/CSV ファイルからXML データファイルとレイアウトファイルを生成する] を指定するように求められます。

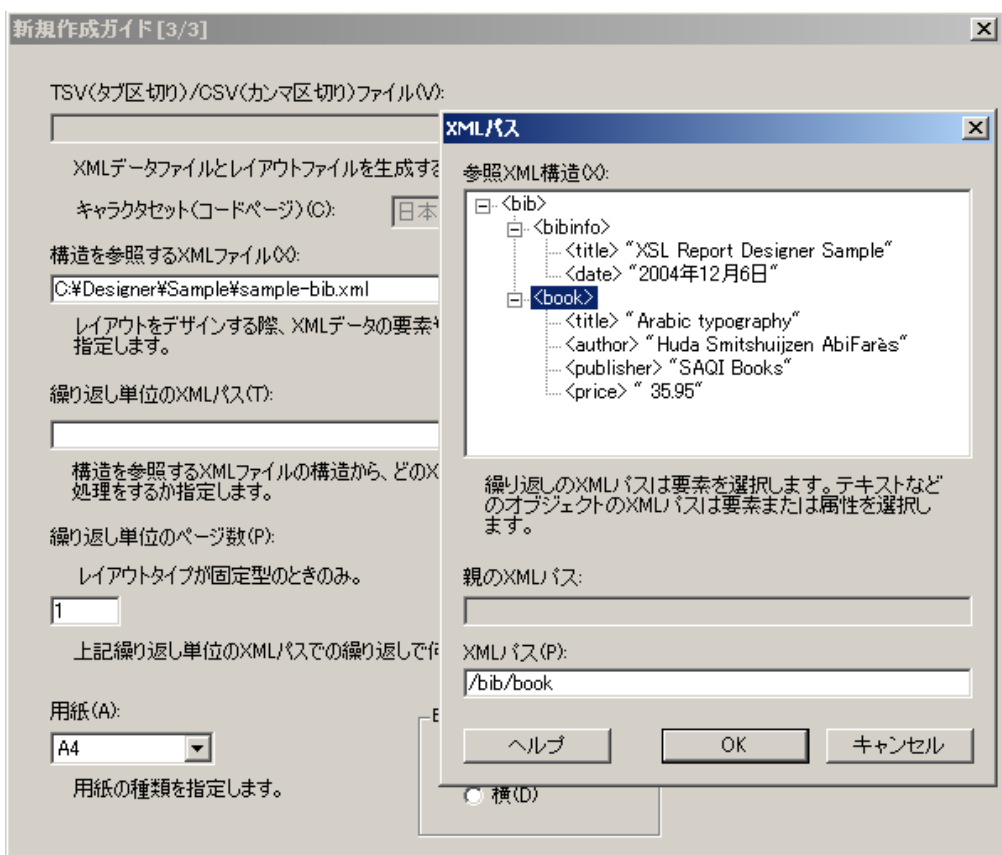
ここでは XML データファイルとして、最初に挙げたサンプルファイルを使いますので、[既存の XML データファイルを使う] を指定します。



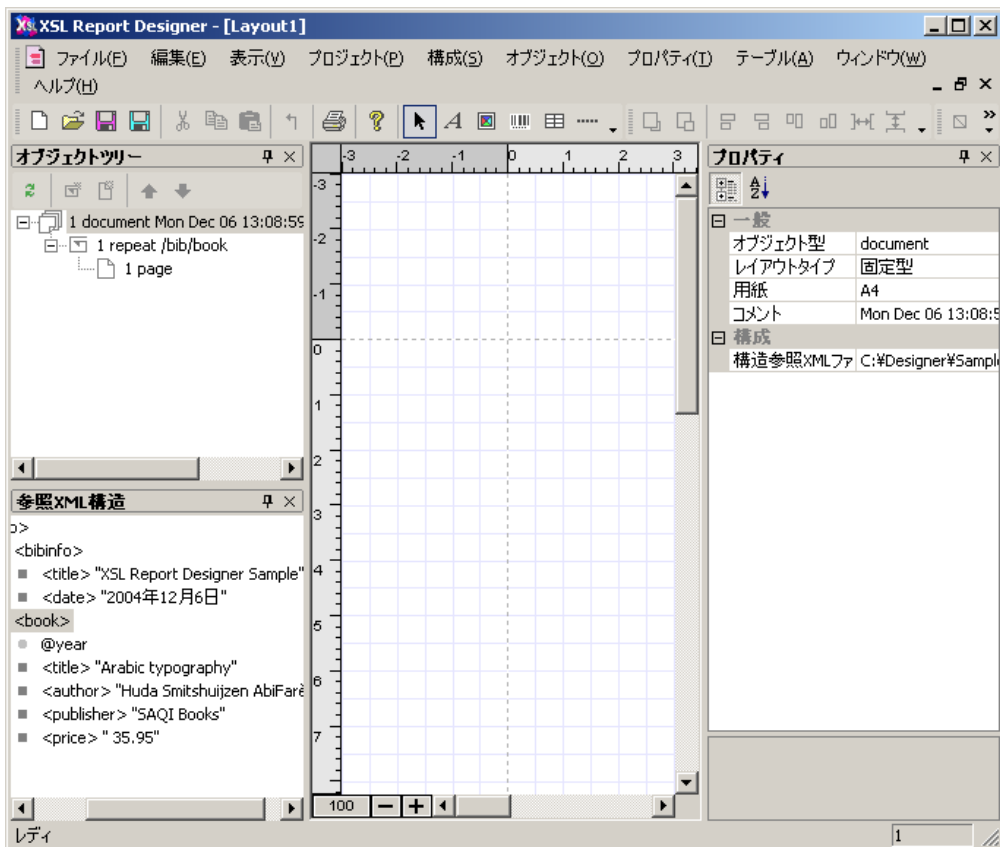
ウィザードは、次に、レポートのタイプの指定を求めてきます。ここでは、「固定型」を選択します。



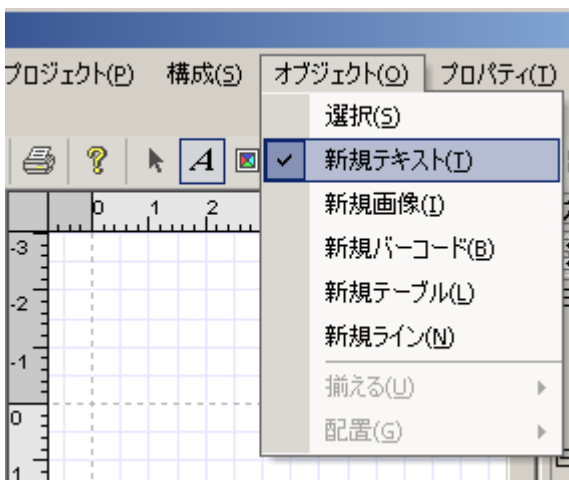
次の画面では、構造を参照する XML データファイルを指定します。ここでは構造を参照する XML ファイルには、sample-bib.xml を指定します。更に、繰り返し単位の XML パスを指定するよう求めています。ここで [参照] ボタンを押すと、ウィザードは sample-bib.xml のツリー構造を表示します。「book」要素を [繰り返し単位の XML パス] に選択します。



[OK] を押して、ダイアログを閉じ、その他の項目は初期設定のままです。すると、レイアウトを設計するための画面となります。



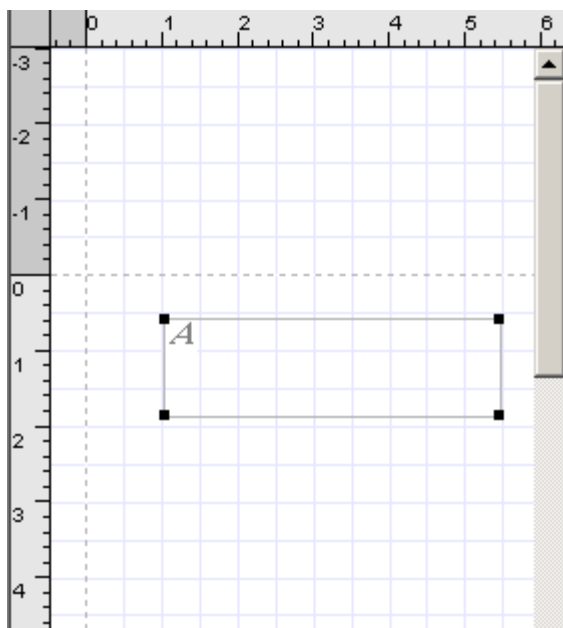
まず、レポートに本の「title」を出力してみます。「title」要素の内容はテキストなので、テキストオブジェクトを使います。まず、XSL Report Designerの[オブジェクト]メニューを開いて、[新規テキスト]を選択します。



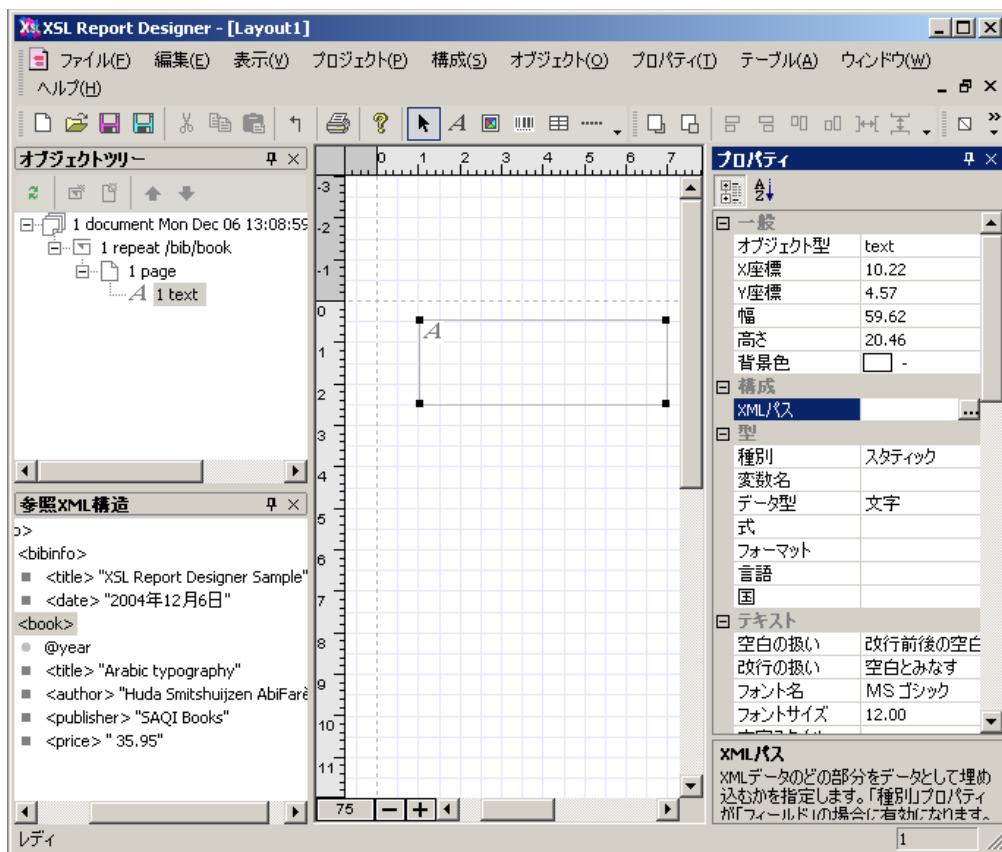
そうしたら、画面中央のキャンパスの上にマウスを置き、左ボタンをクリックしてテキストオブジェクトの領域矩形の基点（左上隅の頂点）を指定します。左ボタンをクリックしたまま、マウスを右下に移動して矩形を作成します。ちょうど良い大きさの矩形ができたなら左ボタンを離します。

キャンパスの上に次の図のような矩形ができます。キャンバス全体は点線で領域に区切られていますが、点線で区切られた上下、左右の領域はマージン領域です。

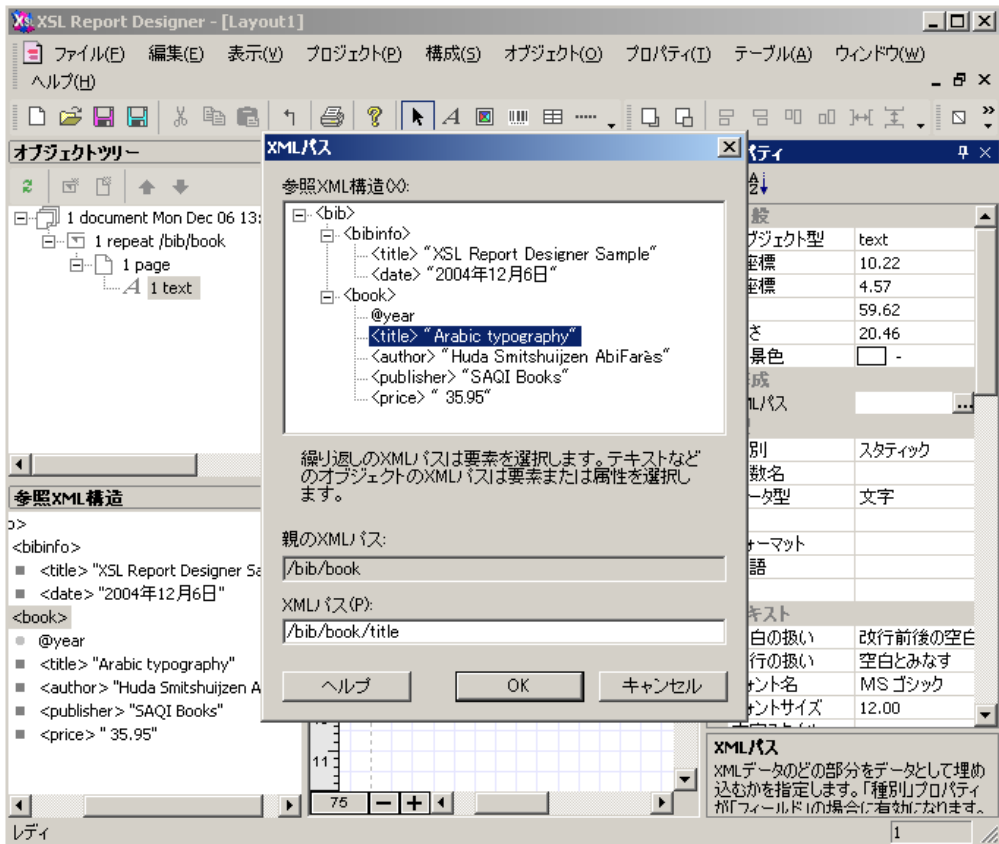
本文領域はキャンバス中央の領域ですので、テキストオブジェクトは本文領域であるキャンバス中央に置いてください。



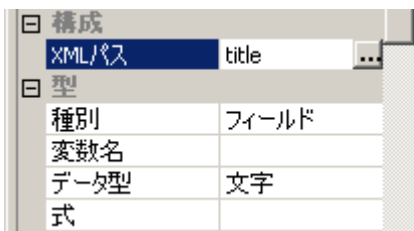
このテキストボックスは空の状態です。次にテキストボックスに出力する内容を設定します。右のプロパティウインドウで、[XMLパス] 項目の右隣の空セルの右端をマウスでクリックします。次の図のようになります。



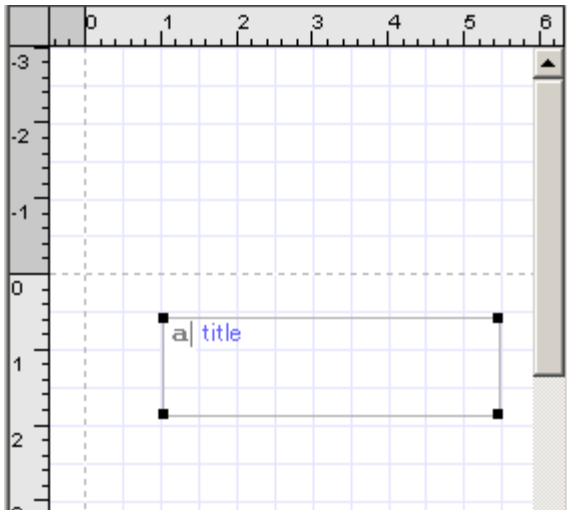
もう一度同じ場所をクリックすると、構造を参照する XML データファイルのツリー構造が表示されます。



このテキストオブジェクトには、「title」要素の内容を出力します。XML データのツリー上で「title」を選択し [OK] を押します。するとダイアログが閉じ、[XML パス] 項目のセルに「title」が入力されます。同時に、その下の [種別] 項目のセルの値が [フィールド] に変化していることに注意してください。

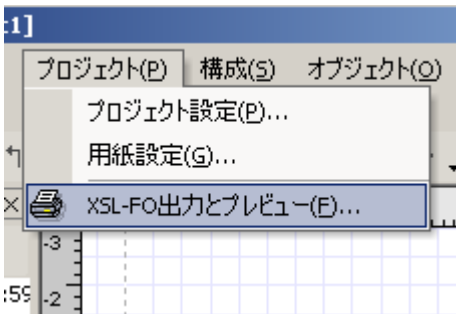


また、キャンパスの上のテキストオブジェクトの位置を示す矩形の中には「a.title」という情報が表示されます。なお、もし、[表示] メニューの [参照 XML データ構造の表示への反映] の項目がチェックされている場合は、テキストオブジェクトの矩形には、参照 XML データの該当要素の内容である「Arabic typography」という文字列が表示されます。

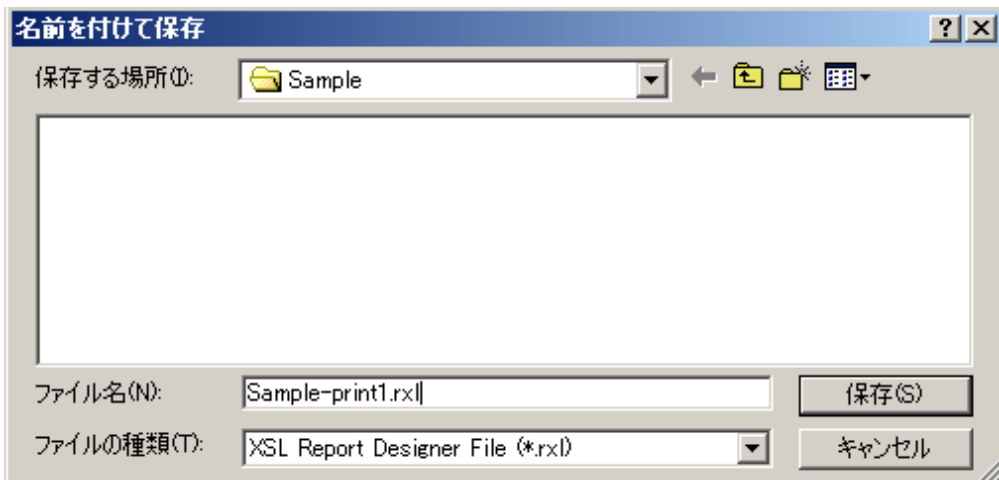


では、次に、XML データの内容を XSL-FO に変換し、プレビュー表示して PDF を生成してみましょう。（プレビュー表示と PDF 生成のためには XSL FormatterV3 が、お使いの PC にインストールされていることが前提となります。）

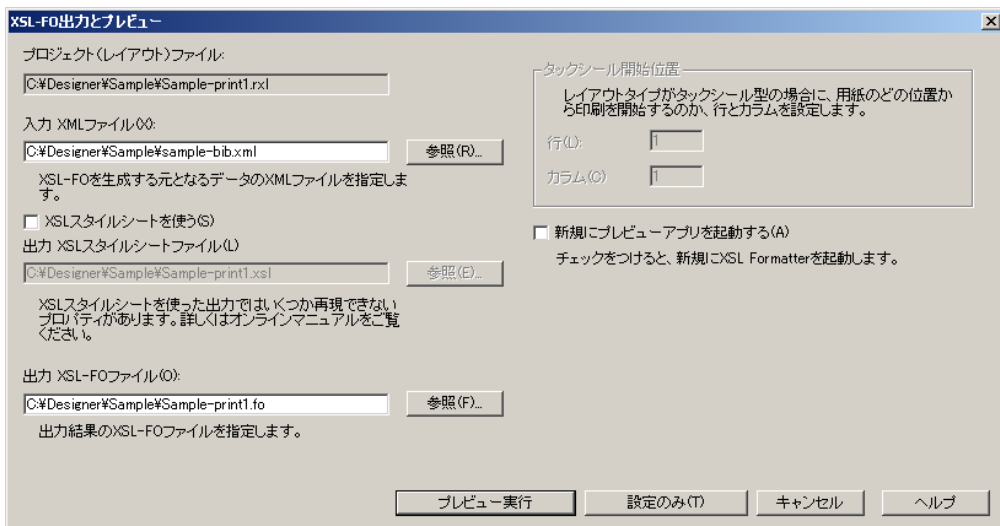
XSL Report Designer の [プロジェクト] メニューの [XSL-FO 出力とプレビュー] を実行します。



まだ、プロジェクトをファイルに保存していませんでしたので、プロジェクトの保存を促すダイアログが表示されます。ファイル名を適切につけて、プロジェクトを保存してください。拡張子は「.rxl」とします。



次に、入力 XML ファイルと出力 XSL-FO ファイルのパスを設定します。今回の場合、入力 XML ファイルは、構造を参照する XML ファイルと同じものにします。XSL-FO のファイル名は適切につけます。入力が終わりましたら [プレビュー実行] ボタンを押します。

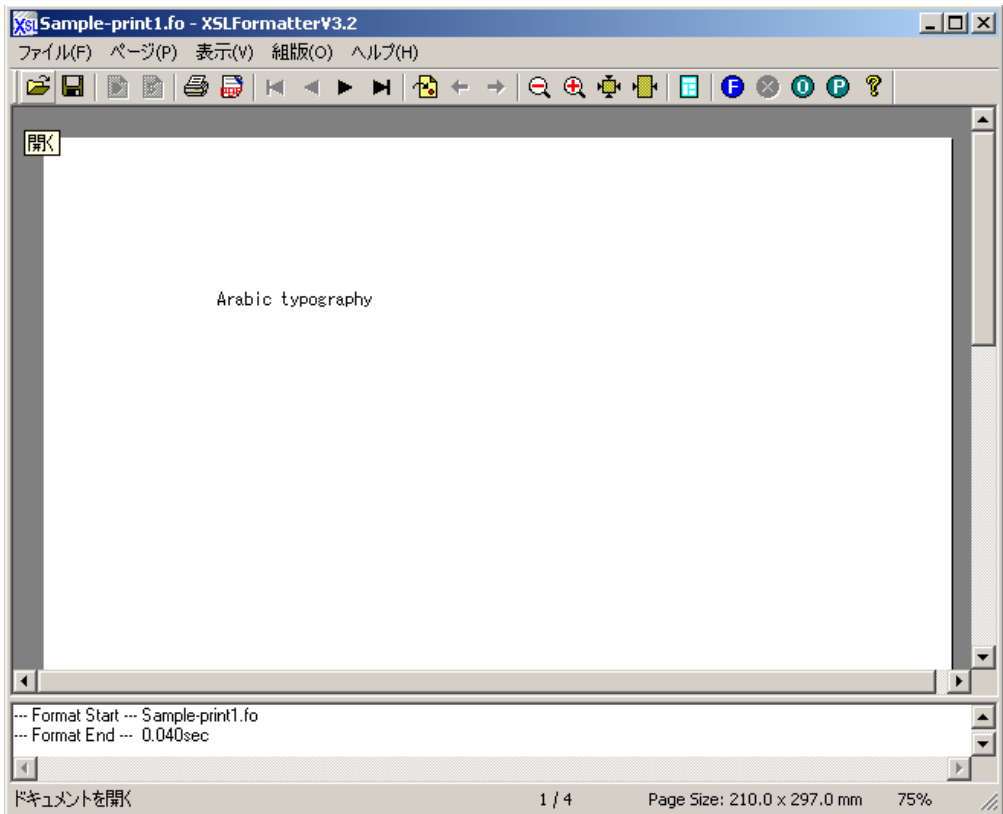


すると、次のダイアログが表示されます。

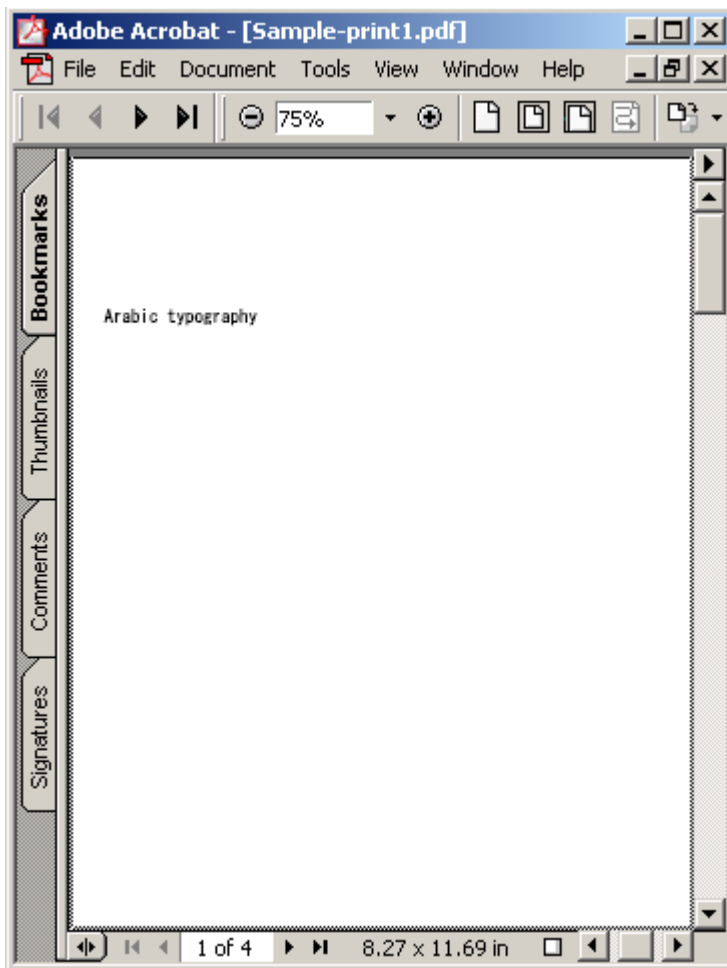
XSL Report Designer は最初にランタイムを起動して、入力 XML とプロジェクトから XSL-FO に変換します。ランタイムの実行には JAVA の VM の起動などで時間がかかります。次に、XSL Formatter を起動して、XSL-FO を組版させます。プレビュー実行の初回は、XSL Formatter の起動処理に多少時間がかかります。XSL Formatter の起動はプレビュー実行の 2 回目からは速くなります。以上の処理のため、プレビューには少し時間がかかります。なお、これらの処理は、プロジェクトが完成すればサーバ上で実行するべきものですが、サーバ上で実行する時は、高速にできますのでご安心ください。



XSL-FO が生成され、組版が終了すると、XSL Formatter のプレビュー画面に、最初の本の書名である「Arabic typography」が表示されます。各「book」の「title」要素が 1 ページ毎に表示されますので、組版結果は全部で 4 ページになります。XSL Formatter のアイコンバーにある PDF ボタンを押すと、PDF ファイルが生成されます。



XSL Formatter で PDF を生成すると、次のような PDF ができます。



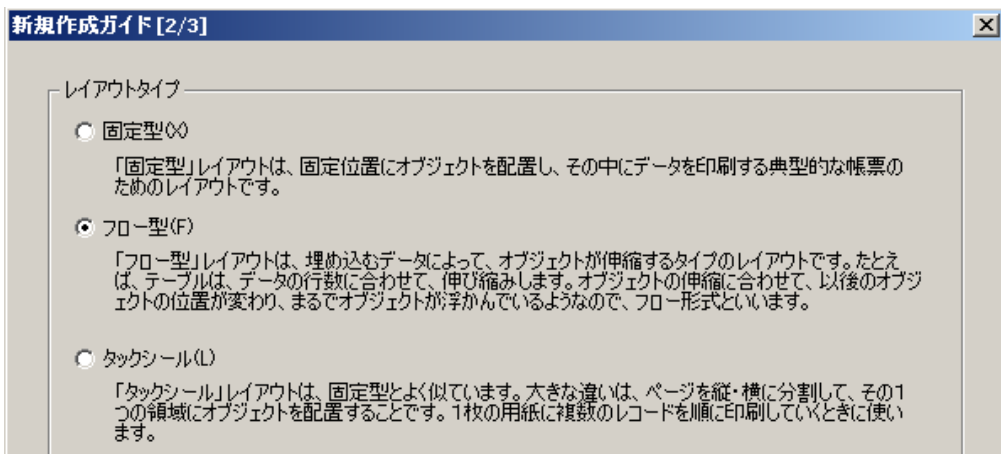
いかがでしょうか？XSL スタイルシートをプログラムするのと比べて、はるかに簡単に XML データをプレビュー表示できることがお分かりいただけたことと思います。

10.3 表の作成

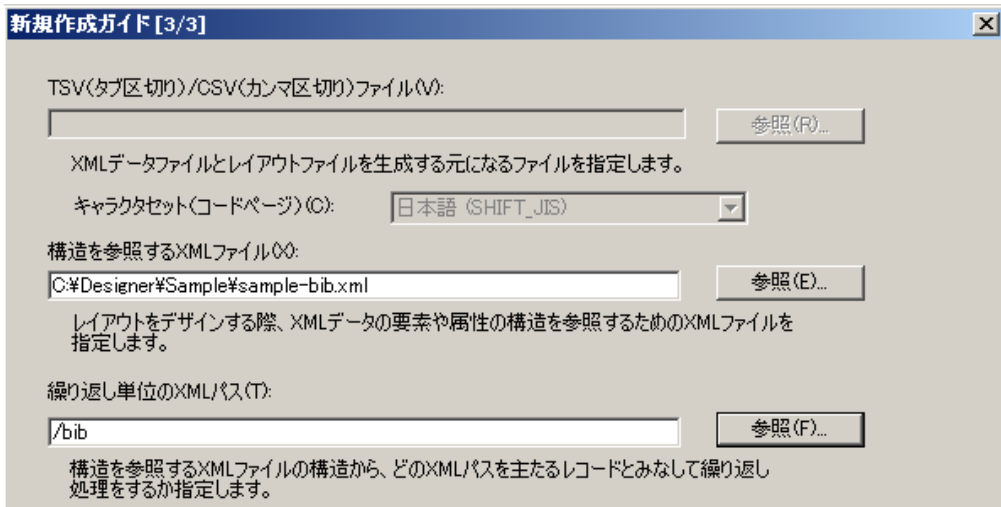
次に同じ書籍リスト XML データから異なるレイアウトのレポートを出すことを試してみましょう。例として表を作成してみます。表の形式は、

- (1) 見出し行が一行
- (2) 表の本体では 1 冊の本の情報毎に 1 行に出力
- (3) カラムは 4 つで、左から title、author、publisher、price を出力するものとします。

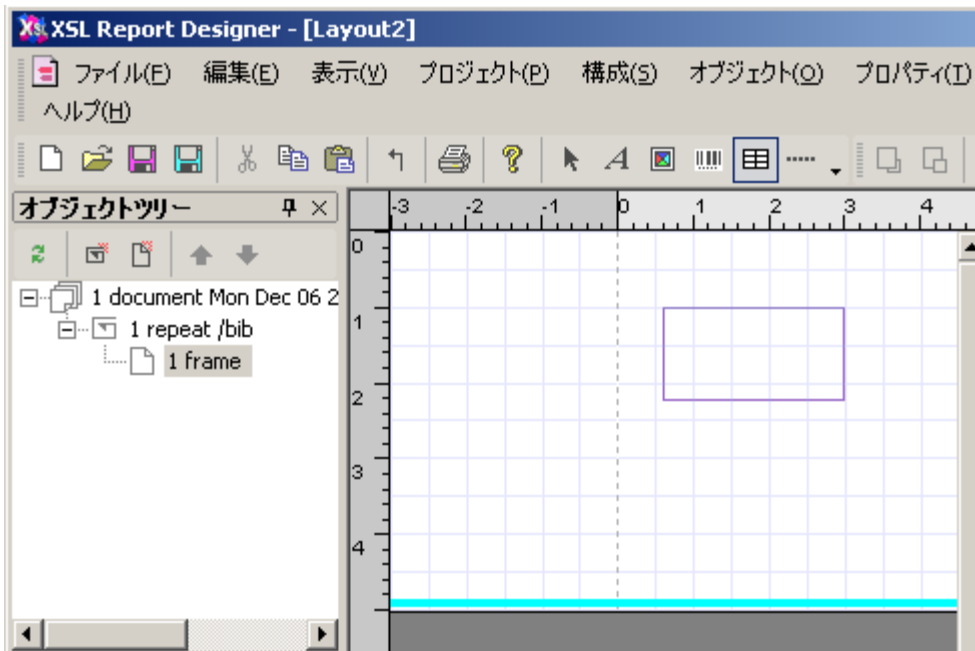
XSL Report Designer の [ファイル] メニューから [プロジェクトを新規作成] を実行します。[新規作成ガイド [1/3]] では [既存の XML データファイルを使う] を選択します。[新規作成ガイド [2/3]] では今度は「フロー型」を選択します。



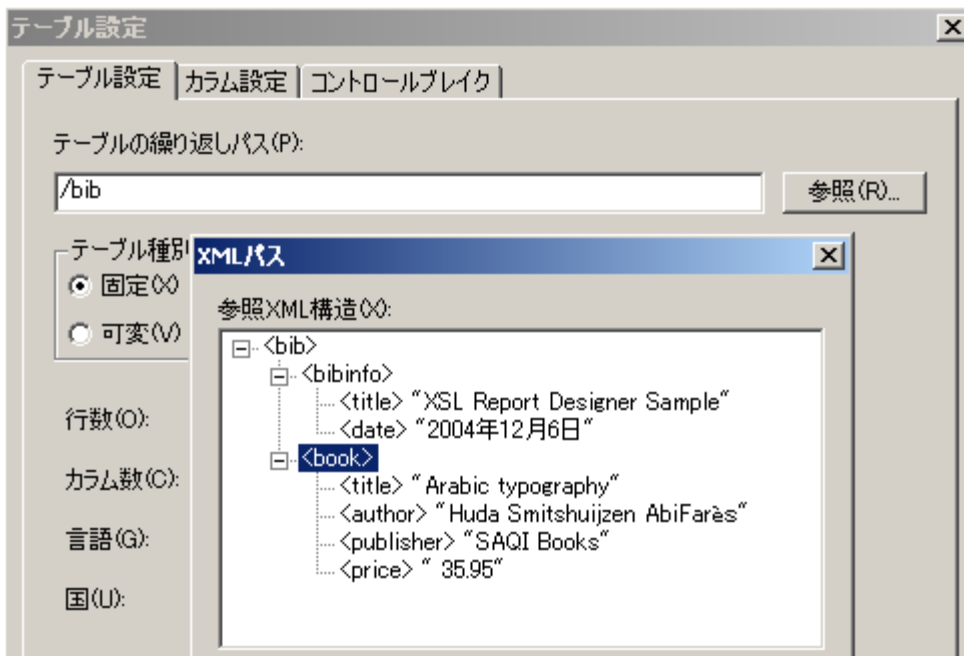
【新規作成ガイド [2/3]】で、構造を参照する XML ファイルは、最初の例と同じ sample-bib.xml を指定します。次の繰り返し単位の XML パスでは、今度は、ルート要素「bib」を指定します。XML データ全体をレポートの中の一つの表に出力するためです。



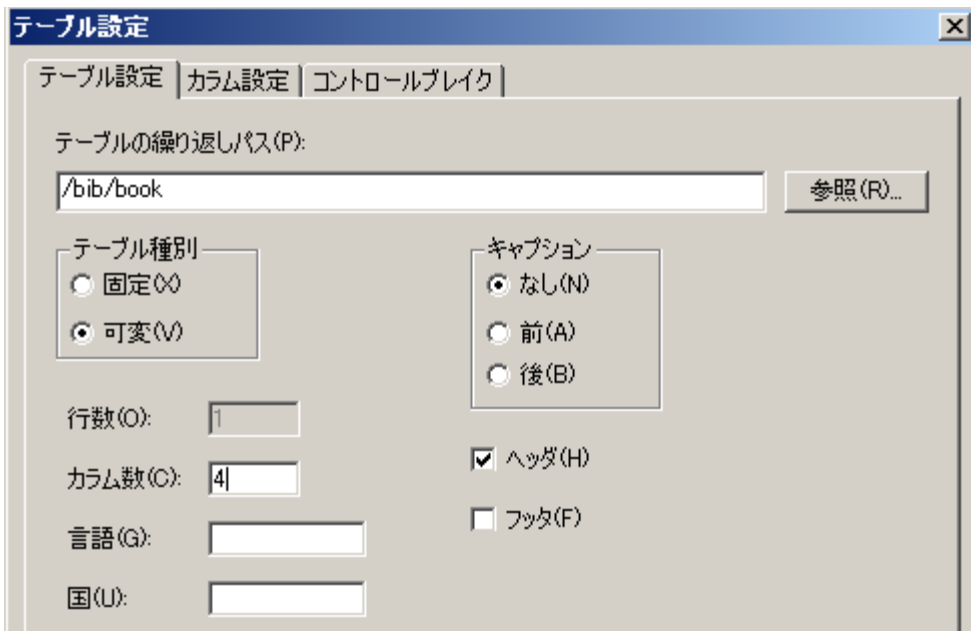
キャンバスに新しい表を作成するには、[オブジェクト]メニューで[新規テーブル]を選択します。そして、キャンバスの上にカーソルがあることを確認し、表の左上の位置でマウスの左ボタンをクリックします。このとき、次の図のように、[オブジェクトツリー]ウインドウでframeが選択されていることを確認してください。frameが選択されていると、キャンバスの下に水色の線が表示されます。



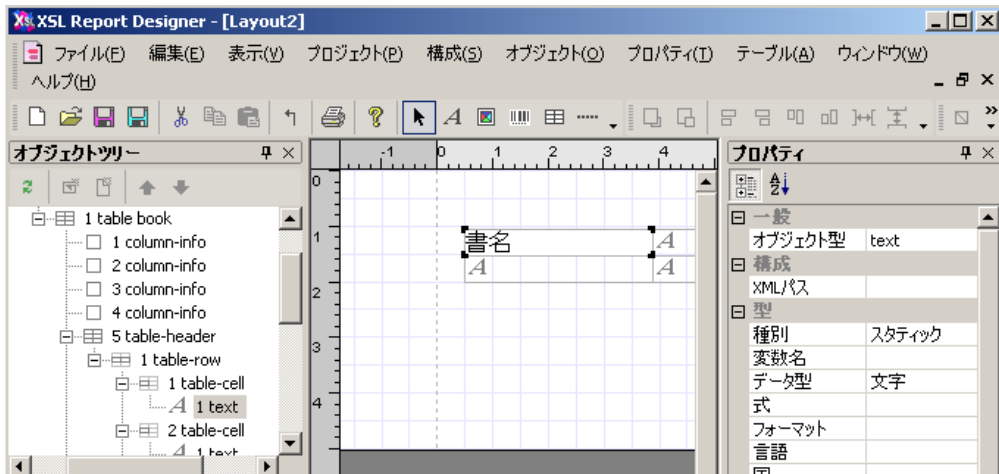
マウスの左ボタンを押したまま、表の一行の右下の位置までドラッグします。テーブルオブジェクトの枠が広がっていくはずですが、右下の位置でマウスの左ボタンを離すと、次のテーブル設定ダイアログが表示されます。テーブル設定ダイアログでは最初に、テーブルの繰り返しパスを設定します。「book」要素が表の1行に対応しますので、テーブルの繰り返しパスでは「book」要素を指定します。



次に同じダイアログの [テーブル種別] は [可変] とします。これは、表の行数が可変になるテーブルを選んだことになります。さらにカラム数は4とします。表にはヘッダ行をつけますので、ヘッダのチェックボックスにチェックがついていることを確認して [OK] を押します。

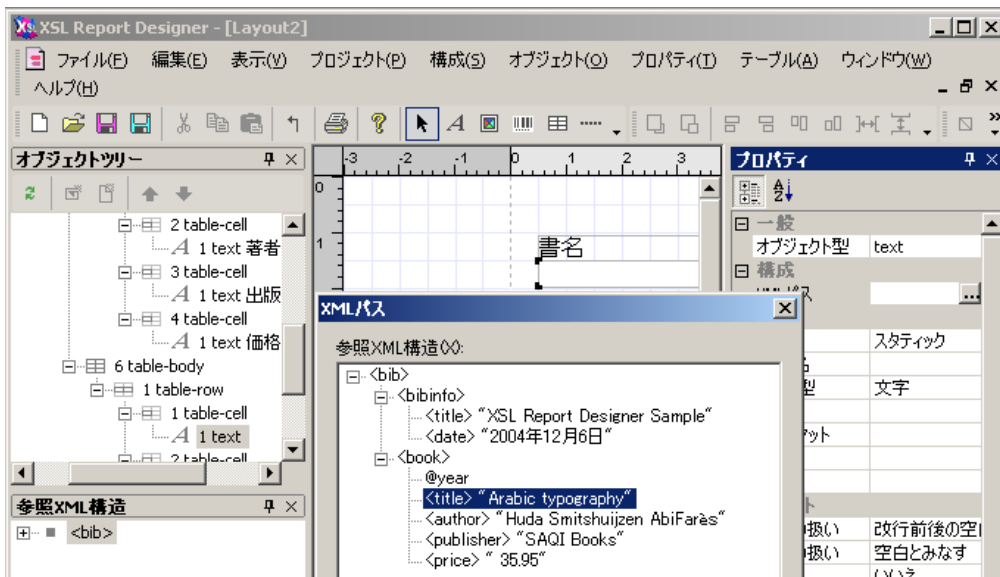


キャンバスには、2行・4列のテーブルオブジェクトが作成されます。すべてのセルは空になっていますので、各セルに出力内容を設定します。最初に、1行目はヘッダ行ですので、XSL Report Designerで固定の（スタティックな）文字列を入力します。左のセルから順に文字を「書名」、「著者名」、「出版社名」、「価格」と入力します。

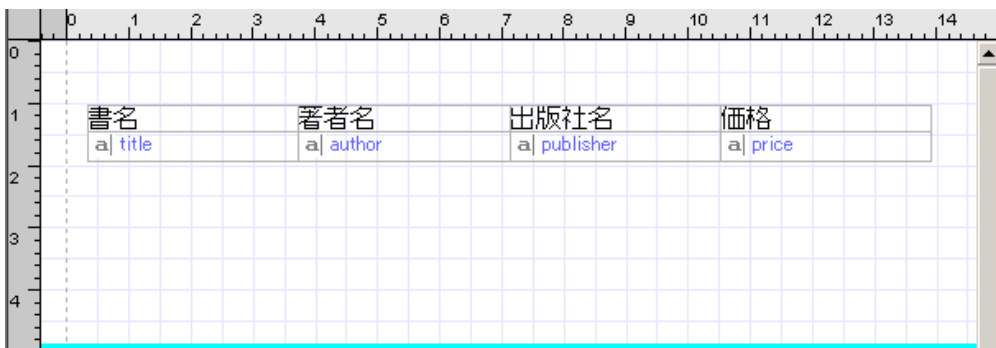


2行目はデータ行です。データ行の各データセルには、XML データの内容を出力します。左セルから順にプロパティウインドウで「XML パス」項目の空白セルの右端をダブルクリックして、XML パスを参照するダイアログを表示し、データセルに出力する要素を選択します。左のセルから順に「title」、「author」、「publisher」、「price」要素を設定します。

実際に体験してみましょう



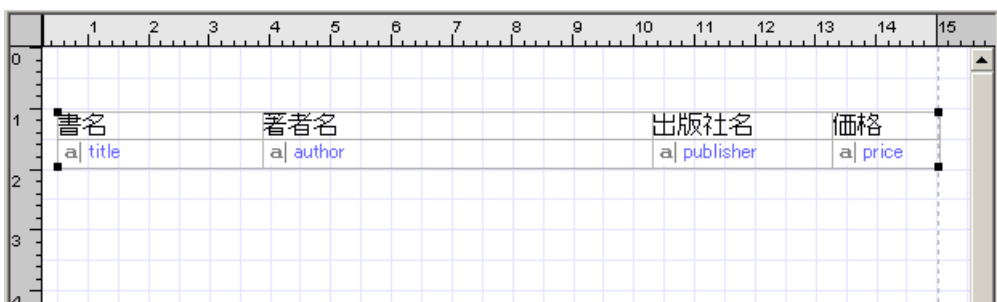
4つのセルにXMLパスを設定し終わったらキャンパスには次のように表示されます。もし、[表示]メニューの[参照XML構造データの表示への反映]がチェックされていると、セルにはXMLパスではなくサンプルの要素内容テキストが表示されます。



この段階で、[プロジェクト]メニューの[XSL-FO出力とプレビュー]を実行すると、XSL Formaterのプレビューウインドウには次のように表示されます。

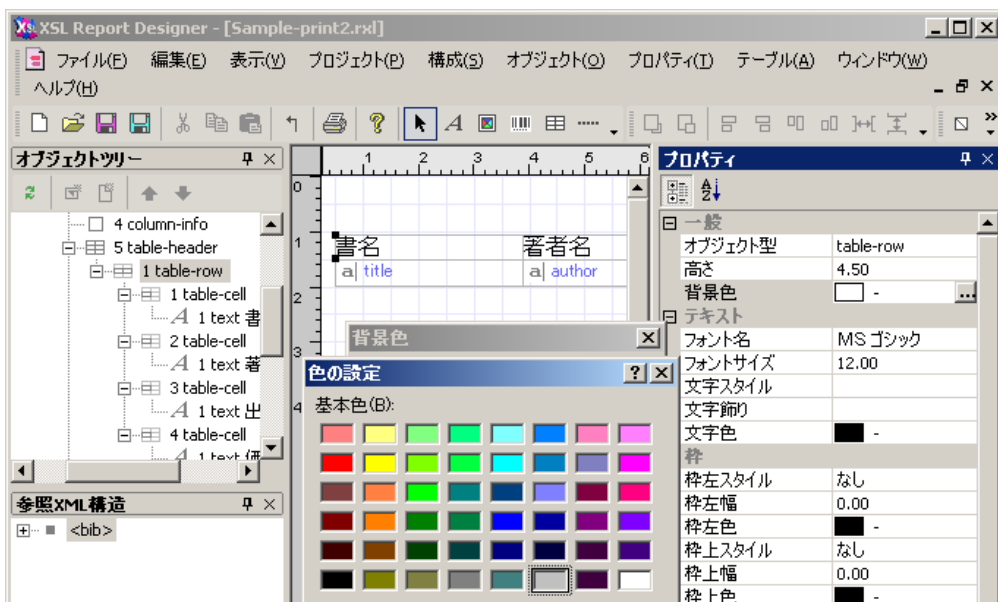


レイアウトを調整します。まず、著者名のカラムの幅が狭すぎるので広げます。カラム幅の調整は、縦枠線の上にカーソルを合わせて、カーソルの形が変わったら左ボタンをクリックして縦枠線を選択し、左ボタンを押したまま、調整したい方向へ縦枠線をドラッグします。希望の位置までドラッグしたら左ボタンを離します。他のカラムも広さを調整して、次のようにします。

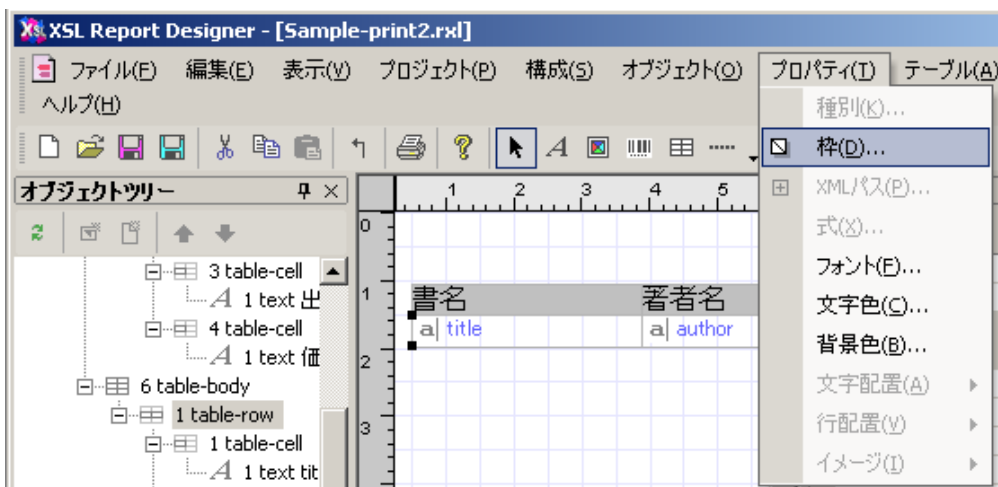


次に、ヘッダには背景をつけて見ましょう。まず、[オブジェクトツリー] ウィンドウで、table-header の下の table-row をクリックし、行全体を選択します。そして、右のプロパティウィンドウで背景色の右隣のセルの右端をダブルクリックし、[背景色] ダイアログを表示します。さらに、[色の設定] を有効にして、[色の設定] ダイアログを表示します。そこで色を選択します。

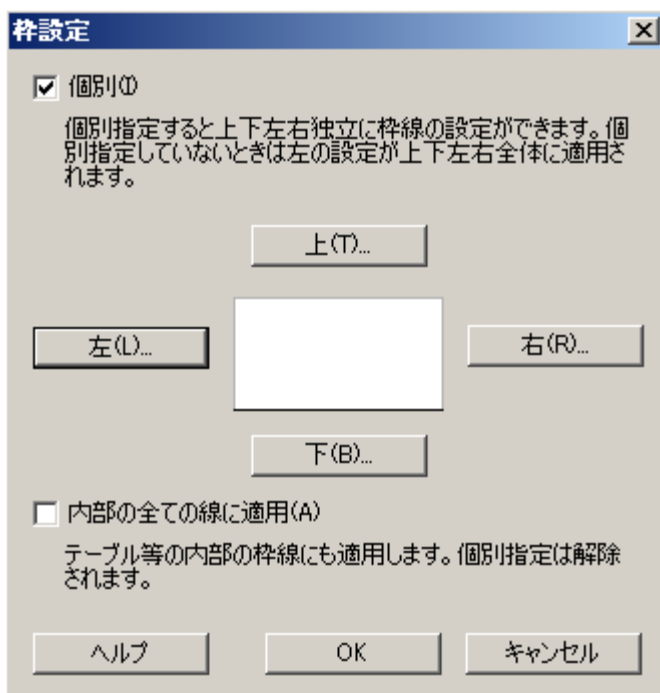
実際に体験してみましょう



また、行と行の区切りがなく、1冊の本のデータを見分けるのが不便なので、各行に下枠線を引きます。まず、[オブジェクトツリー] ウィンドウで、table-body の下の table-row をクリックし、行全体を選択します。次に [プロパティ] メニューの [枠] を実行します。



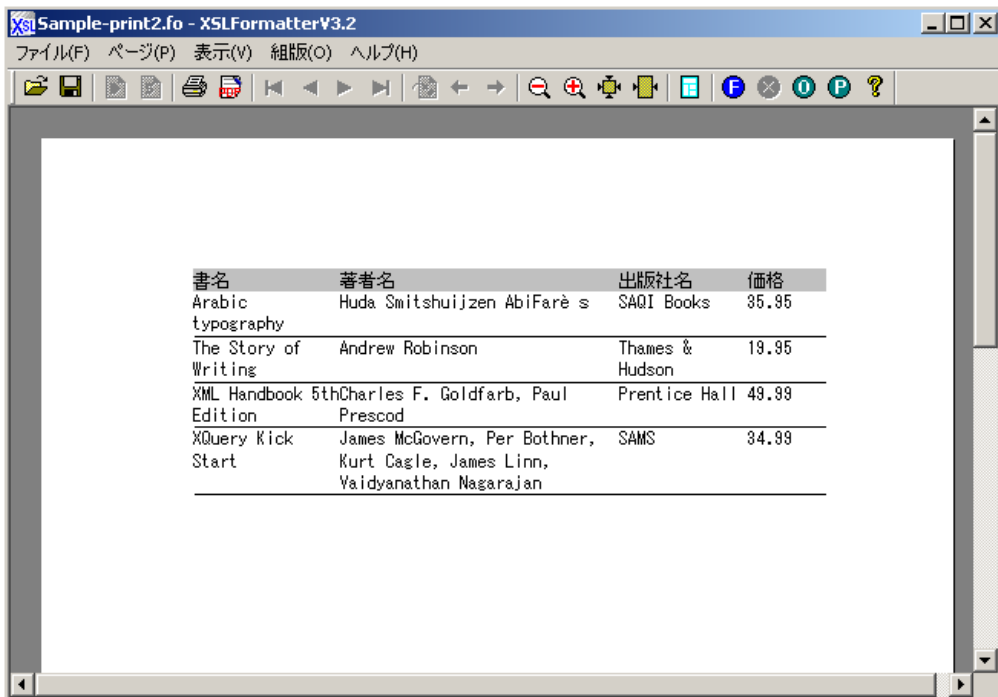
[枠設定] ダイアログが表示されますので、[個別] にチェックし、[下] ボタンを選んで、下線に実線を選択します。



ここまで完了するとキャンバスの上のテーブルオブジェクトは次のようになります。

書名	著者名	出版社名	価格
a title	a author	a publisher	a price

この段階で、[プロジェクト]メニューの[XSL-FO出力とプレビュー]を実行すると、XSL Formaterのプレビューウィンドウには次のように表示されます。



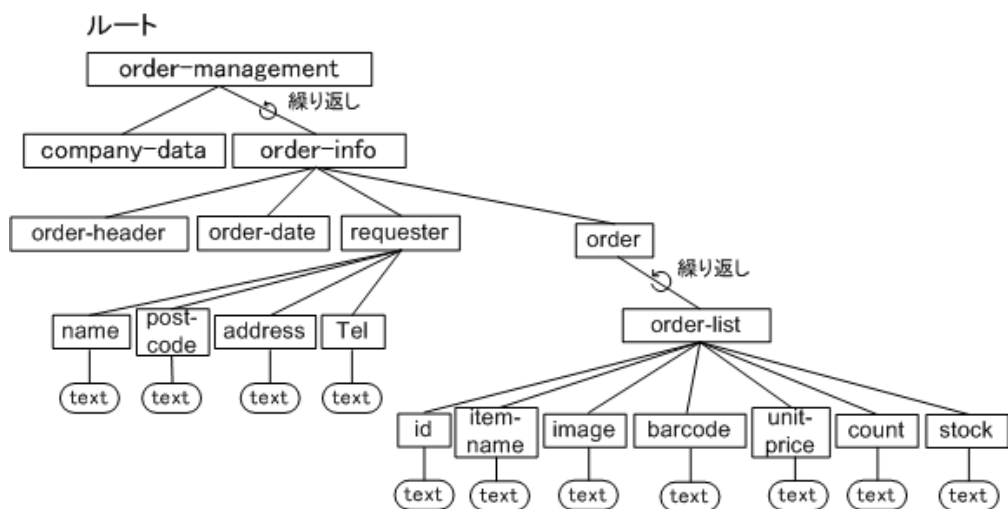
XML データの内容を表に出力することが簡単にできること、表のレイアウト調整も簡単にできることがお分かりいただけたことと思います。セルの上下左右にパディングを付けるなどのレイアウト調整も同じようにできますので、ぜひご自分でお試しく下さい。

11 サンプルファイルによるレイアウト設計

次に、製品に添付されている別のサンプルファイルを使用して、レイアウト設計を行ってみましょう。

■ 使用するサンプル XML ファイル : Jsample-data.xml

このサンプル XML ファイルの全体的なツリー構造は以下のようになっています。XML ツリーの中に繰り返しがある要素が 2 つあります。ひとつ目は order-info で、これは 1 件の注文に相当します。order-date の内容は注文日、requester は顧客情報をまとめる要素、order は注文内容をまとめる要素です。order 要素の下にふたつめの繰り返し要素である order-list があります。order-list は、注文明細で、商品別に、注文数などの情報を含んでいます。



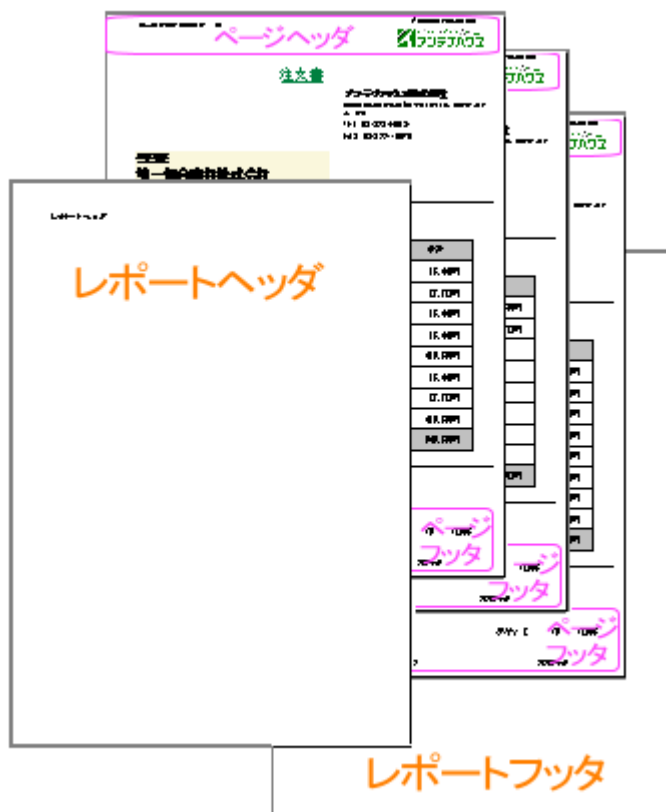
この XML ファイルから、以下のような、顧客別「注文書」のレポートを作成しましょう。

- 顧客別「注文書」の印刷見本（JOrder-fix.fo を XSL Formatter V3.2 で表示）

第一総合商社株式会社 様				
注文書		アンテナハウス株式会社 東京都千代田区九段南4丁目3番13号 麹町弥永ビル 4階 TEL: 03-3234-9631 FAX: 03-3221-9975		
お客様				
第一総合商社株式会社				
ご注文明細				
製品名	製品イメージ	単価	数量	合計
XMLParser Ver 1.0		13,440 円	1	13,440 円
TagEditor Ver 2.1		9,240 円	3	27,720 円
XMLParser Ver 1.0		13,440 円	1	13,440 円
XMLParser Ver 1.0		13,440 円	1	13,440 円
XSL Formatter Ver 1.0		207,900 円	2	415,800 円
XMLParser Ver 1.0		13,440 円	1	13,440 円
TagEditor Ver 2.1		9,240 円	3	27,720 円
XSL Formatter Ver 1.0		207,900 円	2	415,800 円
総合計			14	940,800 円
日付: 2 / 9 / 2003				
左フタ	2 / 12	右フタ		

11.1 レポートを設計する

「注文書」は、レポートヘッダ、注文書本文、レポートフタの構成となります。注文書本文の各用紙には、ページヘッダ、ページフタを配置します。



それぞれの構成部分に XSL Report Designer で次のオブジェクトを組み合わせるレイアウト設計します。

- テキストオブジェクト
- 画像オブジェクト
- テーブルオブジェクト
- ラインオブジェクト

これらのオブジェクトは、XSL Report Designer のレイアウトペインの上では次のように見えます。

The screenshot displays a report layout with several annotated components:

- レポートヘッダ** (Report Header): A box at the top containing the text "a| requester/name".
- 注文書** (Order Form): A central box containing the text "注文書".
- アンテナハウス株式会社** (Antenna House Co., Ltd.): A box containing company details:
 - 東京都千代田区丸の内4丁目3番13号
 - 麹町秀永ビル 4階
 - TEL: 03-3234-9831
 - FAX: 03-3221-9975
- 表名** (Table Name): A box containing the text "a| requester/name".
- ご注文明細** (Order Details Table): A table with the following structure:

製品名	製品イメージ	単価	数量	合計
a item-name		a unit_pric	a mltiplic	a it
a item-name		a unit_pric	a mltiplic	a it
a item-name		a unit_pric	a mltiplic	a it
a item-name		a unit_pric	a mltiplic	a it
a item-name		a unit_pric	a mltiplic	a it
a item-name		a unit_pric	a mltiplic	a it
a item-name		a unit_pric	a mltiplic	a it
総合計	A	A	a	a
- 足付** (Footnote): A box at the bottom containing the text "a| o a| oc a| xlines".

Annotations include:

- テキストオブジェクト** (Text Object): Points to the "注文書" box.
- テーブルオブジェクト** (Table Object): Points to the "ご注文明細" table.
- 画像オブジェクト** (Image Object): Points to the product image icons in the table.
- ラインオブジェクト** (Line Object): Points to the horizontal lines at the bottom of the report.

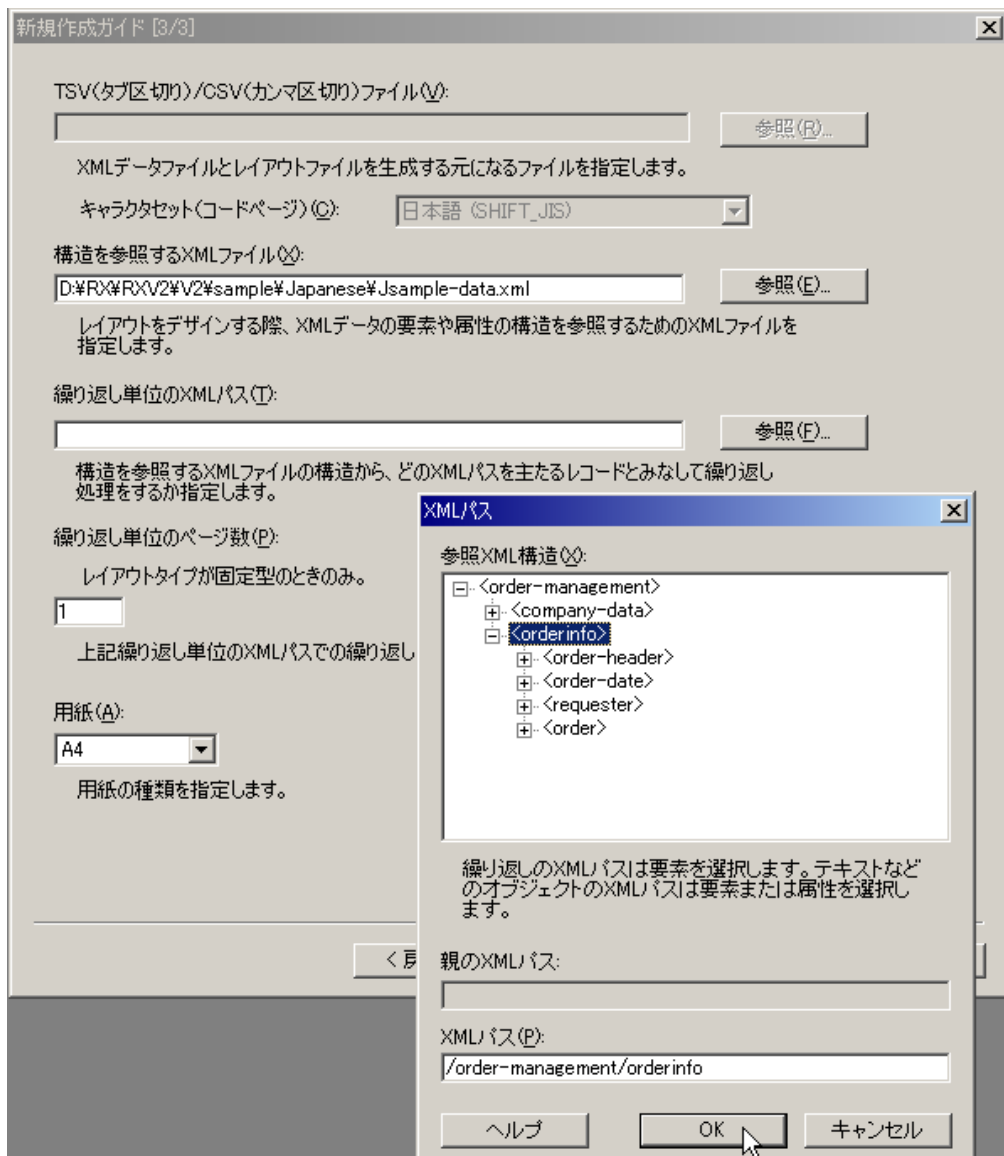
プロジェクトの新規作成

XSL Report Designer の新規作成ガイドで、次の手順でプロジェクトを新規作成します。(以下の説明では既に説明した画面は省略しています。)

[新規作成ガイド [1/3]] では、構造を参照するデータは、サンプル「Jsample-data.xml」ファイルなので、[既存の XML データファイルを使う] を選択します。

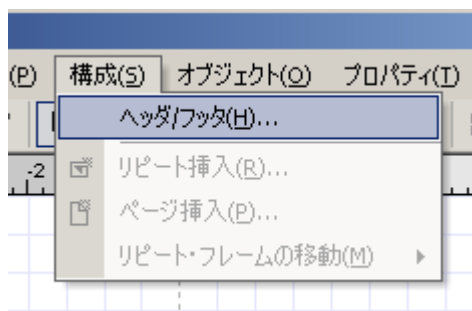
[新規作成ガイド [2/3]] では 1 件の注文毎に 1 枚の用紙に印刷しますので、レイアウトタイプは [固定型] を指定します。

[新規作成ガイド [3/3]] では [構造を参照する XML ファイル] に、Jsample-data.xml を設定します。[繰り返し単位の XML パス] の [参照] ボタンを押すと、XML ファイルの文書構造がツリーで表示されます。この例では XML データの orderinfo が 1 件の注文であり、1 件の注文毎に 1 枚の注文書の印刷を繰り返すので、繰り返し単位の XML パスには、orderinfo を指定します。

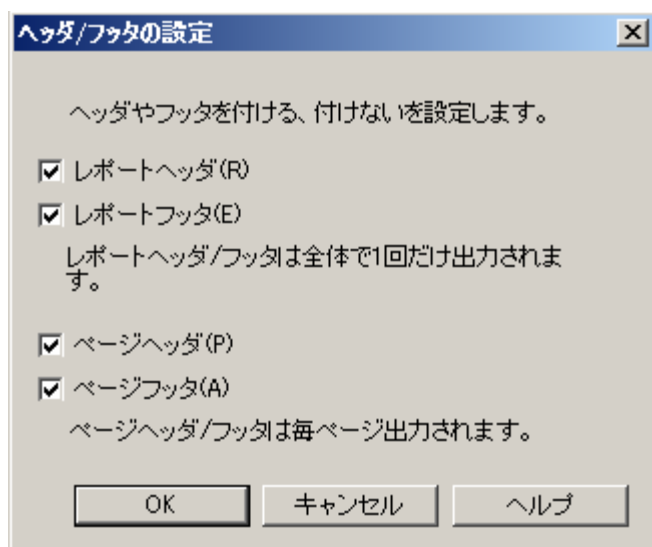


ヘッダ・フッタを設定する

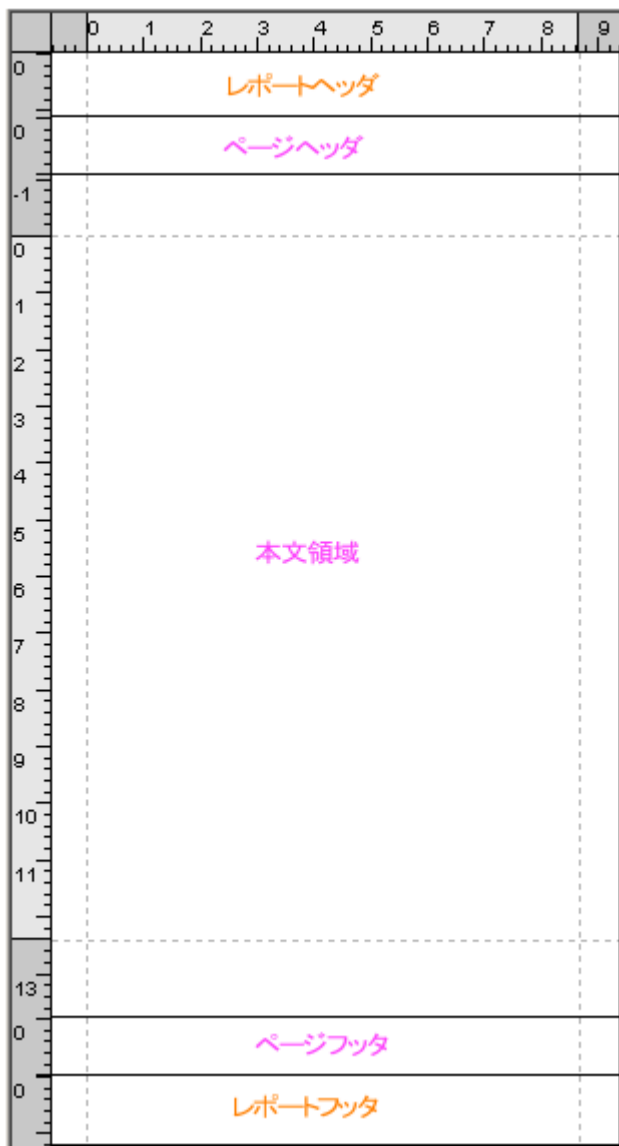
ウィザードが完了して、レイアウトを設計する画面になったら、[構成] メニューで、[ヘッダ/フッタ] を実行します。



[ヘッダ/フッタの設定] ダイアログが表示されたら、[レポートヘッダ] [レポートフッタ] [ページヘッダ] [ページフッタ] を全部チェックします。

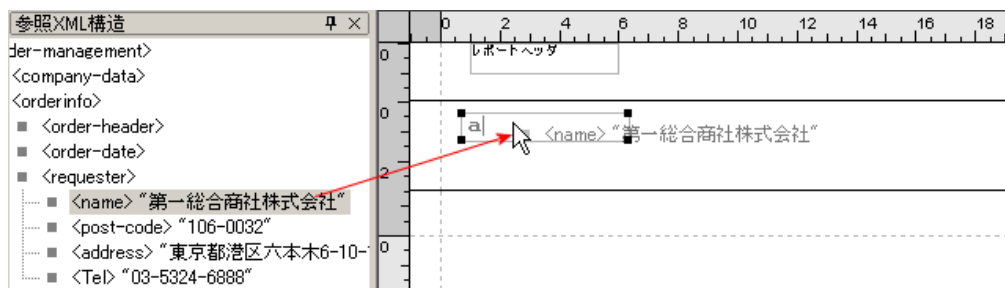


[OK] を押すと、XSL Report Designer の画面の中央のウィンドウ（レイアウトペイン）の構成は一番上からレポートヘッダ、次がページヘッダ、中央が本文領域、ページフッタ、レポートフッタとなります。



テキストオブジェクトにXMLパスを指定する

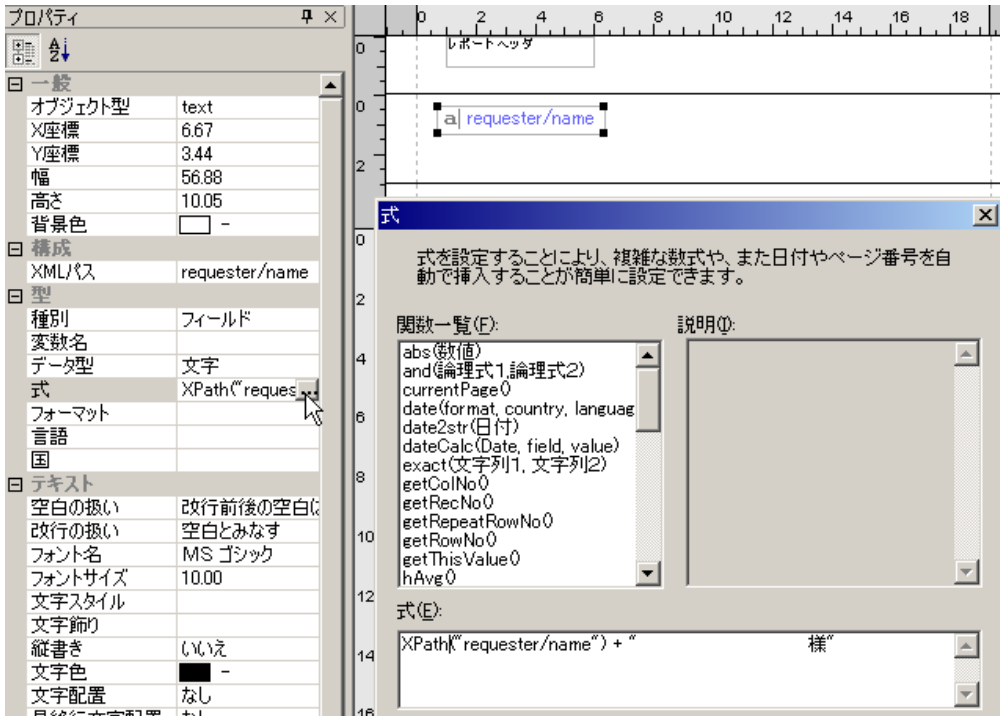
ページヘッダ左端にテキストオブジェクトを配置し、各注文レコードの顧客名を入れます。画面左の「参照XML構造ウインドウ」には、Jsample-data.xmlのツリー構造が表示されますので、「name」要素（顧客名）をドラッグし、テキストオブジェクトの上でドロップするとXMLパスが設定できます。



なお、[プロパティ] ウィンドウで、[XML パス] プロパティをクリックすると Jsample-data.xml のツリー構造が表示されるので、ここから顧客名の入った要素を選択することもできます。

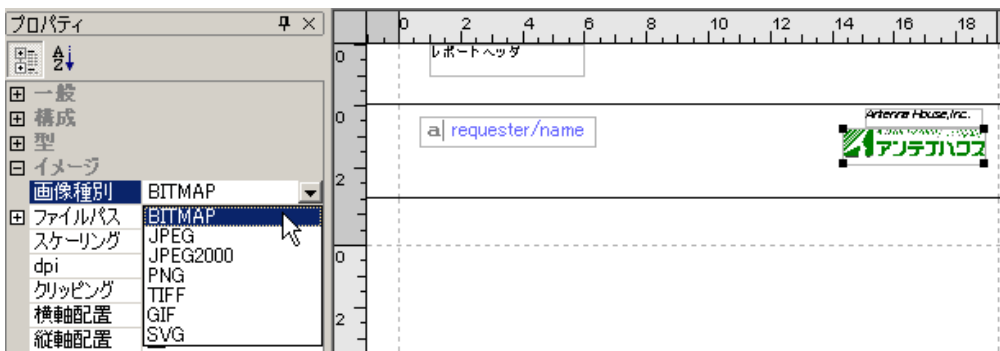
テキストオブジェクトに式 (XPath) を挿入する

このテキストオブジェクトには、顧客名の後に、敬称「様」が常に表示されるようにします。これは XPath 式で設定できます。[プロパティ] ウィンドウで、[式] プロパティをクリックすると、[式] ダイアログが表示されます。[関数一覧] から「XPath()」を選択し、マウスの左ボタンをダブルクリックします。すると、[式] のエディットボックスに XPath() が入力されますので、次の図のように文字を入力します。



画像オブジェクトを配置する

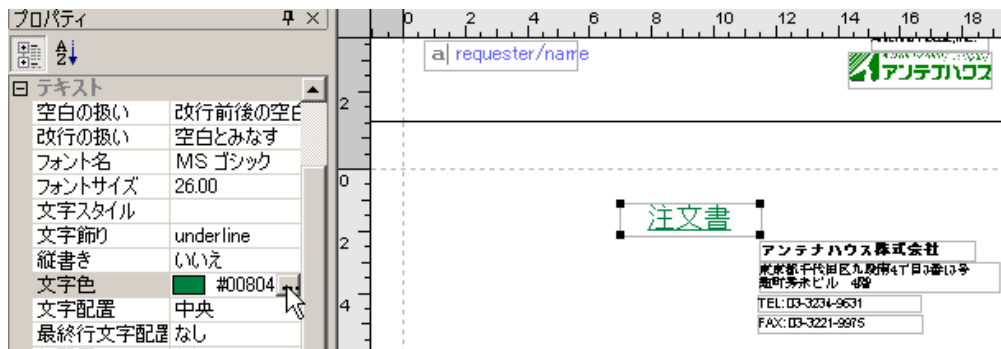
ページヘッダ右端には、会社名と会社のロゴマークを配置します。ロゴマークを配置するには画像オブジェクトを使います。[プロパティ] ウィンドウの [画像種別] で「BITMAP」を、また [ファイルパス] でロゴマーク用の画像ファイルへの Windows システム上のパスを設定します。



これで、ページヘッダ部分が作成できました。

本文領域を入力する

次は、本文領域です。まず、レポートのタイトル（注文書）、会社名を入力します。これらはすべてテキストオブジェクトで配置します。



テーブルオブジェクトを配置する

次にテーブルオブジェクトを使って、宛名（顧客名）部分と、注文明細の表を作成します。

■ キャプションと1行だけのテーブル

まずは、宛名（顧客名）が入る部分を作成します。[オブジェクト]メニューから、新規テーブルを選択し、テーブルを配置する位置を決めると、[テーブル設定]ダイアログが開きます。ここで、キャプションがテーブルの前にある、1行・1カラムの表を指定します。

テーブル設定

テーブル設定 | カラム設定 | コントロールブレイク

テーブルの繰り返しパス(P):
 参照(R)...

テーブル種別
 固定(X)
 可変(Y)

キャプション
 なし(N)
 前(A)
 後(B)

行数(Q):

カラム数(C): ヘッダ(H)
 フッタ(F)

言語(G):

国(U):

まとめ設定
 なし(E) カラムのまとめを設定します
 可変(L) 可変:カラムのデータが同じものをまとめます
 固定(O) 固定:指定した行数毎にまとめます

行数(W): 固定の時のまとめる行数を設定します

OK キャンセル ヘルプ

テーブルが表示されたら、キャプション部分には、テキストで「お客様名」と入力します。文字スタイルをボールドイタリックにし、アンダーラインを設定します。テーブル全体の背景色を設定し、テーブル本体には、XML ファイルの顧客名を埋め込みます。ヘッダ部分と同様に、[参照 XML 構造] ウィンドウで「name」要素（顧客名）をドラッグアンドドロップして XML パスを設定します。

The screenshot displays an XML editor interface. On the left, a tree view titled '参照XML構造' (Reference XML Structure) shows the following hierarchy:

- er-management>
- <company-data>
 - <test> " 10000000 "
 - <test2> " 0.00001 "
 - <test3> " 000001 "
 - <name> " アンテナハウス株式会社 "
 - <address> " 東京都千代田区九段南4丁目3 "
 - <Tel> " 03-3234-9631 "
 - <Fax> " 03-3221-9975 "
 - <history> " アンテナハウス株式会社は、1984 "
 - <product-1> " パソコンパッケージソフト: XSL "
 - <product-2> " コンバートソフトの開発とOEM "
 - <technology-1> " File Conversion: High qual "
 - <technology-2> " File Viewing: High qual "
 - <technology-3> " XML document processi "
- <orderinfo>
 - <order-header>
 - <order-date>
 - <requester>
 - <name> " 第一総合商社株式会社 "
 - <post-code> " 106-0032 "
 - <address> " 東京都港区六本木6-10-1 "
 - <Tel> " 03-5324-6888 "

On the right, the rendered XML document is shown. It features a table with the following content:

レポートヘッダ	
a requester/name	Antenna House, Inc. アンテナハウス
注文書	アンテナハウス株式会社 東京都千代田区九段南4丁目3番13号 飯町寿ビル 402 TEL: 03-3234-9631 FAX: 03-3221-9975
発注者	a <name> " 第一総合商社株式会社 "

■ 複数のセルがあるテーブル

次に注文明細の表を作成します。[オブジェクト]メニューから、新規テーブルを選択し、テーブルを配置する位置を決め、[テーブル設定]ダイアログで、以下のように設定します。

テーブル設定 [X]

テーブル設定 | カラム設定 | コントロールブレイク

テーブルの繰り返しパス(P):
 参照(R)...

テーブル種別
 固定(O)
 可変(V)

キャプション
 なし(N)
 前(A)
 後(B)

行数(O):

カラム数(C): ヘッダ(H)
 フッタ(F)

言語(G):

国(U):

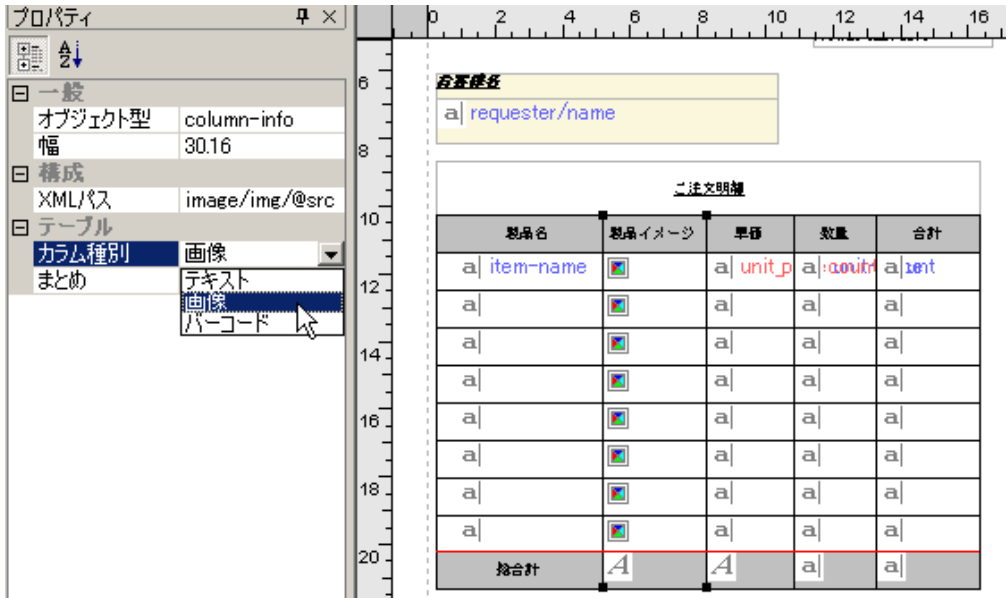
まとめ設定
 なし(E) カラムのまとめを設定します
 可変(L) 可変:カラムのデータが同じものをまとめます
 固定(O) 固定:指定した行数毎にまとめます

行数(W): 固定の時のまとめる行数を設定します

OK キャンセル ヘルプ

[テーブルの繰り返しパス]には、テーブルのデータ行に割り当てる要素を設定します。ここでは、注文の明細である「order/order-list」要素を指定します。

指定した行数、カラム数のテーブルが表示されたら、カラム単位で、挿入するオブジェクト(テキスト・画像)を設定します。



「製品名」の列には、XMLパスを指定して、サブレポート内の製品名が入るようにします。「製品イメージ」の列には、画像オブジェクトを配置します。「単価」、「数量」、「合計」の列には、式を設定します。

すべての行に同じ設定をすると以下の表が作成されます。

FAX: 03-3221-9975

お客様名

a| requester/name

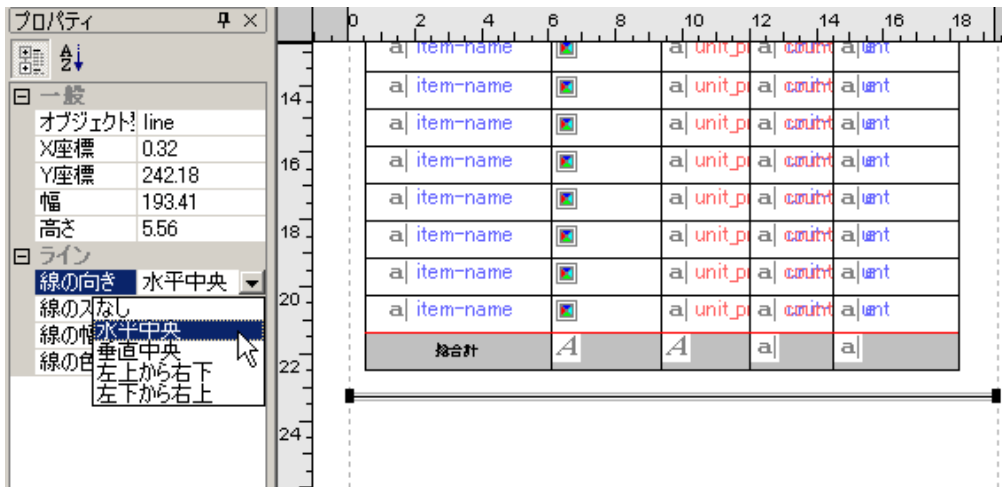
二注文明細

製品名	製品イメージ	単価	数量	合計
a item-name		a unit_p	a count	a tent
a item-name		a unit_p	a count	a tent
a item-name		a unit_p	a count	a tent
a item-name		a unit_p	a count	a tent
a item-name		a unit_p	a count	a tent
a item-name		a unit_p	a count	a tent
a item-name		a unit_p	a count	a tent
a item-name		a unit_p	a count	a tent
総合計	A	A	a	a

ラインオブジェクトを入力する

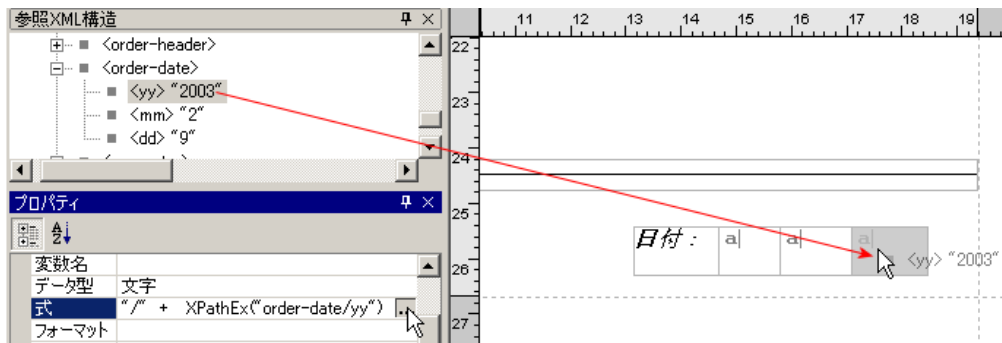
ラインオブジェクトシンプルな縦線、横線を引く場合に便利です。線の向きは、水平、垂直、斜め線が指定できます。ここでは表の上下に区切り線として、ラインオブジェクトを置きます。

実際に体験してみましょう



注文日付を入力する

注文日付も、XML パスと、式 (XPathEx) で表示します。



最後にページフッタ、レポートフッタに文字を入れ、レポート設計は完了です。以下のようにレイアウトされたプロジェクトファイルが作成されます。

0	レポートヘッダ																																																					
0	a requester/name																																																					
2																																																						
0	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">注文書</div>																																																					
2	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> アンテナハウス株式会社 東京都千代田区九段南4丁目3番13号 電研寿ビル 4階 TEL: 03-3234-9631 FAX: 03-3221-9975 </div>																																																					
4																																																						
6	<div style="background-color: #ffffcc; border: 1px solid black; padding: 2px;"> お客様名 a requester/name </div>																																																					
8																																																						
10	ご注文明細																																																					
12	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%;">製品名</th> <th style="width: 15%;">製品イメージ</th> <th style="width: 15%;">単価</th> <th style="width: 15%;">数量</th> <th style="width: 30%;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr> <td>a item-name</td> <td></td> <td>a unit_pr</td> <td>a count</td> <td>a amt</td> </tr> <tr style="border-top: 2px solid red;"> <td style="text-align: center;">総合計</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">A</td> <td style="text-align: center;">a </td> <td style="text-align: center;">a </td> </tr> </tbody> </table>				製品名	製品イメージ	単価	数量	合計	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	a item-name		a unit_pr	a count	a amt	総合計	A	A	a	a
製品名	製品イメージ	単価	数量	合計																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
a item-name		a unit_pr	a count	a amt																																																		
総合計	A	A	a	a																																																		
14																																																						
16																																																						
18																																																						
20																																																						
22																																																						
24																																																						
26	日付: a (a) a requester																																																					
0	足フック	a	足フック																																																			
0	レポートフック																																																					

11.2 レポートを印刷/PDF 保存する

ファイルを保存する

次に、設計したファイルを保存します。以下の2つのファイル形式で保存できます。

- プロジェクトファイル (Jorder-fix.rxl)
[ファイル] メニュー [プロジェクトを名前を付けて保存] で保存します。
製品本来の出力形式で、出力される rxl ファイルは、本製品専用の独自形式のファイルになります。
- XSL スタイルシート (Jorder-fix.xsl)
[ファイル] メニュー [XSL スタイルシートを保存] で保存します。
参照した XML ファイルと共に使用して、本製品でデザインされたレポートを XSL-FO として組版するためのスタイルシートです。プロジェクトファイルと比べると、XSL スタイルシートでは、いくつかのオブジェクトのプロパティが表現されません。

XSL Formatter で表示する

保存されたファイルをそれぞれ XSL Formatter で表示します。

- プロジェクトファイルによる表示
[プロジェクト] メニュー [XSL-FO 出力とプレビュー] を実行します。最初に示した注文書と同じレイアウトが表示されます。
- XSL スタイルシートによる表示
[プロジェクト] メニューで [XSL-FO 出力とプレビュー] を開き、 [XSL スタイルシートを使う] にチェックをして実行します。
XSL Formatter V3.2 で 2 ページ目を表示

注文書

アンテナハウス株式会社
 東京都千代田区入船4丁目3番13号
 船町海ビル 4階
 TEL: 03-3234-9631
 FAX: 03-3221-9975

お客様

第一総合商社株式会社

ご注文明細

製品名	製品イメージ	単価	数量	合計
SGParser Ver 1.0		13440	1	
TagEditor Ver 2.1		9240	3	
SGParser Ver 1.0		13440	1	
SGParser Ver 1.0		13440	1	
XSL Formatter Ver 1.0		207900	2	
SGParser Ver 1.0		13440	1	
TagEditor Ver 2.1		9240	3	
XSL Formatter Ver 1.0		207900	2	
総合計				

日付: 2 9 2003

をフック

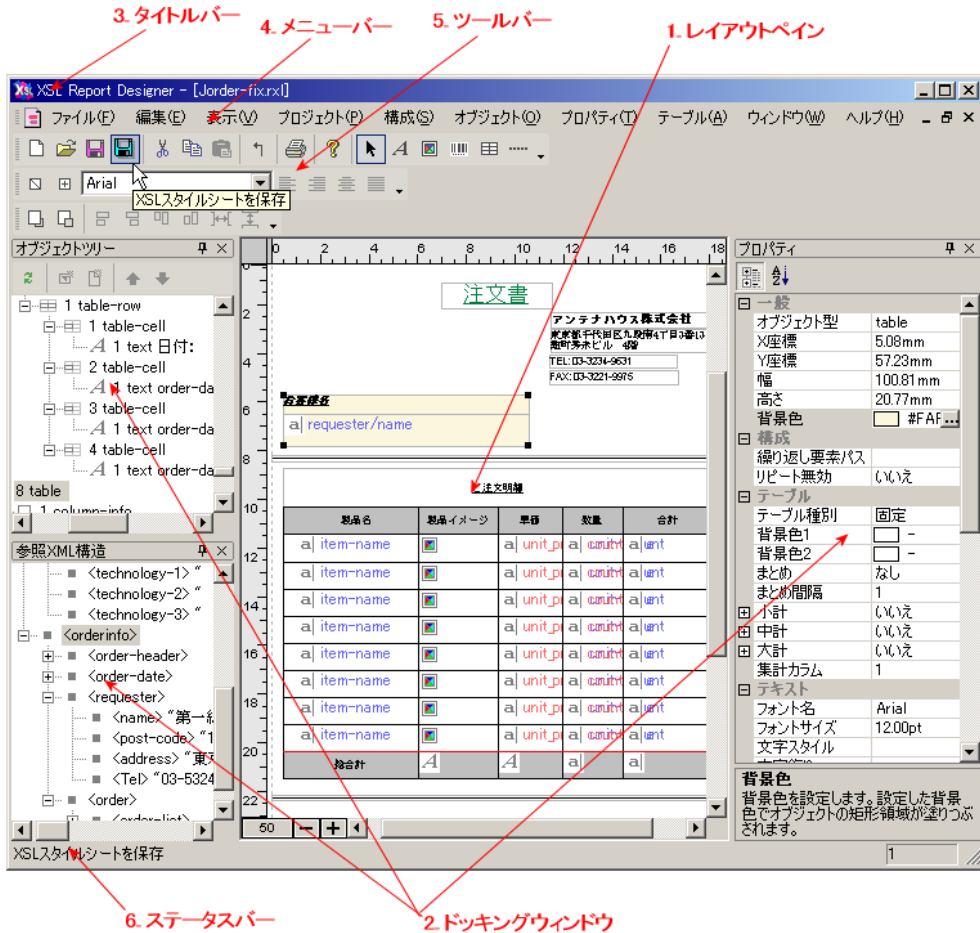
をフック

機能説明

ここでは XSL Report Designer の各部の詳細な説明と、操作方法について説明します。

12 メイン画面

XSL Report Designer の GUI 画面構成は次のとおりです。



1. レイアウトペイン

レイアウトペインは、レポートに出力するオブジェクトの配置を設計するウィンドウです。

2. ドッキングウィンドウ

レイアウトペインの周りには、以下の3つのドッキングウィンドウが表示されます。それぞれのウィンドウは、境界線をドラッグすることにより大きさを変更できます。すべてのウィンドウを同時に表示したり、また不要であれば非表示にすることもできます。

- オブジェクトツリーウィンドウ
- 参照 XML 構造ウィンドウ
- プロパティ

3. タイトルバー

タイトルバーには、XSL Report Designer のタイトルと、編集しているプロジェクトのファイル名が表示されます。

4. メニューバー

XSL Report Designer には、次の 10 個のメニューがあります。

- ファイルメニュー
- 編集メニュー
- 表示メニュー
- プロジェクトメニュー
- 構成メニュー
- オブジェクトメニュー
- プロパティメニュー
- テーブルメニュー
- ウィンドウメニュー
- ヘルプメニュー

また、レイアウトペイン上で右クリックするとコンテキストメニューが表示されます。コンテキストメニューでも一部のメニューを使うことができます。

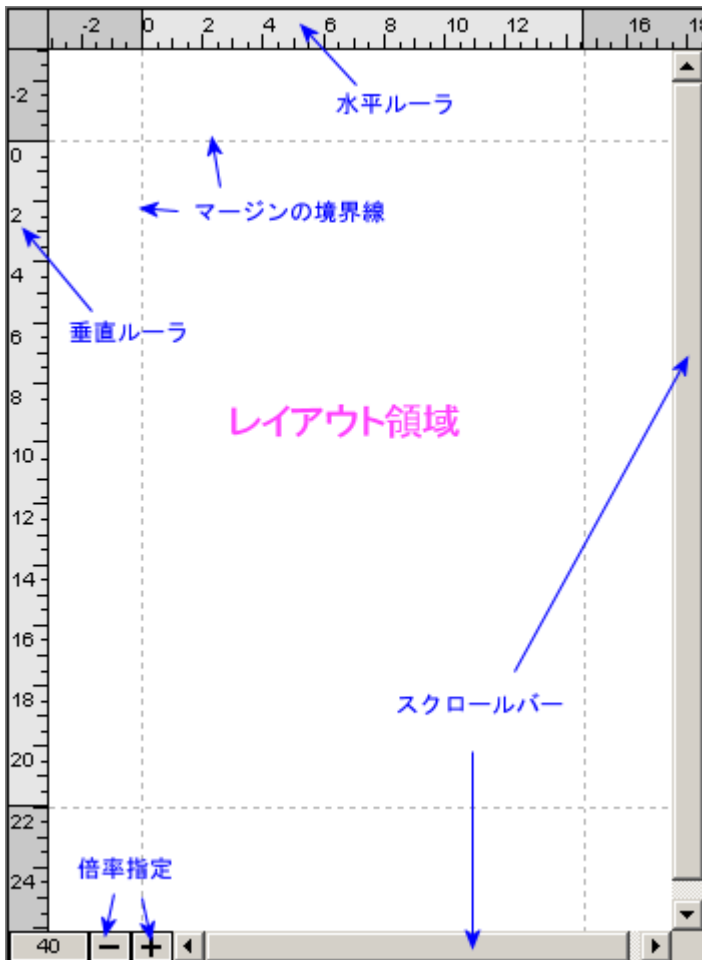
5. ツールバー

よく使用するメニューの機能をツールバーに置いてあります。マウス操作によってワンタッチで機能を実行できます。

6. ステータスバー

左側には、メニューアイテムとツールバーのアイテムにフォーカスした時に各コマンドについての短い説明が表示されます。右側には、現在表示されているページの番号（ヘッダ等は RH とか PH と表現します）が表示されます。

12.1 レイアウトペイン



レイアウトペインは、中央の「レイアウト領域」、上端の「水平ルーラ」、左端の「垂直ルーラ」、右端および下端の「スクロールバー」から構成されます。レイアウトペインでのオブジェクト編集操作により、レイアウト対象とする各種オブジェクトの作成・選択・切り取り・コピー・貼り付け・移動・削除・サイズ変更・テキスト編集を行うことができます。

ルーラの見盛りは、[用紙設定] ダイアログの [用紙定義] に設定されている単位で表示され、用紙のマーゲンの範囲内が、薄いグレー、外側が濃いグレーで表示されます。ルーラ上のマーゲンの境界線をドラッグすることにより、用紙のマーゲンの値を変更することができます。また、ルーラ上のマーゲンの境界に連動して、レイアウト領域内にも、マーゲンの境界を示す点線が表示されます。

また、左下端には、レイアウトペインの表示倍率を変更するボタン「倍率を小さく」、「倍率を大きく」が並んでいます。



レイアウトペインについて

1. レイアウトペインでは選択できないオブジェクト
以下のオブジェクトは、レイアウトペインでは選択できません。[オブジェクトツリー] ウィンドウで選択してください。

■ ドキュメントオブジェクト

- リポートオブジェクト
 - テーブルヘッダ・カラムインフォ・テーブルフッタオブジェクト
 - テーブルボディオブジェクト
2. 以下の場合はマージンの境界は表示されず、ルーラは全領域が濃いグレー表示となります。
- 「フロー型」レイアウトのフレームオブジェクト
フレームオブジェクトは、用紙上の位置が特定できないため、上下マージンは表示されません。
 - 「タックシール」レイアウトのラベルオブジェクト
ラベルオブジェクトは、全てマージン内に収まっているため、上下左右マージン共に表示されません。
 - ヘッダ・フッタ
レポートヘッダ・レポートフッタ・ページヘッダ・ページフッタの上下マージンは表示されません。
3. 「タックシール」レイアウトのヘッダ・フッタについて
「タックシール」レイアウトのヘッダ・フッタは、左右マージンの境界線は表示されますが、マウスドラッグによるマージンの変更はできません。

12.2 オブジェクトツリーウィンドウ

<p>更新 リポート挿入 フレーム(ページ)挿入 リポート・フレーム移動</p> <p>オブジェクトツリー</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 document Mon Nov 22 10:30:41 2004 para <ul style="list-style-type: none"> 1 repeat /order-management <ul style="list-style-type: none"> 1 frame 2 frame 1 text 販売実績(2月) 3 repeat orderinfo <ul style="list-style-type: none"> 1 frame <ul style="list-style-type: none"> 1 text requester/post-code 2 text requester/address 3 table <ul style="list-style-type: none"> 1 column-info 2 column-info 3 table-body <ul style="list-style-type: none"> 1 table-row <ul style="list-style-type: none"> 1 table-cell <ul style="list-style-type: none"> 1 text 注文番号; 2 table-cell <ul style="list-style-type: none"> 1 text order-hea 	<p>[オブジェクトツリー] ウィンドウには、レイアウトペインにある全てのオブジェクトが、ツリー形式で表示されます。ここで、オブジェクトの選択やフレームの挿入等を行うことができます。オブジェクトツリーの操作方法は、Windows の一般的なツリービューと同じになります。ドキュメントやリポートオブジェクトなど、レイアウトペインでは選択できないオブジェクトも選択することができます。これらのプロパティを表示・変更する場合は、該当オブジェクトをオブジェクトツリーから選択します。</p> <p><u>ツールバー</u></p> <p>[オブジェクトツリー] ウィンドウのトップには、ツールバーが並んでいます。左から [更新]、[リポート挿入]、[フレーム(ページ)挿入]、[リポート・フレーム移動] です。[更新] は、ツリービューの更新を行います。</p>
--	---

12.4 参照 XML 構造ウィンドウ

[参照 XML 構造] ウィンドウには、編集中のプロジェクトが参照する XML データの構造が、ツリー形式で表示されます。参照している XML 構造のツリー表示を使って、以下の設定が可能です。

- ドラッグアンドドロップで XML パスを設定
- クリックで XML パスを設定、式に挿入
- テキスト穴埋めパスの挿入

ドラッグアンドドロップで XML パスを設定

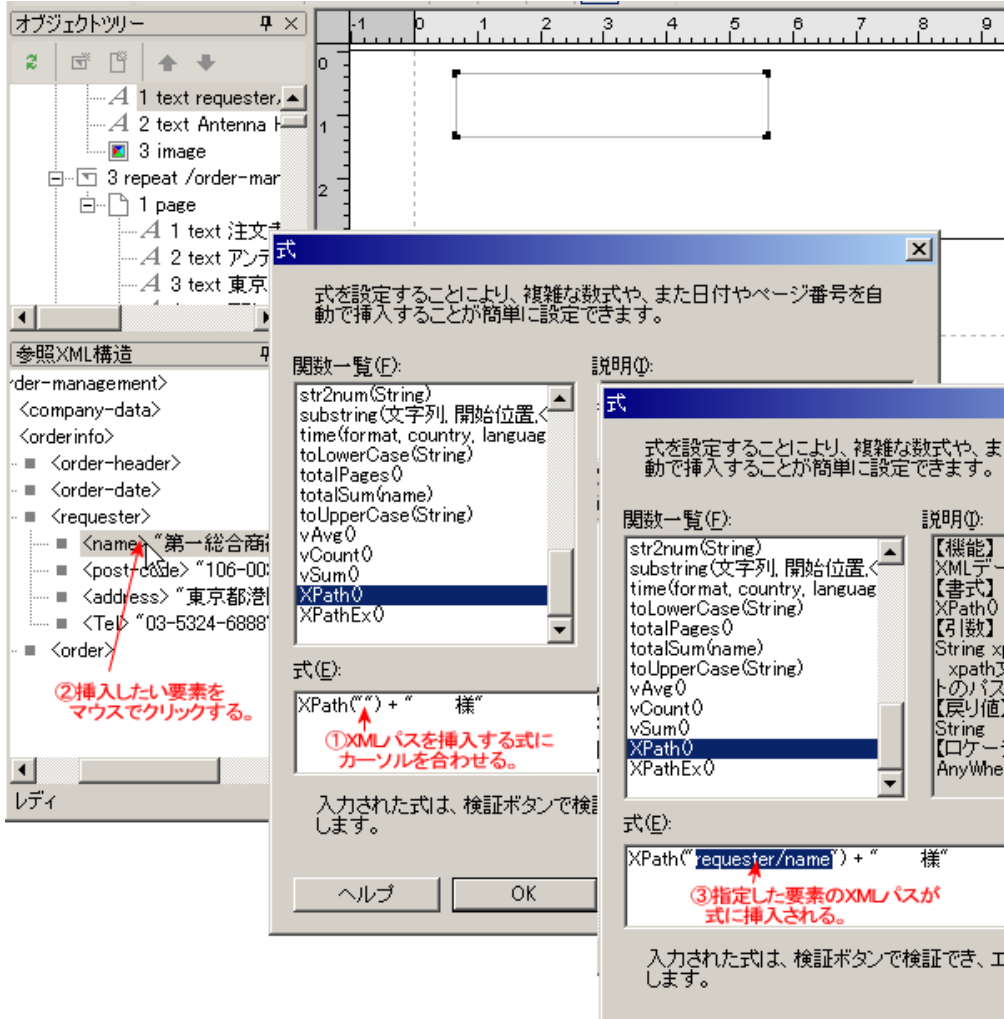
編集しているプロジェクトが参照している XML 構造を、常にツリー形式で表示し、そのツリーから要素をドラッグアンドドロップすることで、オブジェクトの XML パスの設定ができます。

任意のオブジェクトに要素をドラッグアンドドロップ。

XMLパスが設定される。

クリックでXMLパスを式に挿入

ツリー上の要素や、変数名を指定したオブジェクトをクリックするだけで、式にXMLパスを入力することが可能です。



通常は、状況に応じたXMLパス（フルパスまたは相対パス）が挿入されますが、常にフルパスを挿入したい場合は、[Ctrl] キーを押しながらクリックしてください。

13 メニューバー

13.1 ファイルメニュー

[ファイル] メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
プロジェクトを新規作成	新規にプロジェクトファイルを作成します。[新規作成ガイド]が表示されるので、必要な項目を設定します。
プロジェクトを開く	既存のプロジェクトファイルを開きます。選択されたファイルがXSL Report Designerのプロジェクトファイルでなかった場合には、エラー

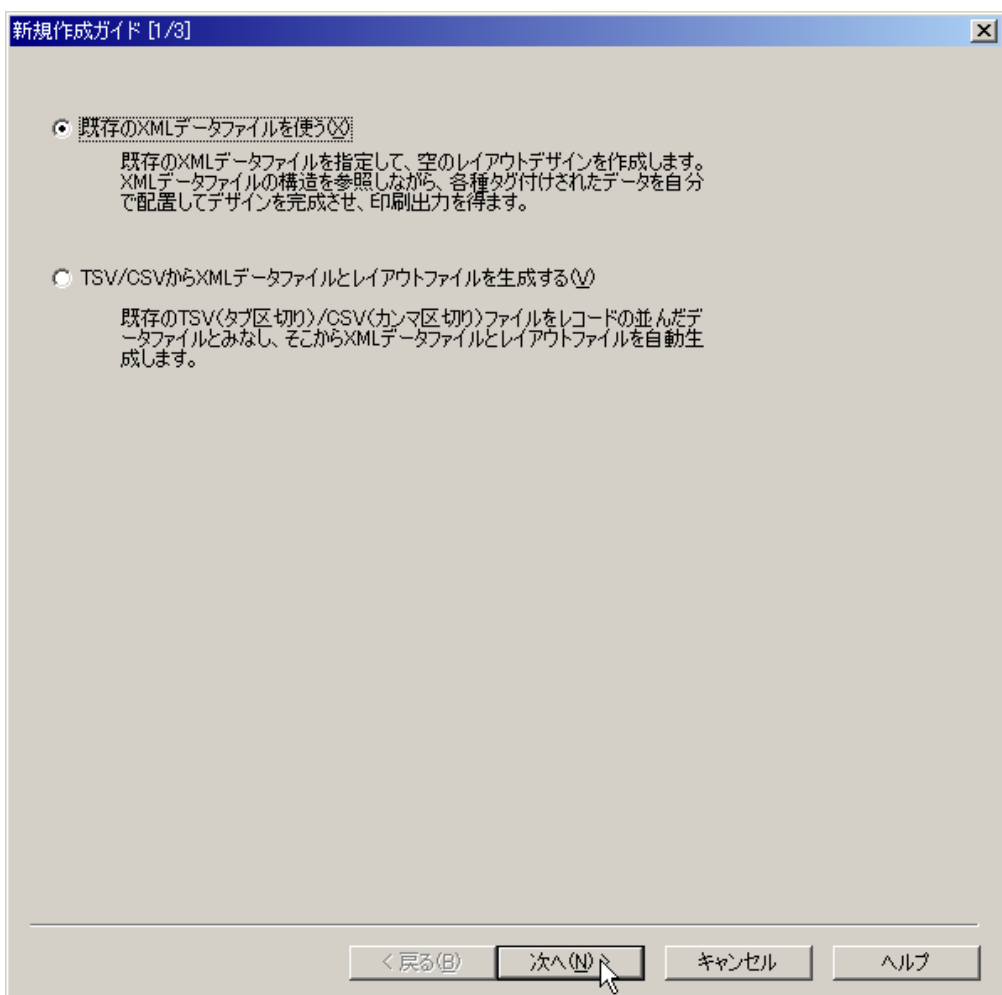
	ーを意味するメッセージボックスを表示し、ファイルオープン処理を中止します。
プロジェクトを閉じる	編集中の内容が保存されている場合は、そのままウィンドウを閉じます。編集中の内容が保存されていない場合は、保存を確認するメッセージが表示されます。
プロジェクトを上書き保存	ファイル名が確定している場合は編集中のプロジェクトファイルを上書きします。ファイル名が確定していない場合は、[プロジェクトを名前を付けて保存]を行います。
プロジェクトを名前を付けて保存	編集中のプロジェクトファイルを、名前を付けて保存するためのウィンドウが開きます。
XSL スタイルシートを保存	作成したプロジェクトファイルを、XSL スタイルシートとして保存します。
環境設定	[環境設定] ダイアログで、アプリケーションのユーザ環境のための環境を設定します。画面上のツールチップの表示等、プロジェクトに依存しない項目の設定です。
アプリケーションの終了	開いている全てのウィンドウを閉じて XSL Report Designer を終了します。編集内容が保存されていないプロジェクトファイルがある場合には、保存確認メッセージボックスが表示されます。

新規作成ガイド

新しいプロジェクトを作成する際は、[新規作成ガイド] で、必要な情報を入力できるようにナビゲートします。

[新規作成ガイド [1/3]]

プロジェクトを作成する際に参照するデータファイルとして、[既存の XML データファイルを使う] かまたは [TSV/CSV から XML データファイルとレイアウトファイルを生成する] かを選びます。



■ [既存のXMLデータファイルを使う]

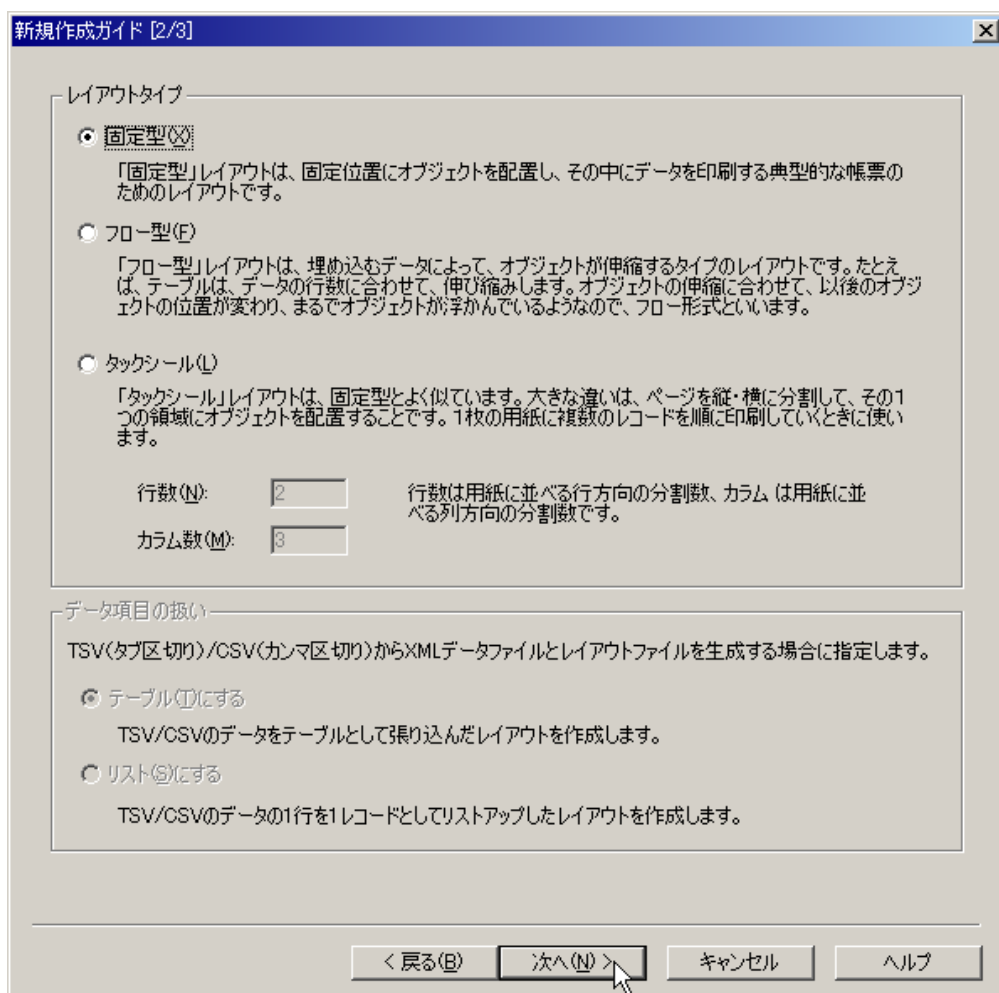
既存のXMLデータファイルを、プロジェクト作成時に「参照XML構造」ウインドウなどで参照します。

■ [TSV/CSVからXMLデータファイルとレイアウトファイルを生成する]

既存のTSV(タブ区切り)・CSV(カンマ区切り)ファイルレコードの並んだデータファイルとみなし、TSV/CSVデータからXMLデータファイルを自動生成します。生成されたXMLデータファイルを、プロジェクト作成時に参照します。

[新規作成ガイド [2/3]]

設計するプロジェクトを最終的にどのように印刷するか、レポートのレイアウトタイプを指定します。



■ レイアウトタイプ

参照するデータファイルがXMLファイルの場合、「レイアウトタイプ」を以下の3種類の型から選択します。

1. 固定型
2. フロー型
3. タックシール

参照するデータファイルがTSV/CSVファイルの場合、「レイアウトタイプ」は常に「フロー型」になります。

■ データ項目の扱い

参照するデータファイルがTSV/CSVファイルの場合、その各データの項目を、どのように表示するかを指定します。指定された方法にしたがって、既定値のレイアウトが自動的に作成されます。

テーブルにする

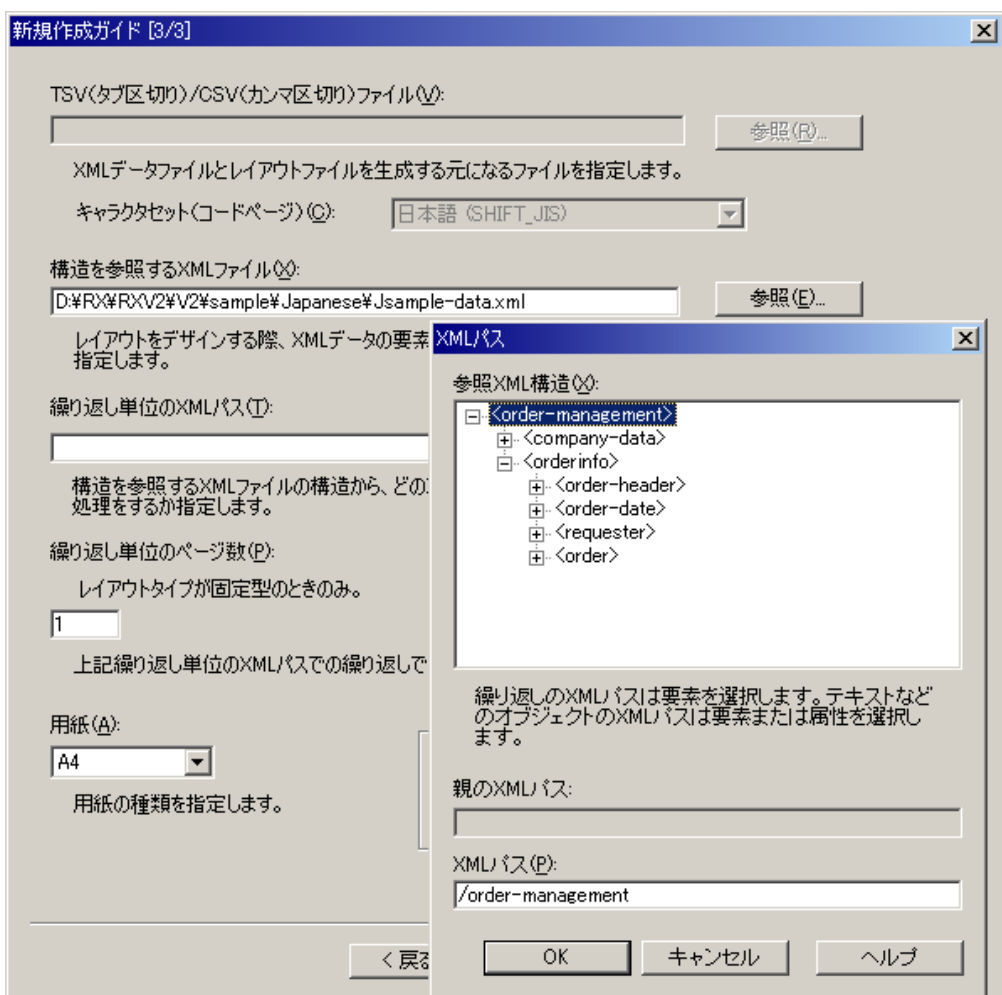
TSV/CSVのデータを、テーブルの形式でレイアウトします。(出力例)

リストにする

TSV/CSVのデータを、リストにしてレイアウトします。(出力例)

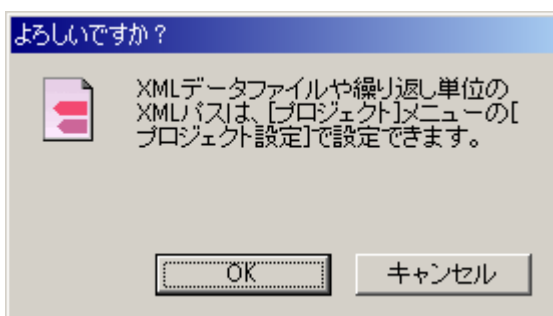
[新規作成ガイド [3/3]] (XMLデータを使用する場合)

参照するXMLファイルや、繰り返し単位のXMLパス、および用紙を設定します。



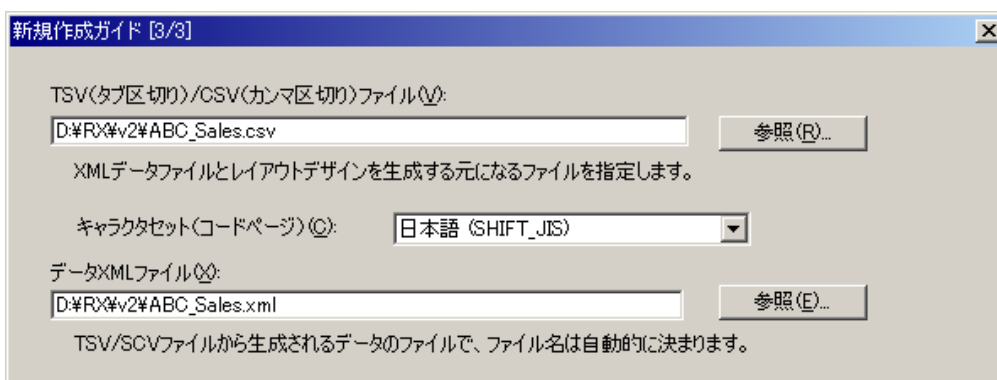
- 構造を参照する XML ファイル
構造を参照する XML ファイルの Windows 上のパスを指定します。[参照] ボタンを押して、Windows 上でフォルダを指定、ファイル一覧を表示して選択できます。
- 繰り返し単位の XML パス
XML データの構造の中で、主な繰り返し単位となる要素の XML パスを指定します。印刷・PDF の生成時、ここで指定した要素の出現回数分だけ下位のオブジェクトが繰り返し出力されます。
- 繰り返し単位のページ数
レイアウトタイプが「固定型」の場合、ページ単位でデータが繰り返されます。このとき、ひとつのレコードを何ページで構成するかをここで指定します。たとえば、各レコードで、1 ページ目に表紙を、2 ページ目に詳細を、など、複数ページを使う設定ができます。指定されたページ数（たとえば 2 なら、2 ページ）が終わったところで、次のレコードが始まります。
- 用紙
レポートを印刷する用紙を指定します。予め用意されている用紙の種類がプルダウンメニューで表示されるので、プロジェクトを印刷する用紙を選択します。ここで選択された用紙に、データが出力されます。用紙の種類は、[プロジェクト] メニューの [用紙設定] ダイアログの [用紙定義] ボタンで開くダイアログで追加することもできます。

[構造を参照する XML ファイル]、および [繰り返し単位の XML パス] が指定されない場合は、以下のメッセージが表示されます。これらは [プロジェクト] メニューの [プロジェクト設定] ダイアログで設定することも可能です。



[新規作成ガイド [3/3]] (TSV/CSV データを使用する場合)

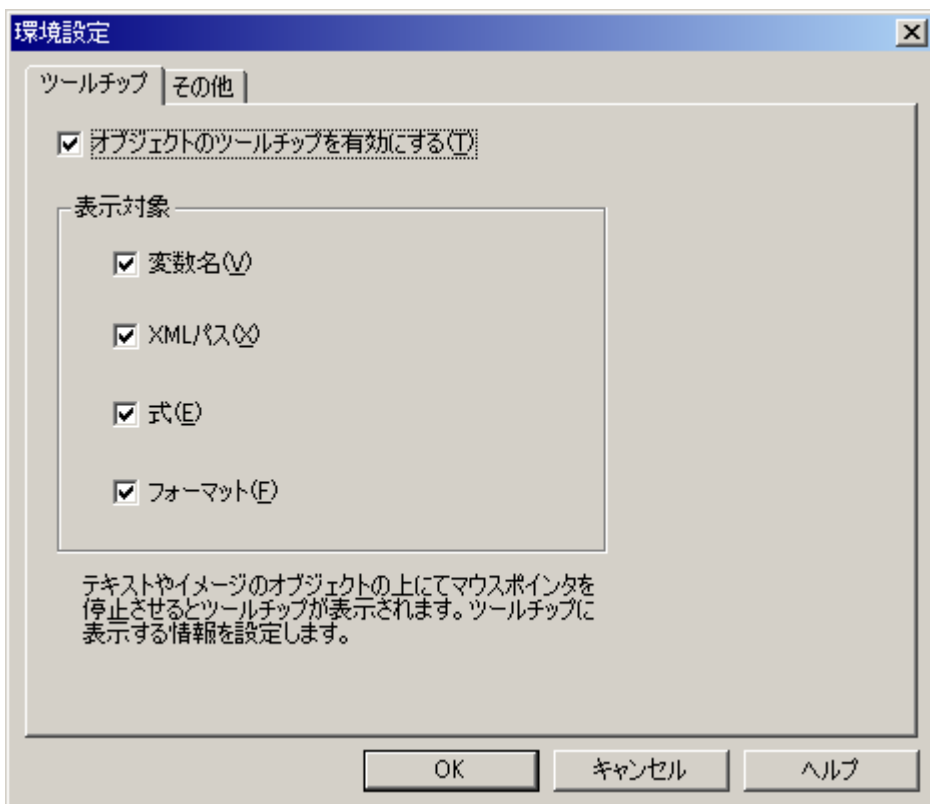
タブ区切り、カンマ区切りファイルを指定すると、構造を参照する XML データファイルが自動生成されます。



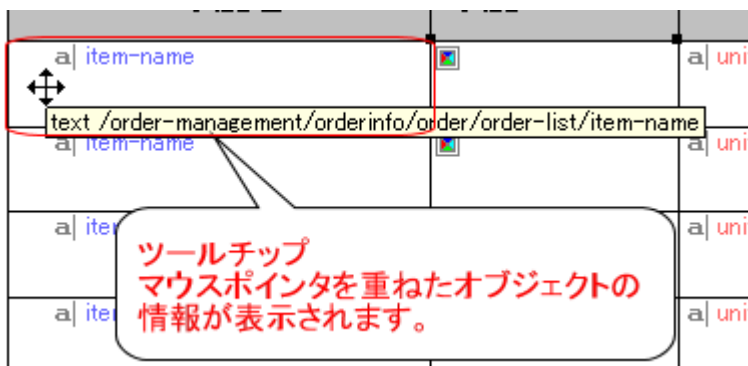
- TSV (タブ区切り) /CSV (カンマ区切り) ファイル
TSV/CSV ファイルの Windows のファイルパスを指定します。ここで指定された TSV/CSV ファイルから、XML データファイルが自動生成されます。[参照] ボタンを押して、Windows 上でフォルダを指定、ファイル一覧を表示して選択できます。
- キャラクタセット (コードページ)
TSV/CSV ファイルに使われている言語のキャラクタセットを指定します。Windows において西欧で一般的なのはラテン 1、日本で一般的なのは日本語 (シフト JIS) です。特殊なキャラクタセットのファイルはコードページの番号を選択してください。Windows で利用可能なコードページが一覧されます。出力されるデータ XML ファイルは UTF-8 に変換されます。
- データ XML ファイル
TSV・CSV ファイルから自動生成される XML ファイルの、Windows 上の保存場所を指定します。ファイル名は自動的に生成されますが、変更も可能です。

[環境設定] ダイアログ

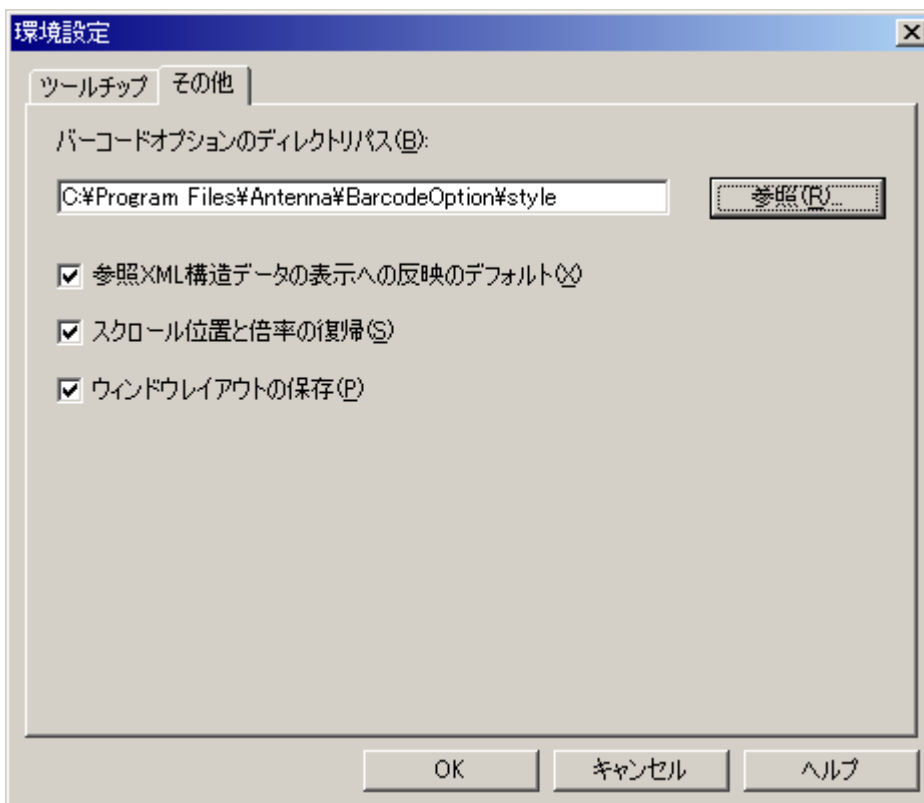
ツールチップタブ



オブジェクトの上で、マウスポインタを停止させると表示されるチップをツールチップといいます。上記でチェックマークがついた対象が、ツールチップに表示されます。



その他タブ



- **バーコードオプションのディレクトリパス**
XSL Formatter バーコードオプションがインストールされたディレクトリのパスを設定します。この設定は、バーコードオブジェクトを設定する場合に使用されます。
- **参照 XML 構造データの表示への反映のデフォルト**
参照 XML 構造ツリーに表示される、要素や属性のサンプル値を、レイアウトペインの表示に反映することができます（参照 XML 構造データの表示への反映を参照）。ここでは、そのデフォルト値を設定します。各プロジェクト毎に、[表示] メニューの [参照 XML 構造データの表示への反映] で切り替えが可能です。
- **スクロール位置と倍率の復帰**
プロジェクトのスクロール位置と倍率を、前回保存した状態で再現します。
- **ウィンドウレイアウトの保存**
チェックをはずして、再起動すると、XSL Report Designer のウィンドウレイアウトが初期化されます。ドッキングウィンドウを初期状態に戻す場合などに便利です。

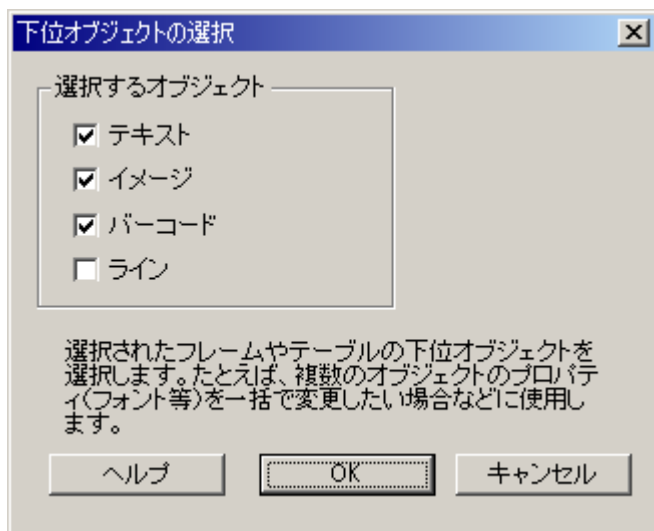
13.2 編集メニュー

[編集] メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
アンドゥー	直前の操作を元に戻します。
アンドゥーの取り消し	直前の [アンドゥ] 操作を取り消します。

切り取り	選択されているオブジェクトを切り取り、クリップボードにコピーします。[消去] はできても [貼り付け] ができないようなオブジェクト（例えば、テーブルの列や行）は、[切り取り] の対象となりません。
コピー	選択されているオブジェクトをクリップボードにコピーします。
貼り付け	クリップボードにコピーされているオブジェクトを貼り付けます。
消去	選択されているオブジェクトを消去します。クリップボードにはコピーされません。
吸着	オブジェクトのドラッグ中に、他のオブジェクトと頂点同士が近づいたときに、頂点同士が同じ座標になるように自動的にくっつける機能です。磁石のような動きをします。グリッドが有効なときは、吸着は使えません。
上位オブジェクトの選択	選択されたオブジェクトの上位オブジェクトを選択します。
下位オブジェクトの選択	[下位オブジェクトの選択] ダイアログで、選択されたフレームやテーブルの下位オブジェクトを選択します。
テキスト穴埋めパスの挿入	テキストオブジェクトに入力されたテキスト内にテキスト穴埋めパスの挿入します。複数の XML パスの配置が可能です。
最後に編集したオブジェクトの選択	最後に編集・修正したオブジェクトを選択して、見える場所までスクロールします。

[下位オブジェクトの選択] ダイアログ

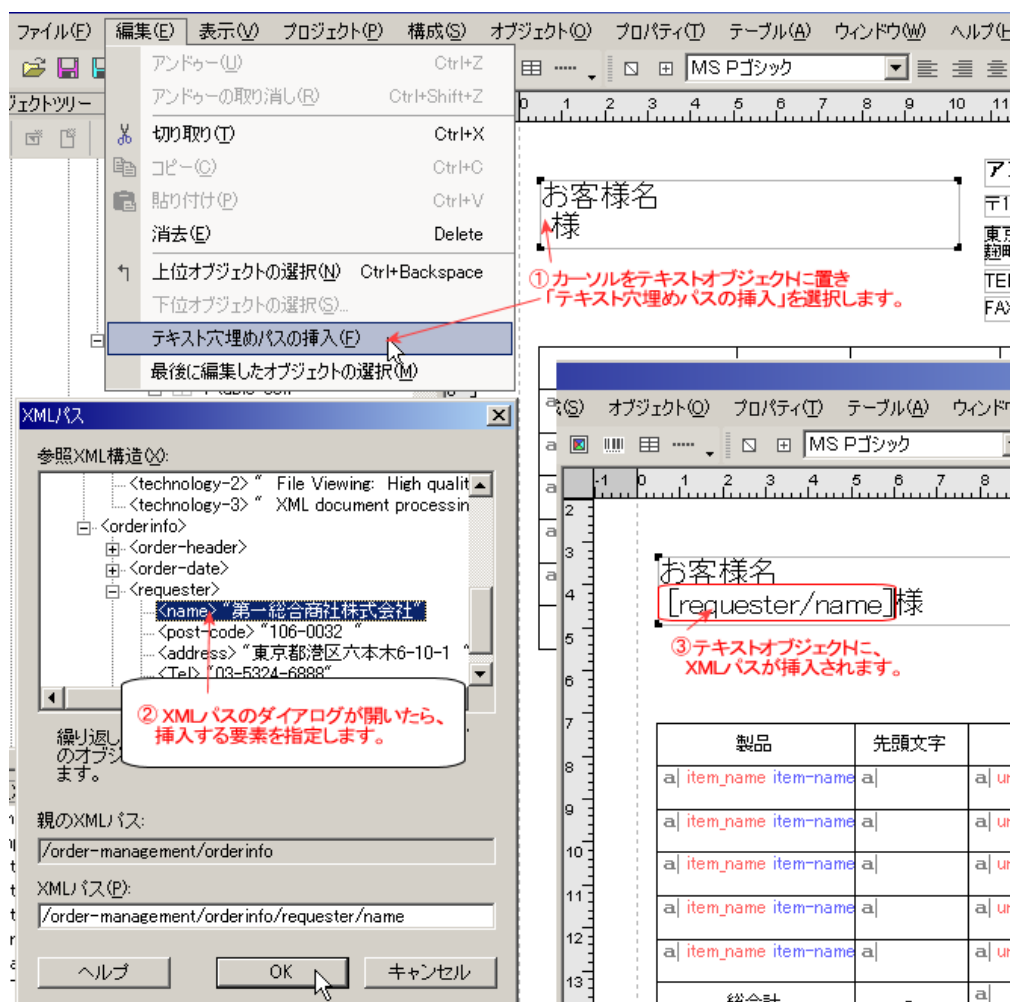


たとえば、複数のオブジェクトのプロパティ（フォント等）を一括で変更したい場合などに使用します。選択可能なオブジェクトは、テキスト、イメージ、バーコード、およびラインです。

テキスト穴埋めパスの挿入

テキストオブジェクトに入力したテキスト内に、複数の XML パスを配置できます。名前や会員番号などのデータを穴埋め式に配置する定型文を作ることができます。

穴埋め機能を使用するには、XML パスを挿入したい位置にカーソルを置き、[編集] メニューの [テキスト穴埋めパスの挿入] を選択してください。



13.3 表示メニュー

[表示] メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
オブジェクトツリー	[オブジェクトツリー] ウィンドウを表示します。
プロパティ	[プロパティ] ウィンドウを表示します。
参照 XML 構造	[参照 XML 構造] ウィンドウを表示します。
標準	標準ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
オブジェクト	オブジェクトツールバーの表示・非表示を切り替えます。
配置	配置ツールバーの表示・非表示を切り替えます。
ステータスバー	ステータスバーの表示・非表示を切り替えます。
倍率	表示倍率を切り替えます。[大きく] で、レイアウトペインの表示倍率を大きくし、[小さく] で小さくします。[画面横幅に合わせる] では、レイアウトペインの横幅に合わせて表示します。[倍率指定] では、[倍率設定] ダイアログで任意の倍率が指定できます。

グリッド設定	[グリッド設定] ダイアログで、グリッドの設定をします。グリッド線は、縦横の線から構成されるマス目で、オブジェクトを配置する際の目安となります。
参照 XML 構造データの表示への反映	構造を参照する XML データの該当 XML パスの内容をテキストオブジェクトに表示します。

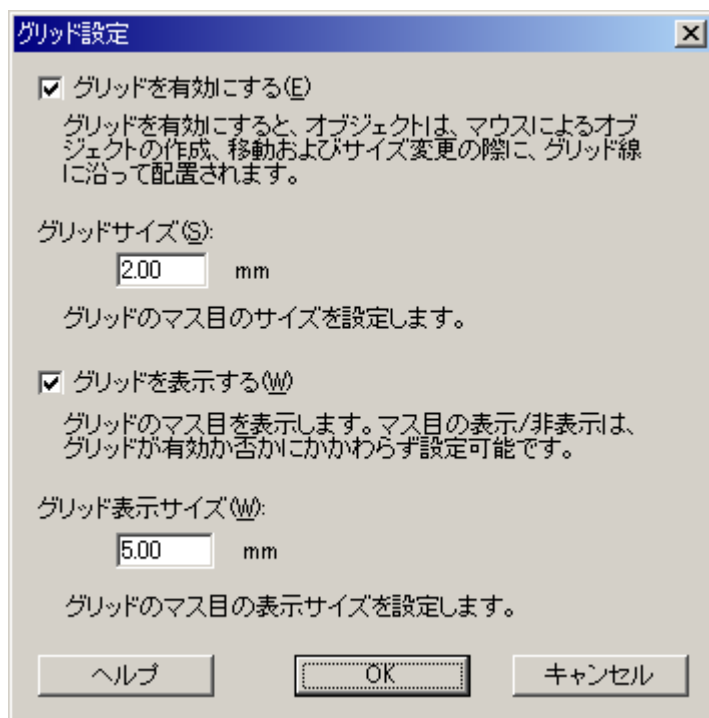
[グリッド設定] ダイアログ

グリッド線は、縦横の線から構成されるマス目で、レイアウト設計の際、オブジェクトを配置する目安となります。グリッド線は、印刷・PDF 出力はされません。

グリッドを表示した場合：



[グリッド設定] ダイアログで設定します。



- グリッドを有効にする
チェックをつけると、オブジェクトは、マウスによるオブジェクトの作成、移動およびサイズ変更の際に、グリッド線に沿って配置されます。[グリッドのサイズ] でグリッドのマス目のサイズを設定します。

- グリッドを表示する
チェックをつけると、グリッドのマス目を表示します。マス目の表示・非表示は、グリッドが有効か否かにかかわらず設定可能です。[グリッド表示サイズ] で、グリッドのマス目を表示するサイズを設定します。

参照 XML 構造データの表示への反映

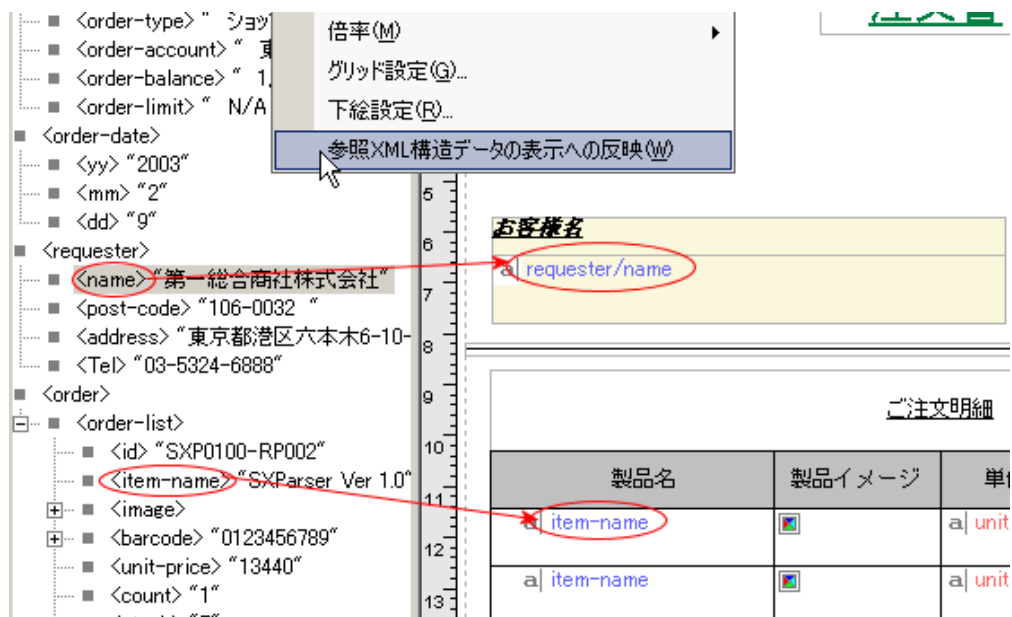
構造を参照する XML データの、該当 XML パスの内容を、レイアウトペイン内のオブジェクトに表示することができます。

[参照 XML 構造データの表示への反映] を [オン] にした場合、次の図のようオブジェクトに設定されている XML パスの指す、参照 XML 構造ツリーの要素の内容テキストがサンプルとして表示されます。

The screenshot shows an XML tree on the left and a rendered form on the right. The XML tree includes elements like <order-type>, <order-account>, <order-balance>, <order-limit>, <order-date>, <requester>, and <order-list>. A context menu is open over the XML tree, with the option '参照XML構造データの表示への反映(W)' checked. Red arrows point from the menu item to the 'お客様名' field and the 'SXPParser Ver 1.0' item in the 'ご注文明細' table.

製品名	製品イメージ	単価
SXPParser Ver 1.0		
SXPParser Ver 1.0		

[参照 XML 構造データの表示への反映] を [オフ] にした場合、次の図のようにオブジェクトには、設定されている XML パスが表示されません。



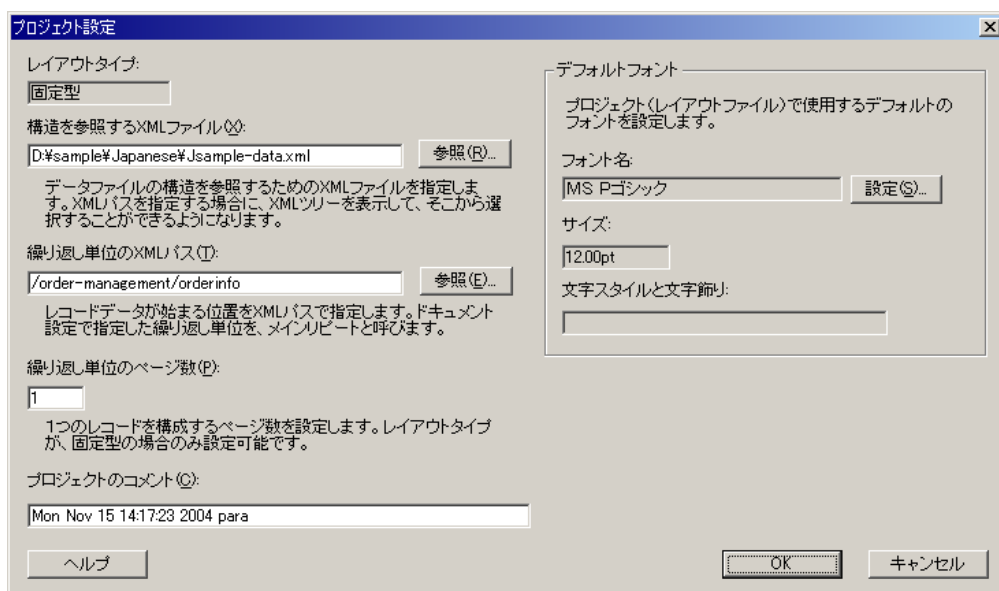
13.4 プロジェクトメニュー

[プロジェクト] メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
プロジェクト設定	[プロジェクト設定] ダイアログで、プロジェクトに関するプロパティの設定を行います。
用紙設定	[用紙設定] ダイアログで、用紙設定に関するプロパティの設定を行います。
XSL-FO 出力とプレビュー	作成しているプロジェクトに対して、指定した XML データを入力として XSL-FO を作成し、XSL Formatter でプレビューできます。 [XSL-FO 出力とプレビュー] ダイアログで項目を設定します。

[プロジェクト設定] ダイアログ

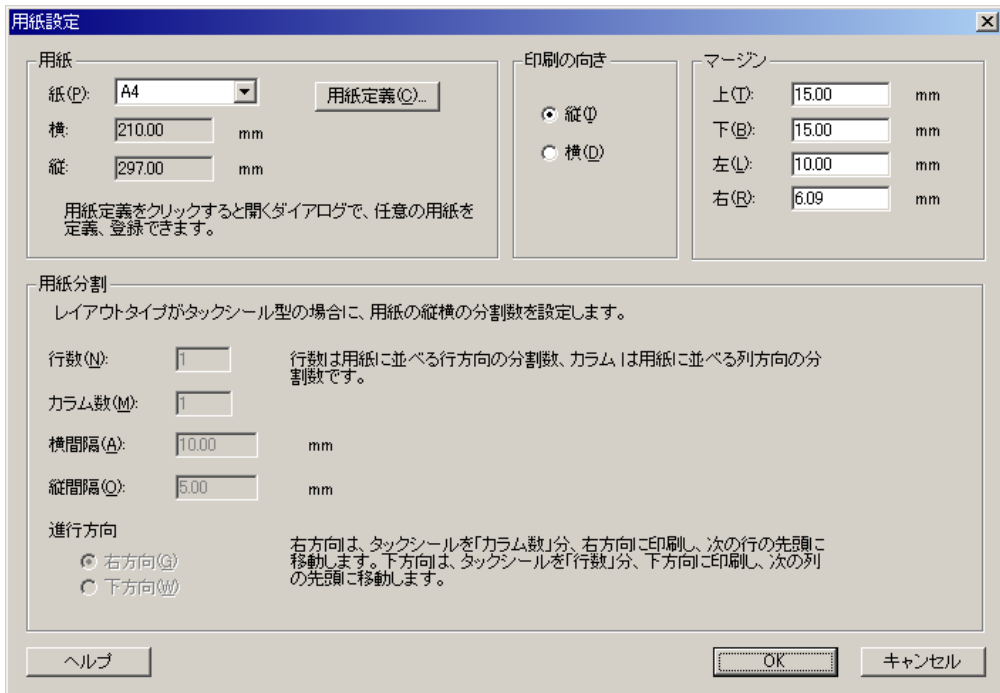
プロジェクトに関するプロパティの設定を行います。



- **レイアウトタイプ**
プロジェクトに設定されているレイアウトタイプが表示されます。変更はできません。
- **構造を参照する XML ファイル**
データファイルの構造を参照するための XML ファイルを指定します。
この値を設定しておけば、XML パスを指定する場合に、XML ツリーを表示して、そこから選択することができるようになります。
[参照] ボタンを押すと、ファイルの一覧からファイルを選択することができます。
- **繰り返し単位の XML パス**
繰り返し単位の XML パスを指定します。
[構造を参照する XML ファイル] の値が正しく設定されている状態で、[参照] ボタンを押すと、[XML パス] ダイアログを使用して、XML ツリーから選択することができます。
- **繰り返し単位のページ数**
1つのレコードを構成するページ数を設定します。レイアウトタイプが、「固定型」の場合のみ設定可能です。
- **デフォルトフォント**
プロジェクトファイルで使用するデフォルトのフォントを設定します。
[設定] ボタンを押すと、[フォント] ダイアログが開くので、フォント名、スタイル、サイズおよび文字飾りを設定します。
- **プロジェクトのコメント**
プロジェクトのコメント文字列を自由に記述できます。コメントは印刷結果などには影響しません。

[用紙設定] ダイアログ

[用紙設定] に関するプロパティの設定を行います。



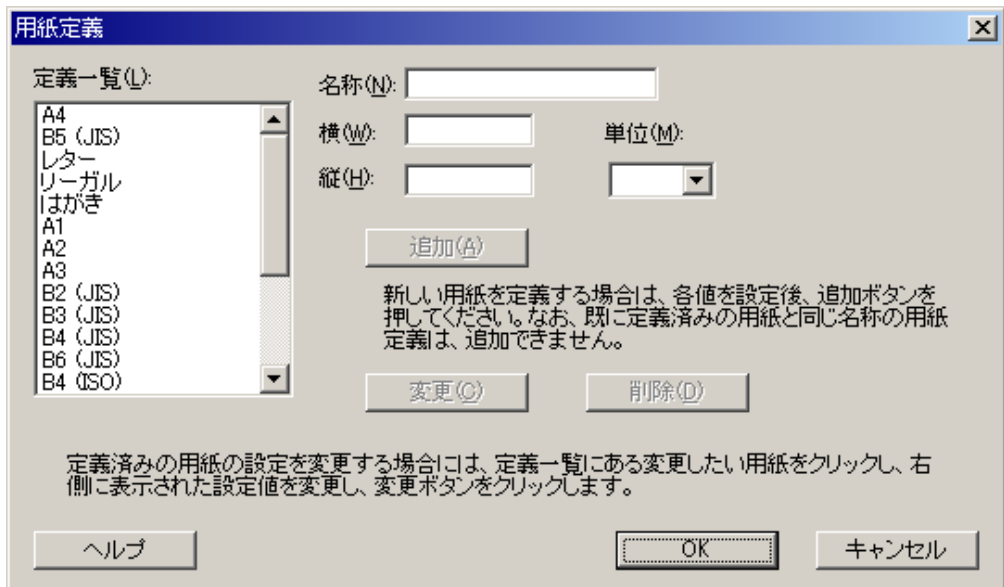
■ 用紙

用紙の種類を設定します。

[紙] のコンボボックスから用紙の種類を選択します。

選択した用紙の横サイズが [横] に、縦サイズが [縦] に表示されます。

デフォルトでは、A4 サイズ、B5 サイズが登録されています。 [用紙定義] をクリックすると次の [用紙定義] ダイアログが開くので、ここで任意の用紙を定義、登録することが可能です。



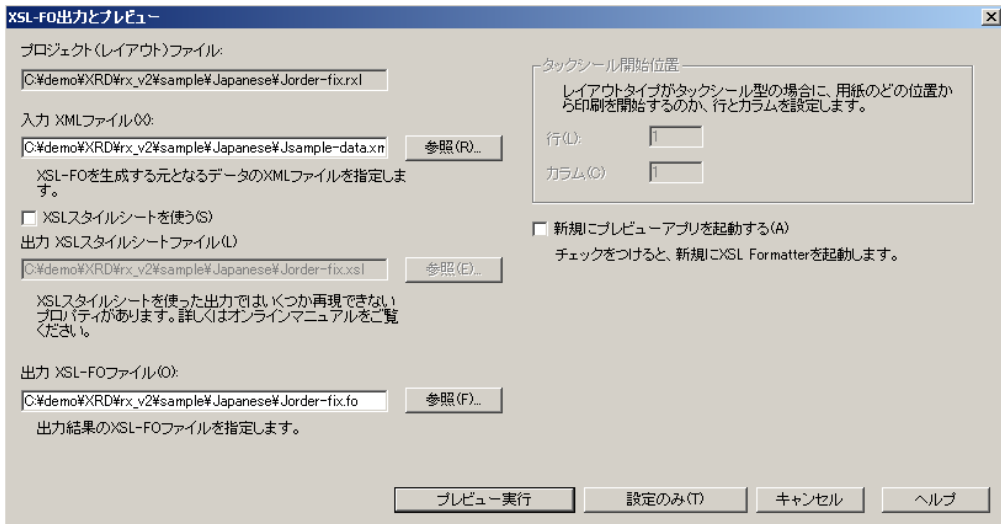
■ 定義一覧

既に定義されている用紙の一覧が表示されます。定義済みの用紙の設定を変更する場合には、変更したい用紙をクリックし、右側に表示された設定値を変更し、[変更] ボタンをクリックします。

- 名称
定義した用紙につける名称を入力します。
- 横
用紙の横サイズを入力します。
- 縦
用紙の縦サイズを入力します。
- 単位
定義した用紙に使用する単位をコンボボックスから選択します。選択可能な単位は、mm（ミリメートル）と in（インチ）です。
- 追加
新しい用紙を定義する場合は、各値を設定後、[追加] ボタンを押してください。なお、既に定義済みの用紙と同じ名称の用紙定義は、追加できません。
- 変更
定義済みの用紙の設定を変更する場合は、各値を設定変更後 [変更] ボタンを押してください。
- 削除
用紙の定義を削除する場合は、削除する用紙を、[定義一覧] から選択し、[削除] ボタンを押してください。
- 印刷の向き
印刷される方向を設定します。[縦] は縦方向に印刷、[横] は横方向に印刷します。
- マージン
用紙の上下左右マージンを設定します。単位は変更できません。
- 用紙分割
レイアウトタイプが「タックシール」の場合に、用紙の縦横の分割数を設定します。
 - 行数
用紙に並べる行方向の分割数を設定します。
 - カラム数
用紙に並べる列方向の分割数を設定します。
 - 横間隔
分割された各タックシールの列方向の間隔を設定します。
 - 縦間隔
分割された各タックシールの行方向の間隔を設定します。
 - 進行方向
タックシールが印刷される進行方向を指定します。[右方向] は、タックシールを「カラム数」分、右方向に印刷し、次の行の先頭に移動します。[下方向] は、タックシールを「行数」分、下方向に印刷し、次の列の先頭に移動します。

[XSL-FO 出力とプレビュー] ダイアログ

XML データを使って、プロジェクトファイルをプレビューできます。ランタイムエンジンが、プロジェクト（レイアウト）ファイルと XML データから XSL-FO を出力します。次に、XSL Formatter を起動して、XSL-FO を組版し、XSL Formatter のプレビュー画面に表示します。編集内容が保存されていない場合は、[プレビュー設定] ダイアログボックスを開く前に、[上書き保存] と同様の確認ダイアログが表示されます。



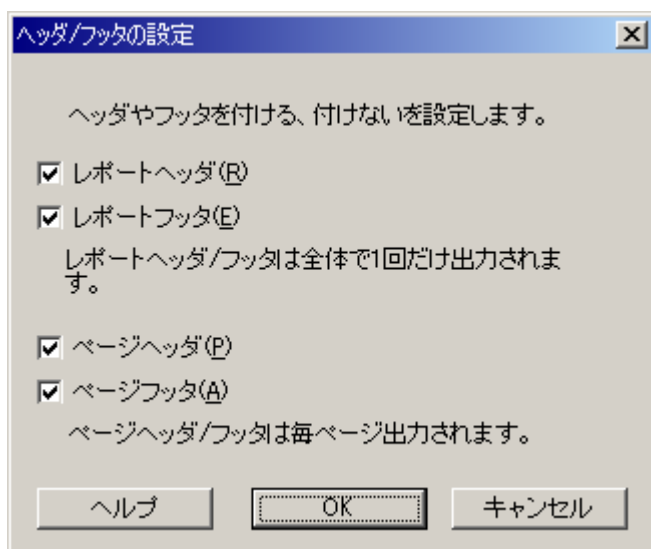
- プロジェクト（レイアウト）ファイル
プロジェクト（レイアウト）ファイル名が表示されます。
- 入力 XML ファイル
プレビューに使用する XML データファイルを設定します。
- XSL スタイルシートを使う
チェックボックスにチェックすると、XSL スタイルシートを使って XSL-FO を出力します。XSL スタイルシートを使って入力 XML ファイルから XSL-FO への変換を行うには、XSLT プロセッサが使用できる環境が整っていることが前提となります。詳細は、XSL Formatter のオンラインマニュアル等をご参照ください。
- 出力 XSL スタイルシートファイル
変換に使用する XSL スタイルシートを指定します。
- 出力 XSL-FO ファイル
出力する XSL-FO ファイル名を設定します。
- タックシール開始位置
レイアウトタイプが「タックシール」の場合に、用紙のどの位置から印刷を開始するのか、行とカラムを設定します。
- 新規にプレビューアプリを起動する
チェックをつけると、新規に XSL Formatter を起動します。
- プレビュー実行
XSL-FO への変換を行い、エラーがなければ、XSL Formatter を起動します。
- 設定のみ
各項目の設定だけを行います。
- キャンセル
設定をキャンセルし、ダイアログを閉じます。

13.5 構成メニュー

[構成] メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
ヘッダ/フッタ	[ヘッダ/フッタの設定] ダイアログで、プロジェクトファイルに、レポートヘッダ・フッタオブジェクトや、ページフッタ・フッタオブジェクトを付ける・付けないを設定します。
リピート挿入	リピートオブジェクトを挿入します。
フレーム挿入	フレームオブジェクトまたはページオブジェクトを挿入します。
リピート・フレームの移動	リピートオブジェクトまたはフレームオブジェクトの位置を移動します。

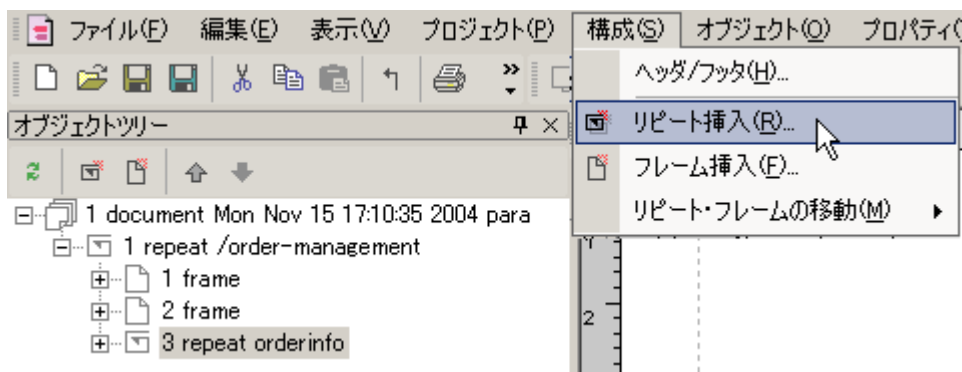
[ヘッダ/フッタの設定] ダイアログ



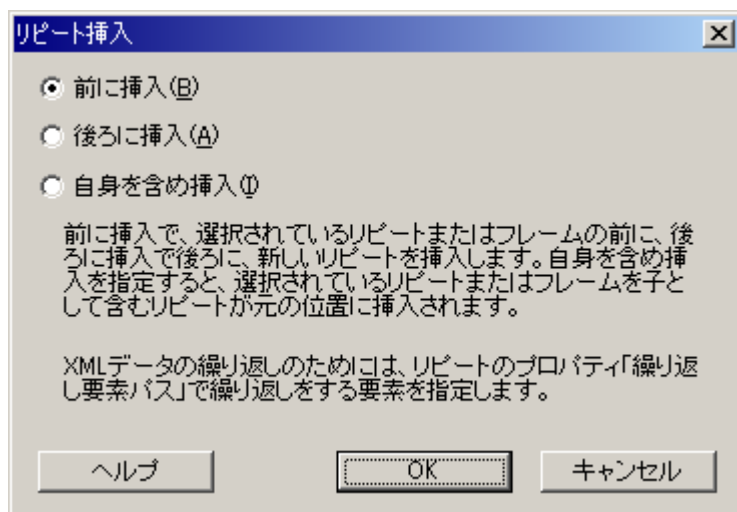
[レポートヘッダ]、[レポートフッタ]、[ページヘッダ]、[ページフッタ] が設定できます。ヘッダやフッタを削除したい場合は、このダイアログを表示してチェックを外してください。

リピート挿入

「フロー型」は、メインリピートの下位に複数のリピートオブジェクトを置くことができます。リピートが挿入できるのは、メインリピート以外のリピートオブジェクトの前後または下位、フレームオブジェクトの前後または下位になりますので、いずれかを選択してから、リピートを挿入してください。（なお「固定型」「タックシール」では、リピートオブジェクトは、プロジェクトの中でひとつしか設定できないのでリピートの挿入はできません。）



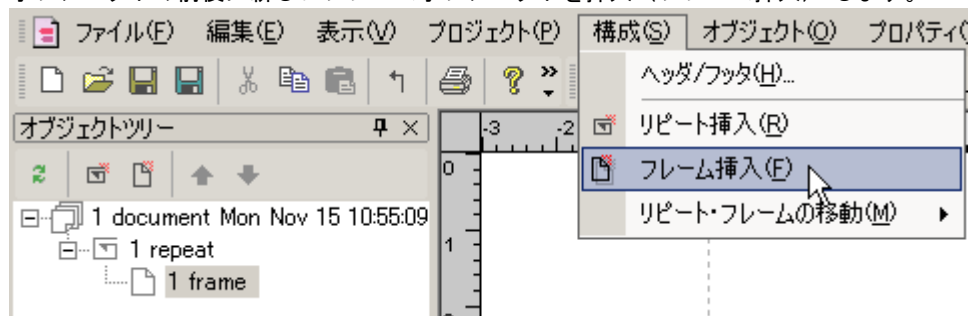
「前に挿入」で、選択されているリピートオブジェクトまたはフレームオブジェクトの前方の位置に、「後ろに挿入」で後方の位置に、新しいリピートオブジェクトを挿入します。「自身を含め挿入」を指定すると、選択されているリピートまたはフレームを子として含む新しいリピートが元の位置に挿入されます。



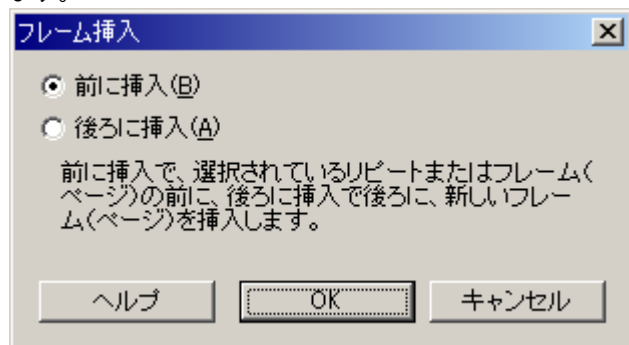
フレーム/ページ挿入

「固定型」の場合、既にあるページオブジェクトの前後に、新しいページオブジェクトを挿入（ページ挿入）します。ページオブジェクトが挿入できるのは、メインリピートの下位のみですので、下位のオブジェクトを選択してからページ挿入してください。

「フロー型」の場合、既にあるフレームオブジェクトの前後 またはメインリピート以外のリピートオブジェクトの前後に新しいフレームオブジェクトを挿入（フレーム挿入）します。



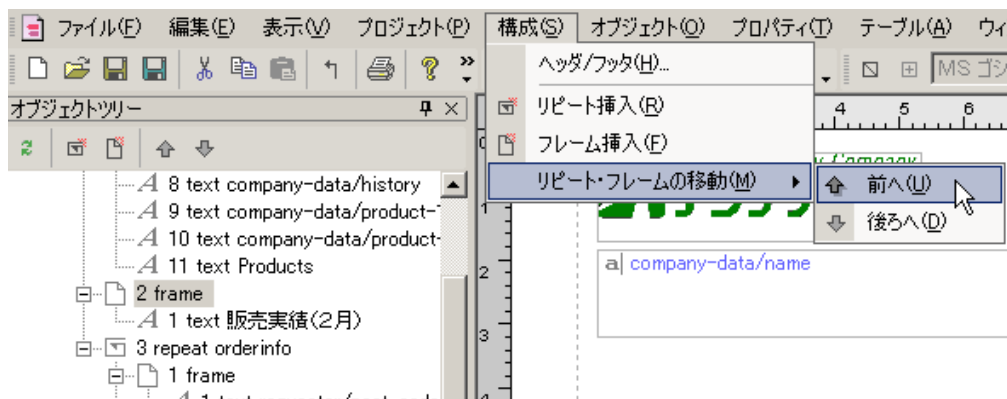
「前に挿入」で、選択されているリピートオブジェクト、フレームオブジェクトまたはページオブジェクトの前方の位置に、「後ろに挿入」で後方の位置に、新しいフレームまたはページを挿入します。



なお、タックシール型ではこの機能は使用できません。

リピート/フレームの移動

リピートオブジェクトまたは「フロー型」のフレームオブジェクトの位置を移動（リピート移動・フレーム移動）します。[前へ]で、選択されているリピート/フレームを直前のリピート/フレームの前方へ、[後ろへ]で後方へ、移動します。



13.6 オブジェクトメニュー

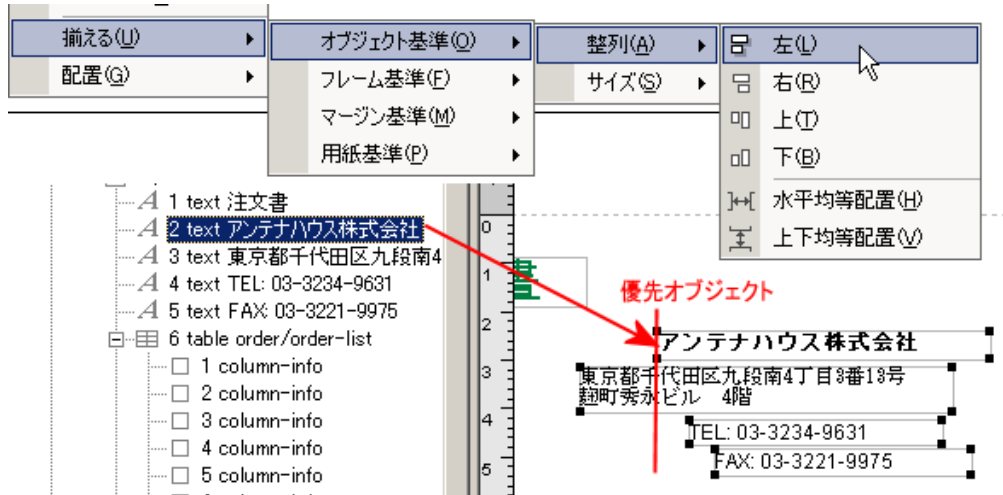
[オブジェクト]メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
選択	オブジェクトの選択を行います。このメニューがチェックされていると、レイアウトペイン上で、マウスドラッグを行った場合に、複数オブジェクトの選択が行われます。
新規テキスト	テキストオブジェクトを作成します。このメニューがチェックされていると、レイアウトペイン上で、マウスドラッグを行った場合に、その位置に新しいテキストオブジェクトが置かれます。
新規画像	画像オブジェクトを作成します。このメニューがチェックされていると、レイアウトペイン上で、マウスドラッグを行った場合に、その位置に新しい画像オブジェクトが置かれます。
新規バーコード	バーコードオブジェクトを作成します。このメニューがチェックされていると、レイアウトペイン上で、マウスドラッグを行った場合に、その位置に新しいバーコードオブジェクトが置かれます。
新規テーブル	テーブルオブジェクトを作成します。このメニューがチェックされていると、レイアウトペイン上で、マウスドラッグを行った場合に、[テーブル設定]ダイアログが表示されます。設定を行った後、ドラッグを行った位置に新しいテーブルオブジェクトが置かれます。
新規ライン	ラインオブジェクトを作成します。このメニューがチェックされていると、レイアウトペイン上で、マウスドラッグを行った場合に、その位置に新しいラインオブジェクトが置かれます。
揃える	複数のオブジェクトを、優先オブジェクト、フレーム、マージンまたは用紙を基準にして、指定の位置に揃える機能です。オブジェクト基準では、サイズの揃えも指定できます。
配置	オブジェクトの配置の入れ替えを行います。「フロー型」のフレーム内のオブジェクトの配置は、入れ替えられません。

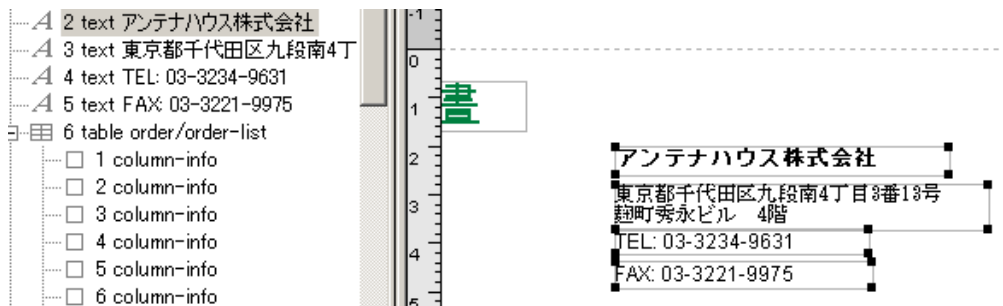
グループ化	複数のオブジェクトを1つのオブジェクトのようにまとめる機能です。
グループ化解除	グループ化を解除して、ばらばらのオブジェクトにする機能です。

揃える

複数のオブジェクトを、優先オブジェクト、フレーム、マージンまたは用紙を基準にして、指定の位置に揃えます。オブジェクト基準では、サイズの揃えも指定できます。



指定された位置にオブジェクトが揃います。



複数のオブジェクトを選択し、以下から基準と揃える位置を選択します。

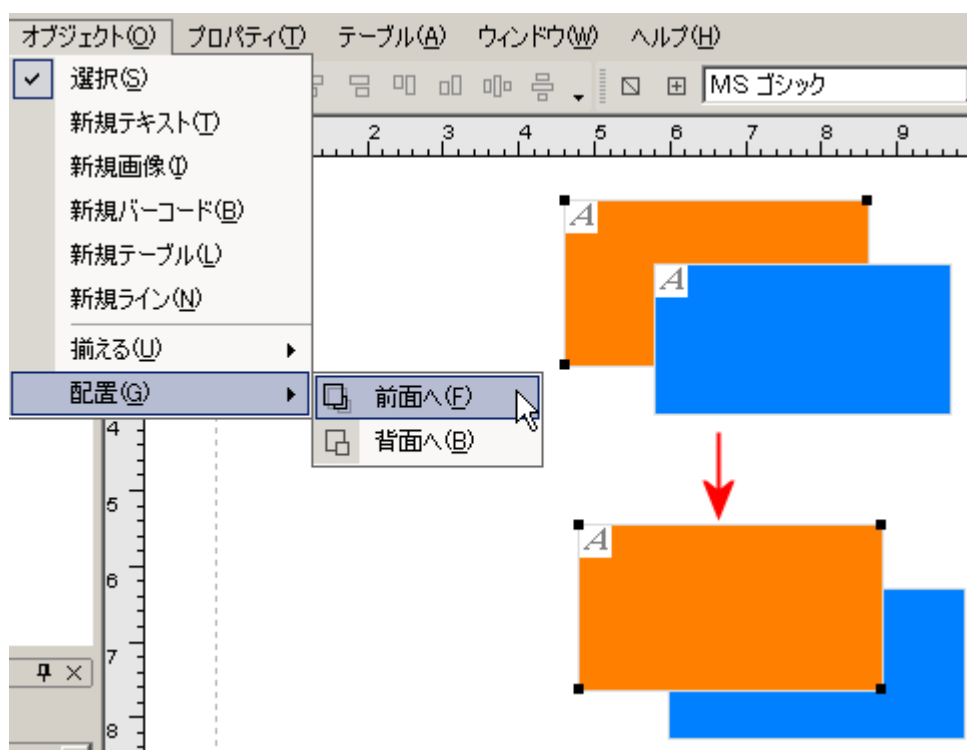
オブジェクト基準	整列	左・右・上・下	優先オブジェクトを基準に左・右・上・下に揃えます。
		水平均等配置・上下均等配置	選択されたオブジェクトを左右方向・上下方向に均等に配置します。
	サイズ	幅・高さ	選択したオブジェクトの幅・高さを優先オブジェクトに揃えます。
		両方	選択したオブジェクトのサイズ（幅と高さの両方）を優先オブジェクトに揃えます。
フレーム基準	左・右・上・下	フレームの左・右・上・下端に揃えます。	
	左右中央・上下中央	フレームの左右中央・上下中央に揃えます。	
マージン基準	左・右・上・下	左・右・上・下マージン位置に揃えます。	

	左右中央・上下中央	マージン内で左右中央・上下中央に揃えます。
用紙基準	左・右・上・下	用紙の左・右・上・下端に揃えます。
	左右中央・上下中央	用紙の左右中央・上下中央に揃えます。

オブジェクトの配置

オブジェクトの配置の入れ替えを行います。「フロー型」のフレーム内のオブジェクトの配置は、入れ替えられません。

[前面へ] で選択されているオブジェクトを前面に、[背面へ] で背面に配置します。



13.7 プロパティメニュー

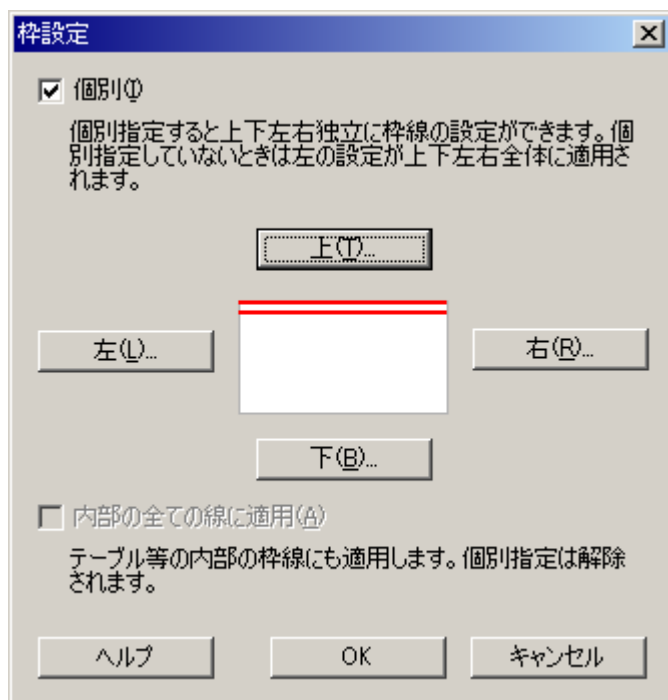
[プロパティ] メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
種別	データの種別を「フィールド」と「スタティック」から選択します。テキスト、画像、バーコードの場合、「フィールド」に設定すると、XMLパスで指定した要素の内容を取得します。
枠	[枠設定] ダイアログで、オブジェクトの周りの枠を設定します。
XMLパス	XMLデータのどの要素の内容を出力するかを指定します。「種別」プロパティが「フィールド」の場合に有効になります。
式	埋め込むデータを得るために、計算が必要な場合に、[式] ダイアログで、式を設定します。

フォント	[フォント] ダイアログで、[フォント名]、[スタイル]、[サイズ]、[文字飾り] を設定します。
文字色	[文字色] ダイアログで、文字色を設定します。
背景色	[背景色] ダイアログで、背景色を設定します。設定した背景色でオブジェクトの矩形領域が塗りつぶされます。
文字配置	オブジェクトの矩形領域の水平方向にどのように文字を配置するかを設定します。
行配置	オブジェクトの矩形領域の垂直方向にどのように文字を配置するかを設定します。
イメージ	オブジェクトの矩形領域内で、イメージをどのように配置するか、およびイメージファイルのパスを指定します。
下絵設定	画像として保存された定型帳票をレイアウトペインに下絵として表示することで、下絵に沿ってオブジェクトを配置することができます。 [下絵設定] ダイアログで設定します。
属性グループ	属性グループは、複数のプロパティをまとめて名前をつけたものです。 オブジェクトの属性式で、属性グループを使って複数のプロパティを一度に動的に変更することができます。 属性グループは、[属性グループ] ダイアログと、[属性グループ編集] ダイアログで編集できます。

〔枠設定〕 ダイアログ

オブジェクトの周りの枠を設定します。



■ 個別

チェックをつけない場合は、[左] ボタンを押すことにより、4 辺全てを同じ設定にすることができます。チェックをつけると、[左] [右] [上] [下] 全てのボタンが押せるようになり、それぞれの辺を個別に設定することができます。

- 内部の全ての線に適用
テーブルオブジェクトや、テーブル内部の構造 (header, row 等) の選択時にチェックをつけると、テーブル等内の全ての枠線に指定が適用されます。

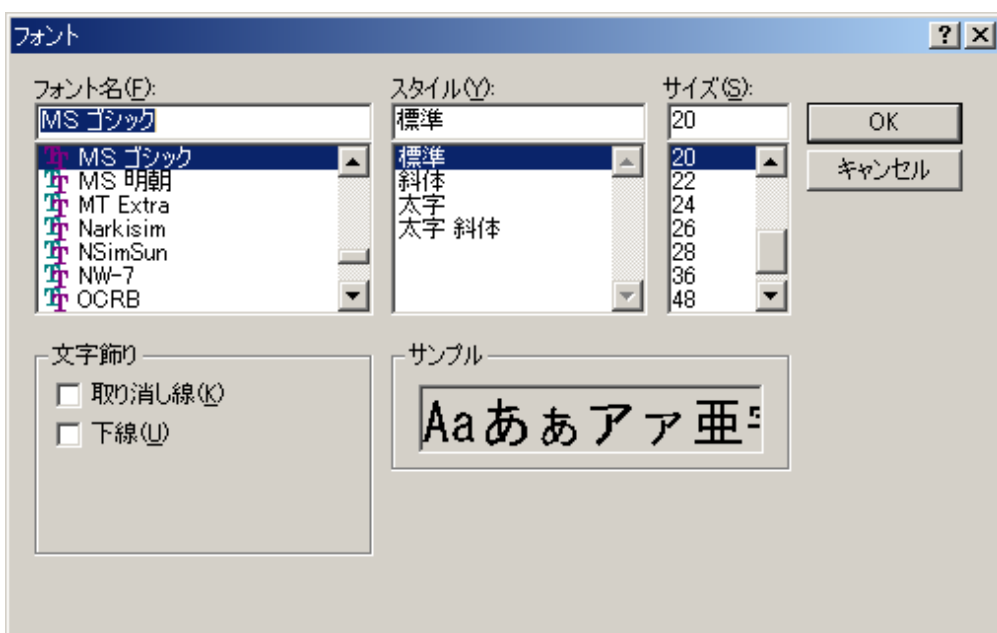
[枠飾り設定] ダイアログ

[左] [右] [上] [下] のボタンで、以下の [左] [右] [上] [下] の枠飾り設定用のダイアログが表示されます。



- スタイル
枠線の種類を、「なし」「点線」「ダッシュ」「線」「二重線」「溝」「隆起」「インセット」「アウトセット」から選択します。
- 幅
枠線の幅を設定します。幅の単位を、pt (ポイント)、mm (ミリメートル)、in (インチ) から選択できます。
- 色
枠線の色を設定します。

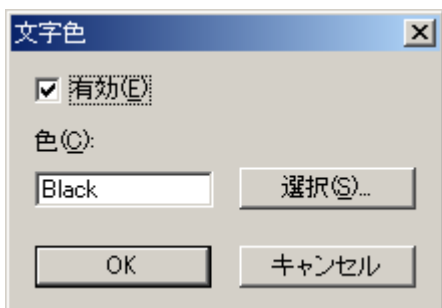
[フォント] ダイアログ



フォントに関する設定をします。

[文字色・背景色] ダイアログ

文字色は文字の色を設定します。背景色はブロックの背景色を設定します。ダイアログの操作方法は同じです。

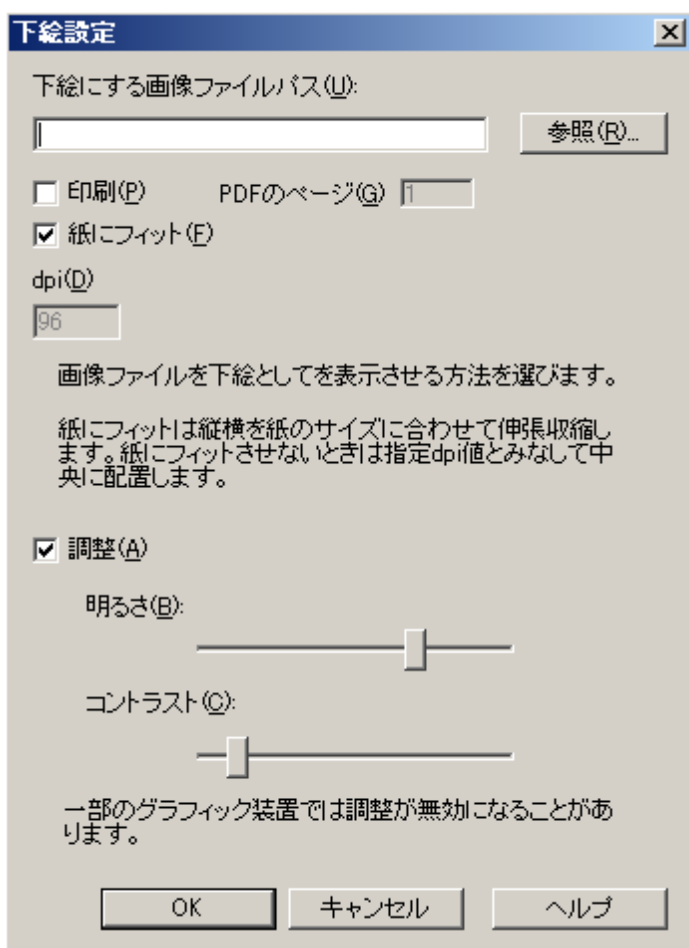


- 有効
既定値ではチェックが付いていません。チェックすると、色の設定が可能となります。
- 色
色の名前（Red, Yellow, Cyan, Magenta, Green, Blue, Black, White）または、RGB 値を 16 進数で（例#C0C0C0）入力します。
- 選択
色の設定を次の色の設定ダイアログを使って行います。



[下絵設定] ダイアログ

定型の帳票が画像で保存されていれば、それをレイアウトペインに下絵として表示してレイアウト設計に利用できます。下絵設定が使用できるのは、「固定型」のページオブジェクトのみになります。[オブジェクトツリー] ウィンドウで、ページオブジェクトを選択してから、下絵設定をしてください。



- 下絵にする画像ファイルパス
下絵の画像ファイルパスを設定します。[参照] ボタンを押して、Windows 上でフォルダを指定、ファイル一覧を表示して選択できます。
- 印刷
チェックを入れると、印刷・PDF 出力時に下絵を背景イメージとして出力します。
- PDF のページ
画像ファイルに PDF を指定したとき、下絵に使う PDF のページ番号を指定します。
- 紙にフィット
チェックをすると、下絵画像が用紙のサイズに伸縮して表示されます。
- dpi
下絵画像ファイルの dpi 値を設定します。[紙にフィット] にチェックが無い場合に有効です。
- 調整
チェックをすると、画像の [明るさ] と [コントラスト] を調整することができます。チェックしない場合は、元の画像のイメージで表示されます。

[属性グループ] ダイアログ



- [追加] ボタンを押すと、属性グループを追加できます。
- [削除] ボタンを押すと、属性グループを削除できます。
- [編集] ボタンを押すと、属性グループを編集できます。

〔属性グループ編集〕 ダイアログ

属性グループ編集

属性グループ名(M):
test

フォント(F)

フォント名(E):

文字スタイル(Y):

文字飾り(E):

フォントサイズ(S):
12.00pt

文字色(C):
文字色(L)

背景色(B):
背景色(G)

スケーリング(A):
枠と同じにする

クリッピング(N):
クリッピングする

文字配置(H):
なし

行配置(V):
なし

印刷制御(P):
印刷する

縦書き(R):
いいえ

最終行配置(O):
なし

先頭行インデント(I):
0.00pt

dpi(D):
96

OK キャンセル ヘルプ

プロパティについての詳しい説明は、「対応プロパティ一覧」 (206 ページ) をご参照ください。

13.8 テーブルメニュー

〔テーブル〕メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
列	選択された列に対して、左右側への列の挿入、列の切り取り、列の幅揃えを行います。
行	選択された行に対して、上下への列の挿入、行の切り取り、行の高さ揃えを行います。
キャプション	選択されたテーブルの前後にキャプションを挿入したり、キャプションを切り取ります。

ヘッダ	選択されたテーブルへ、テーブルヘッダを挿入またはテーブルヘッダを切り取ります。
フッタ	選択されたテーブルへ、テーブルフッタを挿入またはテーブルフッタを切り取ります。
設定	[テーブル設定] ダイアログを開いて、選択したテーブルのプロパティを設定します。
セルの結合	複数の連続したセルを結合し、1つのセルのようにする機能です。
セル結合の解除	セルの結合を解除して、元のように別々のセルにする機能です。

[テーブル設定] ダイアログ

テーブル設定タブ

テーブル設定 | カラム設定 | コントロールブレイク

テーブルの繰り返しパス(P):

参照(R)...

テーブル種別

固定(F)

可変(V)

キャプション

なし(N)

前(A)

後(B)

行数(R): 1

カラム数(C): 1

言語(L):

国(U):

ヘッダ(H)

フッタ(F)

まとめ設定

なし(E)

可変(L)

固定(F)

行数(R): 1

固定の時のまとめの行数を設定します

カラムのまとめを設定します
可変:カラムのデータが同じものをまとめます
固定:指定した行数毎にまとめます

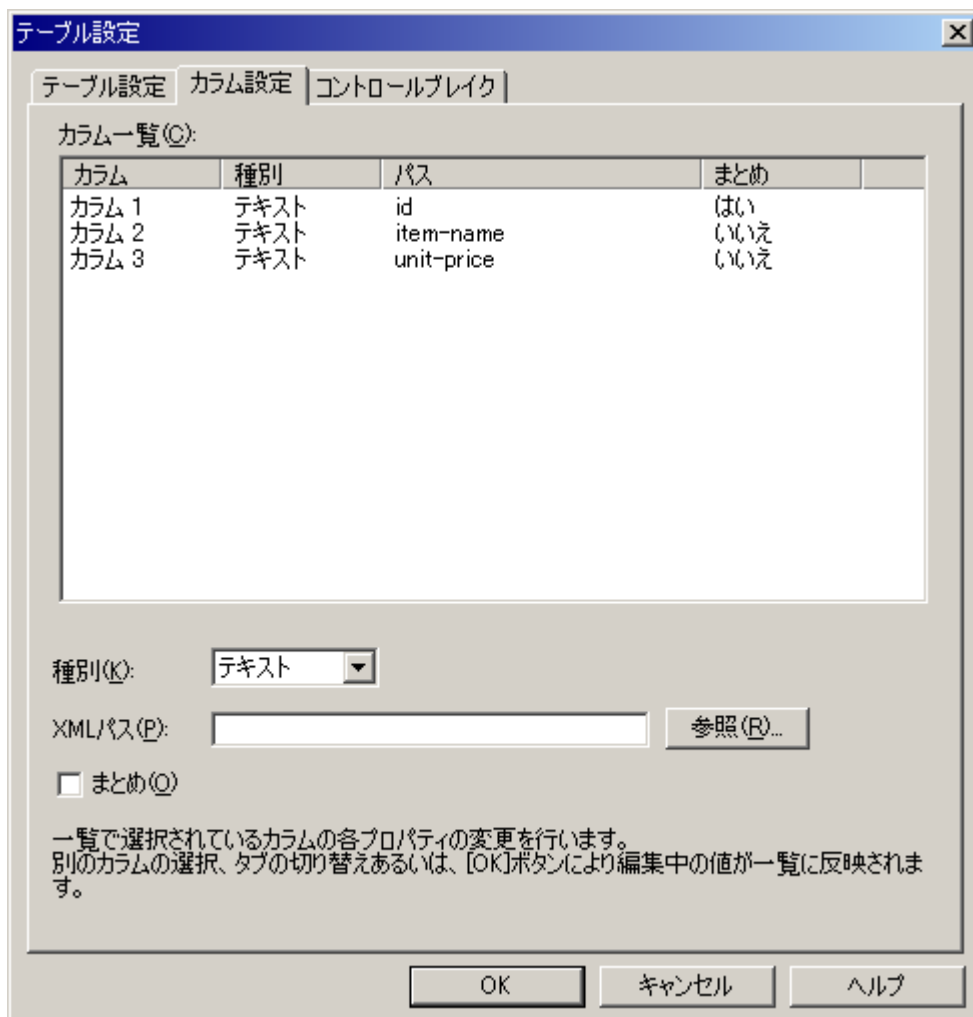
OK キャンセル ヘルプ

- テーブルの繰り返しパス
テーブル内で繰り返す要素への XML パスを指定します。[参照] で、[XML パス] ダイアログが表示されます。
- テーブル種別
[固定] テーブルは、テーブルの行数があらかじめ決まっている表です。

[可変] テーブルは、テーブルの行数が決まっておらず、データの量に応じて伸びていく表です。

- **キャプション**
表のキャプションを付ける、付けないを設定します。付ける場合、位置は前あるいは後に設定できます。
- **行数**
表の行数を設定します。
- **カラム数**
表のカラム数を設定します。
- **言語**
小計・中計・大計の集計結果のフォーマットを決定するのに使用される、言語情報を設定します。(ISO 639 に定義される「言語コード」に準拠します。)
- **国**
小計・中計・大計の集計結果の、フォーマットを決定するのに使用される、国情報を設定します。(ISO 3166 に定義される「国コード」に準拠します。)
- **ヘッダ・フッタ**
表にテーブルヘッダ・テーブルフッタを付ける、付けないを設定します。
- **まとめ設定**
テーブル内で、まとめ機能を使うかどうかを設定します。[なし] は、まとめを行いません。[可変] は、列内で連続するセルに同じデータが出現する場合に、それらをまとめてセル結合します。[固定] は、[行数] で指定した行数でまとめます (セル結合はされず指定された行ごとに区切り線が引かれます)。なお、この指定はコントロールブレイクの設定が行われていない場合にのみ有効となります。

カラム設定タブ



カラム設定では、各カラムのオブジェクト型（カラム種別）およびカラムに出力したい要素のXMLパスを設定することができます。カラム一覧で設定したい [カラム] 番号を選択して、下にある [種別] で設定したいオブジェクトをコンボボックスから選択し、[XMLパス] にXMLパスを設定します。ここで設定するXMLパスは、テーブルの繰り返しパスからの相対パスを指定してください。

- カラム一覧
列のプロパティとして追加された、「まとめ」の状態が表示されます。
- 種別
カラムに設定するオブジェクトの種別を指定します。
- XMLパス
そのカラムのセルに出力する要素へのXMLパスを、テーブルの繰り返しパスからの相対パスで指定します。[参照] で、[XMLパス] ダイアログが表示されます。
- まとめ
各列ごとにまとめの有無を設定します。このチェックボックスは、テーブルプロパティの「まとめ設定」が可変または固定に指定されている場合のみ有効となります。

コントロールブレイクタブ

「コントロールブレイク」は、指定されたブレイクキーで集計を行う機能です。

- 設定レベル
コントロールブレイクの各設定を行う、レベル（[小計] [中計] [大計]）を選択します。
- ブレイク
ブレイクを行うかどうかを設定します。[集計カラム] で、集計を行うカラムを指定します。集計結果もこのカラムに出力されます。（これはテーブルのプロパティになります。） [ブレイク判定カラム] で、ブレイクを判定するためのカラム番号を設定します。このカラムの値に変化があると、ブレイク処理が行われます。ブレイク時に改ページを行う場合は、 [改ページ] をチェックします。
- 背景色
集計行の背景色を設定します。
- フォント
集計行のフォントを指定します。
- 集計タイトル
集計行に出力する、タイトルを設定します。 [カラム] には、タイトルを、どの列（何カラム目）に出力するかを設定します。

- フォーマット
集計結果の数字のフォーマットを設定します。

13.9 ウィンドウメニュー

【ウィンドウ】メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
重ねて表示	レイアウトペインのウィンドウを重ねて表示します。
並べて表示	レイアウトペインのウィンドウを並べて表示します。
アイコンの整列	ウィンドウの下部にアイコン化したレイアウトペインを整列します。

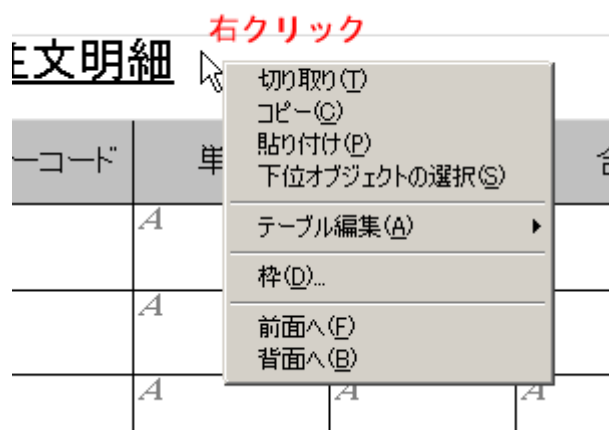
13.10 ヘルプメニュー

【ヘルプ】メニューには以下の機能があります。

メニュー	説明
オンラインマニュアル	製品のマニュアルを表示します。
アンテナハウス Web サイト	アンテナハウスの Web サイトへアクセスします。
XSL Report Designer について	プログラムのバージョンおよび著作権を表示します。

14 コンテキストメニュー

コンテキストメニューとは、レイアウト領域で右クリックした場合に表示される、ポップアップメニューです。



メニューの構成は、右クリックされた時の状態により変化しますが、メニューの項目は、全てメインメニューに存在しますので、詳しくは該当するメインメニューの項を参照ください。

[コンテキストメニュー一覧](#)

- 切り取り
- コピー
- 貼り付け
- 下位オブジェクトの選択（メインメニューの場合とは異なり、ダイアログボックスは表示されず、常にテキスト、イメージ、バーコード全てのオブジェクトが選択の対象となります）。
- テーブル
- 枠
- 前面へ（配置）
- 背面へ（配置）

15 ドッキングウィンドウ

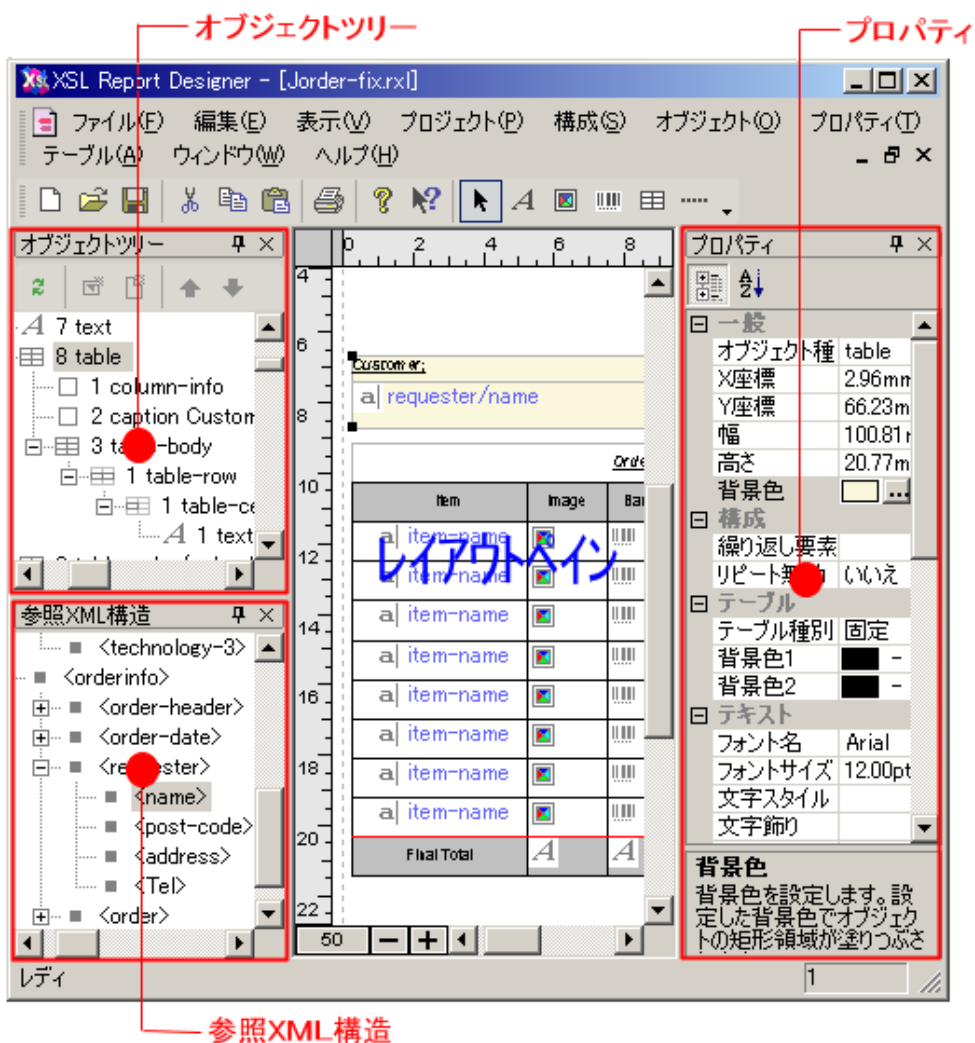
初期画面では、編集するドキュメント用のウィンドウ（「レイアウトペイン」）の周りに、3つのドッキングウィンドウ（オブジェクトツリー・参照 XML 構造・プロパティ）が表示されます。

それぞれのウィンドウは、マウスを使って自由に移動・サイズを変更したりできますので、必要な情報を見易い位置に表示することでレイアウト設計がやり易くなります。

以下では、ドッキングウィンドウを非表示にしたり、位置やサイズを変更したりする方法を説明します。

15.1 初期状態

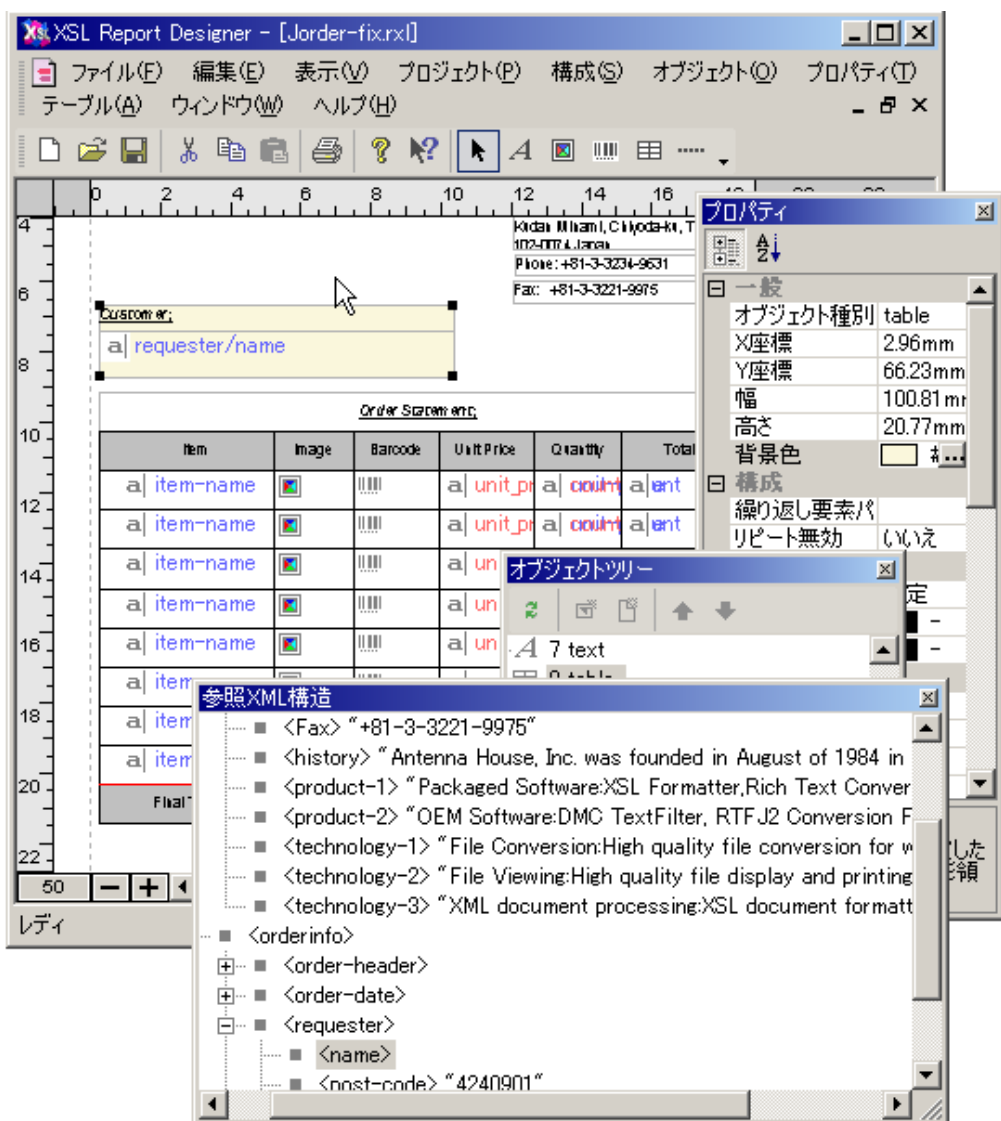
初期状態ではレイアウトペインに接して、固定されたドッキングウィンドウが表示されます。



ドッキングウィンドウはウィンドウの位置が制御できなくなることがあります。このときは初期状態に戻してください。ドッキングウィンドウを初期状態に戻すには、[環境設定] ダイアログの、[その他] タブ内の [ウィンドウレイアウトの保存] のチェックをはずして、XSL Report Designer を再起動してください。


15.2 フローティング状態

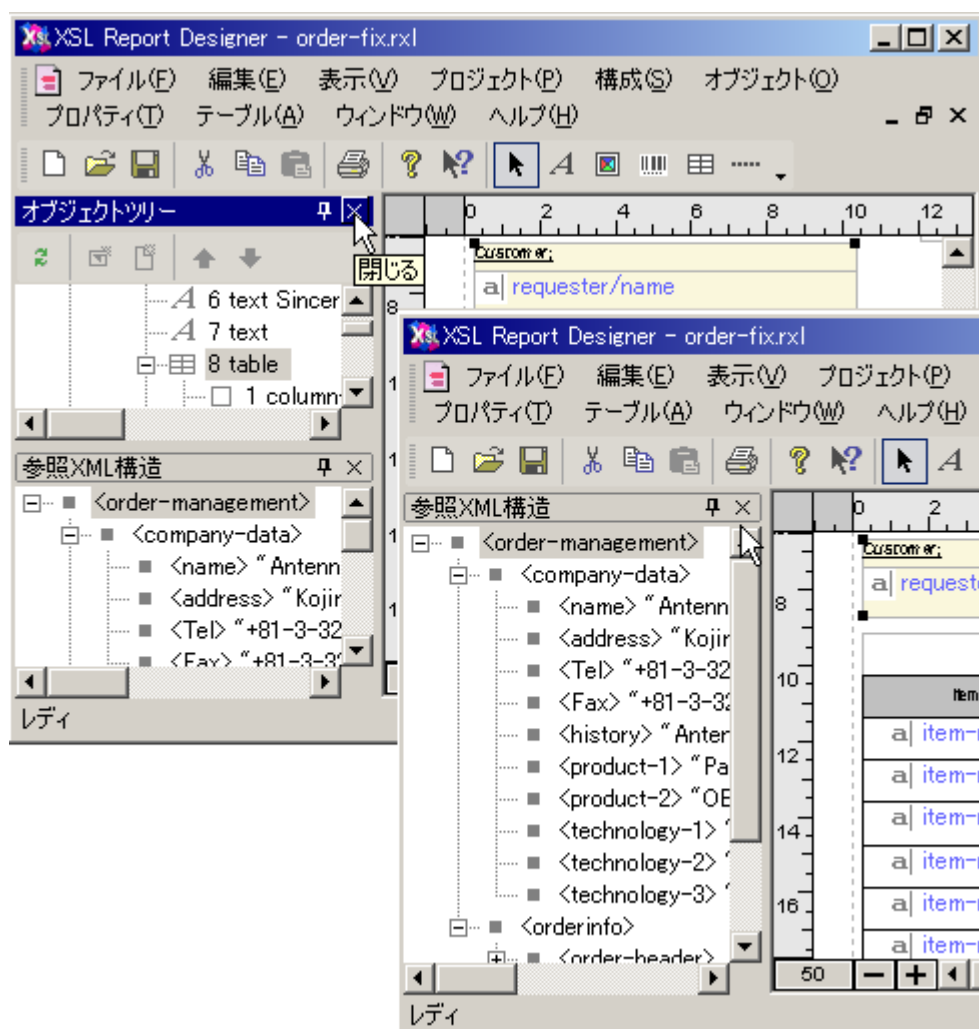
ドッキングウィンドウがフローティング状態にあると、タイトルバーとともにスクリーン上の他のウィンドウの上に表示されます。



15.3 ウィンドウの表示・非表示

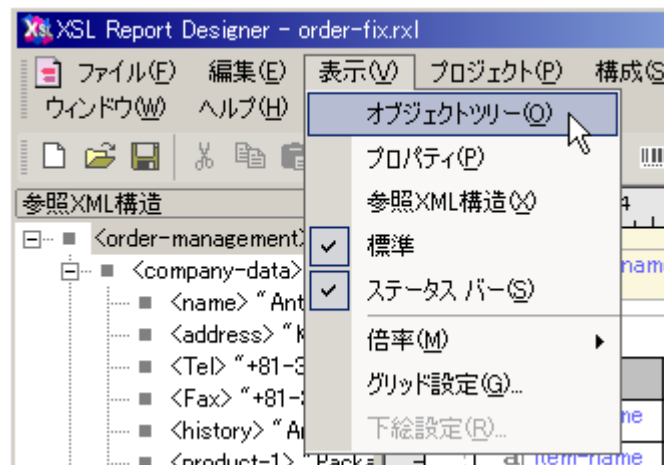
ウィンドウを非表示にする

ウィンドウを表示しないようにするには、各ドッキングウィンドウのタイトルバーの  ボタンをクリックしてください。



ウィンドウを表示する

再びウィンドウを表示するには、[表示] メニュー内で、各ドッキングウィンドウを選択します。



15.4 ウィンドウの配置

ドッキングウィンドウではマウスを使って、以下の操作が自由にできます。ご自分の環境や好みに併せてご利用ください。

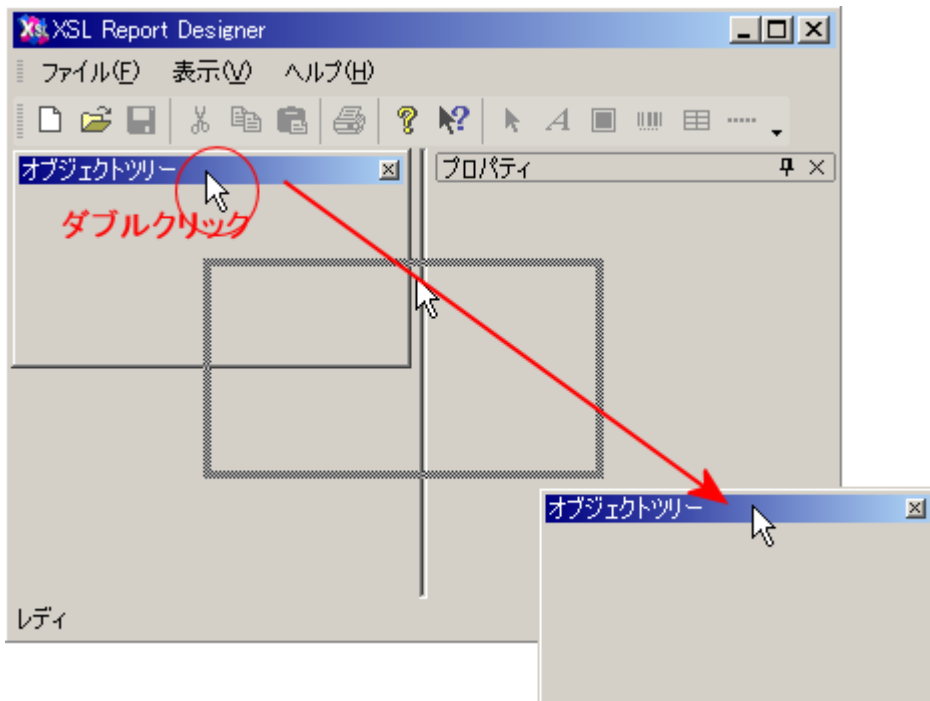
- フローティングウィンドウにする
- ウィンドウのサイズや配置を変更する
- 他のウィンドウとドッキングする
- ウィンドウを自動非表示する

以下、ドッキングウィンドウ部分のみを表示した画面サンプルで、使い方を説明します。

フローティングウィンドウにする

ウィンドウのタイトルバーをダブルクリックすると、固定されていたウィンドウが、フローティング状態になります。フローティングウィンドウは、マウスでドラッグして使いやすい位置に置くことができます。

フローティング状態を解除するには、タイトルバーをダブルクリックをするか、フローティング状態のウィンドウを元の位置にドラッグします。

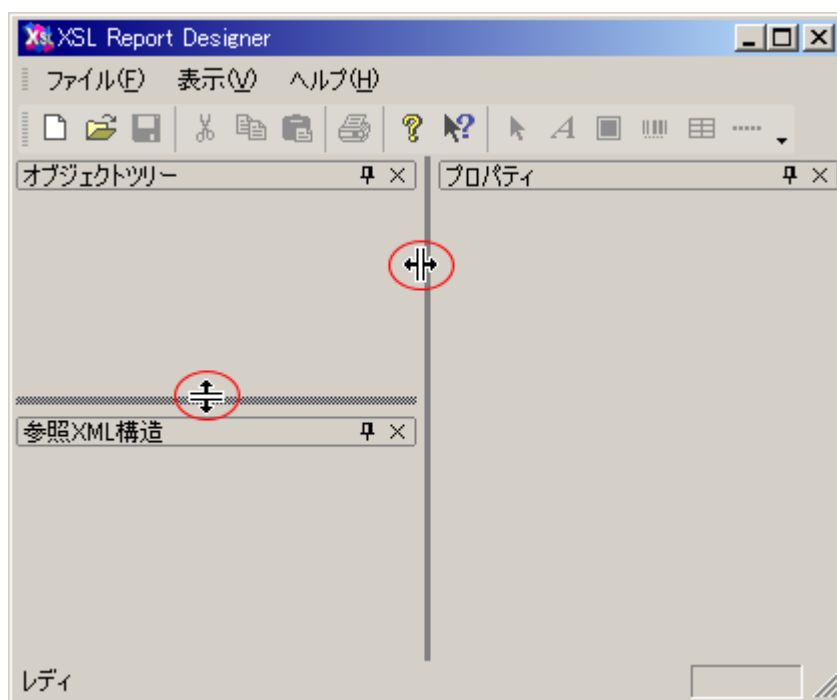


フローティングウィンドウを、ほかのウィンドウとドッキングせずに任意の場所に移動するには、[Ctrl] キーを押しながらウィンドウをドラッグします。

ウィンドウのサイズや配置を変更する

サイズを変更する

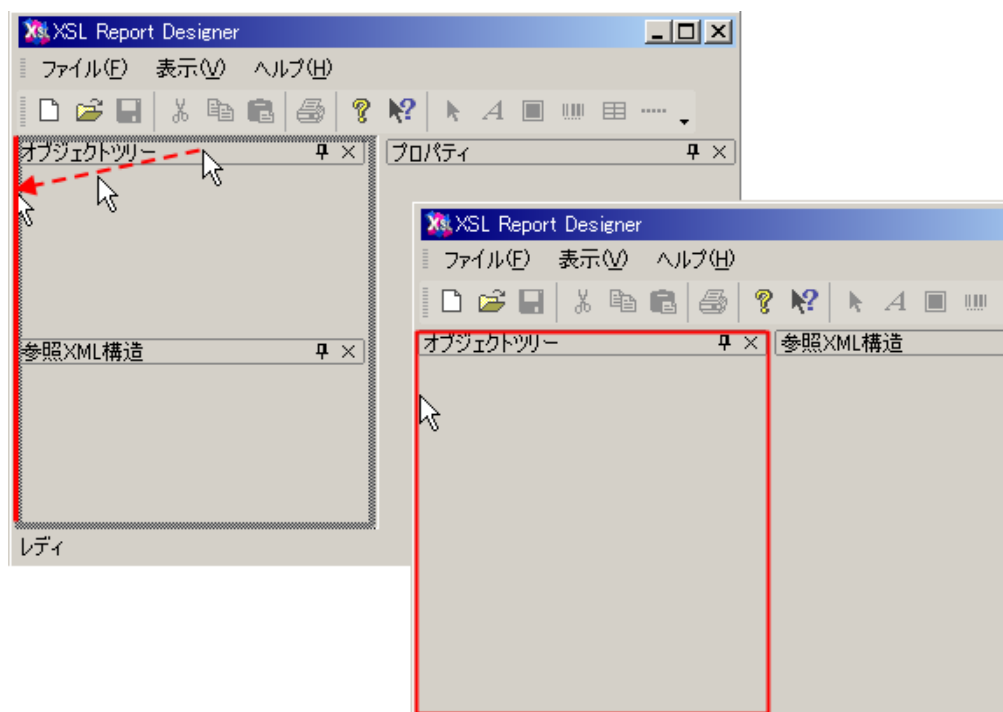
ウィンドウの境界線をドラッグすることにより、サイズを変更できます。



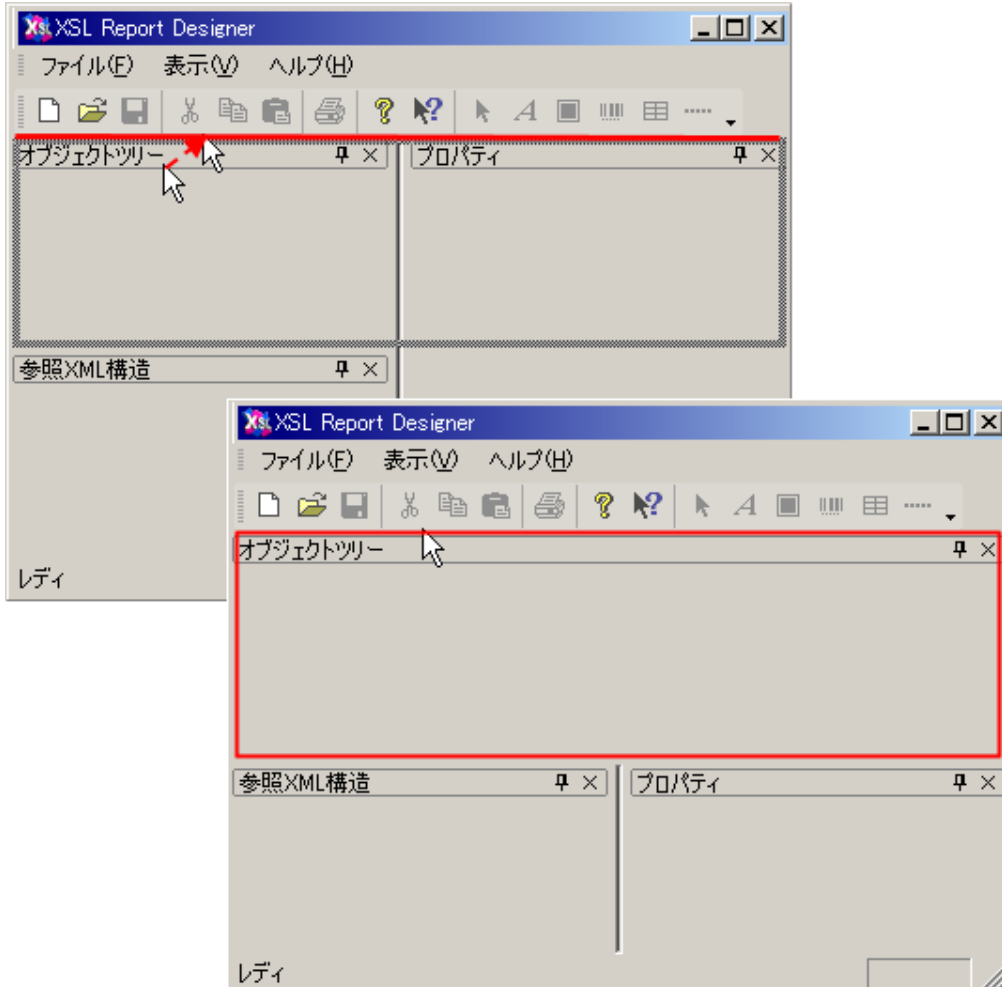
配置を変更する

ドッキングウィンドウの配置を変更するには、配置を変更したいウィンドウを、XSL Report Designer ウィンドウの端の必要な位置に、ドラッグします。アウトラインが重なって表示され、その位置にウィンドウが配置されます。

たとえば、[オブジェクトツリー] ウィンドウを左端に表示させるには、[オブジェクトツリー] ウィンドウをクリックし、左端の XSL Report Designer の境界線までドラッグします。



上端に表示させる場合は、上端の境界線までドラッグします。

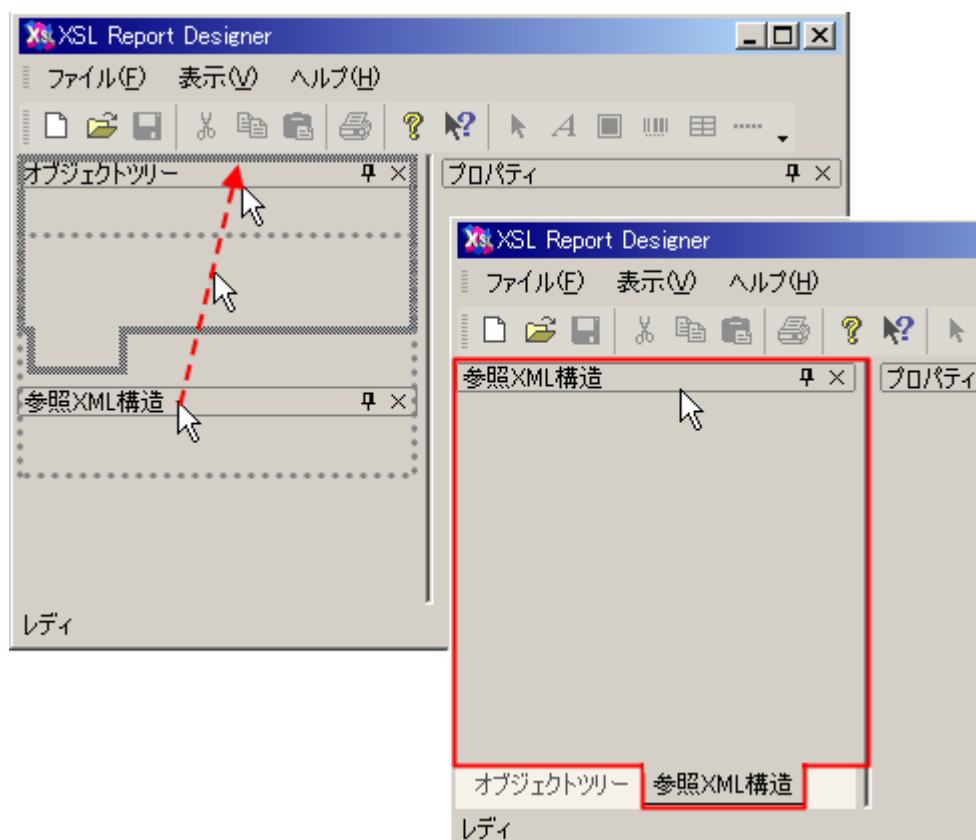


ドッキングウィンドウのドラッグ

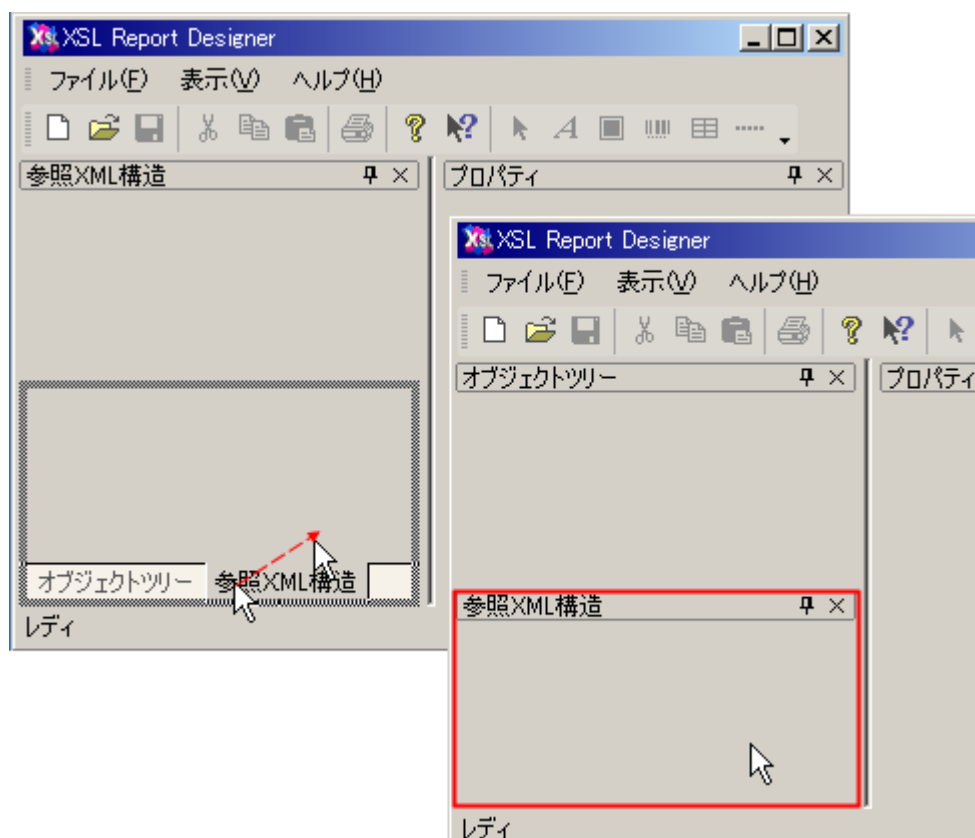
- ドッキング可能なウィンドウを、ほかの場所に固定せずに任意の場所に移動するには、[Ctrl] キーを押しながらウィンドウをドラッグします。
- ウィンドウの位置はマウスポインタの位置によって決まります。ウィンドウの端の位置が新しい位置の基準となることはありません。

他のウィンドウとドッキングする

ドッキングウィンドウのタイトルバーを、他のドッキングウィンドウのタイトルバーに重ねると、ウィンドウ同士がドッキングされます。このようにしてドッキングされたウィンドウは、タブで表示を切り替えることができます。




ドッキングされた複数ウィンドウを切り離すには、タブ部分をダブルクリックするかドラッグします。

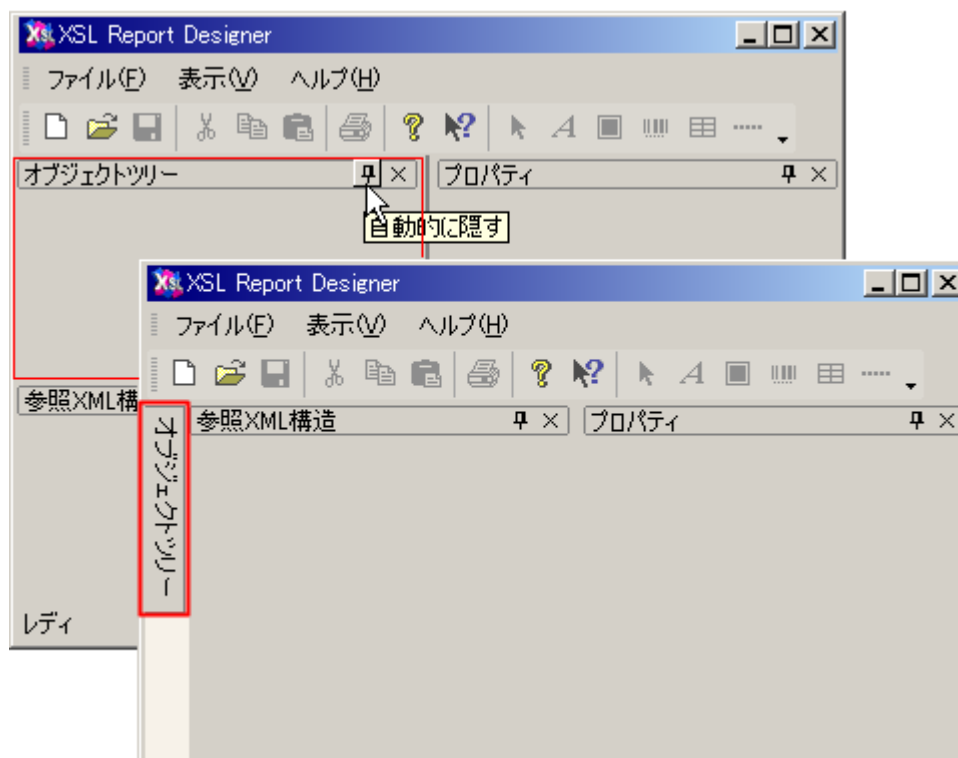


ウィンドウを自動非表示する

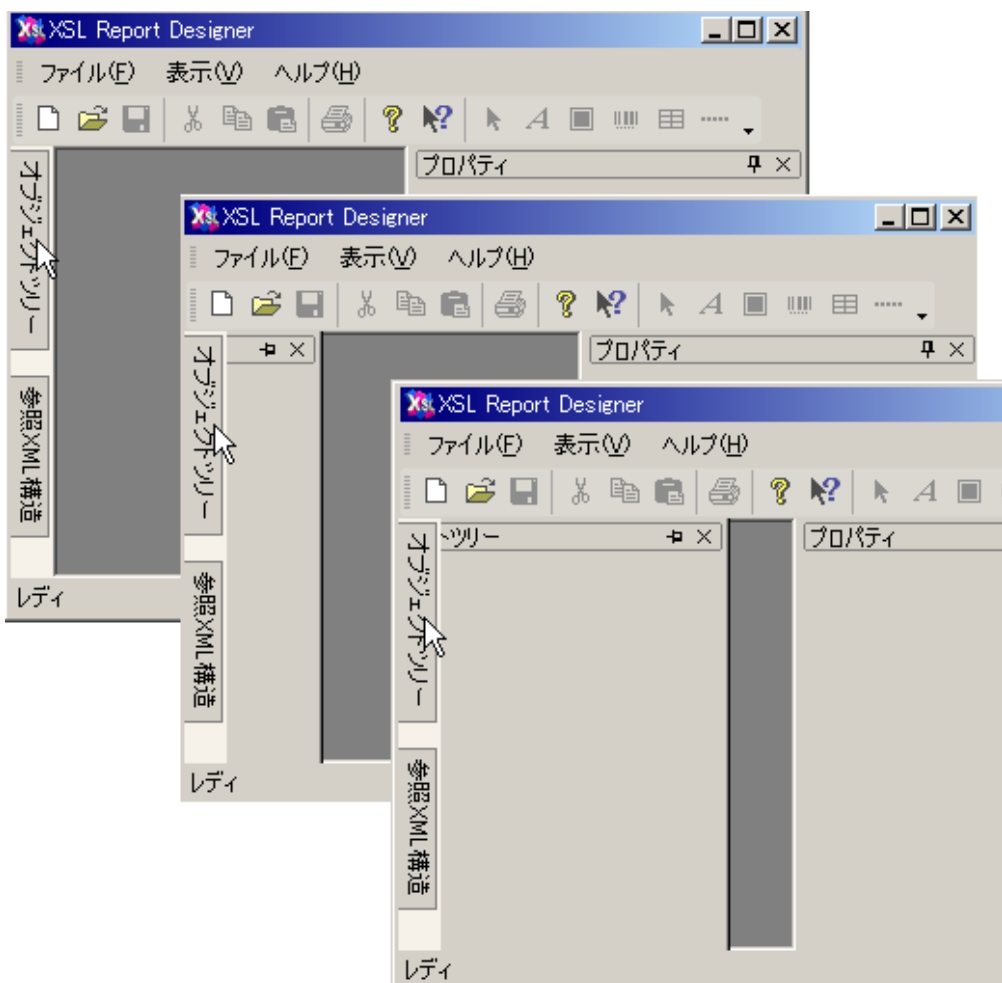
すべてのドッキングウィンドウは、自動非表示の機能をサポートしています。自動非表示を使用すると、ドッキングウィンドウは最小化（タブ化）され、カーソルを重ねたときだけ表示される状態になるので、より広いレイアウトペインで文書が編集できます。

自動非表示を有効にする

ウィンドウを自動非表示にするには、ウィンドウのタイトルバーのプッシュピンアイコン  をクリックします。ウィンドウは最小化（タブ化）されます。



自動非表示が有効な場合、ウィンドウの名前とアイコンが、タブに表示されます。自動非表示のウィンドウを開くには、タブの上にカーソルを移動します。タブからウィンドウが開き、使用できる状態になります。



ウィンドウを再び非表示にするには、他のウィンドウを選択するなど、そのウィンドウからフォーカスをおとすしてください。

自動非表示を無効にする

自動非表示を無効に（解除）するには、ウィンドウのタイトルバーのプッシュピンアイコン



をクリックしてください。

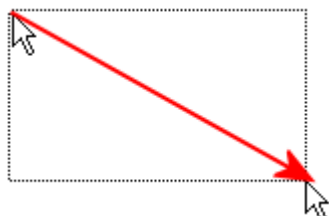
16 レイアウトペインでのオブジェクト編集操作

レイアウトペインでは、マウスやキーボードで、テキスト・画像・バーコード・テーブル・ラインの各オブジェクトの編集操作ができます。編集操作としてはオブジェクトを作成・選択・切り取り・コピー・貼り付け・移動・削除・サイズ変更・テキスト編集があります。移動やサイズ変更などの操作した結果の設定値は、各オブジェクトのプロパティ設定に反映されます。

16.1 一般

オブジェクトの作成

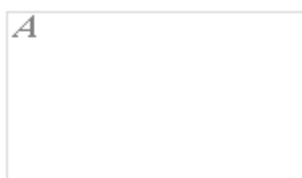
オブジェクトの作成は、[オブジェクト] メニューでオブジェクトを選択し、レイアウトペイン内で、オブジェクトを配置したい位置で、マウスをクリックし、マウスの左ボタンを押したまま、マウスをドラッグします。領域が期待する大きさになったら左ボタンを離します。



オブジェクトの選択

オブジェクトは、オブジェクトを示す矩形領域の内部をクリックすることにより選択を行います。選択されたオブジェクトの四隅にはそれを現す、四角いマークが表示されます。

オブジェクトが選択されていない状態



オブジェクトが選択されている状態



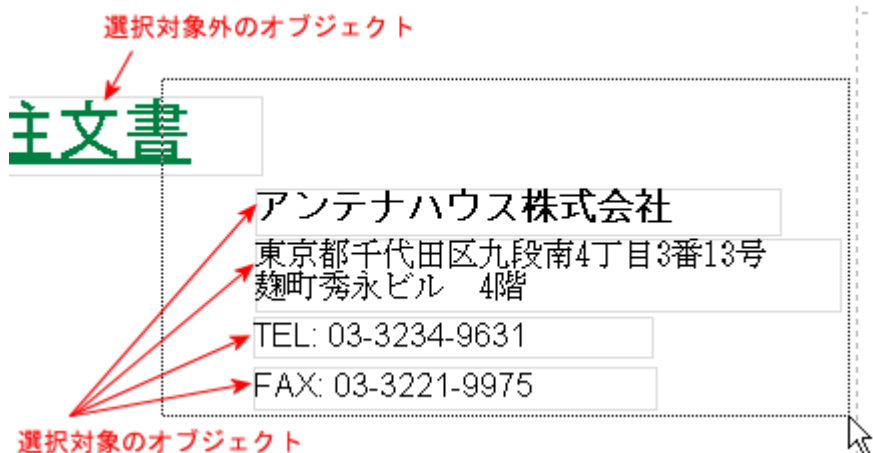
複数オブジェクトの選択

[Shift]キーを押したままオブジェクトをクリックすることにより、複数のオブジェクトの選択を行います。



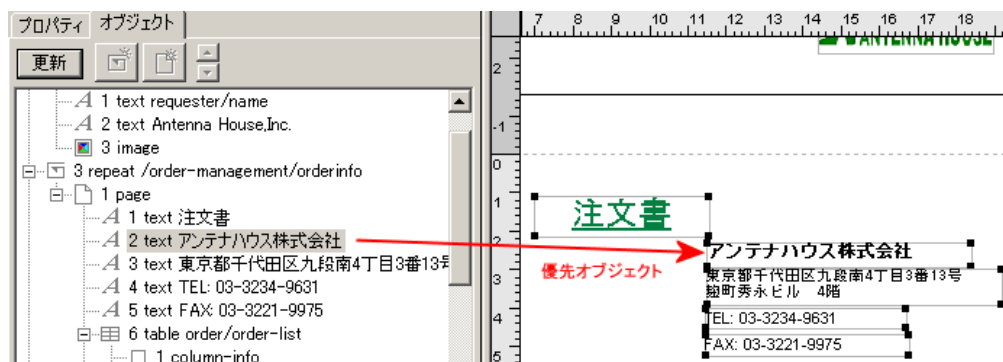
[オブジェクト] メニューの [選択] を選んだ状態で、レイアウトペインの任意の範囲をマウスでドラッグすることにより、その範囲内にあるオブジェクトの選択を行うことができます。なお、選

択されるオブジェクトは、ドラッグの範囲内に、自身の領域のすべてが含まれているオブジェクトのみで、ドラッグの範囲から少しでもはみ出したオブジェクトは選択されません。



優先オブジェクト

複数のオブジェクトを選択した場合、[オブジェクトツリー] ウィンドウで反転しているオブジェクトが、優先オブジェクトになります。優先オブジェクトは、[揃え] や [フォント] の設定などで、基準のオブジェクトとして使うことができます。一般的には、最後に選択したオブジェクトが優先オブジェクトになります。特定のオブジェクトを優先対象にしたい場合は、レイアウトペインで、オブジェクトの選択を一旦解除し、優先したいオブジェクトを選択しなおしてください。複数のオブジェクトを選択中に1つのオブジェクトだけを選択解除したい場合は、[Ctrl]キーを押しながらマウスでオブジェクトを選択してください。



オブジェクトの切り取り

切り取りたいオブジェクトを選択し、[編集] メニューの [切り取り] を指定します。または右クリックによるコンテキストメニューから [切り取り] を指定します。

オブジェクトのコピー

コピーしたいオブジェクトを選択し、[編集] メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューから [コピー] を指定します。

オブジェクトの貼り付け

貼り付けたいオブジェクトを選択し、[編集] メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューから [貼り付け] を指定します。

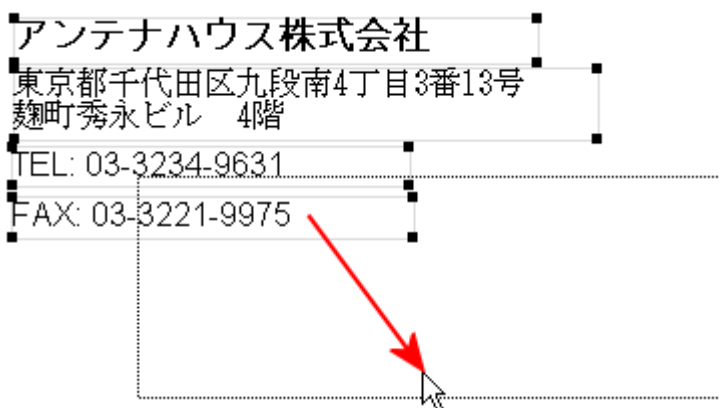
オブジェクトの移動

オブジェクト領域の内部をクリックし、オブジェクトを選択した状態で、そのままマウスをドラッグすることにより、オブジェクトの移動を行います。



複数オブジェクトの移動

複数のオブジェクトの選択を行い、選択されたオブジェクトの一つをドラッグすることにより移動を行います。



オブジェクトの消去

消去したいオブジェクトを選択し、[編集]メニューの[消去]を指定します。

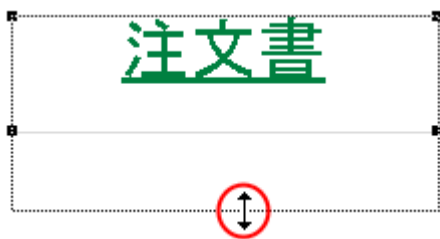
オブジェクトのサイズ変更

オブジェクトの四隅または境界線をドラッグすることによりサイズ変更を行います。



境界線をドラッグすると、水平方向または垂直方向のみにサイズ変更を行います。





オブジェクトの移動およびサイズ変更の中止

オブジェクトの移動やサイズ変更を行うために、マウスをドラッグしている途中で、[Esc]キーを押すことにより、その処理をキャンセルできます。

オブジェクトの編集

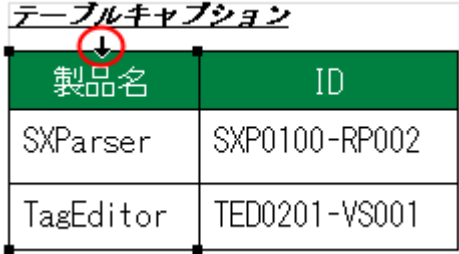
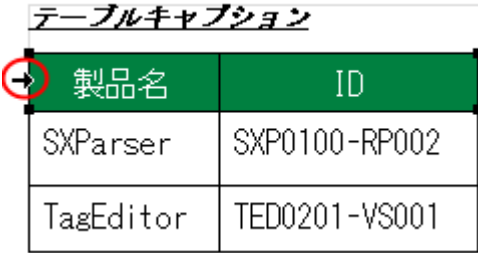
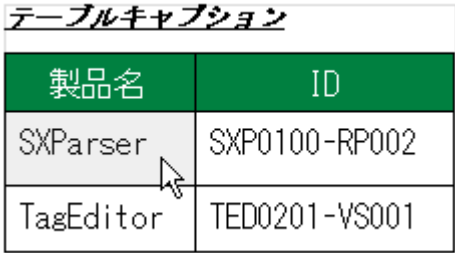
オブジェクトをダブルクリックすることにより、オブジェクトの編集モードに移行します。現在オブジェクトの編集モードを持っているのは、テキストオブジェクトのみです。



16.2 テーブル

テーブルの各オブジェクトの選択

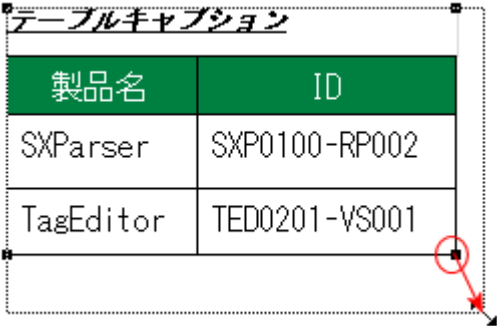
テーブル	<p>テーブル内の列や行の境界線以外の部分をクリックします。</p> <table border="1" data-bbox="253 1226 720 1497"> <thead> <tr> <th colspan="2">テーブルキャプション</th> </tr> <tr> <th>製品名</th> <th>ID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SXParser</td> <td>SXP0100-RP002</td> </tr> <tr> <td>TagEditor</td> <td>TED0201-VS001</td> </tr> </tbody> </table>	テーブルキャプション		製品名	ID	SXParser	SXP0100-RP002	TagEditor	TED0201-VS001
テーブルキャプション									
製品名	ID								
SXParser	SXP0100-RP002								
TagEditor	TED0201-VS001								
テーブルボディ、テーブルヘッダ、テーブル	<p>マウスによる選択はできません。[オブジェクトツリー] ウィンドウ内の、オブジェクトツリーで選択します。</p>								

フッタ							
列	<p>テーブルのトッパバー（境界線）をクリックすることによりクリックした位置の列の選択を行います。ただし、上キャプションがある場合には、キャプションの下バーをクリックして列選択を行います。</p> <p>テーブルキャプション</p>  <table border="1" data-bbox="248 336 705 587"> <thead> <tr> <th>製品名</th> <th>ID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SXParser</td> <td>SXP0100-RP002</td> </tr> <tr> <td>TagEditor</td> <td>TED0201-VS001</td> </tr> </tbody> </table> <p>複数の列を選択する場合は、[Shift]キーを押しながらかクリックしてください。</p>	製品名	ID	SXParser	SXP0100-RP002	TagEditor	TED0201-VS001
製品名	ID						
SXParser	SXP0100-RP002						
TagEditor	TED0201-VS001						
行およびキャプション	<p>テーブルのレフトバーをクリックすることにより、クリックした位置の行またはキャプションの選択を行います。</p> <p>テーブルキャプション</p>  <table border="1" data-bbox="234 749 710 1000"> <thead> <tr> <th>製品名</th> <th>ID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SXParser</td> <td>SXP0100-RP002</td> </tr> <tr> <td>TagEditor</td> <td>TED0201-VS001</td> </tr> </tbody> </table>	製品名	ID	SXParser	SXP0100-RP002	TagEditor	TED0201-VS001
製品名	ID						
SXParser	SXP0100-RP002						
TagEditor	TED0201-VS001						
セル	<p>テーブルが選択された状態で、セルをクリックするとそのセルが選択されかつ、セル選択モードになります。セルが選択された場合には、選択されたセル全体が反転表示されます。</p> <p>テーブルキャプション</p>  <table border="1" data-bbox="248 1116 701 1367"> <thead> <tr> <th>製品名</th> <th>ID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SXParser</td> <td>SXP0100-RP002</td> </tr> <tr> <td>TagEditor</td> <td>TED0201-VS001</td> </tr> </tbody> </table> <p>セル選択モードから抜けるには、そのセルが含まれるテーブルの範囲外をクリックしてください。</p> <p>複数セルの選択</p> <p>あるセル（開始セル）を選択した後に、[Shift]キーを押しながらか別のセル（終了セル）をクリックすると 開始セルから終了セルまでの矩形範囲内のセルが全て選択されます。</p>	製品名	ID	SXParser	SXP0100-RP002	TagEditor	TED0201-VS001
製品名	ID						
SXParser	SXP0100-RP002						
TagEditor	TED0201-VS001						

テーブルキャプション	
製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

また、セル選択モード時に、[Ctrl]キーを押しながら別のセルを選択すると、そのセルを追加選択することができます。

テーブルの各オブジェクトのサイズ変更

<p>テーブル</p>	<p>テーブルの境界の四隅をドラッグすることによりサイズの変更を行います。テーブルのサイズを変更すると、その内部の列幅や行高は、等倍率で拡大縮小されます。</p>  <p>なお、境界線は他の目的に使用されるため、基本的には境界線を使ってテーブル全体のサイズの変更はできません。</p>
<p>テーブルボディ、 テーブルヘッダ、 テーブルフッタ</p>	<p>テーブルボディ、テーブルヘッダ、テーブルフッタのオブジェクトのサイズは、その中にあるオブジェクトのサイズに依存するため、テーブルボディ、テーブルヘッダ、テーブルフッタに対してサイズを変更することはできません。</p>
<p>列 column</p>	<p>列の境界線をドラッグすることにより列幅の変更を行います。列幅を変更すると、その右隣の列幅も変わるようになります。つまり、テーブルサイズ自体は変化しません。</p>

テーブルキャプション

製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

テーブルキャプション

製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

テーブルキャプション

製品名	ID
SXParser	SXP0100-R ~~~~~
TagEditor	TED0201-V ~~~~~

ただし、最右列の列幅を変更した場合には、テーブルサイズも変更されます。

テーブルキャプション

製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

テーブルキャプション

製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

また、[Shift]キーを押しながらドラッグすると、右隣の列幅は変わらず、自身の列幅のみの変更となります。この場合は、テーブルサイズも変更されません。

行

行の境界線をドラッグすることにより行高の変更を行います。行高を変更すると、他の行の行高は変わらないので、テーブルのサイズも変わることになります。

■テーブルキャプション■

製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

■テーブルキャプション■

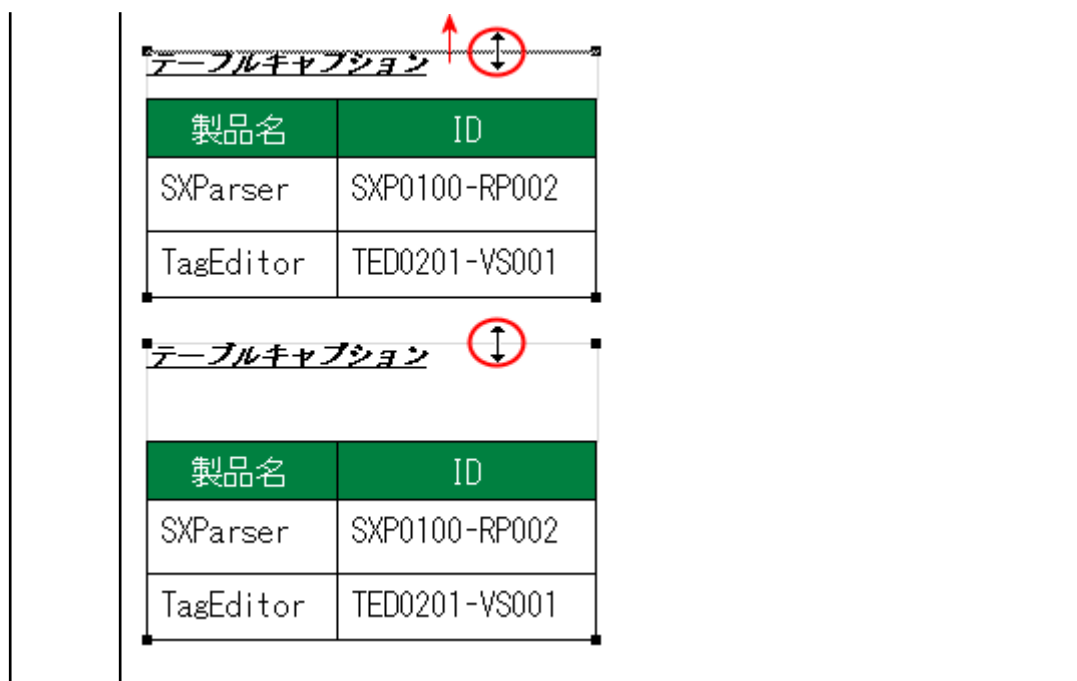
製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

■テーブルキャプション■

製品名	ID
SXParser	SXP0100-RP002
TagEditor	TED0201-VS001

また、[Shift]キーを押しながらドラッグすると、テーブルのサイズは変わらず、代わりに直下の行高も変更されます。

なお、上キャプションの高さを変更する場合には、トッパーをドラッグしてください。



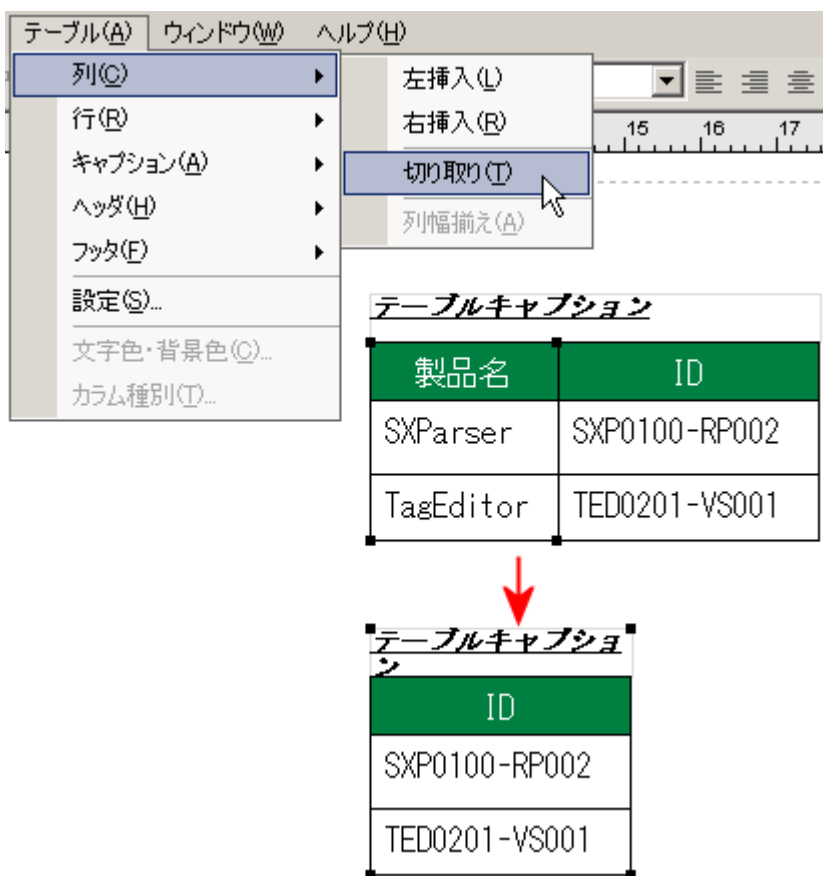
セル内オブジェクトの選択・編集

セルをダブルクリックすることにより、セル内のオブジェクトを選択または編集することができます。テキストの場合は編集、画像およびバーコードの場合は、選択モードに移行します。

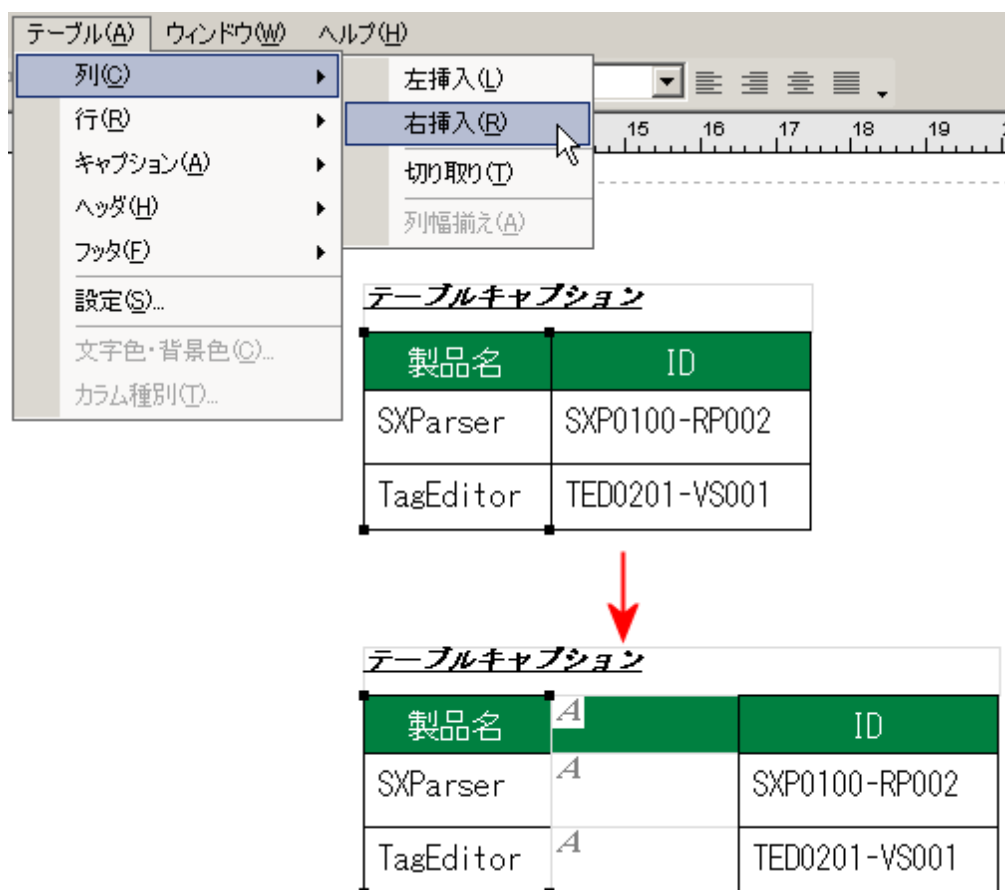


列を削除・追加する

削除したい列を選択し、[テーブル] メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューの「テーブル」から、列の「切り取り」を指定します。

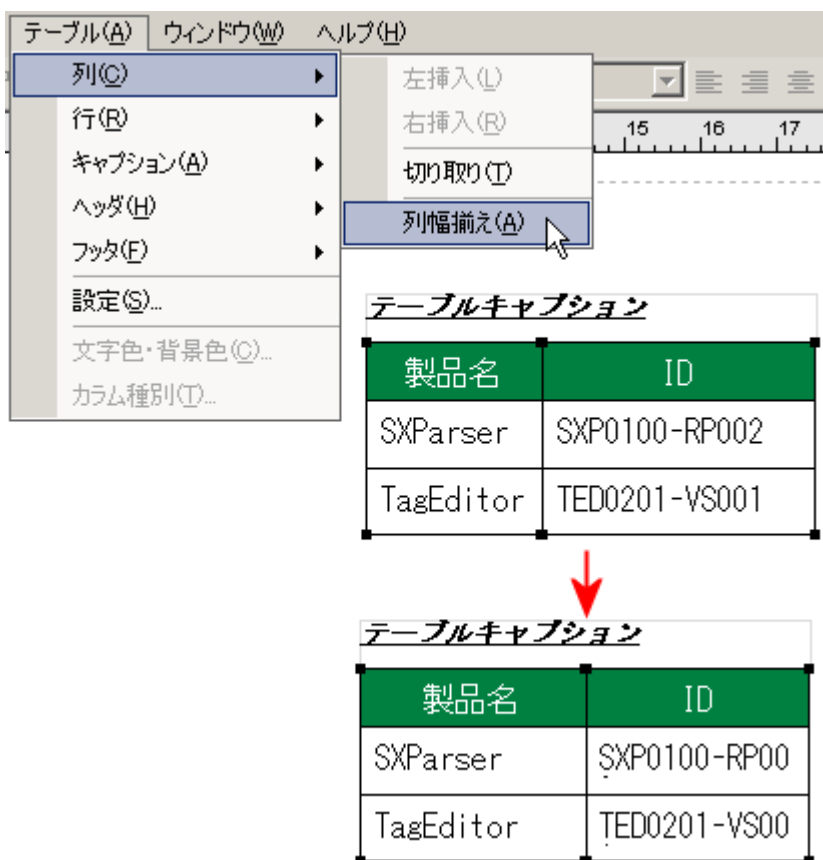


また、列を選択し、「右挿入」で選択した列の右に、「左挿入」で選択した列の左に、列が追加できます。



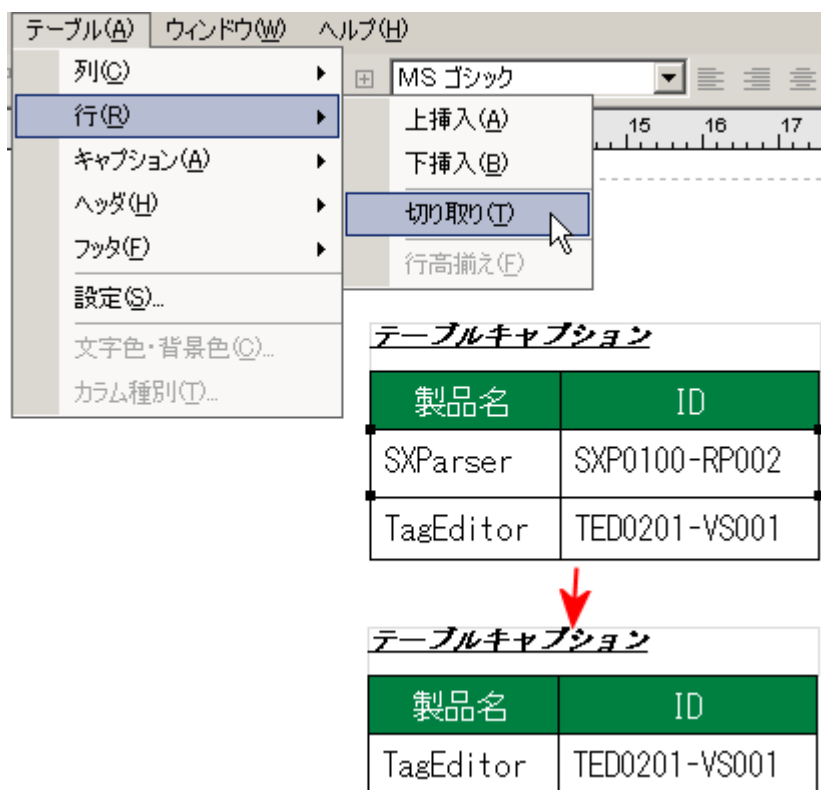
列の幅を揃える

幅を揃えたい列を複数選択し、[テーブル]メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューの「テーブル」で、「列幅揃え」を選択します。



行を削除・追加する

削除したい行を選択し、[テーブル]メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューの「テーブル」で、行の「切り取り」を指定します。

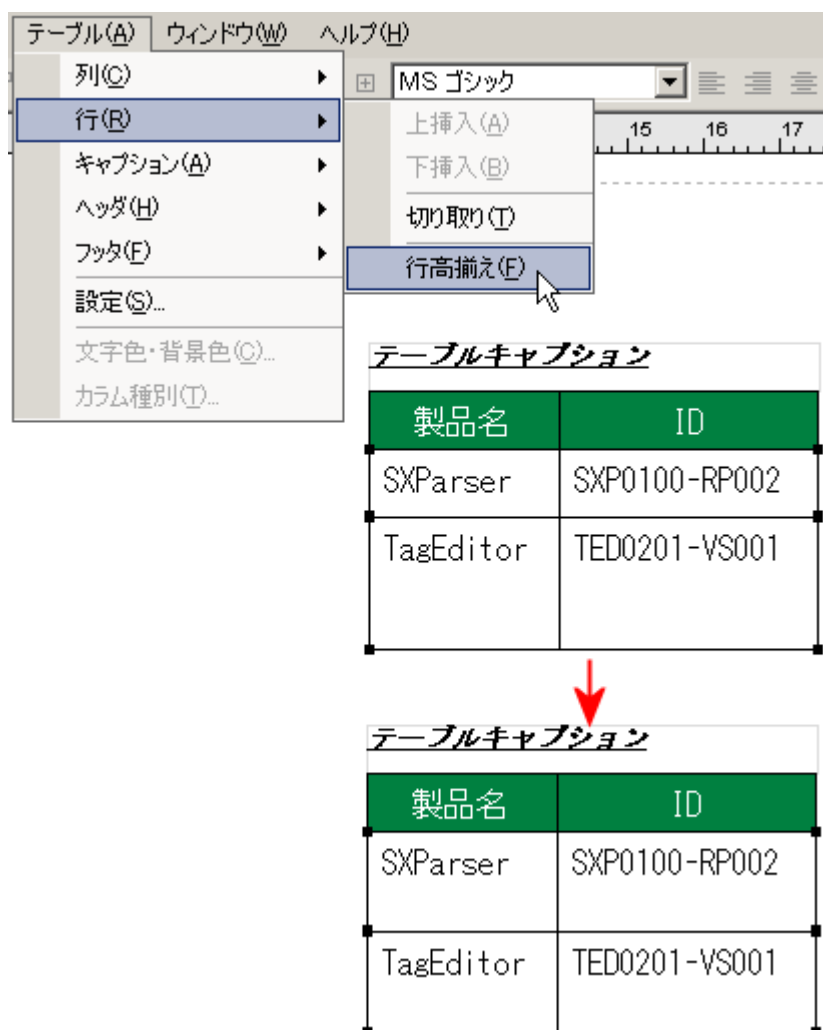


また、行を選択し、「上挿入」で選択した行の上に、「下挿入」で選択した行の下に、行が追加できます。



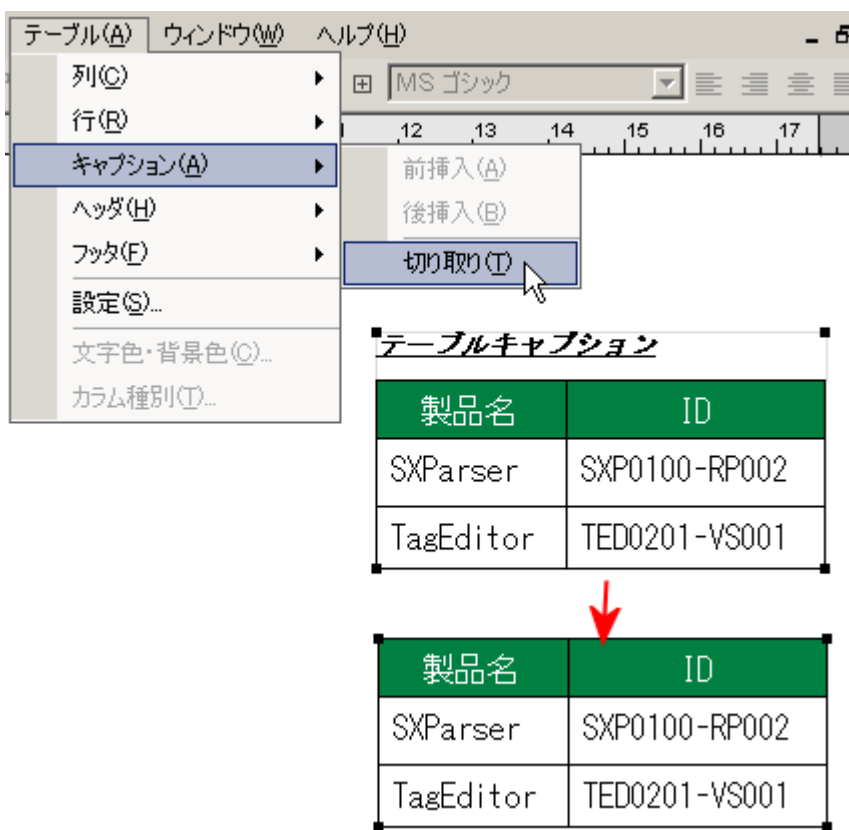
行の高さを揃える

高さを揃えたい行を複数選択し、[テーブル]メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューの「テーブル」で、「行高揃え」を指定します。

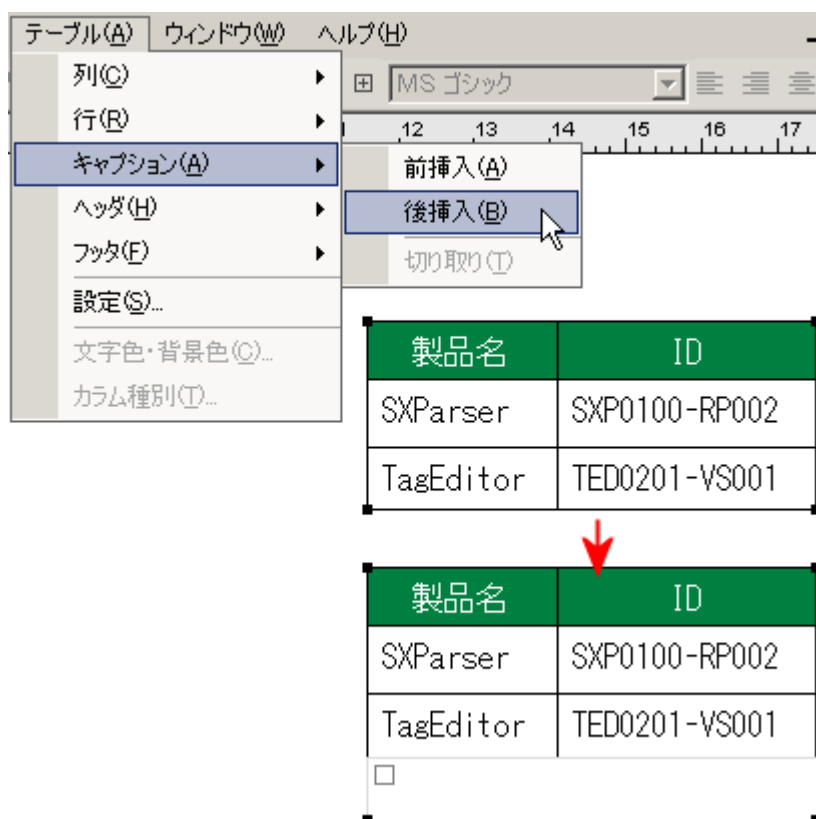


キャプションを削除・挿入する

テーブルまたはキャプションを選択し、[テーブル]メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューの「テーブル」で、キャプションの「切り取り」を指定します。

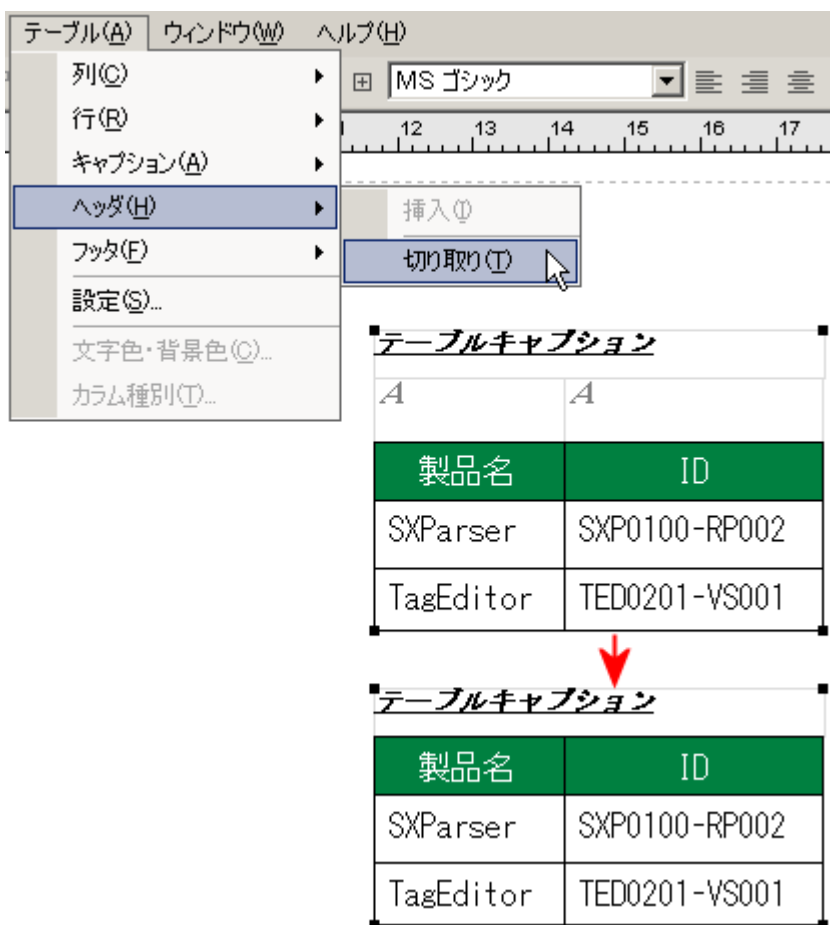


また、テーブルを選択し、「前挿入」でテーブルの一番上に、「後挿入」でテーブルの一番下に、キャプションが挿入できます。



ヘッダ・フッタを削除・挿入する

テーブルを選択し、[テーブル] メニューまたは右クリックによるコンテキストメニューの「テーブル」で、ヘッダ・フッタの「切り取り」を指定します。



また、テーブルを選択し、ヘッダ・フッタの「挿入」で、ヘッダ・フッタが挿入できます。

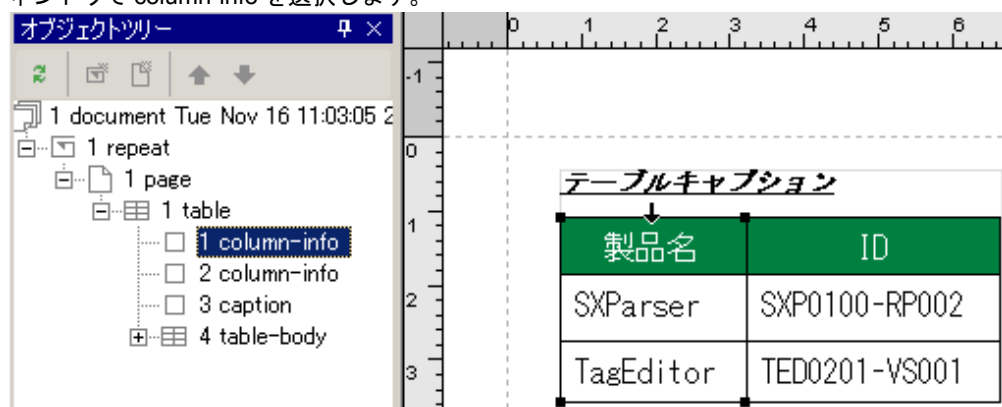


列内のオブジェクトの種別を変更する

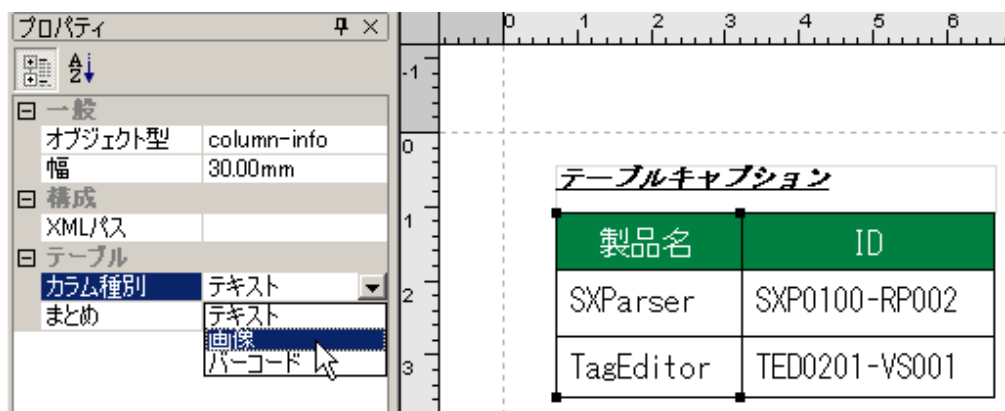
セル内オブジェクトは、初期値ではテキストになりますが、画像やバーコードへ、列単位で変更できます。以下の2つの方法があります。

1. [プロパティ] ウィンドウで変更する

種別を変更したい列を、レイアウトペインで選択するか、あるいは[オブジェクトツリー] ウィンドウで column-info を選択します。



選択した状態で、[プロパティ] ウィンドウを開き、[カラム種別] から、変更したいオブジェクトを指定します。



2. テーブル編集で変更する

種別を変更したいテーブルを選択し、[テーブル]メニューの、[設定]で [テーブル設定] ダイアログを開きます。カラム設定タブを開き、種別を選択します。

プロジェクト設定とオブジェクト

ここでは、プロジェクト設定と、レポートの構成を決めるオブジェクトについて説明します。

17 プロジェクト設定

XSL Report Designer のレイアウト設計データは「プロジェクト」と呼びます。プロジェクトの中に、各種「オブジェクト」を配置し、レイアウトを設計していきます。設計作業の情報は、プロジェクトファイルとして保存されます。

17.1 プロジェクト設定の内容

プロジェクトを作成するには以下の設定（プロジェクト設定）が必要です。

■ レイアウトタイプ

- 参照するデータファイル（構造を参照する XML ファイル、および繰り返し単位の XML パス）

XSL Report Designer ではプロジェクト作成時に、印刷対象 XML データのどの要素からどの印刷対象オブジェクトに、データをマップするかという対応関係を設定します。そのための参照データとして使用できるのは、XML データファイルまたは TSV/CSV データファイルです。それぞれのファイルを使う場合の設定項目は以下のとおりです。

参照するデータファイル	構造を参照する XML ファイル	レイアウトタイプ	繰り返し単位の XML パス
XML データファイル	[新規作成ガイド [3/3]] または [プロジェクト] メニューの [プロジェクト設定] ダイアログで設定された、Windows 上のファイルパス先の XML ファイル	固定型・フロー型・タックシールのいずれかを選択	構造を参照する XML ファイル内の XML パスを指定する
TSV/CSV データファイル	[新規作成ガイド [3/3]] で設定された、Windows 上のファイルパス先の TSV/CSV データから、XSL Report Designer が自動生成した XML ファイル	フロー型のみ	TSV/CSV ファイルの [データ項目の扱い] の指定（テーブル/リスト）にしたがって、自動設定される

17.2 レイアウトタイプ

レポート印刷時のレイアウトパターンを「レイアウトタイプ」と呼びます。参照するデータファイルが XML ファイルの場合、「レイアウトタイプ」を以下の 3 種類から選択します。

1. 固定型
2. フロー型
3. タックシール

それぞれの「レイアウトタイプ」間で、オブジェクトのコピーや移動は可能ですが、レイアウトタイプを後から変更することはできません。

参照するデータファイルが TSV/CSV ファイルの場合、「レイアウトタイプ」は「フロー型」になります。

17.3 参照するデータファイルと XML パス

プロジェクトを作成する際に参照するデータファイルを、[新規作成ガイド] で、以下の 2 種類から指定します。

1. XML データファイル
2. TSV/CSV データファイル



注意

TSV/CSV をレイアウト設計の際にデータファイルとして使用する場合でも、ランタイムエンジンは TSV/CSV を直接処理できません。サーバで印刷・PDF 生成を実行する時は、前処理で TSV/CSV を XML 化してください。

XML データファイルを参照する

■ 構造を参照する XML ファイル

XML データファイルを参照する場合、[新規作成ガイド [3/3]] または [プロジェクト] メニューの [プロジェクト設定] ダイアログで、参照したい XML データファイルを指定します。



注意

- 本製品は、XML データを定型のレイアウトパターンをもつレポートまたは帳票に印刷するためのレイアウト設計ソフトです。対象となる XML データファイルはツリー構造の一部に一定の繰り返しパターンを持っていることを想定しています。ツリー構造に一定の繰り返しパターンを期待できない XML ドキュメントの印刷レイアウト設計に使うことはできません。
- 名前空間（ネームスペース）を使う場合は、XML データのルート要素で全ての名前空間宣言をしてください。
- デフォルト名前空間をもつ XML データは、ランタイムエンジン、XSLT プロセサの両方共処理することができません。これは XPath の制限事項です。デフォルト名前空間の宣言は予め削除してください。

■ 繰り返し単位の XML パス

レポート印刷・PDF 生成の際、主たる繰り返し単位として処理したい XML 要素への XML パスを、[新規作成ガイド [3/3]] の [繰り返し単位の XML パス] で設定します。ここで指定された XML パスがメインリピートの XML パスとして設定されます。

レポート印刷・PDF 生成の際は、印刷対象 XML データの中で、メインリピートの XML パスに指定した要素が出現する毎に、メインリピート以下のオブジェクトが繰り返し出力されます。リピートについての詳細は、後述の構成用オブジェクトの項を参照してください。

メインリピートに XML パスを設定する方法は、[新規作成ガイド [3/3]] のほかに次の 2 通りあります。

1. [プロジェクト] メニューの [プロジェクト設定] ダイアログで指定する。
2. [オブジェクトツリー] ウィンドウで一番上位のリピートオブジェクトを選んで、[プロパティ] ウィンドウの [繰り返し要素パス] のセルに設定する。

TSV/CSV データファイルを参照する

■ 構造を参照する XML ファイル

参照するデータが TSV/CSV ファイルの場合、[新規作成ガイド [3/3]] で指定された TSV/CSV ファイルから、XML ファイルを自動生成します。



TSV/CSV ファイルから自動生成される XML ファイルの出力例
参照するデータファイルに以下の CSV ファイルを指定したとします。

```
2001 年, 第 1 四半期, 第 2 四半期, 第 3 四半期, 第 4 四半期, 合計, 平均
製品_A, "1,000 ", "1,050 ", "1,100 ", "1,150 ", "4,300 ", "1,075 "
製品_B, "1,100 ", "1,150 ", "1,200 ", "1,250 ", "4,700 ", "1,175 "
製品_C, "1,200 ", "1,250 ", "1,300 ", "1,350 ", "5,100 ", "1,275 "
製品_D, "1,300 ", "1,350 ", "1,400 ", "1,450 ", "5,500 ", "1,375 "
四半期平均,,,,, "1,225 "
```

XSL Report Designer は、以下の XML ファイルを自動生成します。

```
<?xml version="1.0" ?>
<sample>
  <record>
    <member1>2001 年</member1>
    <member2>第 1 四半期</member2>
    <member3>第 2 四半期</member3>
    <member4>第 3 四半期</member4>
    <member5>第 4 四半期</member5>
    <member6>合計</member6>
    <member7>平均</member7>
  </record>
  <record>
    <member1>製品_A</member1>
    <member2>1,000 </member2>
    <member3>1,050 </member3>
    <member4>1,100 </member4>
    <member5>1,150 </member5>
    <member6>4,300 </member6>
    <member7>1,075 </member7>
  </record>
  <record>
    <member1>製品_B</member1>
    .
    .
    .
  </record>
</sample>
```

自動生成される XML ファイルは、[データ項目の扱い] で [テーブルにする] [リストにする] の指定には関係ありません。どちらを選択した場合でも生成される XML ファイルは同じです。

■ 繰り返し単位の XML パス

参照するデータファイルが TSV/CSV ファイルの場合、その各データの項目を、プロジェクトでどのように表示するかを [新規作成ガイド [2/3]] の「データ項目の扱い」で次のどちらかに指定します。

テーブルにする

TSV/CSV のデータをテーブルの形式でレイアウトします。

リストにする

TSV/CSV のデータをリストにしてレイアウトします。

指定の内容により、プロジェクト上で自動的にレイアウトが作成され、繰り返し単位の XML パスが設定されます。

次に、TSV/CSV データファイルを参照した時に自動生成される XML ファイルのレイアウト設定のサンプルで「フロー型」レイアウトの例を見てみましょう。

「データ項目の扱い」でテーブルにする場合とリストにする場合で、オブジェクトへの XML 要素パス設定は、次の表のとおりです。

生成される要素	説明	データ項目への反映	
		テーブルにする	リストにする
<sample>	XML ファイルのルートとなる要素	プロジェクトの [繰り返し単位の XML パス] (メインリピート) に設定される	未使用
<record>	TSV/CSV データの 1 行を 1 レコードとし、レコード分だけ繰り返される要素	テーブルオブジェクトの [繰り返し要素パス] に設定される	プロジェクトの [繰り返し単位の XML パス] (メインリピート) に設定される
<memberN>	record 内の各要素 (N は 1 から要素の数だけ作成)	テーブルオブジェクト内の、テキストオブジェクトに配置され、それぞれの要素への「XML パス」が設定される	テキストオブジェクトに配置され、それぞれの要素への「XML パス」が設定される



テーブルとリストの出力例 (作成されるプロジェクトファイル)

参照データファイルが TSV/CSV データの場合、すべての設定が完了すると、レイアウトペインが開き、指定に応じたプロジェクトファイルが作成、表示されます。それぞれのレイアウトペインの最初の画面は以下のとおりです。

■ 「テーブルにする」を指定した場合

メインリピートにルート要素の sample が設定されます。メインリピートの下にテーブルオブジェクトが作成され、table-header に「memberN」というスタティックテキストが自動付加されます。テーブルの修飾は自由に変更できます。

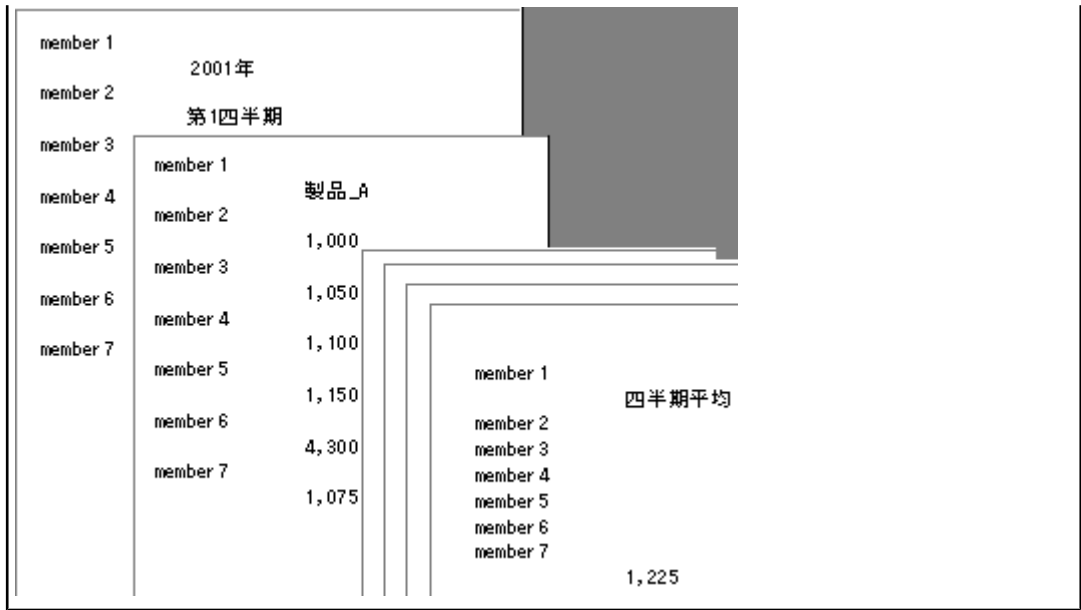
上記レイアウトを XSL-FO にし、XSL Formatter で表示すると以下のようになります。

member1	member2	member3	member4	member5	member6	member7
2001年	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	平均
製品_A	1,000	1,050	1,100	1,150	4,300	1,075
製品_B	1,100	1,150	1,200	1,250	4,700	1,175
製品_C	1,200	1,250	1,300	1,350	5,100	1,275
製品_D	1,300	1,350	1,400	1,450	5,500	1,375
四半期平均						1,225

■ 「リストにする」を指定した場合

The screenshot displays the 'オブジェクトツリー' (Object Tree) on the left and the visual layout on the right. The object tree shows a structure with 14 text objects labeled 'member1' through 'member7'. The visual layout shows a vertical list of these members, each with a cursor and the text 'a| memberN'.

メインリピートに sample/record が設定されます。テキストオブジェクトがリスト形式に配置され、「memberN」というスタティックテキストが自動付加されます。
上記レイアウトを XSL-FO にし、XSL Formatter で表示すると以下ようになります。



18 オブジェクトとプロパティ

XSL Report Designer でレイアウト設計をする対象を「オブジェクト」といいます。それぞれのオブジェクトには、プロパティ（属性）を設定することが可能です。

18.1 オブジェクトの一覧

XSL Report Designer が扱うことのできるオブジェクトは、以下のとおりです。レポートのレイアウトの枠組みを設定するオブジェクト（構成用オブジェクト）と、用紙の上に配置されるオブジェクト（レイアウト用オブジェクト）があります。

使用される位置	オブジェクト名	説明	操作例
構成用	ルート	ドキュメント	プロジェクトファイルを作成する際、ルートとなるオブジェクトです。すべてのプロジェクトに必ずひとつ出力されます。 操作例 (131 ページ)
	レポートやページのヘッダ・フッタ	レポートヘッダ・フッタ、ページヘッダ・フッタ	レポートやページのヘッダ・フッタを指定した場合に使用されます。レポートヘッダ・フッタは、レポート全体を通して一度だけ出力されます。ページヘッダ・フッタは各ページに出力されます。 操作例 (report-header/footer) (133 ページ)
	繰り返しオブジェクト	リピート	[繰り返し単位の XML パス] で指定されるメインリピートとして、各プロジェクトに常に出力されます。レイアウトタイプが「フロー型」の場合は、メインリピートの下に複数のサブリピートを配置できます。 操作例 (139 ページ)
	レイアウト用オブジェクト	ページオブジェクト、フレームオブジェクト、ラベルオブジェクト	指定されるレイアウトタイプによって、いずれかひとつだけ出力されるオブジェクトです。 操作例 (page) (141 ページ)

	のグループ化		
レイアウト用	レイアウトペイン上で配置	テキストオブジェクト、イメージオブジェクト、バーコードオブジェクト、テーブルオブジェクト、キャプション、カラムインフォ、テーブルヘッダ・フッタオブジェクト、テーブルボディオブジェクト、テーブル行オブジェクト、テーブルセルオブジェクト、ラインオブジェクト	レイアウト設計時に、印刷内容を配置したり、スタイルを指定するオブジェクトです。
			操作例 (171 ページ)

プロジェクト内の構成用オブジェクトの関係

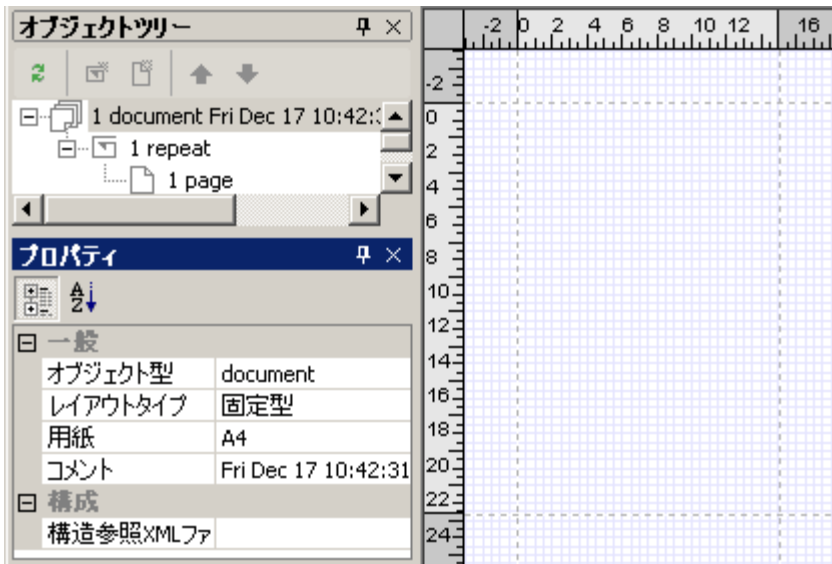
レポートの構成に関わるオブジェクトは、プロジェクト内で以下のような関係になります。詳細の説明は各レイアウトタイプ別の設定の説明の項を参照してください。

固定型・タックシール	フロー型
<p>The diagram shows a 'document' container. Inside, from top to bottom, are 'report header', 'page header', a 'repeat (main)' block, 'page footer', and 'report footer'. The 'repeat (main)' block contains a 'page/label' block.</p>	<p>The diagram shows a 'document' container. Inside, from top to bottom, are 'report header', 'page header', a 'repeat (main)' block, 'page footer', and 'report footer'. The 'repeat (main)' block contains a 'frame' block and a 'repeat (sub)' block. The 'repeat (sub)' block contains a 'frame' block.</p>
<p>レポート設計時には、固定型の場合はページオブジェクトの、タックシールの場合はラベルオブジェクトの内部にレイアウト用オブジェクトを配置します。</p>	<p>レポート設計時には、フレームオブジェクトの内部にレイアウト用オブジェクトを配置します。</p>

18.2 ドキュメントオブジェクト

ドキュメントオブジェクトは、プロジェクトファイルを作成する際、ルートとなるオブジェクトです。レイアウトペイン上には表示されないで、[オブジェクトツリー] ウィンドウ上で、document

を選択すると、プロパティウィンドウにこのオブジェクトに設定されるプロパティが表示されます。



設定されるプロパティは、以下のとおりです。

■ 一般に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	document	オブジェクトの種類は document です。
レイアウトタイプ	固定型/フロー型/タックシール	ドキュメントに設定されているレイアウトタイプが表示されます。変更はできません。
用紙	任意	ドキュメントに設定されている用紙の種類が表示されます。
コメント	任意	プロジェクトのコメント文字列を自由に記述できます。コメントは、印刷結果などには影響しません。

■ 構成に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
構造参照 XML ファイル	参照 XML ファイルへのパス	ドキュメントに設定されている構造を参照する XML ファイルが表示されます。変更はできません。

19 レイアウトタイプ別構成用オブジェクトとプロパティ

構成用オブジェクトとプロパティの詳細についてレイアウトタイプ別に説明します。

19.1 固定型

「固定型」は、大雑把に表現すると、ページ (page) オブジェクト内にレイアウト用オブジェクトを配置し、その中にデータを印刷するレイアウトです。配置されるオブジェクトの位置は、固定になります。「固定型」では、テーブルオブジェクトのみ、内部のデータによって自動的に広がるようにプロパティで設定することができますが、その場合、広がったオブジェクトと、それ以降のオブジェクトとが重なる場合があります。印刷時のレイアウトは、指定された [用紙] にページ全体が収まり、用紙単位でデータが繰り返されます。

固定型の出力例

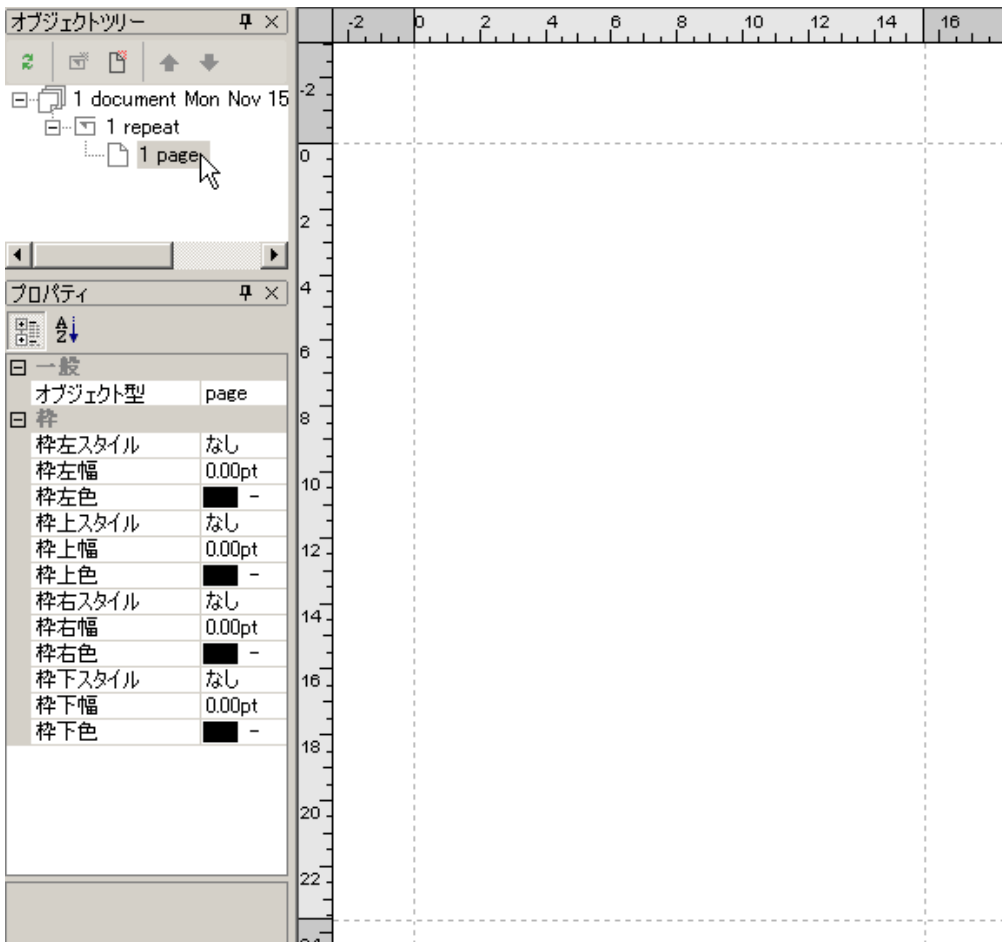
The screenshot displays a fixed-type invoice layout. At the top, there is a header with the company name 'アソテナハウス株式会社' and logo. Below this, the title '注文書' (Invoice) is prominently displayed. The company address and contact information are listed. A section for 'お客様名' (Customer Name) shows '第一総合商社株式会社 様'. Below this is a table of items with columns for '品名' (Item Name), '単価' (Unit Price), '数量' (Quantity), and '合計' (Total). A summary table on the right shows the total amount. The bottom of the page includes a footer with 'Date: 11/01/2008' and 'Page: 1/1'.

品名	単価	数量	合計
S&P Paper Ver 1.0	19,440	1	19,440
TagColor Ver 2.1	27,720	0	27,720
S&P Paper Ver 1.0	19,440	1	19,440
S&P Paper Ver 1.0	19,440	1	19,440
XSL Formulas Ver 1.1	207,500	2	415,000
S&P Paper Ver 1.0	19,440	1	19,440
TagColor Ver 2.1	27,720	2	55,440
XSL Formulas Ver 1.1	207,500	2	415,000
合計		14	940,330

ページヘッダ・フッタ、レポートヘッダ・フッタをつけることができます。また、複数のページで、データベースでいう1レコード分を構成することもできます。たとえば、注文書の1枚目は概略、2枚目は明細といった帳票を作ることができます。

固定型の初期画面

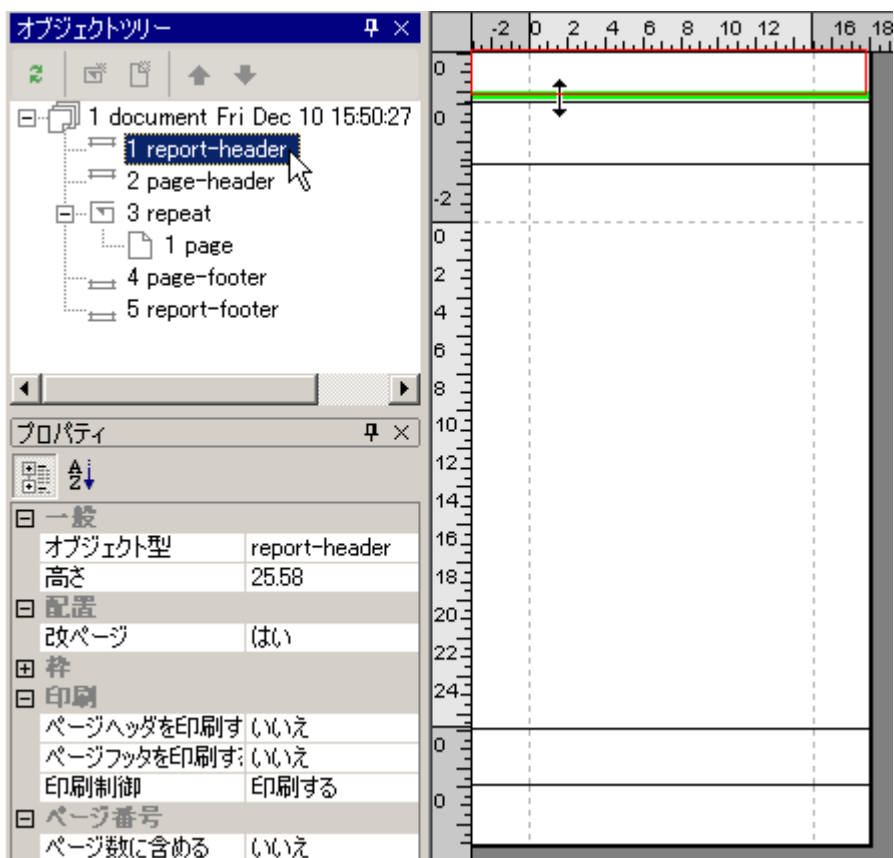
「固定型」を指定したときの最初の画面では、[オブジェクトツリー] ウィンドウには、ドキュメントオブジェクトの下にレポートオブジェクトが、さらにその下にページオブジェクトがひとつ作成されます。レイアウトペインには、上下左右マージン領域が区切られた用紙が表示されます。中央が本文領域で、本文領域がページオブジェクトです。

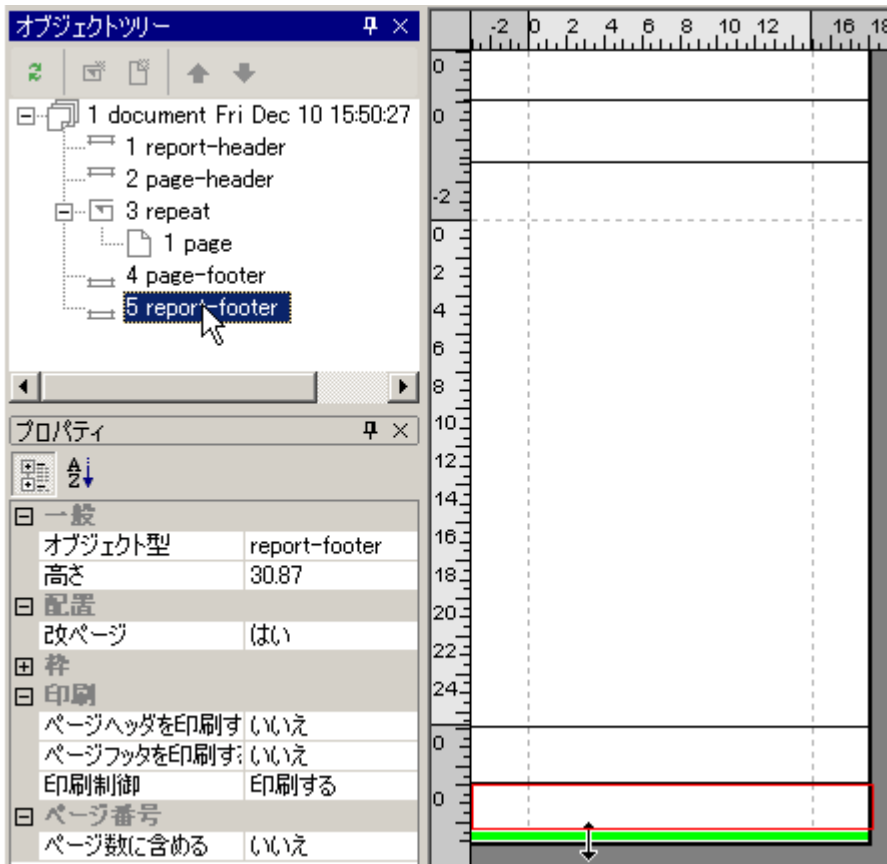


固定型のレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト

[構成] メニュー [ヘッダ/フッタ] で、レポートヘッダ・レポートフッタを指定した場合に、レポートヘッダオブジェクト・レポートフッタオブジェクトが出力されます。レイアウトペイン上では、一番上にレポートヘッダ、一番下にレポートフッタが表示されます。[オブジェクトツリー] ウィンドウで report-header、または report-footer を選択すると、レイアウトペイン上に緑のラインが表示され、その上部分がレポートヘッダまたはレポートフッタになります。

レポートヘッダ・フッタは、常に、それぞれが1枚の用紙に出力されます。レポートヘッダ・レポートフッタの用紙は、本文と同じです。レポートヘッダ・レポートフッタオブジェクトは、用紙の上マージンから [高さ] プロパティに指定した高さを持つ矩形領域に相当します。





設定されるプロパティは、以下のとおりです。

■ 一般に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	report-header/ report-footer	オブジェクトの種類は、report-header/report-footer になります。
高さ	数値 (単位は mm/in/pt)	レポートヘッダ・レポートフッタの高さが表示されます。高さとは本文領域の中でレポートヘッダ・レポートフッタの内容を印字する領域の高さです。高さを変更するには、レイアウトペインでレポートヘッダ・フッタの下の緑の線をマウスでつかんで、上下に動かします。また、[プロパティ] ウィンドウで、[高さ] に任意の数値を入力して、高さを変更することも可能です。

■ 配置に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
改ページ	はい	レポートヘッダ・レポートフッタの後の改ページは、常に [はい] (改ページされる) に設定されます。

■ 枠に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
枠 (上/下/左/右) スタイル	なし/点線/ダッシュ/線/ 二重線/溝/隆起/ インセット/アウトセット	各枠のスタイルを個別に設定します。
対角線/逆対角線スタイル		対角線/逆対角線のスタイルを設定します。
枠 (上/下/左/右) 幅	数値 (単位は mm/in/pt)	各枠線の幅を個別に設定します。
対角線/逆対角線幅		対角線/逆対角線の幅を設定します。
枠 (上/下/左/右) 色	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	各枠の色を個別に設定します。
対角線/逆対角線色		対角線/逆対角線の色を設定します。

■ 印刷に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
ページヘッダを印刷する	はい/いいえ	レポートヘッダ・レポートフッタにページヘッダを印刷するかどうかを指定します。
ページフッタを印刷する	はい/いいえ	レポートヘッダ・レポートフッタにページフッタを印刷するかどうかを指定します。
印刷制御	印刷する/印刷しない	入力されているオブジェクトの印刷を制御します。 [印刷する] は設定通りに印刷を行います。 [印刷しない] 設定に関わらず印刷を行いません。

■ ページ番号に関するプロパティ

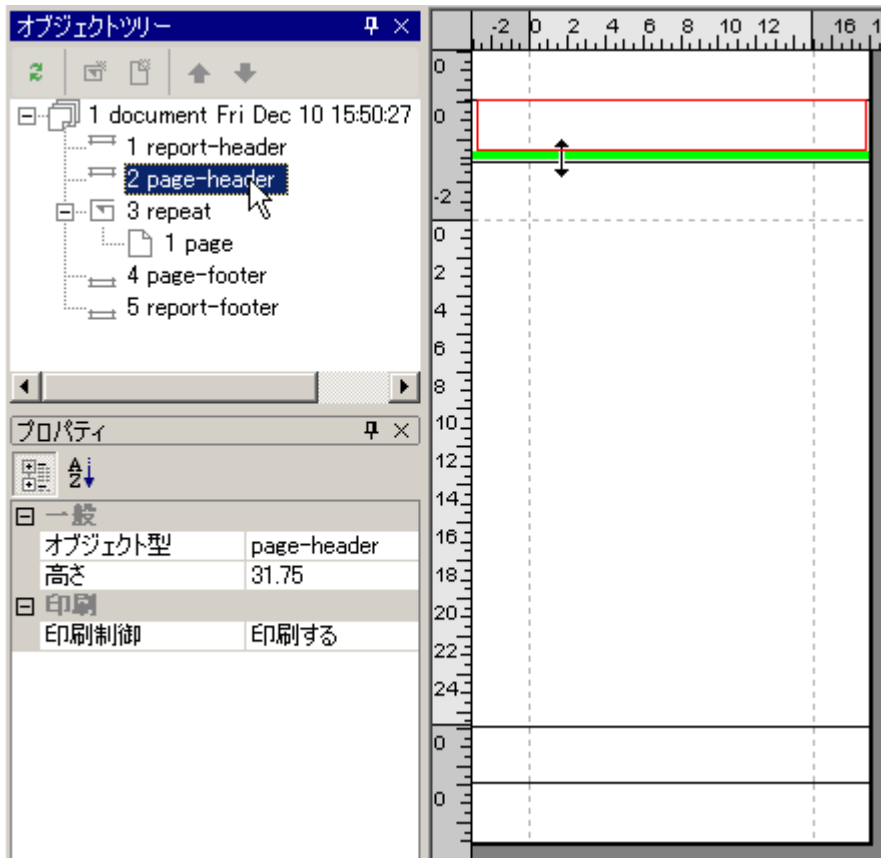
プロパティ名	値	説明
ページ数	はい/いいえ	レポートヘッダ・レポートフッタを、ページ数のカウントに含めるかどうかを指定します。

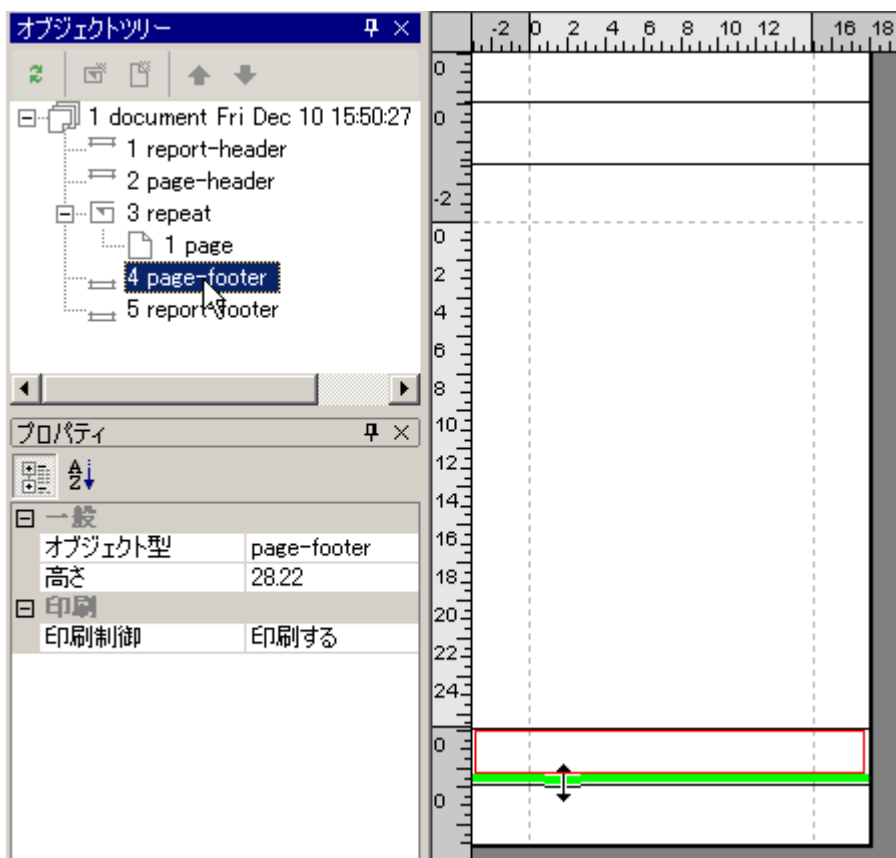
に含 める	
----------	--

固定型のページヘッダ・ページフッタオブジェクト

[構成]メニュー [ヘッダ/フッタ] で、ページヘッダ・ページフッタを指定した場合に、ページヘッダオブジェクト・ページフッタオブジェクトが出力されます。レイアウトペイン上では、レポートヘッダがある場合その下（ない場合は一番上）にページヘッダ、レポートフッタがある場合はその上（ない場合は一番下）にページフッタが表示されます。[オブジェクトツリー] ウィンドウで page-header または page-footer を選択すると、レイアウトペイン上に緑のラインが表示されます。その上の領域がページヘッダまたはページフッタです。

ページヘッダオブジェクトは、用紙の上端から [高さ] プロパティに指定した高さを持つ矩形領域に相当します。ページフッタオブジェクトは用紙の下端から [高さ] プロパティに指定した高さを持つ矩形領域に相当します。





設定されるプロパティは、以下のとおりです。

■ 一般に関するプロパティ

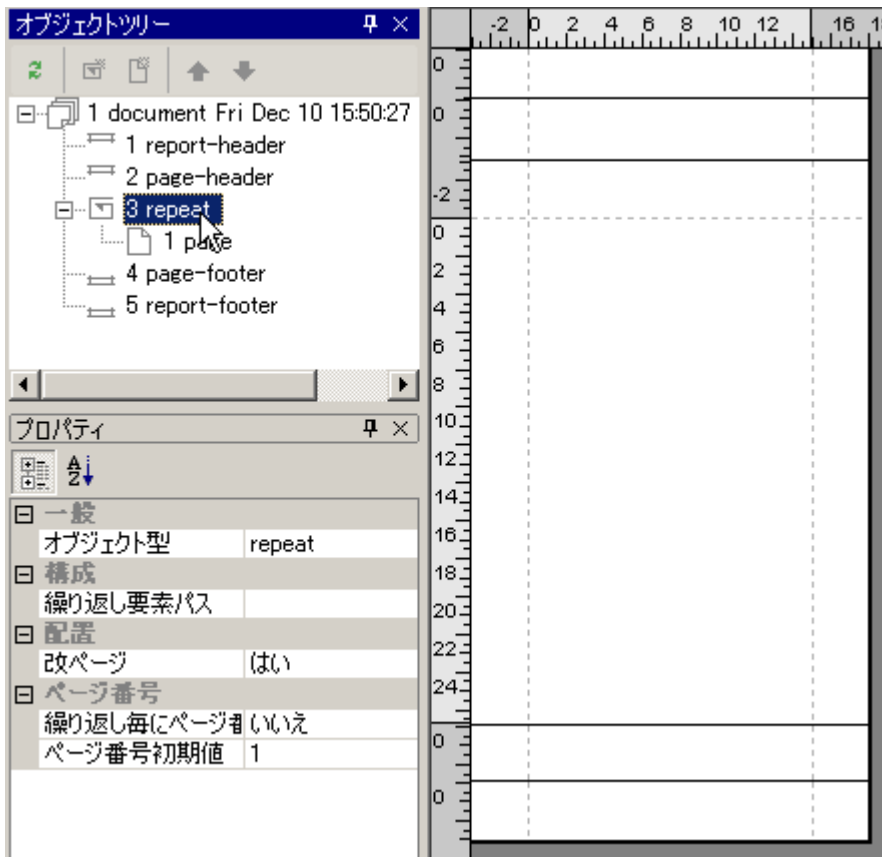
プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	page-header/ page-footer	オブジェクトの種類は、page-header/page-footer になります。
高さ	数値 (単位は mm/in/pt)	ページヘッダ・ページフッタの高さが表示されます。ページヘッダ・ページフッタ領域の高さを変更するには、ページヘッダオブジェクトの緑の線をマウスでつかんで、上下に動かしてください。[プロパティ] ウィンドウで、[高さ] に任意の数値を入力して、高さを変更することも可能です。

■ 印刷に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
印刷制御	印刷する/ 印刷しない	入力されているオブジェクトの印刷を制御します。[印刷する]は設定通りに印刷を行います。[印刷しない]設定に関わらず印刷を行いません。

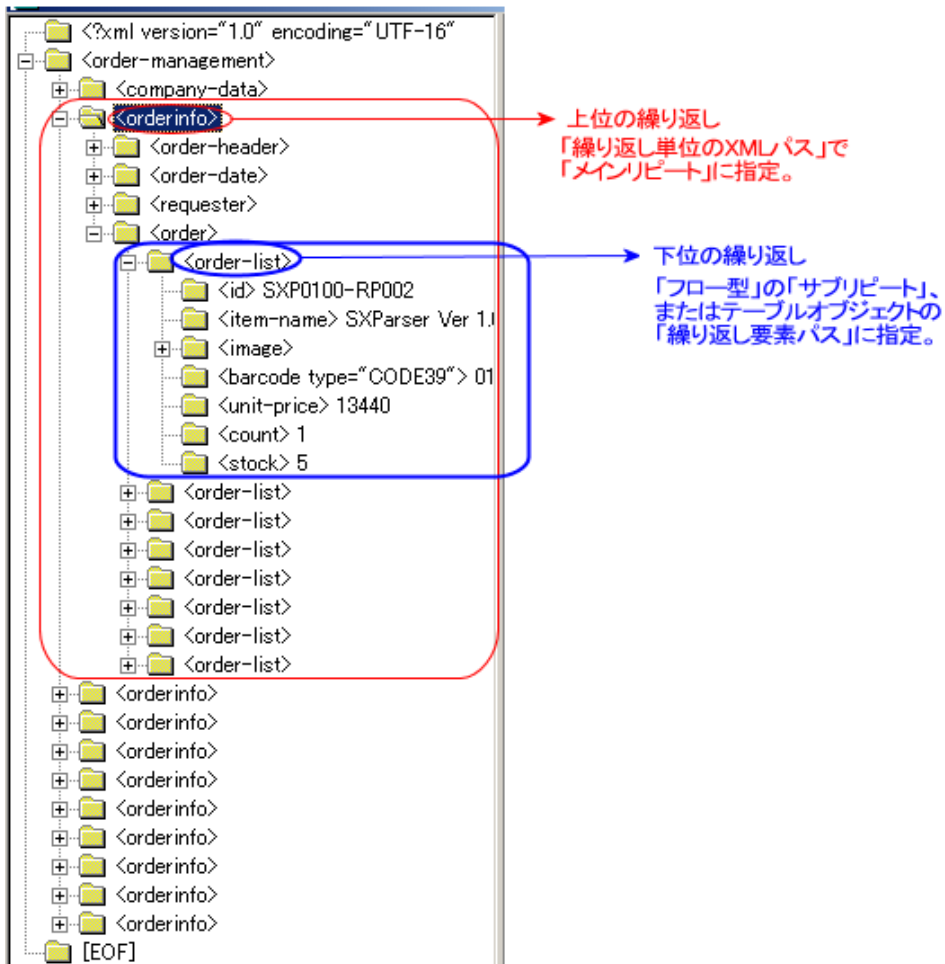
固定型のレポートオブジェクト

「固定型」で新規にプロジェクトを作成すると、レポートオブジェクトがひとつ作成されます。これがメインレポートです。固定型ではレポートオブジェクトはメインレポートしか設定できません。



リピートの設定例

ここで[繰り返し単位のXMLパス]で指定するXMLデータの要素の繰り返しと固定型におけるメインレポートの関係について製品に添付されている「Jsamle-data.xml」ファイルを例にとって確認してみましょう。



サンプル XML ファイルは、order-management 要素の下に、orderinfo 要素が 10 個、さらに、order 要素の下に、order-list 要素が 8 個存在するファイルです。

プロジェクトファイルを作成する際、[繰り返し単位の XML パス] に orderinfo 要素を指定すると、印刷対象 XML データで orderinfo が出現するたびにメインレポートオブジェクトが生成されます。メインレポートオブジェクトにページオブジェクトをひとつだけ置いた場合は、orderinfo が 10 回繰り返されることにより 10 ページの出力が生成されることとなります。固定型ではレポートオブジェクトはひとつしか使えませんが、この例では下位の繰り返し要素である order-list の内容は表に出力することとなります。

レポートオブジェクトに設定されるプロパティは、以下のとおりです。なお、レポートオブジェクトは、レイアウトペイン上には表示されないため、[オブジェクトツリー] ウィンドウ上で、repeat を選択して、[プロパティ] ウィンドウでプロパティを表示します。

■ 一般に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	repeat	オブジェクトの種類は、repeat になります。

■ 構成に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
繰り返し要素パス	印刷対象XMLデータの要素へのパス	繰り返しデータが始まる位置をXMLパスで指定します。

■ 配置に関するプロパティ

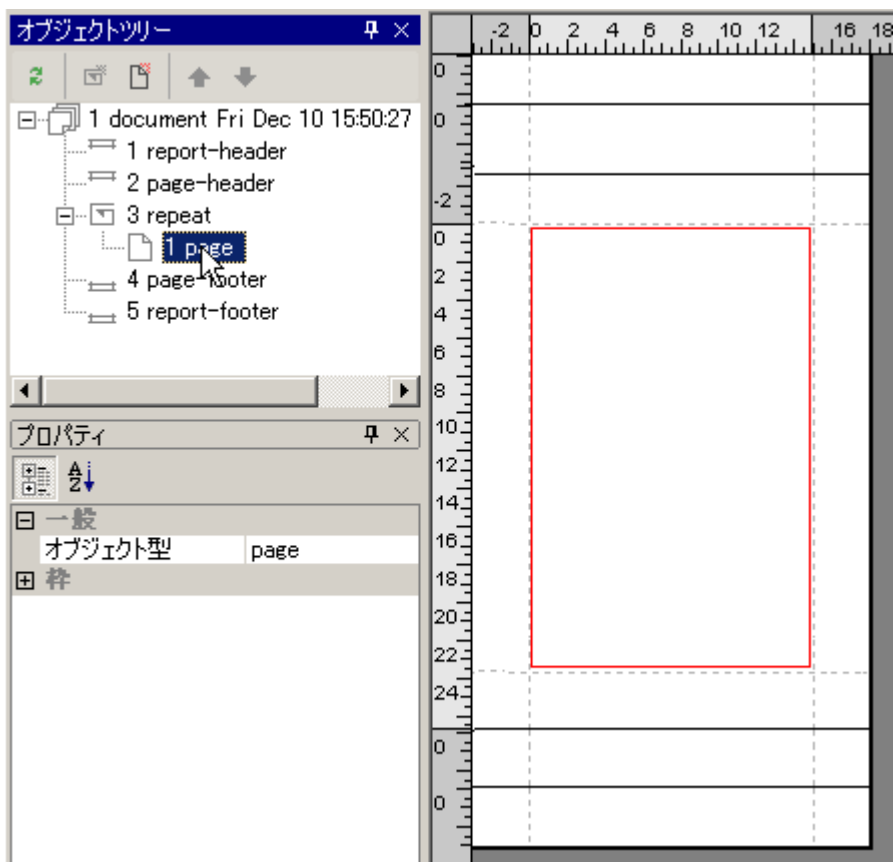
プロパティ名	値	説明
改ページ	はい	固定型のレポートオブジェクトの後の改ページは、常に [はい] (改ページされる) に設定されます。

■ ページ番号に関するプロパティ

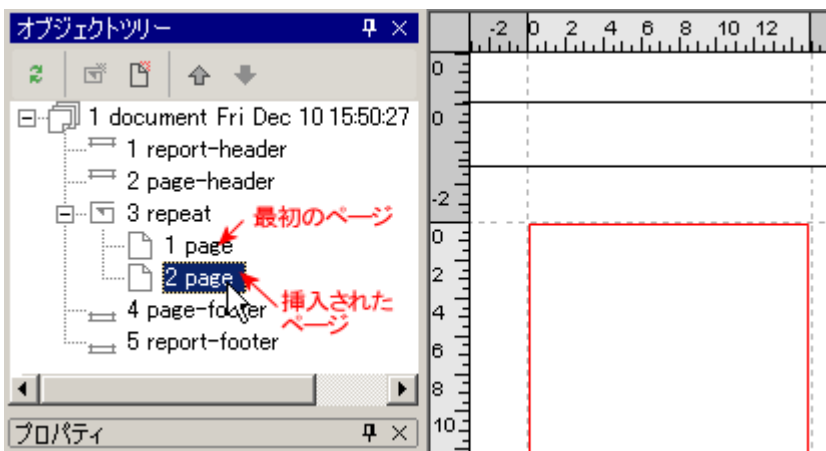
プロパティ名	値	説明
繰り返し毎にページ番号を初期化	はい/いいえ	レポートオブジェクト単位で、ページ番号の初期化を行うかどうかを指定します。
ページ番号初期値	任意	ページ番号をいくつから始めるか設定します。

ページオブジェクト

ページオブジェクトはレイアウトタイプが「固定型」の場合にレポートの内容となるオブジェクトです。ページオブジェクト上にレイアウト用オブジェクトを配置します。レイアウト用オブジェクトの位置座標はページオブジェクトの左上が基準となります。なお、用紙のマージン領域にもレイアウト用オブジェクトを配置できますが配置したオブジェクトにはページからはみ出した座標値が設定されます。ページはページ挿入で追加することができます。



ページオブジェクトは [構成] メニューの [ページ挿入] で複数挿入することができます。



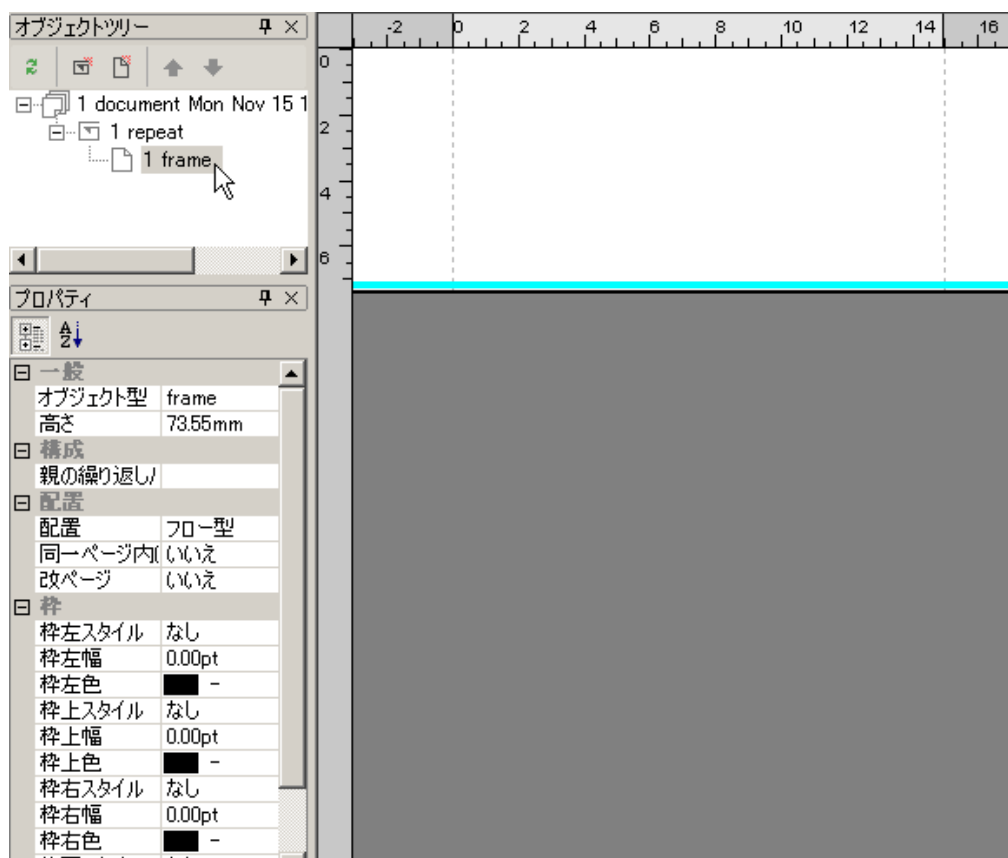
設定されるプロパティは以下のとおりです。ページオブジェクトの周囲には枠線を設定できます。

■ 一般に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	page	オブジェクトの種類は、page になります。

■ 枠に関するプロパティ

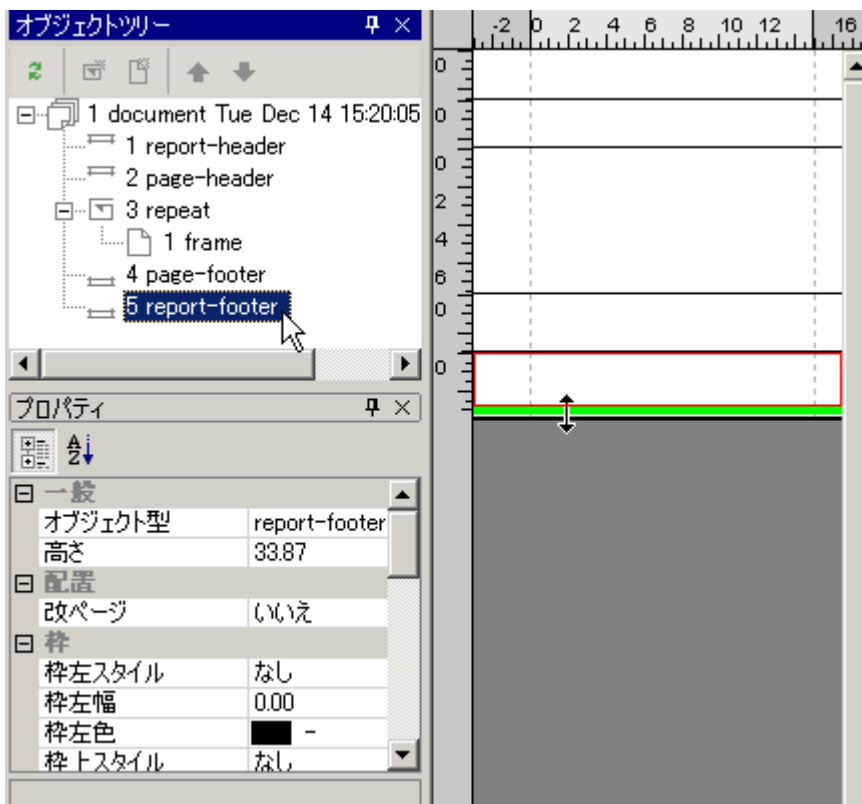
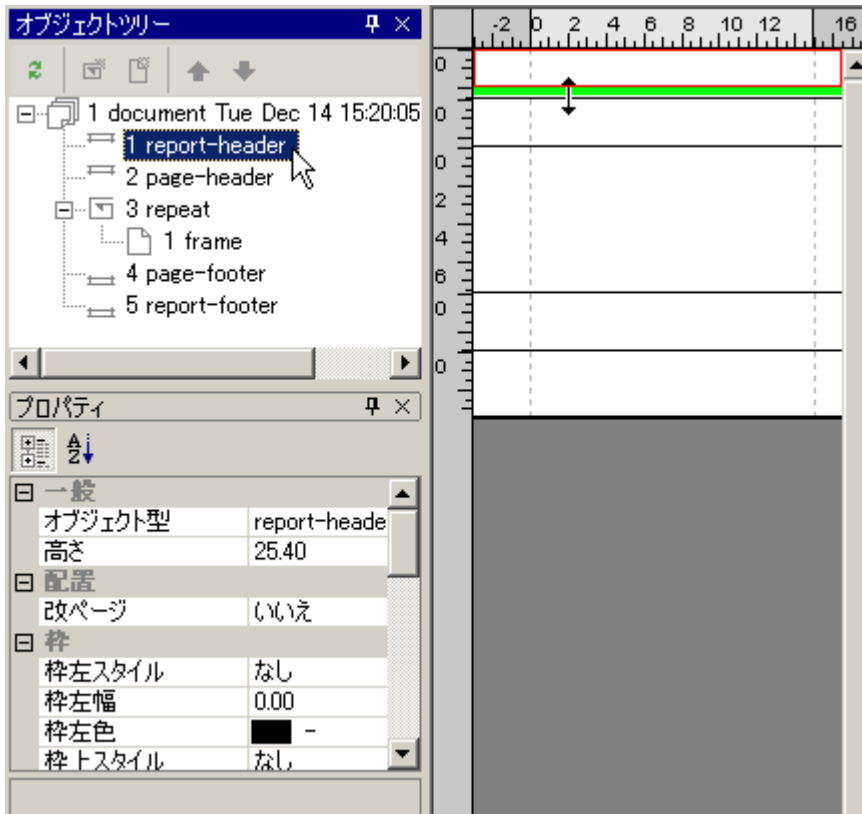
参照：枠に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)



フロー型のレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト

参照：固定型のレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト [\(133 ページ\)](#)

「フロー型」にレポートヘッダ・レポートフッタを指定した場合、レイアウトペイン上で以下のように表示されます。「フロー型」のレポートヘッダ・レポートフッタは、印刷時にはレポートの最初と最後に付加されますが、必ずしもそれぞれ1枚の用紙になるとは限りません。レポートヘッダは本文の最初と同じ用紙に、レポートフッタは本文の最後と同じ用紙に印刷できます。



設定されるプロパティは、以下のとおりです。

■ 一般に関するプロパティ

参照：一般に関するプロパティ [\(135 ページ\)](#)

■ 配置に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
改ページ	はい/いいえ	レポートヘッダについては、レポートヘッダの後に改ページするかしないかを設定します。レポートフッタについては、レポートフッタの前に改ページするかしないかを設定します。

■ 枠に関するプロパティ

参照：枠に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)

■ 印刷に関するプロパティ

参照：印刷に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)

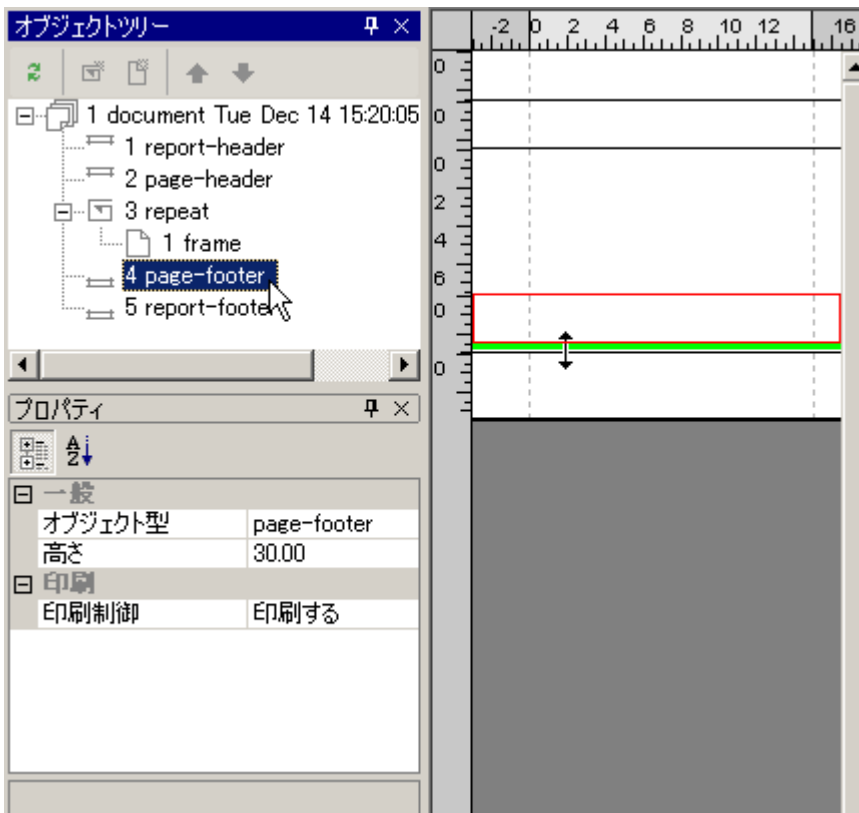
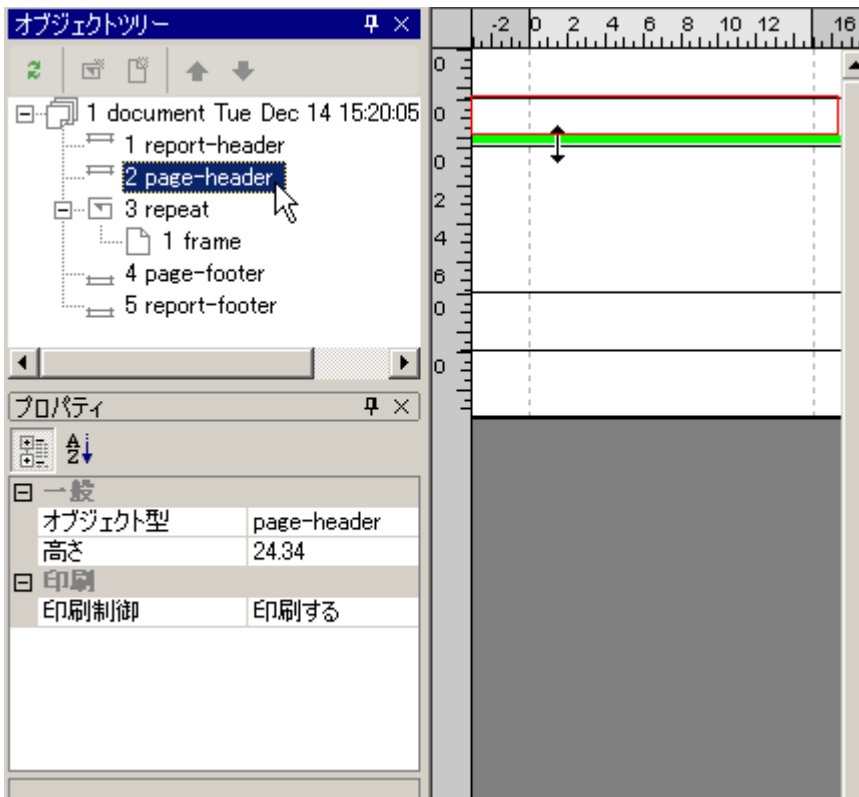
■ ページ番号に関するプロパティ

参照：ページ番号に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)

フロー型のページヘッダ・ページフッタオブジェクト

参照：固定型のページヘッダ・ページフッタオブジェクト [\(137 ページ\)](#)

「フロー型」にページヘッダ・ページフッタを指定した場合、レイアウトペイン上で以下のように表示されます。ページヘッダ・ページフッタの領域の特徴は「固定型」レイアウトの場合と同じです。



設定されるプロパティは、以下のとおりです。

■ 一般に関するプロパティ

参照：一般に関するプロパティ [\(138 ページ\)](#)

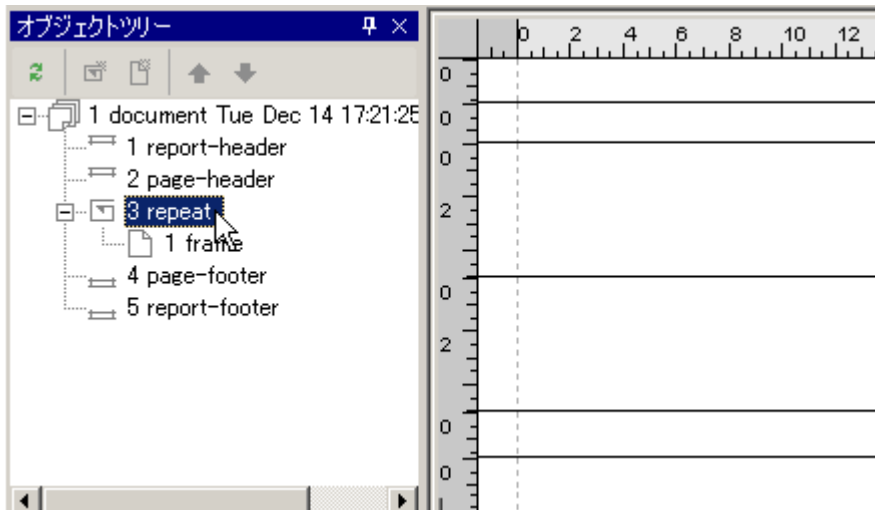
■ 印刷に関するプロパティ

参照：印刷に関するプロパティ [\(138 ページ\)](#)

フロー型のリピートオブジェクト

参照：固定型のリピートオブジェクト [\(139 ページ\)](#)

「フロー型」で新規にプロジェクトを作成すると、リピートオブジェクトがひとつ作成されます。これがメインリピートになります。



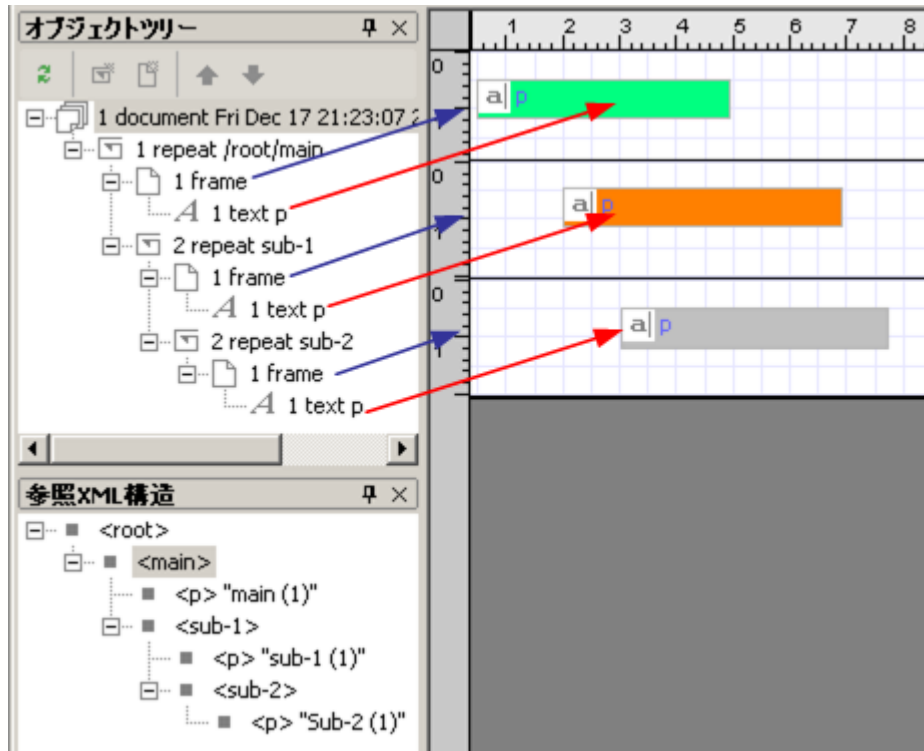
「フロー型」の場合、リピートオブジェクトは、[構成]メニューの[リピート挿入]で複数挿入することができます。挿入されたリピートオブジェクトはサブリピートになります。従って、印刷対象 XML データの中で、要素の繰り返しが多段階になっている時、多段に入れ子になったレイアウトを設計することができます。

次のような繰り返しが入れ子になった XML データ例で説明します。

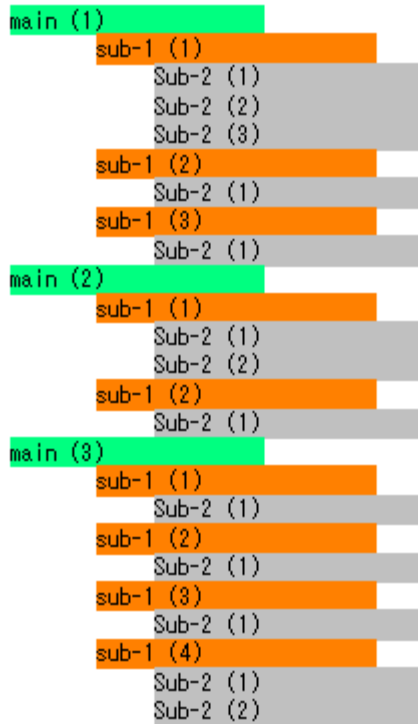
<pre><root> <main> <p>main (1)</p> <sub-1> <p>sub-1 (1)</p> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> <sub-2> <p>Sub-2 (2)</p> </sub-2> <sub-2> <p>Sub-2 (3)</p> </sub-2> </sub-1> </main></pre>	<pre><main> <p>main (2)</p> <sub-1> <p>sub-1 (1)</p> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> <sub-2> <p>Sub-2 (2)</p> </sub-2> <sub-1> <p>sub-1 (2)</p> </sub-1> </sub-1> <p>sub-1 (2)</p> </main></pre>	<pre><main> <p>main (3)</p> <sub-1> <p>sub-1 (1)</p> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> </sub-1> <sub-1> <p>sub-1 (2)</p> </sub-1> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> </main></pre>	<p>XML のツリー構造</p> <pre> ルート ├── root │ └── 繰り返し ── main │ ├── 繰り返し ── sub-1 │ ├── 繰り返し ── sub-2 │ └── p (text) │ └── p (text) │ └── p (text) └── sub-1 ├── 繰り返し ── sub-2 │ └── p (text) └── p (text) </pre>
--	--	---	---

<pre> </sub-1> <sub-1> <p>sub-1 (2)</p> </sub-1> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> </sub-1> <sub-1> <p>sub-1 (3)</p> </sub-1> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> </sub-1> </main> </pre>	<pre> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> </sub-1> </main> </pre>	<pre> <p>sub-1 (3)</p> </sub-1> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> </sub-1> <sub-1> <p>sub-1 (4)</p> </sub-1> <sub-2> <p>Sub-2 (1)</p> </sub-2> <sub-2> <p>Sub-2 (2)</p> </sub-2> </sub-1> </main> </root> </pre>
---	---	--

XSL Report Designer は、この入れ子の繰り返しを次のようなリピートの階層化でレイアウトできます。



このプロジェクトを使って、先に示した XML データを印刷すると次の図のようになります。main 要素がメインリピートとして一番外側で繰り返し、その内側に sub-1 要素の繰り返し印刷され、さらにその内側に sub-2 要素の繰り返し印刷されることが分かります。

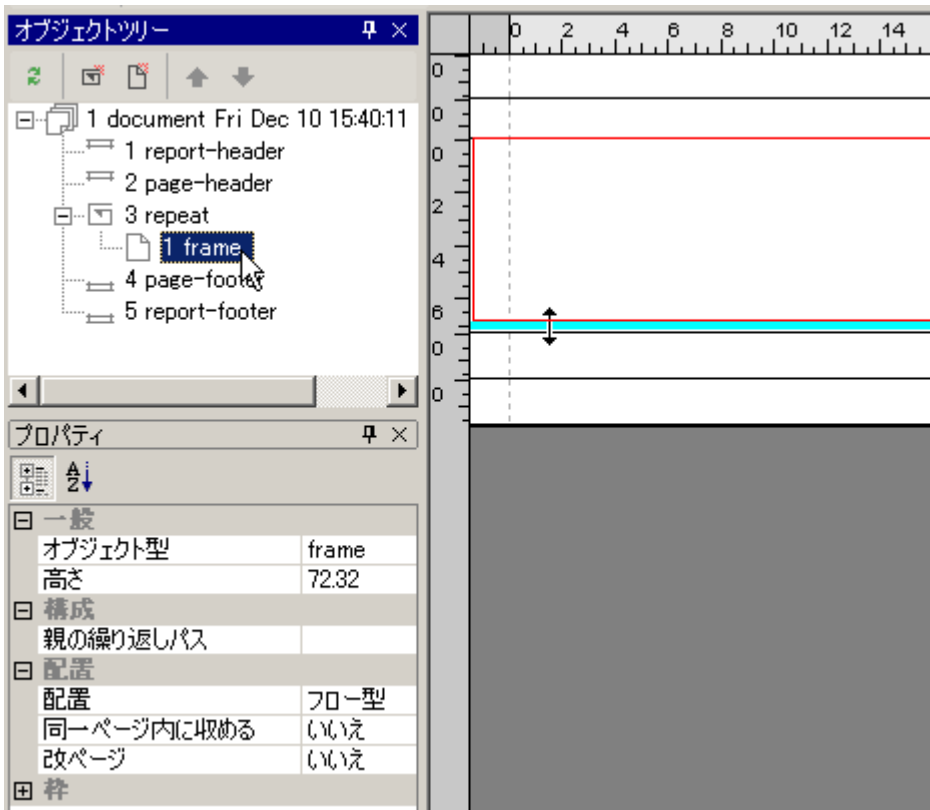


リピートオブジェクトに設定されるプロパティは、以下のとおりです。なお、リピートオブジェクトは、レイアウトペイン上には表示されないため、[オブジェクトツリー] ウィンドウ上で、repeat を選択して、プロパティウィンドウでプロパティを表示します。

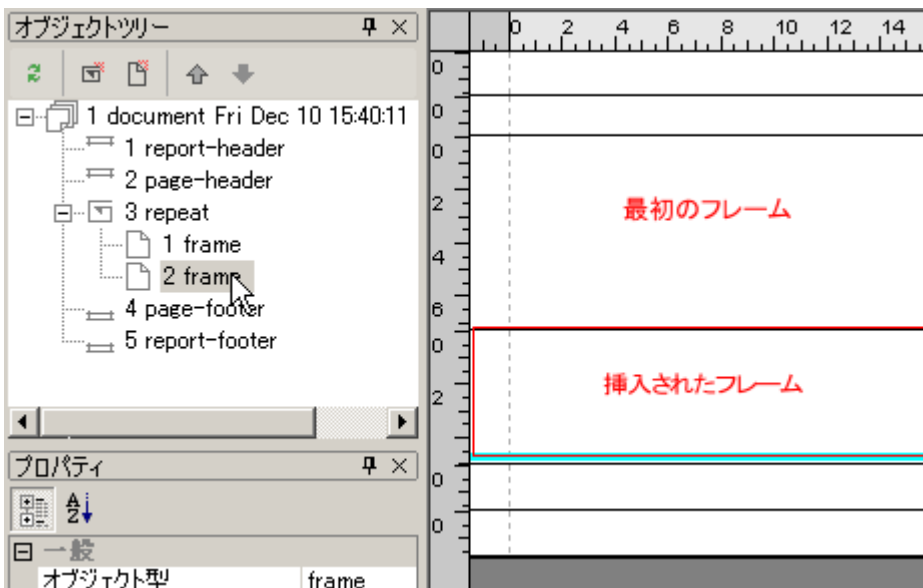
- 一般に関するプロパティ
参照：一般に関するプロパティ [\(140 ページ\)](#)
- 構成に関するプロパティ
参照：構成に関するプロパティ [\(140 ページ\)](#)
- 配置に関するプロパティ
参照：配置に関するプロパティ [\(141 ページ\)](#)
- ページ番号に関するプロパティ
参照：ページ番号に関するプロパティ [\(141 ページ\)](#)

フレームオブジェクト

[オブジェクトツリー] ウィンドウで、frame を選択すると、レイアウトペイン上で水色のラインが表示されます。このラインの上部分がフレームオブジェクトになります。フレームオブジェクトは1つの枠領域に相当します。この枠内にレイアウト用オブジェクトを配置します。また複数のフレームを順番に置いたり、オブジェクトをフレームによってグループ化することができます。ただし、フレームオブジェクトを横に並べることはできません。



フレームオブジェクトは [構成] メニューの [フレーム挿入] で複数挿入することができます。



設定されるプロパティは、以下のとおりです。

■ 一般に関するプロパティ

プロパ	値	説明

ティ イ 名		
オブ ジ ェ ク ト 型	frame	オブジェクトの種類は、frame になります。
高 さ	数値 (単位は mm/in/ pt)	フレームの高さを指定します。フレームの高さはフレームの [配置] プロパティが「固定型」のとき、固定の高さになります。 [配置] プロパティ「フロー型」のとき、内容のレイアウトオブジェクトによって決まります。フレーム領域の高さを変更するには、フレーム下端の水色の線をマウスでつかんで、上下に動かしてください。また、[プロパティ] ウィンドウで、[高さ] に任意の数値を入力して、高さを変更することも可能です。レポートヘッダの高さ+フレームの高さがページの本文領域 (用紙の広さからマージンを除いた領域) の高さより大きい場合、自動的に用紙が改められることがありますのでご注意ください。

■ 構成に関するプロパティ

プロ パ テ ィ 名	値	説明
親の 繰 り 返 し の パ ス	印刷対象 XML データ の要素への パス	親であるリポートオブジェクトに設定された繰り返しパスが表示されます。値を変更すると、リポートオブジェクトのプロパティにも反映されます。

■ 配置に関するプロパティ

プロ パ テ ィ 名	値	説明
配 置	固定 型/フ ロー 型	フレームオブジェクトの配置を設定します。「固定型」はオブジェクトの開始 Y 座標をフレームの上端からの絶対座標で設定します。オブジェクトの高さが伸びてもフレームの高さは変わりません。「フロー型」はオブジェクトの高さが伸びると、それに応じて他のオブジェクトおよびフレーム自身の高さも伸びますが、オブジェクトどうしが水平方向に重なるような配置を行うことができません。
同 一 ペ ー ジ 内 に 収 め る	はい/ いい え	フレーム内のオブジェクトを同じページに配置するかどうかを指定します。

改ページ	はい/いいえ	フレームオブジェクトの最後に改ページを行うかどうかを指定します。
------	--------	----------------------------------

フレームオブジェクトの「配置」例

以下は、フレームオブジェクトの「配置」プロパティで設定できる、「固定型」と「フロー型」の例です。

XSL Report Designer のレイアウトペイン

「固定型」のフレームオブジェクト

「フロー型」のフレームオブジェクト
内部のオブジェクトがデータによって伸縮する可能性があるため、このように、オブジェクトどおしを横に並べて配置できません。

XSL Formatterで表示

「固定型」のフレームは中のデータに関係なく、常に同じ(固定の)高さで繰り返されます。

「フロー型」のフレームは中のデータによって伸縮します。

■ 枠に関するプロパティ

参照：枠に関するプロパティ (136 ページ)

19.3 タックシール

「タックシール」は、ラベル (label) オブジェクト内で各オブジェクトを配置し、その中にデータを印刷するレイアウトです。印刷時のレイアウトは、指定された「用紙」を縦横に分割し、分割した各領域内に、データが繰り返されます。

用紙を縦横にどのように分割するかは、「新規作成ガイド [2/3]」で行数 (行方向の分割数) / カラム数 (列方向の分割数) を指定します。

タックシールの出力例



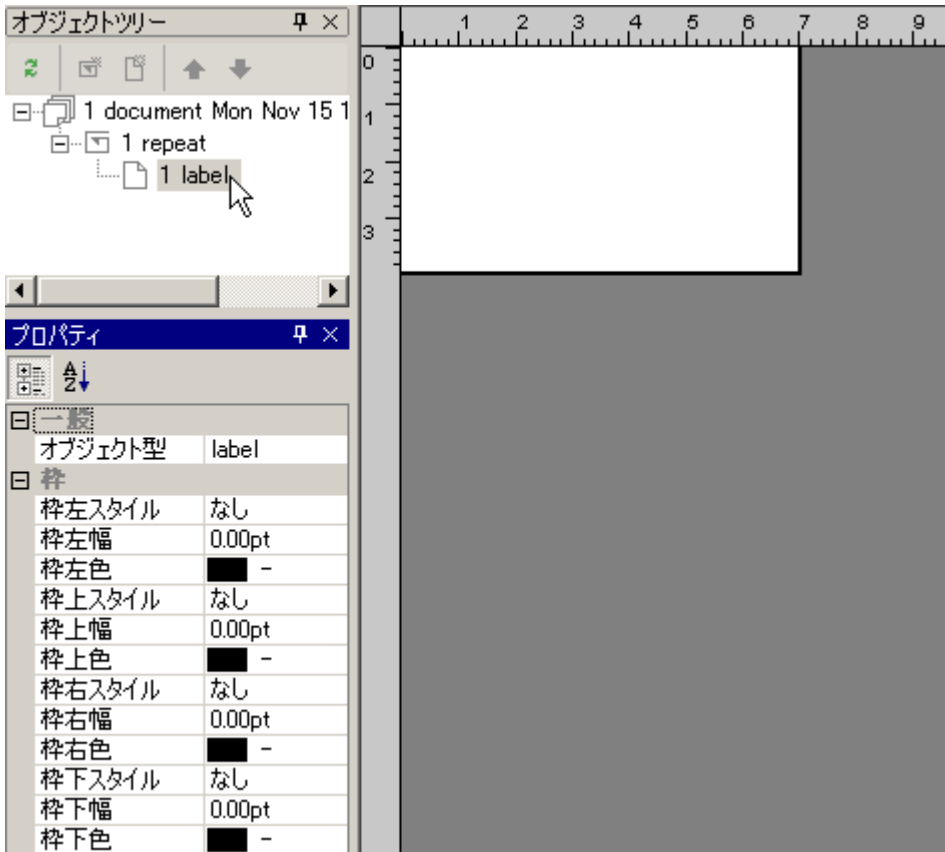
「タックシール」レイアウトは、固定型とよく似ています。大きな違いは、用紙の本文領域を縦・横に分割して、その1つの領域にオブジェクトを配置することです。1枚の用紙に複数のレコードを順に印刷していくときに使います。

配置できるのは、固定位置、固定サイズのオブジェクトです。レポートヘッダ・フッタは必ず用紙が変わります。

タックシールの初期画面

「タックシール」を指定した場合、レイアウトペインには、タックシールの1枚分のラベルが表示されます。この中にオブジェクトを配置していきます。

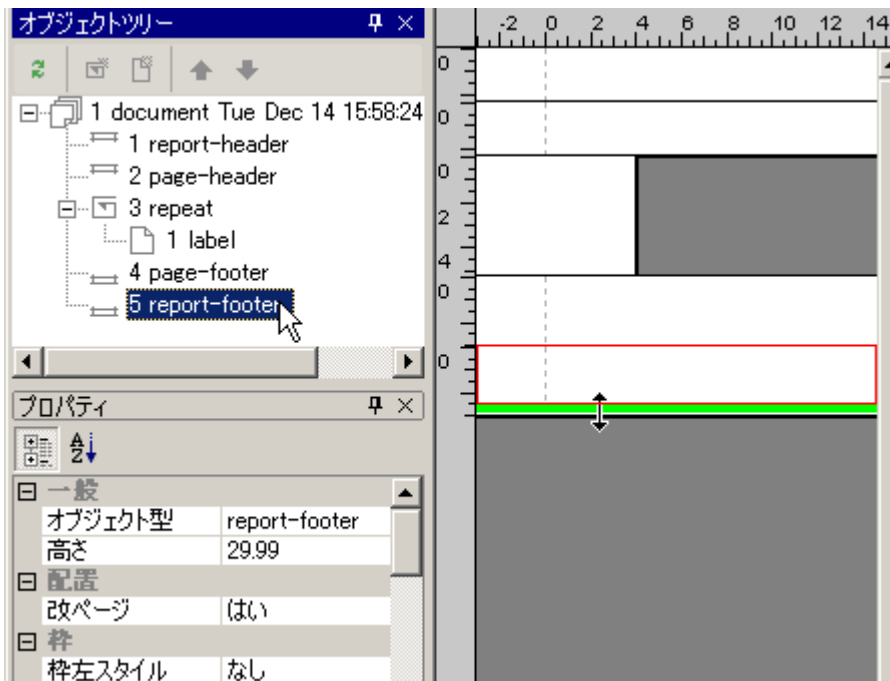
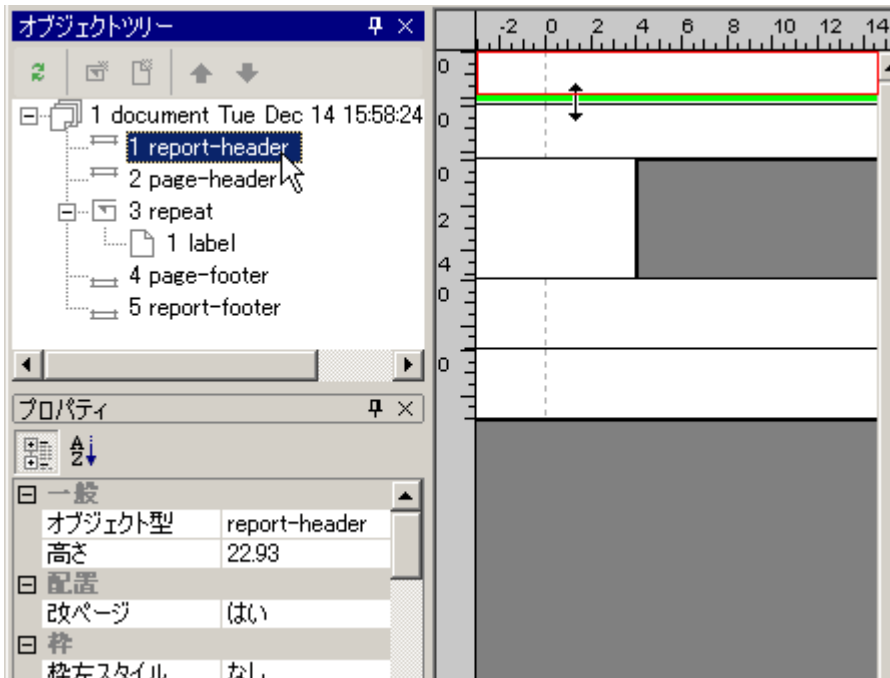
[オブジェクトツリー] ウィンドウで確認すると、ドキュメントオブジェクトの下に、リピートオブジェクトが、さらにその下にラベルオブジェクトがひとつ作成されます。



タックシールのレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト

参照：固定型のレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト [\(133 ページ\)](#)

「タックシール」にレポートヘッダ・レポートフッタを指定した場合、レイアウトペイン上で以下のように表示されます。



設定されるプロパティは、以下のとおりです。

- 一般に関するプロパティ
参照：一般に関するプロパティ [\(135 ページ\)](#)
- 配置に関するプロパティ
参照：配置に関するプロパティ [\(135 ページ\)](#)
- 枠に関するプロパティ

参照：枠に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)

■ 印刷に関するプロパティ

参照：印刷に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)

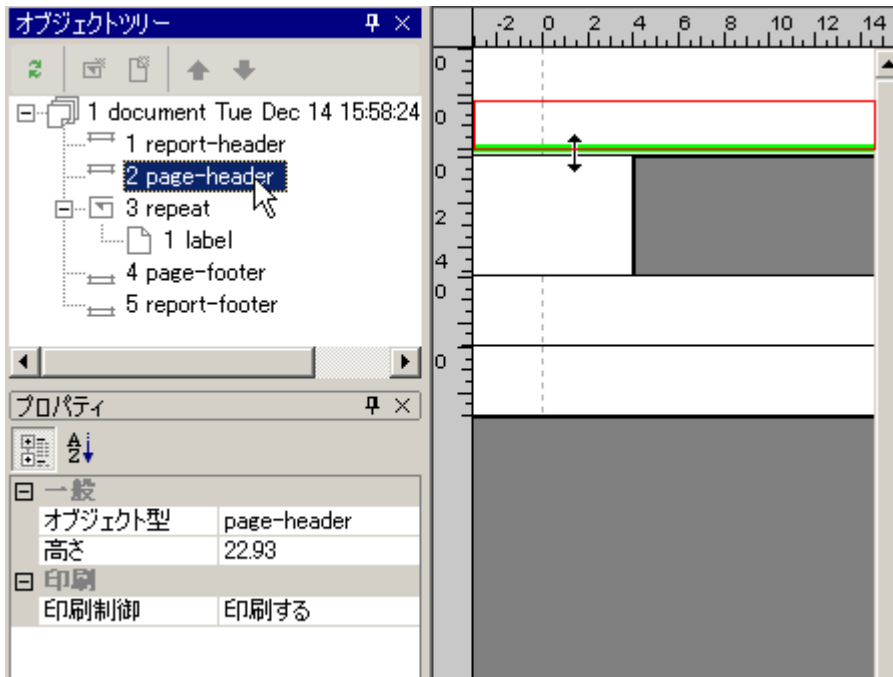
■ ページ番号に関するプロパティ

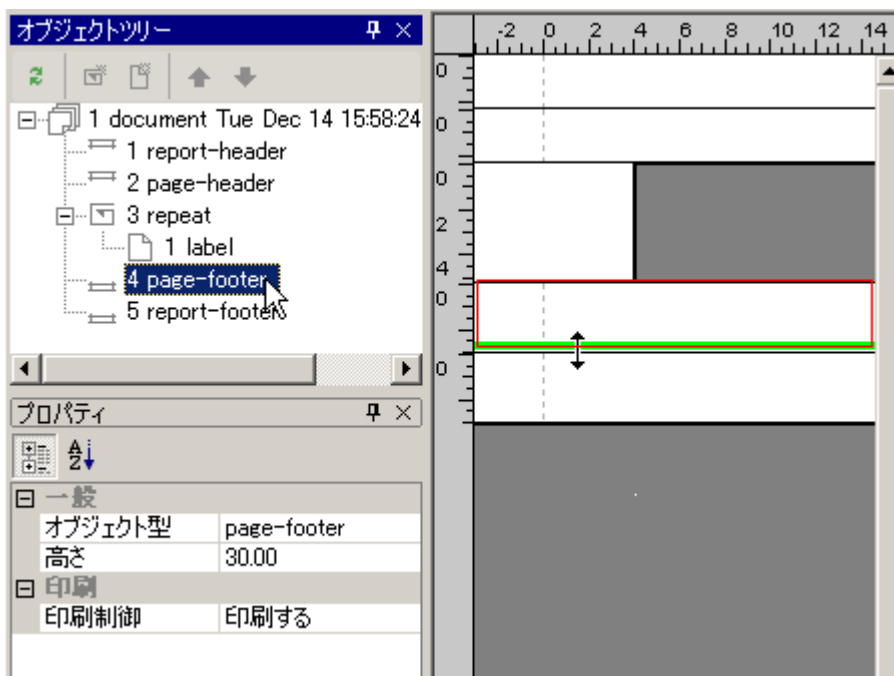
参照：ページ番号に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)

タックシールのページヘッダ・ページフッタオブジェクト

参照：固定型のページヘッダ・ページフッタオブジェクト [\(137 ページ\)](#)

「タックシール」にページヘッダ・ページフッタを指定した場合、レイアウトペイン上で以下のように表示されます。





設定されるプロパティは、以下のとおりです。

■ 一般に関するプロパティ

参照：一般に関するプロパティ (138 ページ)

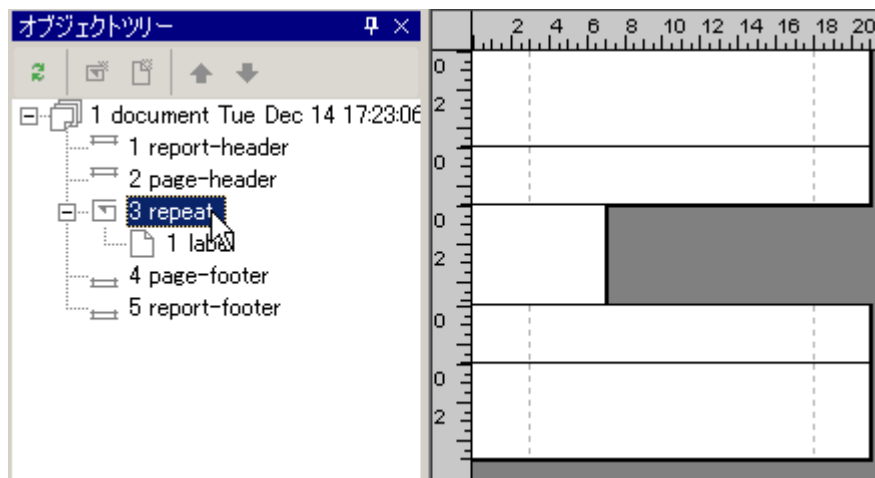
■ 印刷に関するプロパティ

参照：印刷に関するプロパティ (138 ページ)

タックシールのリピートオブジェクト

参照：固定型のリピートオブジェクト (139 ページ)

「タックシール」で新規にプロジェクトを作成すると、リピートオブジェクトがひとつ作成されます。これがメインリピートになります。このメインリピートに設定した XML パスが指す要素が出現する毎に「ラベルオブジェクト」が1つ出力されます。

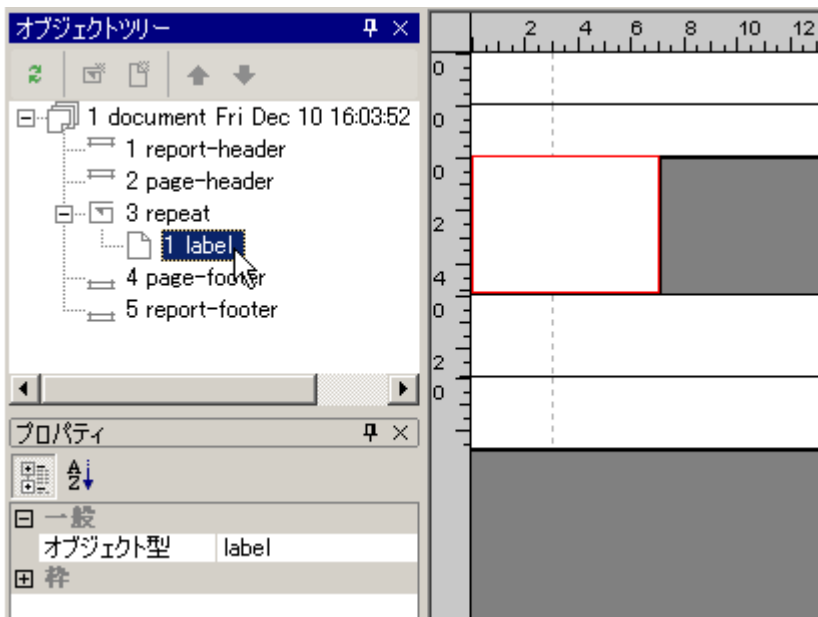


設定されるプロパティは以下のとおりです。なお、レポートオブジェクトは、レイアウトペイン上には表示されないで、[オブジェクトツリー] ウィンドウ上で、repeat を選択して、[プロパティ] ウィンドウでプロパティを表示します。

- 一般に関するプロパティ
参照：一般に関するプロパティ [\(140 ページ\)](#)
- 構成に関するプロパティ
参照：構成に関するプロパティ [\(140 ページ\)](#)
- 配置に関するプロパティ
参照：配置に関するプロパティ [\(141 ページ\)](#)
- ページ番号に関するプロパティ
参照：ページ番号に関するプロパティ [\(141 ページ\)](#)

ラベルオブジェクト

レイアウトタイプが「タックシール」の場合に出力されるオブジェクトです。プロジェクト設定時に、用紙を縦/横に分割しますが、レイアウトペインには、分割されたうちのひとつの部分が本文領域として表示されます。



設定されるプロパティは以下のとおりです。

- 一般に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	label	オブジェクトの種類は label になります。

- 枠に関するプロパティ
参照：枠に関するプロパティ [\(136 ページ\)](#)

レイアウト用オブジェクト

ここではページやフレームやラベルに実際にレイアウト（配置）する、レイアウト用オブジェクト（テキスト・画像・バーコード・テーブル・ラインの各オブジェクト）の作成方法とそのプロパティの設定方法を説明します。各オブジェクトにどのようなプロパティを設定できるかの対応表「対応プロパティ一覧」（206 ページ）も参照ください。

20 フレーム・ページ・ラベル内のオブジェクトと内容

プロジェクト設定と、構成用オブジェクトが配置されたプロジェクトに、今度は、レイアウト用のオブジェクトを配置し、レポートを設計していきます。
設計は、レイアウトペイン上で、

1. オブジェクトを配置する。
2. オブジェクトにプロパティ（属性）を設定する。
3. オブジェクトに内容を入力する。

の操作を繰り返し、レポートを作成していきます。プロパティ（属性）の設定は、内容を入力してから行うこともできます。

20.1 配置できるオブジェクト

ページまたはフレーム内には、次のオブジェクトを配置できます。

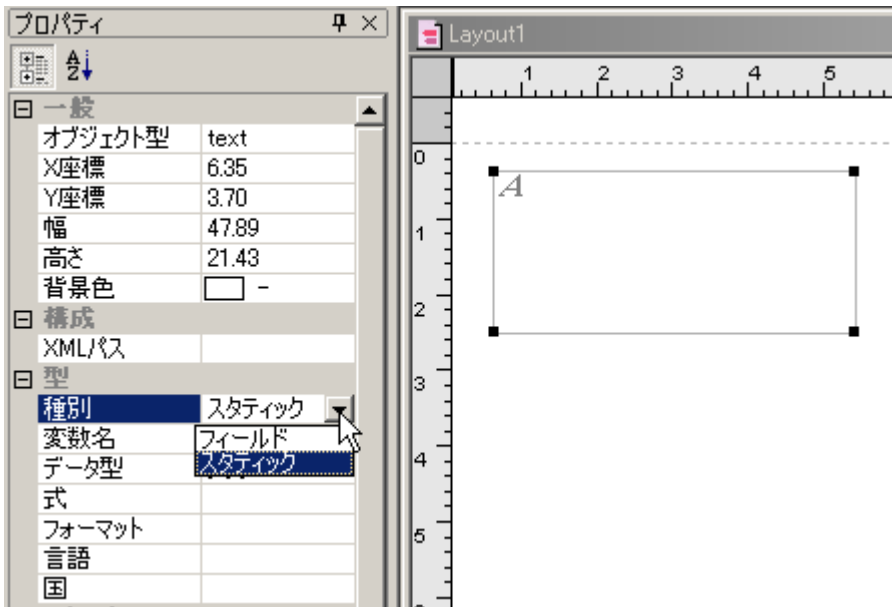
オブジェクト名	オブジェクト型*	説明	操作方法
テキスト	text	テキストオブジェクトは、テキストや数値を配置する場合に使用するオブジェクトです。オブジェクトの内容は、直接テキストや数値を入力するかまたは XML データから取得できます。	操作例 (171 ページ)
画像	image	画像オブジェクトは、画像を配置する場合に使用するオブジェクトです。オブジェクトの内容は、直接画像を入力するかまたは XML データから取得できます。	操作例 (182 ページ)
バーコード	barcode	バーコードオブジェクトは、バーコードを配置する場合に使用するオブジェクトです。オブジェクトの内容は、直接バーコードを入力するかまたは XML データから取得できます。	操作例 (186 ページ)
テーブル	table *	テーブルオブジェクトは、テキスト・画像・バーコードオブジェクトを、表の形にして配置する場合に使用します。	操作例 (190 ページ)
ライン	line	ラインオブジェクトは、垂直線、水平線、斜め線など、単独のラインを配置する場合に使用します。	操作例 (202 ページ)

- [オブジェクト型] は、プロパティとして [プロパティ] ウィンドウに表示され、オブジェクトの種類を意味します。

- テーブルオブジェクトの中には、caption, column-info, table-header, table-footer, table-body, table-row, table-cell の各オブジェクトがあります。

20.2 設定できるプロパティ

プロパティは、レイアウトペイン上で対象となるオブジェクトを選択し、[プロパティ] ウィンドウまたは [プロパティ] メニューで設定できるプロパティを表示し、設定します。

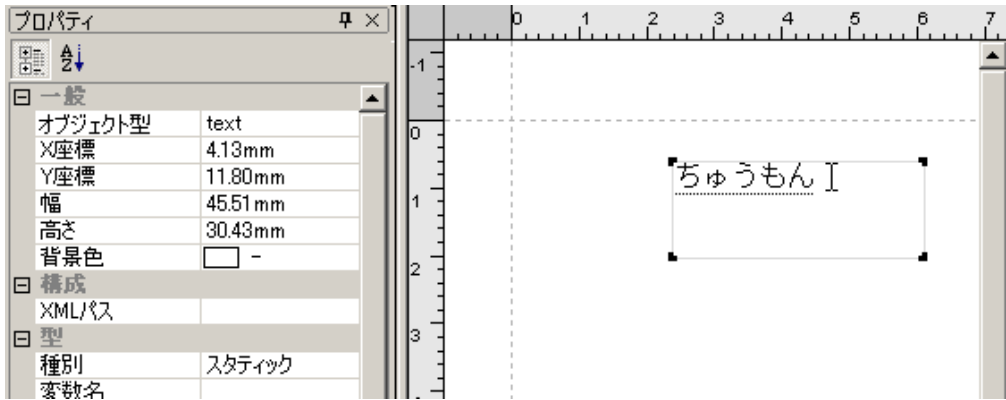


各オブジェクトに対して設定できるプロパティが異なります。以降の説明、および「対応プロパティ一覧」(206 ページ) を参照ください。

20.3 オブジェクト内容の入力

用途に応じて配置された上記のオブジェクトに、オブジェクトの内容を入力していきます。テキスト・画像・バーコードのそれぞれのオブジェクトに内容を入力するには、以下の2つの方法があります。

- XSL Report Designer 上で直接入力する。
レイアウトペイン上のオブジェクトに、直接内容を入力していきます。たとえばテキストオブジェクトをダブルクリックすると、矩形領域の内部にカーソルが移動します。この状態で文字を入力できます。



- XML データから内容を取得して埋め込む。
印刷対象 XML データの要素へのパス（「XML パス」といいます）を設定し、XML データを埋め込みます（次項参照）。

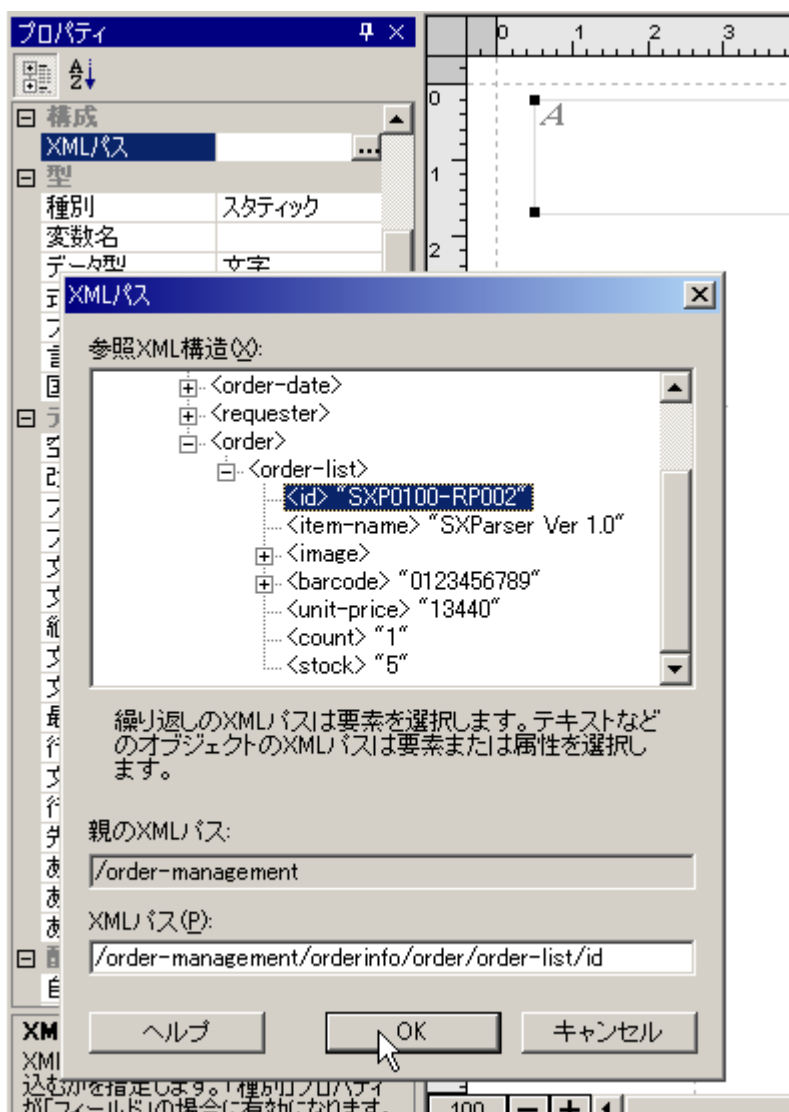
21 XML データから内容を取得するためのプロパティ設定

21.1 XML データ参照のためのプロパティ

オブジェクトの内容に、直接文字列を入力するか、XML データから取得するか、またその場合 XML データのどの要素を取得するか、は以下のプロパティ設定で決定します。

プロパティ名	値	説明
種別	スタティック	XSL Report Designer のレイアウトペイン上で入力された文字/数値・画像・バーコードがそのまま出力されます。
	フィールド	オブジェクトの内容を XML データから取得します。XML データの要素へのパス（「XML パス」といいます）を設定し、その XML パスで指定したデータが埋め込まれます。[オブジェクト型] が、text、image、barcode、caption の場合に設定できます。
XML パス	XML パス	XML データのどの部分をデータとして埋め込むかを指定します。[種別] プロパティが [フィールド] の場合に有効になります。

XML データから内容を取得する場合、[種別] プロパティで [フィールド] を選択し、XML データのどの部分をレポートに取り込むか、を [XML パス] プロパティで指定します。プロパティの [XML パス] をクリックすると、プロジェクト設定で設定された [繰り返し単位の XML パス] の下位要素が表示されるので、ここで、各オブジェクト内に取得したい要素を選択します。



21.2 式を設定する

XML データから取得した内容に対して、計算式を適用してデータ処理したり、あるいは出力形式を整形することができます。式を適用する場合、オブジェクトの変数名プロパティに変数名を設定し、その変数名を使って式を作成します。次のプロパティを設定します。









プロパティ名	値	説明
変数名	任意	オブジェクトに付ける名前を設定します。この名前は、式の中から別のオブジェクトの値を参照する時に使います。
データ型	文字/数値/通貨/日時	テキストデータの型を内容に応じて [文字] [数値] [通貨] [日時] から選択します。
式	組込関数一覧より指定	埋め込むデータを得るために、計算が必要な場合に式を設定します。

フォーマット	Java に準拠 (数値・通貨、日時)	[データ型] プロパティで指定した、[数値]、[通貨] または [日時] の書式を設定します。
言語	言語コードに準拠	フォーマットを決定するのに使用される言語情報を設定します。
国	国コードに準拠	フォーマットを決定するのに使用される国情報を設定します。
属性式	組込関数一覧より指定	動的に属性の変更が必要な場合に属性式を設定します。

式を設定することにより、複雑な数式や、また日付やページ番号を自動で挿入することが簡単に設定できます。設定できる式については、「組込関数一覧」(218 ページ) を参照ください。

式の使用例

ご注文明細

製品名	製品イメージ	バーコード	単価	数量	合計
SXParser Ver 1.0		■■■■	13,440	1	13,440
TagEditor Ver 2.1		■■■■	9,240	3	27,720
SXParser Ver 1.0		■■■■	13,440	1	13,440
SXParser Ver 1.0		■■■■	13,440	1	13,440
XSL Formatter Ver 1.0		■■■■	207,900	2	415,800
SXParser Ver 1.0		■■■■	13,440	1	13,440
TagEditor Ver 2.1		■■■■	9,240	3	27,720
XSL Formatter Ver 1.0		■■■■	207,900	2	415,800
総合計				14	940,800

上の表は、数式を使って、表示方法や計算式を入力しています。たとえば、単価のセルのプロパティには、変数名やフォーマットが指定されています。

構成

XMLパス unit-price

型

種別 フィールド

変数名 unit_price

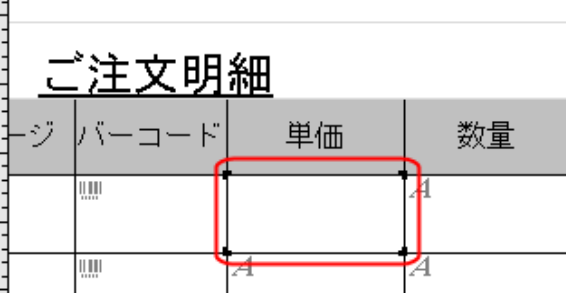
データ型 通貨

式

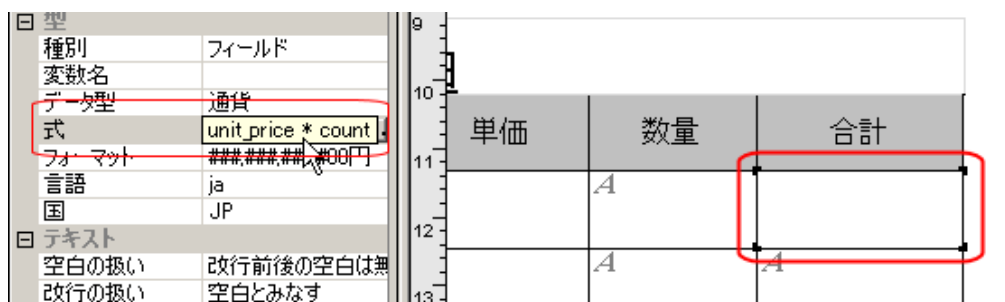
フォーマット ###,###,##00円 ...

言語 ja

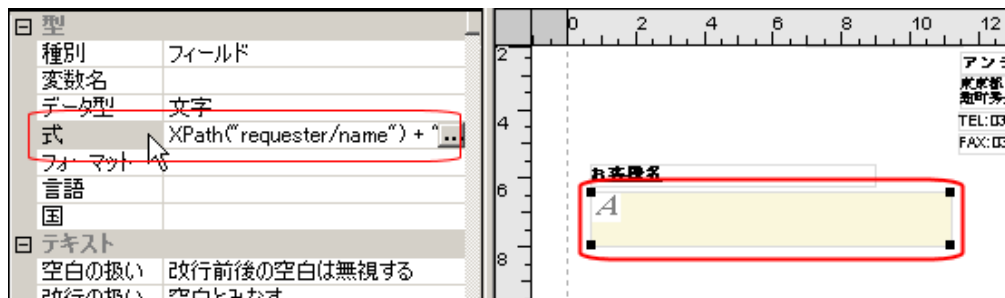
国 jp



また、合計のセルのプロパティは、単価と数量に指定された変数名を式で指定して合計を表示しています。

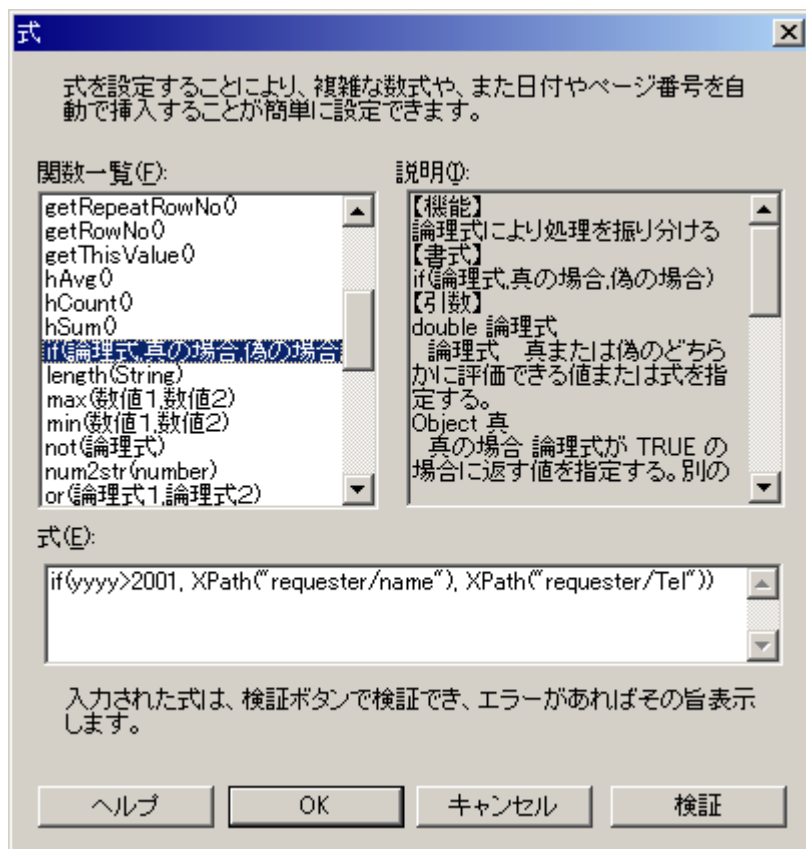


以下では、XPath 関数が使用されています。

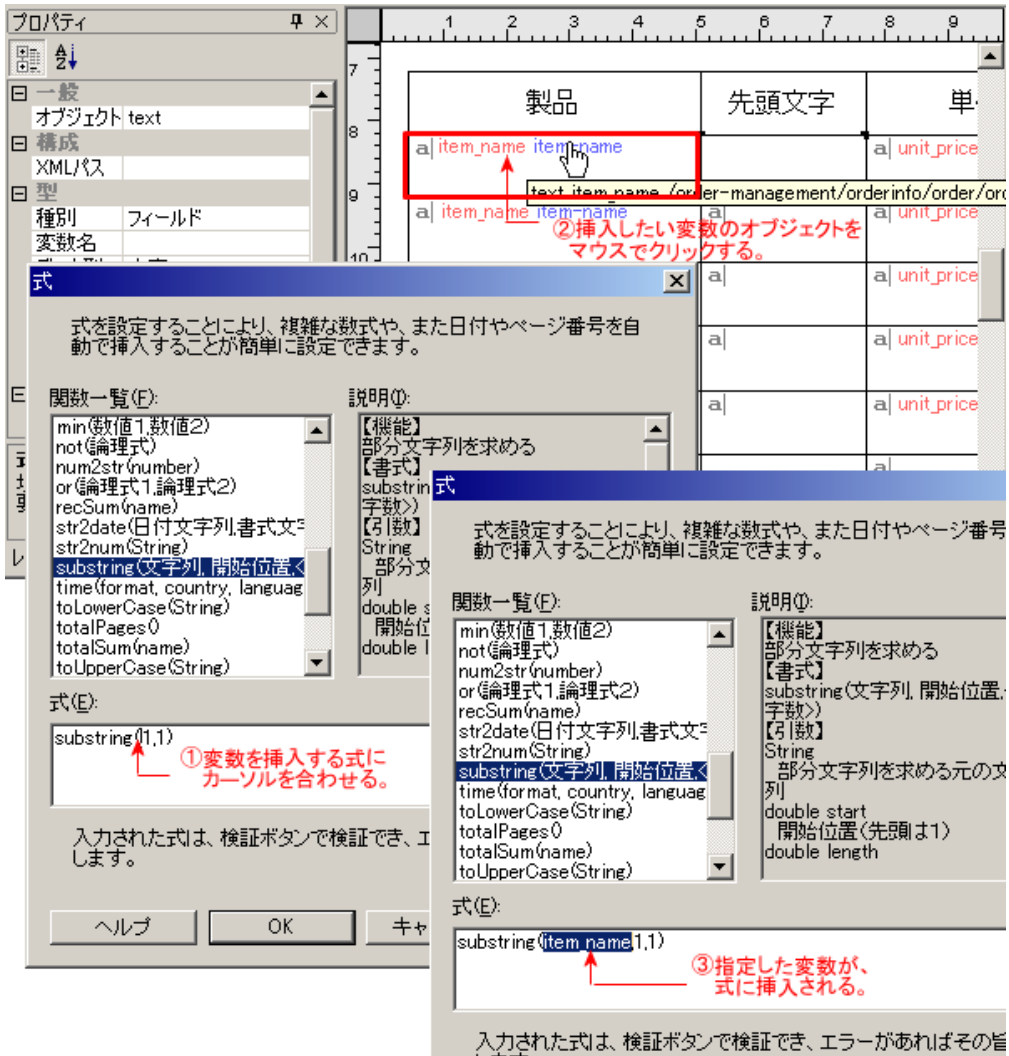


式の入力方法

[プロパティ] ウィンドウで [式] をクリックすると開く以下のダイアログで、式の入力方法を説明しています。入力された式は、[検証] ボタンで検証でき、エラーがあれば表示します。



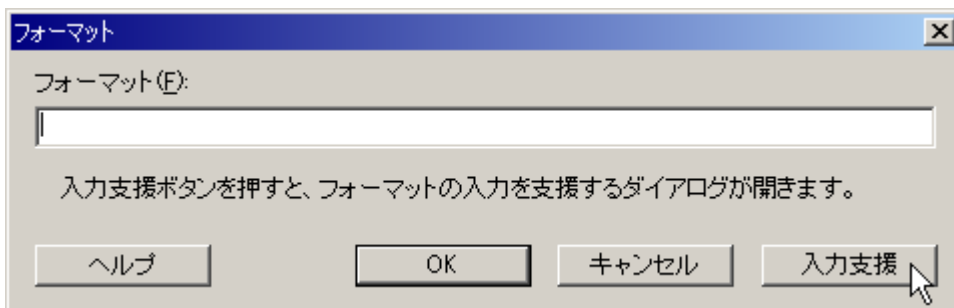
また、式のダイアログを開き、挿入したい変数名のオブジェクトをクリックするだけで、式に変数を設定することができます。



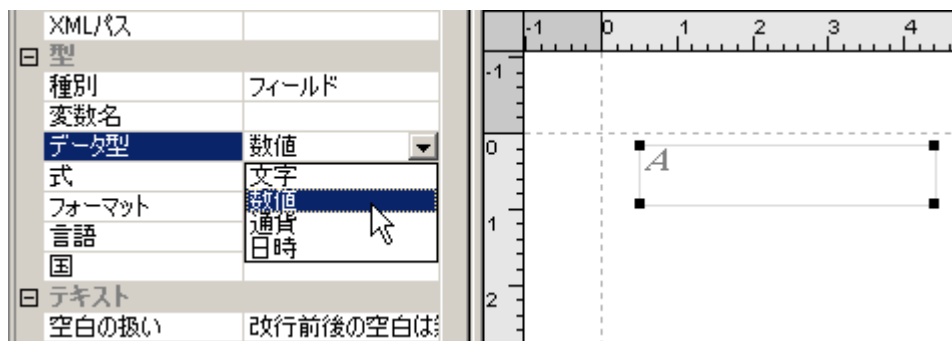
同様に、XML パスを式に挿入することも可能です。

フォーマットの入力支援

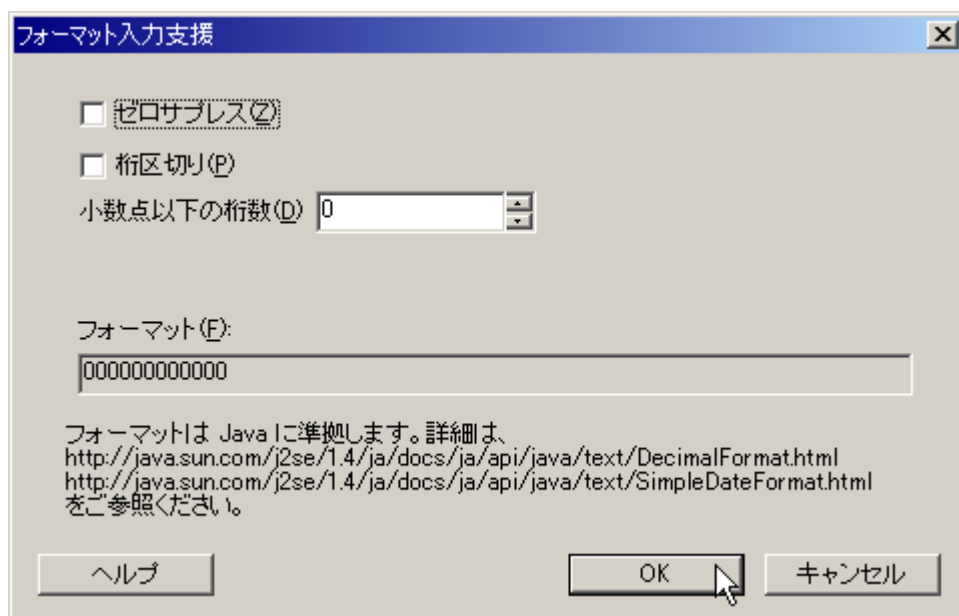
[プロパティ] ウィンドウで [フォーマット] をクリックすると開く以下のダイアログが開きます。[入力支援] ボタンを押すと、フォーマットの入力を支援するダイアログが開きます。



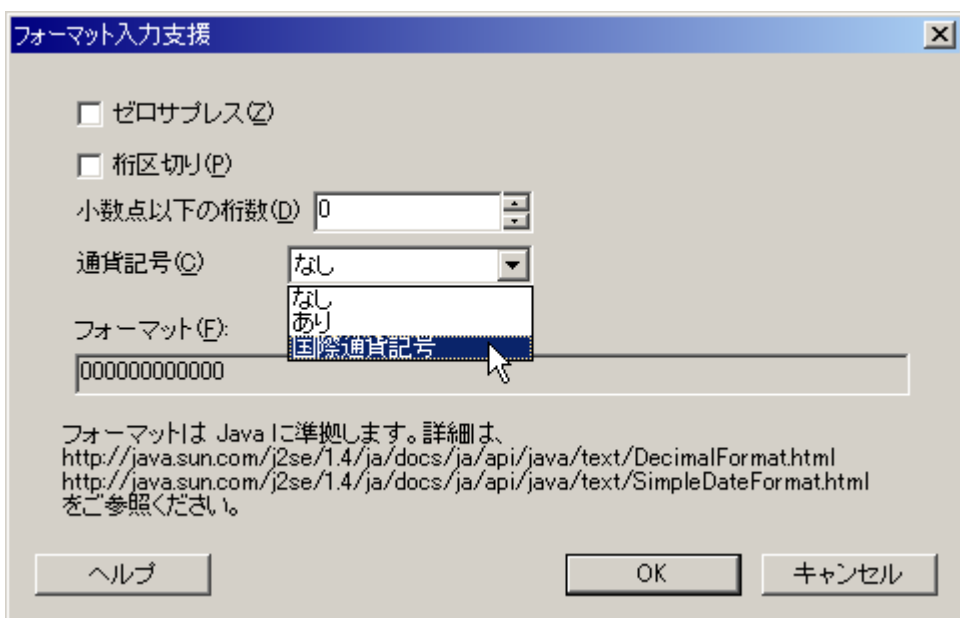
フォーマット入力支援のダイアログは、選択される [データ型] に依って異なります。 [データ型] が [文字] の場合には、フォーマットの指定はできません。



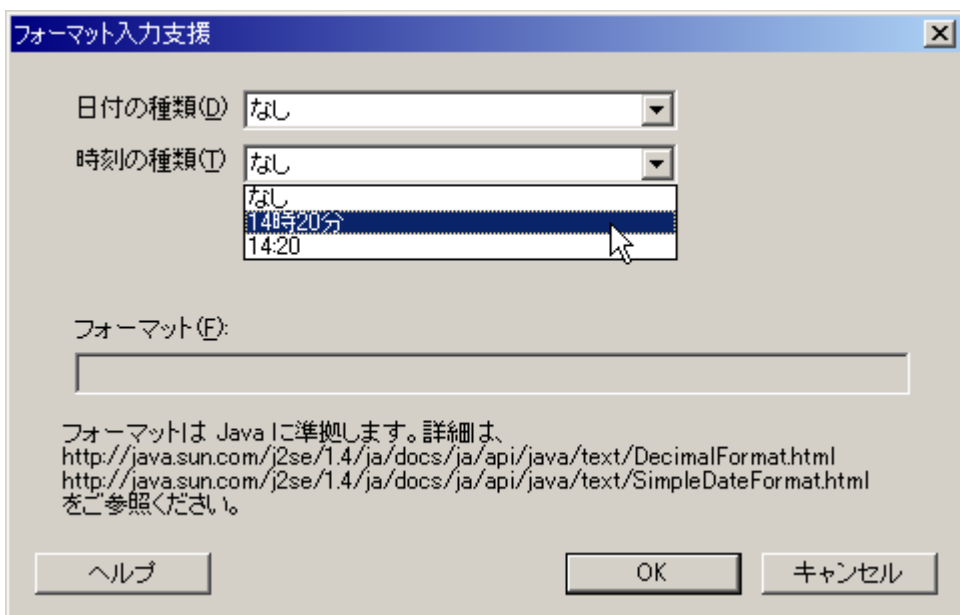
[データ型] が [数値] の場合



[データ型] が [通貨] の場合



[データ型] が [日時] の場合



フォーマットについて

フォーマットは Java に準拠します。詳細は、
 クラス `DecimalFormat` (数値・通貨)、クラス `SimpleDateFormat` (日時) を参照ください。

データ型	フォーマット	
数値・通貨	0	数字
	#	数字。0 の場合は表示しません。
	.	数値桁区切り子または通貨桁区切り子
	-	マイナス記号

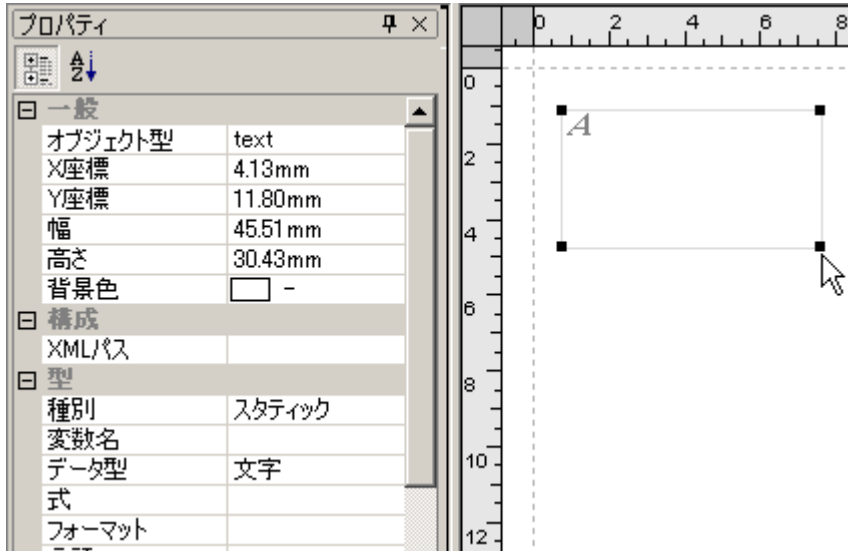
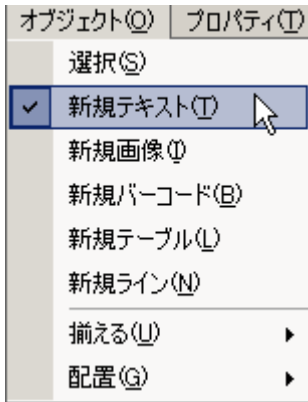
	,	グループ区切り子
	E	化学表記法の仮数と指数を区切ります。
	%	100 倍してパーセントを表します。
	u+2030	1000 倍してパーミルを表します。
	u+00a4	通貨記号で置換される通貨符号。2 つの場合は国際通貨記号で置換されます。
日時	G	紀元
	y	年
	M	月
	w	年における週
	W	月における週
	D	年における日
	d	月における日
	F	月における曜日
	E	曜日
	a	午前／午後
	H	1 日における時 (0 ~ 23)
	k	1 日における時 (1 ~ 24)
	K	午前／午後するとき (0 ~ 11)
	h	午前／午後するとき (1 ~ 12)
	m	分
	s	秒
	S	ミリ秒
z	一般的なタイムゾーン	
Z	RFC822 タイムゾーン	

言語	ISO 639 に定義される「言語コード」に準拠します。詳細は、 ISO 639/Joint Advisory Committee (ISO 639/JAC) を参照ください。
国	ISO 3166 に定義される「国コード」に準拠します。詳細は、 ISO 3166 Maintenance agency (ISO 3166/MA) - ISO's focal point for country codes をご参照 ください。

22 各オブジェクトのプロパティ設定

22.1 テキストオブジェクト

テキストオブジェクトを配置するには、まず [オブジェクト] メニューの [新規テキスト] を選択し、レイアウトペイン内でマウスを使って、オブジェクト枠を作成します。



オブジェクト枠の左端上に、テキストオブジェクトを意味するマークが表示されます。[種別]が[スタティック]の場合は、**A** が、[フィールド]の場合は、**a** が表示されます。

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	text	オブジェクトの種類は、text です。

一般に関するプロパティ

オブジェクトのサイズや背景色などを設定します。

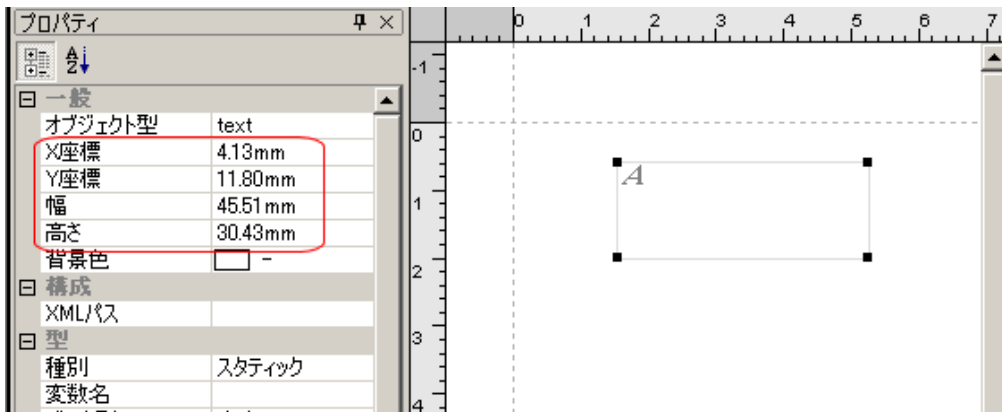
プロパティ名	値	説明
X座標	数値 (単位は mm/in/pt)	オブジェクトの X 座標を設定します。ページ、フレームまたはラベルの左上 (マージンが表示されている場合はマージン) を原点とした座標です。
Y座標	数値 (単位は mm/in/pt)	オブジェクトの Y 座標を設定します。ページ、フレームまたはラベルの左上 (マージンが表示されている場合はマージン) を原点とした座標です。
幅	数値 (単位は mm/in/pt)	オブジェクトの幅を設定します。
高さ	数値 (単位は mm/in/pt)	オブジェクトの高さを設定します。

背景色	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	背景色を設定します。設定した背景色でオブジェクトの矩形領域が塗りつぶされます。
-----	------------------------------------	---

レイアウトペイン内で、マウスを使って、オブジェクトを配置する位置と、そのサイズを決めることができます。カーソルをマウスでドラッグしたオブジェクト領域の、X 座標/Y 座標/幅/高さの値が自動的に入力されますが、任意の数値を入力することもできます。

また、テキストオブジェクト領域の背景に色をつけることができます。

オブジェクトのサイズの設定例



背景色の設定例



構成に関するプロパティ

XML データから内容を取得する際に、XML パスを指定します。

プロパティ名	値	説明
XML パス	印刷対象 XML データの要素へのパス	XML データのどの部分をデータとして埋め込むかを指定します。[種別] プロパティが [フィールド] の場合に有効になります。

XML パスの具体的な入力は、「XML データ参照のためのプロパティ」(164 ページ) を参照ください。

型に関するプロパティ

オブジェクトの種別や式の設定など、オブジェクトの型に関するプロパティを設定します。

プロパティ名	値	説明
種別	フィールド/ スタティック	テキストオブジェクト内のデータの種別を [フィールド] と [スタティック] から選択します。 [フィールド] に設定すると、XML パスで指定したデータが埋め込まれます。
変数名	任意	オブジェクトに付ける名前を設定します。この名前は、式の中から別のオブジェクトの値を参照する時に使います。
データ型	文字/数値/通貨/ 日時	テキストデータの型を [文字] [数値] [通貨] [日時] から選択します。
式	組込関数一覧より 指定	埋め込むデータを得るために、計算が必要な場合に式を設定します。
フォーマット	Java に準拠 (数値・通貨、 日時)	[データ型] プロパティで指定した、[数値]、[通貨] または [日時] の書式を設定します。
言語	言語コードに準拠	フォーマットを決定するのに使用される言語情報を設定します。
国	国コードに準拠	フォーマットを決定するのに使用される国情報を設定します。

式の具体的な入力は、「式を設定する」 [\(165 ページ\)](#) を参照ください。

テキストに関するプロパティ

オブジェクト内のテキストの文字修飾や、オブジェクト内での文字の配置、改行の扱いなどを指定するプロパティです。

プロパティ名	値	説明
空白の扱い	無視する/ 空白とみなす/ 改行前の空白は無視する/ 改行後の空白は無視する/ 改行前後の空白は無視する	[無視する] は空白コードを無いものとして扱います。 [空白とみなす] は空白コード位置に空白を入れます。 [改行前の空白は無視する] は改行コード前の空白は無いものとして扱います。 [改行後の空白は無視する] は改行コード後の空白は無いものとして扱います。 [改行前後の空白は無視する] は改行コード前後の空白は無いものとして扱います。
改行の扱い	無視する/ 改行とみなす/ 空白とみなす/ 幅のない空白とみなす	[無視する] は改行コードを無いものとして扱います。 [改行とみなす] は改行コード位置で改行を行います。 [空白とみなす] は改行コードを空白として扱います。 [幅のない空白とみなす] は改行コードを幅のない空白として扱います。
フォント	一覧から選択	フォント名を、[フォント設定] ダイアログで設定します。このダイアログで設定した各値は、[フォントサイズ]、[文字スタイル]、[文字飾り] プロパティにも反映されます。

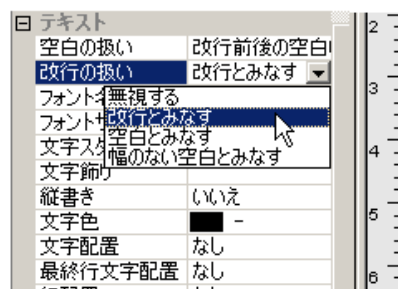
ト名		
フォントサイズ	数値（単位は pt）	フォントサイズを設定します。
文字スタイル	一覧から選択	文字スタイルを、[フォント設定] ダイアログで設定します。
文字飾り	一覧から選択	文字飾りを、[フォント設定] ダイアログで設定します。
縦書き	はい/いいえ	[はい] は縦書きにします。
文字色	#で始まる 16 進 RGB 値または <u>W3C の規定する色の名前</u> 。	文字色を設定します。
文字配置	左/右/中央/均等	オブジェクトの矩形領域の水平方向にどのように文字を配置するかを設定します。
最終行文字配置	左/右/中央/均等	最終行の [文字配置] を設定します。
行配置	上/中央/下	オブジェクトの矩形領域の垂直方向にどのように文字を配置するかを設定します。
文字スペーシング	数値（単位は mm/in/pt）	文字の間隔を設定します。
行の高さ	数値（単位は mm/in/pt）	行の高さを設定します。

先頭行インデント	数値（単位は mm/in/pt）	先頭行のインデント量を設定します。
あふれ時処理	クリッピングして隠す/ 置き換える/ 詰め込む	テキストが表示領域を越えてしまった場合の処理を設定します。〔自動的に伸びる〕プロパティが〔いいえ〕に設定されている場合のみ有効です。〔クリッピングして隠す〕はあふれた部分は印刷されません。〔置き換える〕は〔あふれ時置換文字列〕に設定された文字列を印刷します。この文字列が領域いっぱいになるまで繰り返し埋められます。〔詰め込む〕〔あふれ時詰め込み処理方法〕に設定された方法で詰め込まれます。
あふれ時置換文字列	任意	〔あふれ時処理〕が〔置き換える〕の場合の置き換え文字を設定します。
あふれ時詰め込み処理方法	フォントサイズを調整/ 文字間を調整/ 単語間を調整/ フォントの幅を調整/ 行の高さを調整/ 自動	〔あふれ時処理〕が〔詰め込む〕の場合の処理を設定します。〔フォントサイズを調整〕はフォントサイズを調整して詰めます。〔文字間を調整〕は文字間を調整して詰めます。〔単語間を調整〕は単語間を調整して詰めます。〔フォントの幅を調整〕はフォントの幅を調整して詰めます。〔行の高さを調整〕は行の高さを調整して詰めます。〔自動〕はシステムの既定値に依存します。

具体的なサンプルをあげて説明します。

枠内での空白や改行の扱いを指定する

枠内での改行や空白をどのように扱うかを指定できます。



アンテナハウス株式会社は、
1984年8月設立以来、
多種多様なデータ間の壁を乗り越える、
文書変換ソフト開発で、確かな地位を、
確立してきました。
1996年より、SGMLプロジェクトを開始、
2000年末より「XSL Formatter」を発売し、
現在、世界中の市場から、
その技術に注目を集めています。

↓
Formatterで表示

「空白とみなす」にした場合

アンテナハウス株式会社は、 1984年8月設立以来、
多種多様なデータ間の壁を乗り越える、 文書変換ソ
フト開発で、 確かな地位を、 確立してきました。
1996年より、SGMLプロジェクトを開始、 2000年末よ
り「XSL Formatter」を発売し、 現在、世界中の市場
から、 その技術に注目を集めています。

「改行とみなす」にした場合

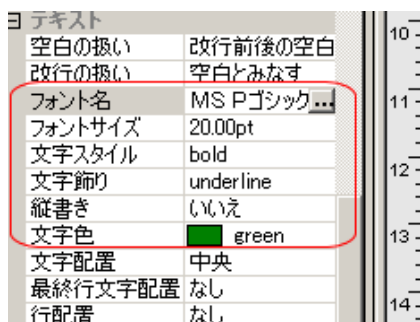
アンテナハウス株式会社は、
1984年8月設立以来、
多種多様なデータ間の壁を乗り越える、
文書変換ソフト開発で、確かな地位を、
確立してきました。
1996年より、SGMLプロジェクトを開始、
2000年末より「XSL Formatter」を発売し、
現在、世界中の市場から、
その技術に注目を集めています。

文字を修飾する

レイアウトペインでテキストオブジェクトを選択した状態で、[プロパティ] ウィンドウの該当プロパティをクリックすると、[フォント] ダイアログが開きます。文字のフォントや、サイズ、飾りなどを設定します。

また、文字色をクリックすると [文字色] ダイアログが開くので、色を設定します。

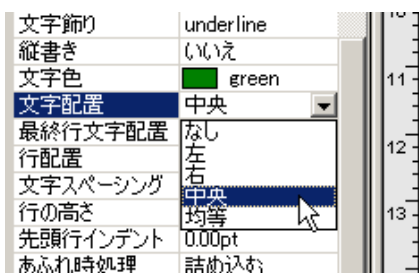
セル内の文字を修飾する場合は、オブジェクト型で table-cell を選択して行います。



注文書

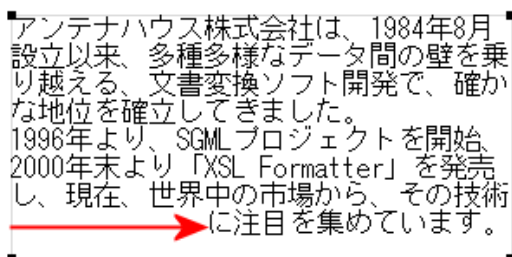
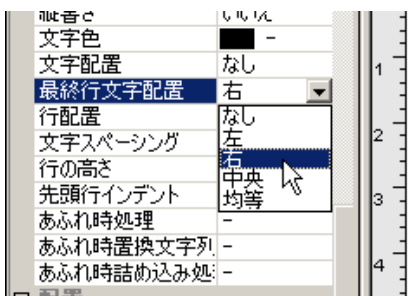
文字を中央や右に寄せる

オブジェクトの矩形領域の水平方向にどのように文字を配置するかを設定します。



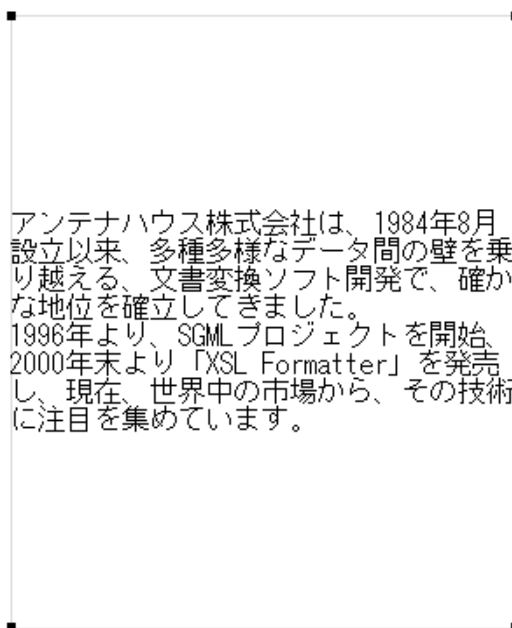
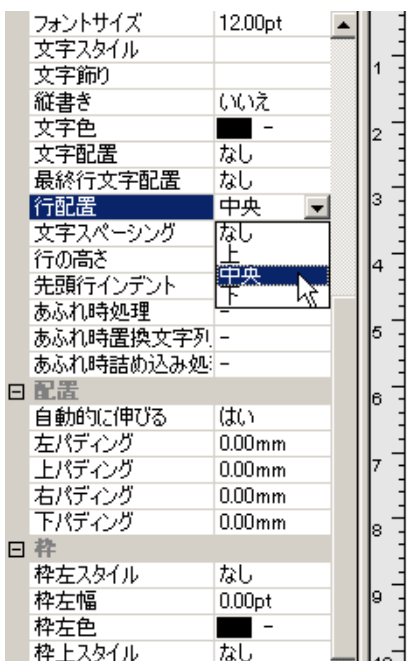
最終行の文字の配置を調整する

最終行の文字の配置を設定できます。



行の配置を指定する

テキストエリア内で、行の配置を指定できます。



文字と文字の間を開ける

文字と文字の間隔を設定します。

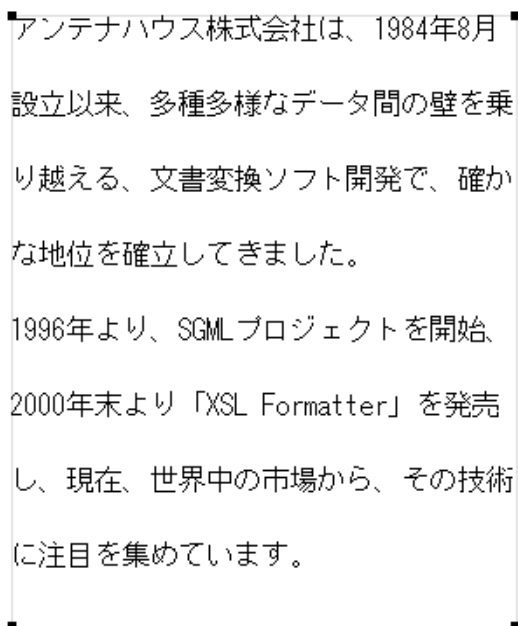
文字色	■ green
文字配置	中央
最終行文字配置	なし
行配置	なし
文字スペーシング	2.00pt
行の高さ	0.00pt
先頭行インデント	0.00pt
あふれ時処理	詰め込む
あふれ時置換文字列	
あふれ時詰め込み	フォントサイズを調



行の高さを指定する

テキストエリア内で、行の高さ設定します。

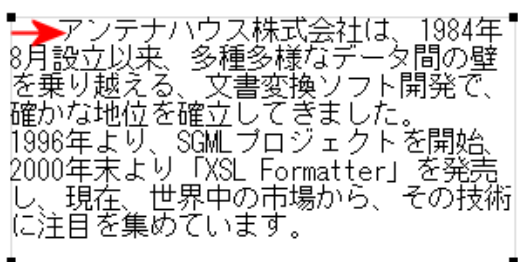
フォントサイズ	12.00pt
文字スタイル	
文字飾り	
縦書き	いいえ
文字色	■ -
文字配置	なし
最終行文字配置	なし
行配置	なし
文字スペーシング	0.00pt
行の高さ	20.00mm
先頭行インデント	0.00pt
あふれ時処理	-
あふれ時置換文字列	-
あふれ時詰め込み	-
□ 配置	
自動的に伸びる	(はい)
左パディング	0.00mm
上パディング	0.00mm
右パディング	0.00mm
下パディング	0.00mm
□ 枠	
枠左スタイル	なし
枠左幅	0.00pt
枠左色	■ -
枠上スタイル	なし
枠上幅	0.00pt



先頭行をインデントする

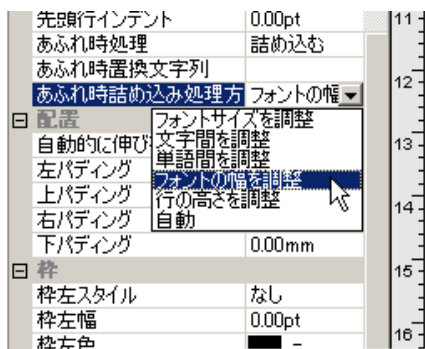
先頭行にインデントを設定できます。

最終行文字配置	右
行配置	中央
文字スペーシング	0.00pt
行の高さ	20.00mm
先頭行インデント	20.00pt
あふれ時処理	-
あふれ時置換文字列	-
あふれ時詰め込み	-
□ 配置	
自動的に伸びる	(はい)
左パディング	0.00mm
上パディング	0.00mm
右パディング	0.00mm
下パディング	0.00mm



オブジェクト領域に収まらない場合の処理

オブジェクトのサイズより、中の文字列の長さの方が長かった場合など、文字があふれる時の処理のしかたを指定できます。



Formatterで表示

アンテナハウス株式会社は、1984年8月設立以来、多種多様なデータ間の壁を乗り越える、文書変換ソフト開発で、確かな地位を確立してきました。1996年より、SGMLプロジェクトを開始。2000年より「XML Formatter」を発表し、現在、世界の市場から、その技術に注目を集めています。



配置に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
自動的に伸びる	はい/いいえ	[[はい] を指定すると、データ量に応じてオブジェクトが伸びます。
上/下/左/右パディング	数値 (単位は mm/in/pt)	オブジェクトの矩形領域の上端/下端/左端/右端とテキストとの空間の量を設定します。

枠線と中の文字の間隔を開ける

オブジェクトの矩形領域の上下左右端と、テキストとの空間の量を設定します。



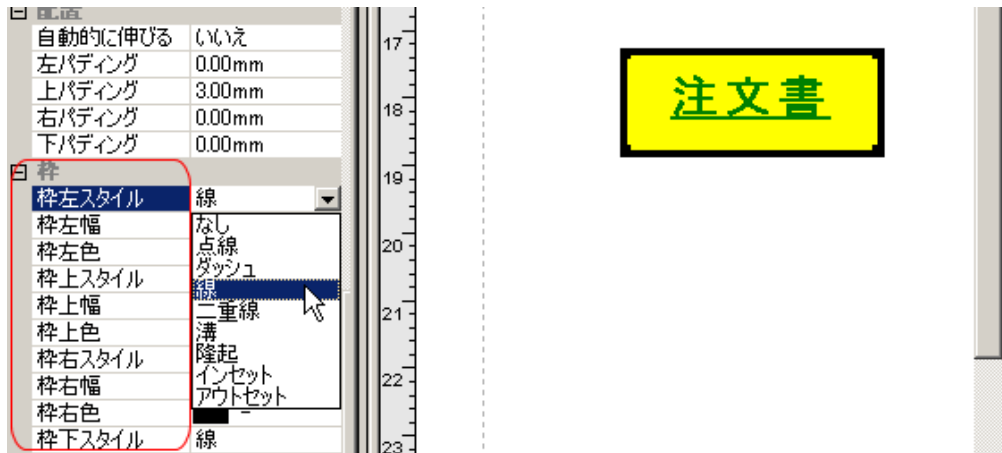
枠に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
枠 (上/下/左/右) スタイル	なし/点線/ダッシュ/線/ 二重線/溝/隆起/ インセット/アウトセット	各枠のスタイルを個別に設定します。
対角線/逆対角線スタイル		対角線/逆対角線のスタイルを設定します。
枠 (上/下/左/右) 幅	数値 (単位は mm/in/pt)	各枠線の幅を個別に設定します。

対角線/逆対角線幅		対角線/逆対角線の幅を設定します。
枠(上/下/左/右)色	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	各枠の色を個別に設定します。
対角線/逆対角線色		対角線/逆対角線の色を設定します。

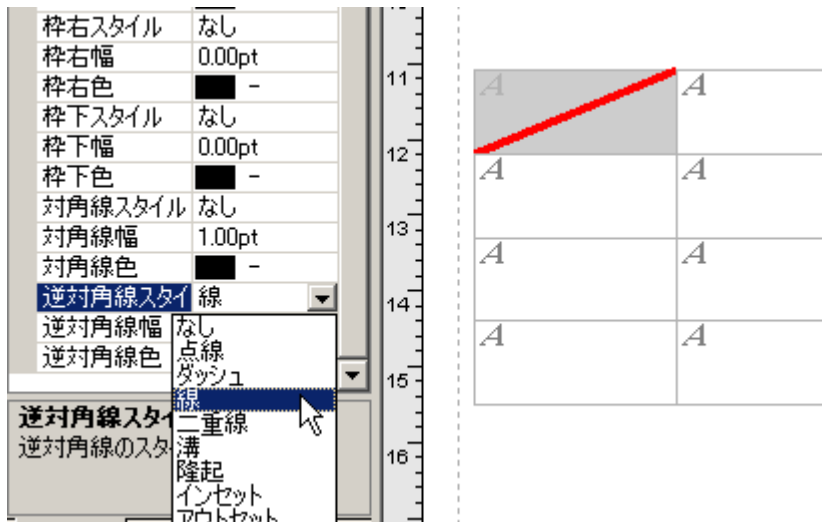
枠線を指定する

テキストオブジェクトの枠に、線を引いたり、線の色や形を指定します。ただし、テーブル内（セル内）のテキストオブジェクトではこの設定はできません。



対角線を引く

オブジェクト内に、対角線（逆対角線）を引いたり、線の色や形を指定します。



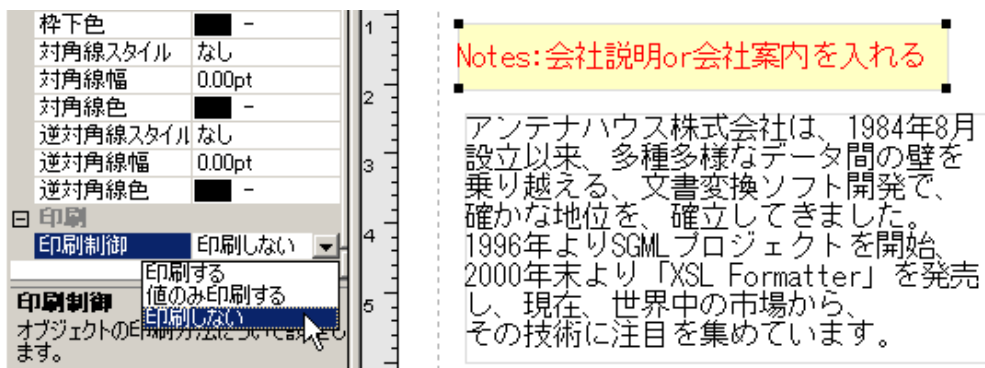
なお、対角線、逆対角線の画面表示、印刷、PDF 出力については、[Antenna House XSL Formatter V3.2](#) 以上が必要です。

印刷に関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
印刷制御	印刷する/ 値のみ印刷する/ 印刷しない	入力されているオブジェクトの印刷を制御します。[印刷する]は設定どおりに印刷を行います。[値のみ印刷する]は枠は印刷せず、値のみ印刷を行います。市販の帳票のように、すでに枠などが描かれていて、データだけ印刷したいときになどに設定します。[印刷しない]設定に関わらず印刷を行いません。

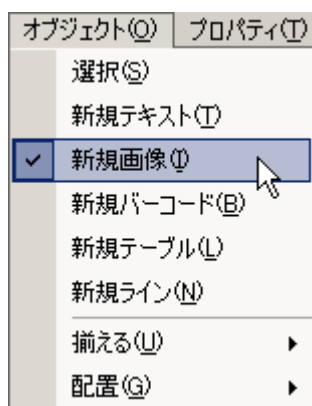
印刷を制御する

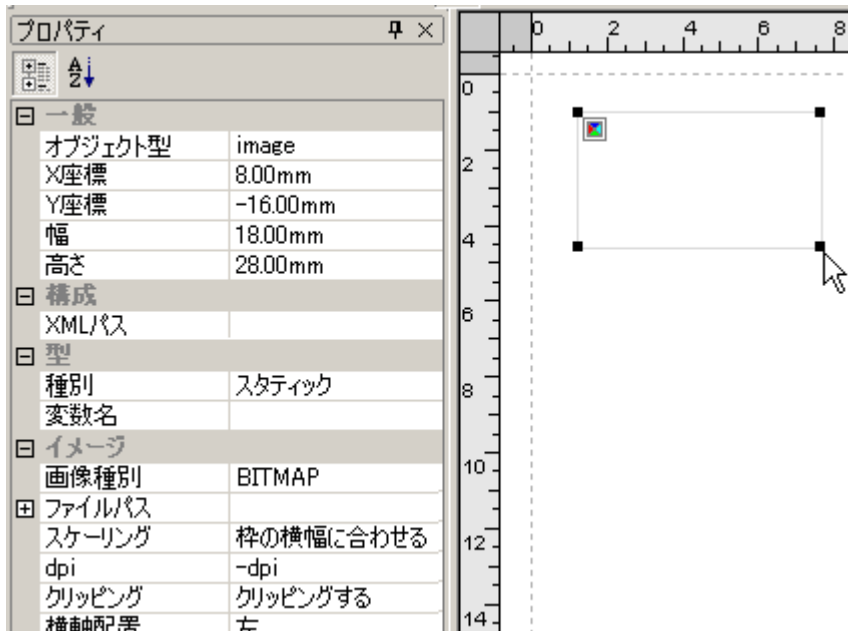
たとえばメモやノートなどの枠を、印刷しないように設定できます。以下の黄色い枠部分は XSL-FO に出力されません。




22.2 画像オブジェクト

画像オブジェクトを配置するには、[オブジェクト]メニューの、[新規画像]を選択し、レイアウトペイン内でマウスを使って、オブジェクト枠を作成します。





オブジェクト枠の左端上に、画像オブジェクトを意味するマーク  が表示されます。なお、画像の編集はできません。

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	image	オブジェクトの種類は、image です。

一般に関するプロパティ

レイアウトペイン内で、マウスを使って、オブジェクトを配置する位置と、そのサイズを決めることができます。

参照：一般に関するプロパティ [\(172 ページ\)](#)

画像オブジェクトには、背景色プロパティは設定できません。

構成に関するプロパティ

XML データから内容を取得する際に、XML パスを指定します。

参照：構成に関するプロパティ [\(173 ページ\)](#)

また、XML パスの具体的な入力は、「XML データ参照のためのプロパティ」 [\(164 ページ\)](#) を参照ください。

型に関するプロパティ

オブジェクトの種別を設定します。

プロパティ名	値	説明
種別	フィールド/ スタティック	画像オブジェクト内のデータの種別を [フィールド] と [スタティック] から選択します。 [フィールド] に設定すると、XML パスで指定したデータが埋め込まれます。

	スタティック	
変数名	任意	オブジェクトに付ける名前を設定します。この名前は、式の中から別のオブジェクトの値を参照する時に使います。

イメージに関するプロパティ

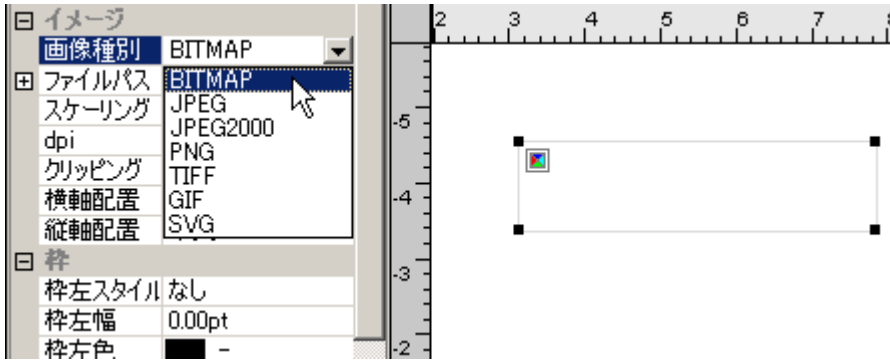
プロパティ名	値	説明
画像種別	BITMAP/JPEG/JPEG2000/PNG/TIFF/GIF/SVG	画像の種別を [BITMAP] [JPEG] [JPEG2000] [PNG] [TIFF] [GIF] [SVG] から選択します。
ファイルパス	画像ファイルへのパス	[スタティック] な画像のときに画像ファイルのパスを設定します。
フルパス保存	はい/いいえ	フルパスで保存するかどうかを設定します。[いいえ] の場合は相対パスでの保存となります。
スケールリング	枠の横幅に合わせる/ 枠の縦幅に合わせる/ 枠と同じにする/ 画像データで指定された大きさ/ 指定 dpi に合わせる/	画像をどのように伸縮して置くかを設定します。[枠の横幅に合わせる] は縦横比を保持して枠の横幅に合わせます。[枠の縦幅に合わせる] は縦横比を保持して枠の縦幅に合わせます。[枠と同じにする] は縦横比を無視して枠と同じにします。[画像データで指定された大きさ] は画像データで指定された大きさにします。(ベクターグラフィックのみ) [指定 dpi に合わせる] は指定 dpi に合わせます。(ラスタグラフィックのみ)
dpi	数値	[スケールリング] が [指定 dpi に合わせる] の場合の、dpi 値を設定します。
クリッピング	クリッピングする/ クリッピングしない/ 枠を画像のサイズと同じにする/	クリッピング (枠の外にはみ出さないようにする) するかどうかを設定します。[クリッピングする] は枠の外にはみ出さないようにします。[クリッピングしない] は枠の外にはみ出します。[枠を画像のサイズと同じにする] は枠を画像のサイズにします。ベクターグラフィックの場合または [スケールリング] を [指定 dpi に合わせる] に設定した場合のみに有効です。
横軸配置	左/右/中央	枠の横軸に対して [左] [右] [中央] のどこに配置するかを設定します。
縦軸	上/下/中央	枠の横軸に対して [左] [右] [中央] のどこに配置するかを設定します。

配置	
----	--

幾つかのサンプルをあげて説明します。

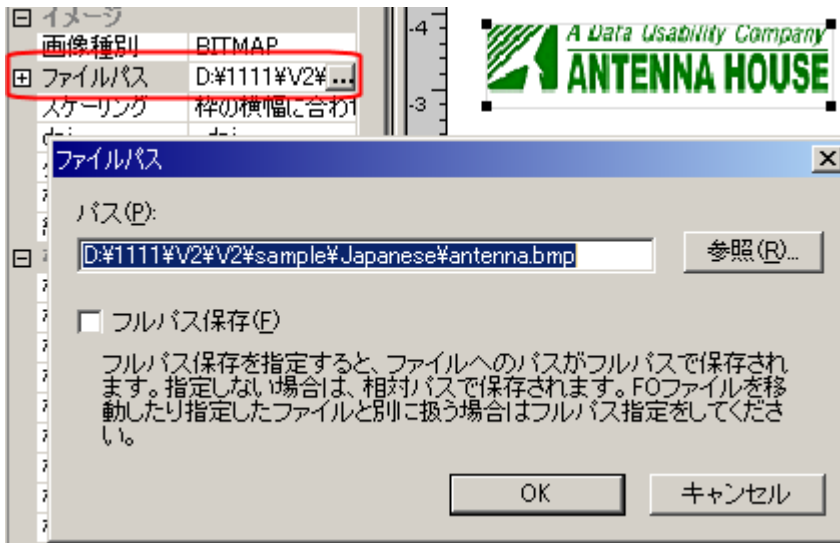
画像の種別を指定する

画像の種別を指定します。



固定の画像を指定する

種別が [スタティック] な画像の場合、直接画像ファイルのパスを指定することができます。

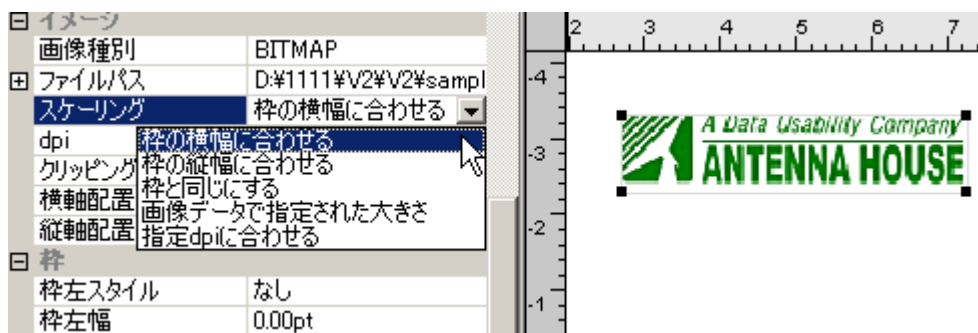


また、ここで [フルパス保存] を指定すると、画像ファイルへのパスがフルパスで保存されます。指定しない場合は、相対パスで保存されます。FO ファイルを移動したり指定した画像ファイルと別に扱う場合はフルパス指定をしてください。

画像とオブジェクト枠

1. 画像とオブジェクト枠の大きさ

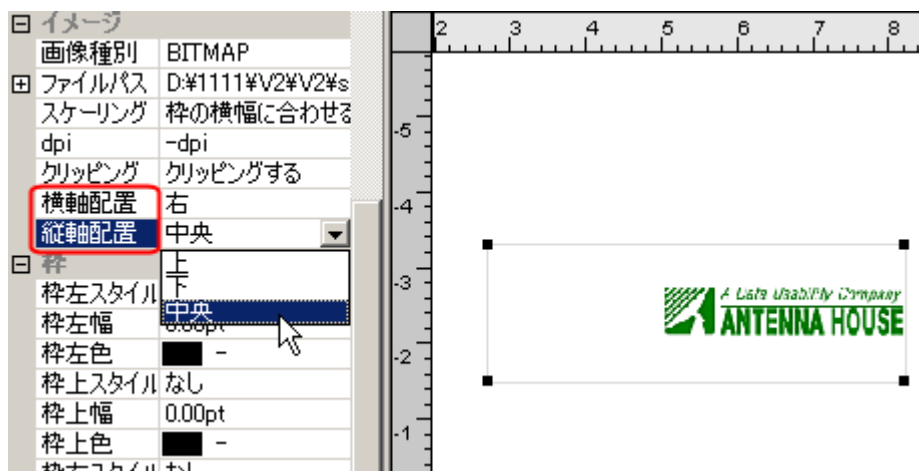
オブジェクト枠内で、画像をどのように伸縮して置くかを設定します。



[指定 dpi に合わせる] を指定した場合は、dpi の値を入力します。また、画像が枠からはみ出す場合、はみ出さないようにする指定を [クリッピングする] で指定します。

2. オブジェクト枠内での画像の位置

オブジェクト枠内で、枠の横軸、縦軸に対して、画像をどの位置に置くかを設定します。



枠に関するプロパティ

オブジェクトの枠に、線を引いたり、線の色や形を指定します。また対角線を引くこともできます。

参照：枠に関するプロパティ (180 ページ)

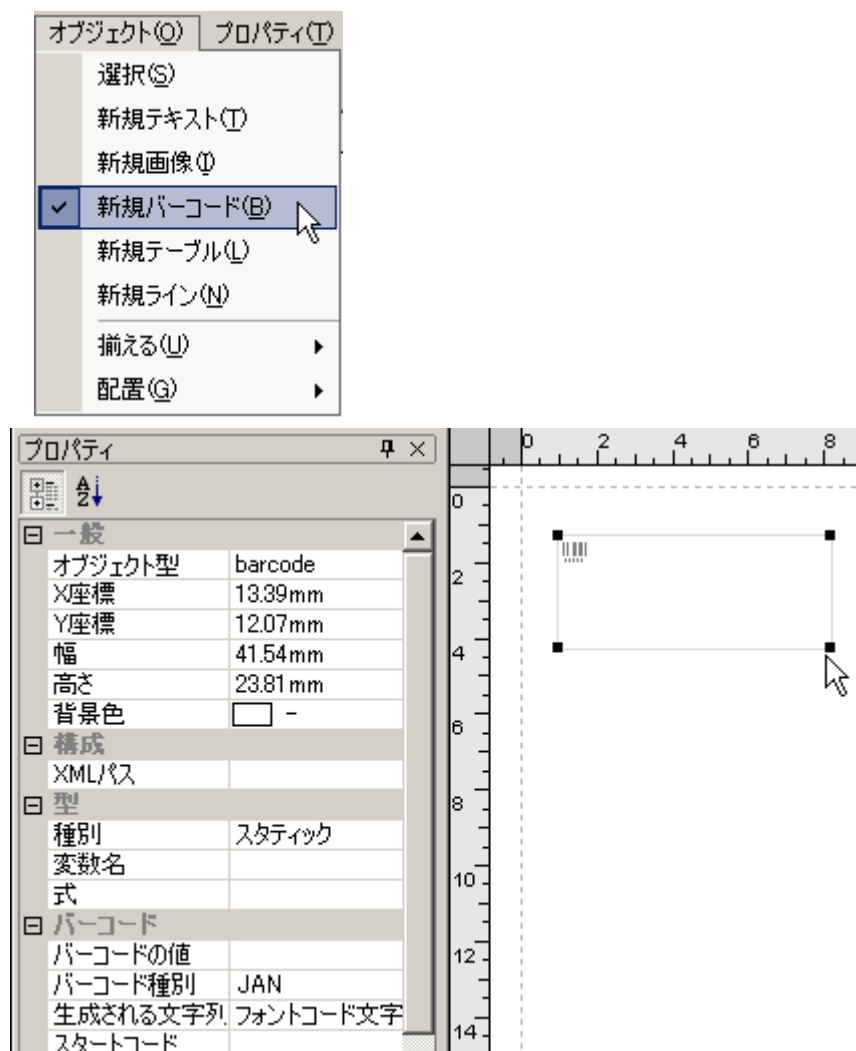
印刷に関するプロパティ


参照：印刷に関するプロパティ (181 ページ)

22.3 バーコードオブジェクト

XSL Report Designer では、バーコードを簡単に印刷できるように、バーコードオブジェクトを用意しています。バーコードオブジェクトを利用するには、弊社の「XSL Formatter バーコードオプション」が必要です。「XSL Formatter バーコードオプション」については、[XSL Formatter バーコードオプション](#)をご覧ください。なお、「XSL Formatter バーコードオプション」は、現在 Windows 版のみ対応しております。

[オブジェクト] メニューの、[新規バーコード] を選択し、レイアウトペイン内でマウスを使って、オブジェクト枠を作成します。



オブジェクト枠の左端上に、バーコードオブジェクトを意味するマーク  が表示されます。

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	barcode	オブジェクトの種類は、barcode です。

一般に関するプロパティ

レイアウトペイン内で、マウスを使って、オブジェクトを配置する位置と、そのサイズを決めることができます。

参照：一般に関するプロパティ (172 ページ)

構成に関するプロパティ

XML データから内容を取得する際に、XML パスを指定します。

参照：構成に関するプロパティ (173 ページ)

また、XML パスの具体的な入力は、「XML データ参照のためのプロパティ」 (164 ページ) を参照ください。

型に関するプロパティ

オブジェクトの種別および変数名と式を設定します。

プロパティ名	値	説明
種別	フィールド/ スタティック	バーコードオブジェクト内のデータの種別を [フィールド] と [スタティック] から選択します。 [フィールド] に設定すると、XML パスで指定したデータが埋め込まれます。
変数名	任意	オブジェクトに付ける名前を設定します。この名前は、式の中から別のオブジェクトの値を参照する時に使います。
式	組込関数一覧より指定	埋め込むデータを得るために、計算が必要な場合に式を設定します。

バーコードに関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
バーコードの値	任意	バーコードとして表示したいデータを指定します。種別が [スタティック] なときのみに有効です。
バーコード種別	CODE39/ CODE128/ CODABAR/ EAN/EAN128/ITF/ JAN/POSTNET/ UPC-A/UPC-E/ その他	バーコードの種別を、[CODE39] [CODE128] [CODABAR] [EAN] [EAN128] [ITF] [JAN] [POSTNET] [UPC-A] [UPC-E] [その他] から選択します。
生成される文字列の種別	フォントコード文字列/ コード値文字列	font-code なら、[フォントコード文字列] を生成します。code-value なら、[コード値文字列] を生成します。コード値文字列は、チェックデジットなどを計算して得られた文字列です。そのままではバーコードの縞模様が正しく出ない場合がありますが、人間がみてわかる数字記号などを表示するためのものです。フォントコード文字列は、フォントさえ正しく設定すれば縞模様が正しく出る文字列です。

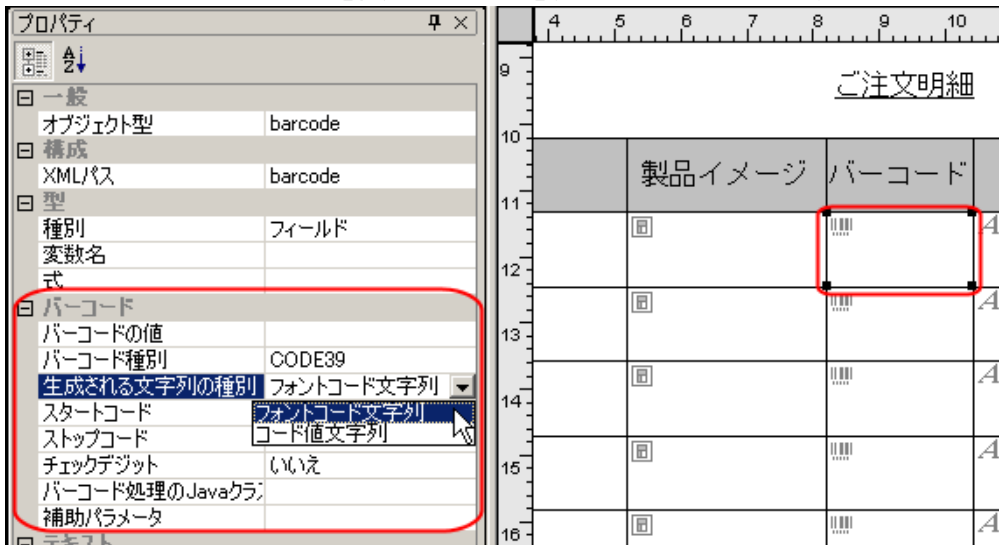
サンプルをあげて説明します。

バーコードを入力する

【バーコードの値】は、バーコードとして表示したいデータを指定します。種別が【スタティック】なバーコードオブジェクトのときのみ指定できます。

【バーコード種別】では、CODE39, JAN など各種バーコードの中から、種別を指定します。

【生成される文字列の種別】は、データから計算してバーコード用文字列を生成するとき、どのような文字列として生成するかを指定します。通常（バーコードフォントを指定して、バーコードの縦縞を出したいとき）は、font-code を指定します。スタートコードなどが付加された生成された文字列そのものを出力したいときは、code-value を指定します。これはデバッグなどに役立ちます。バーコードの縦縞がうまく出ないときは、まず、正しいバーコードフォントを指定しているか、そしてこのプロパティに font-code を指定しているかを、チェックしてください。



以下のプロパティは、バーコードの種別によって、指定が千差万別です。使用するバーコードの仕様をよく調べてから設定してください。弊社 XSL Formatter バーコードオプションを使っている場合、たとえば、EAN コードや JAN コードを使うときは、スタートコードやストップコードを指定しても、EAN コードや JAN コードの仕様に従って無視します。チェックデジットに【いいえ】を設定しても、EAN コードや JAN コードの仕様に従って必ず付け加えます。

プロパティ	説明
スタートコード	バーコードのスタートコードを設定します。
ストップコード	バーコードのストップコードを設定します。バーコードの仕様に応じて、設定します。
チェックデジット	バーコードのチェックデジットの付加するかどうかを設定します。

以下は、「XSL Formatter バーコードオプション」を使っている限り、設定不要のプロパティです。カスタマイズした特別なバーコード処理をしたいときに、システム開発者が利用することを想定したプロパティです。詳細については、弊社までお問い合わせください。

プロパティ	説明
-------	----

バーコード処理の Java クラス名	バーコードを処理する Java の完全クラス名を設定します。
補助パラメータ	バーコードを生成するために使われる補助的パラメータです。用途は使用するバーコードとバーコードを処理するプログラム（バーコード処理の Java クラス名）によって異なります。

テキストに関するプロパティ

オブジェクト内のテキストの文字修飾や、オブジェクト内での文字の配置、改行の扱いなどを指定するプロパティです。

プロパティ名	値	説明
フォント名	一覧から選択	フォント名を、[フォント設定] ダイアログで設定します。このダイアログで設定した各値は、[フォントサイズ]、[文字スタイル]、[文字飾り] プロパティにも反映されます。
フォントサイズ	数値（単位は pt）	フォントサイズを設定します。
縦書き	はい/いいえ	[[はい] は縦書きにします。
文字色	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	文字色を設定します。
文字配置	なし/左/右/中央/均等	オブジェクトの矩形領域の水平方向にどのように文字を配置するかを設定します。
行配置	なし/上/中央/下	オブジェクトの矩形領域の垂直方向にどのように文字を配置するかを設定します。

枠に関するプロパティ

オブジェクトの枠に、線を引いたり、線の色や形を指定します。また対角線を引くこともできます。

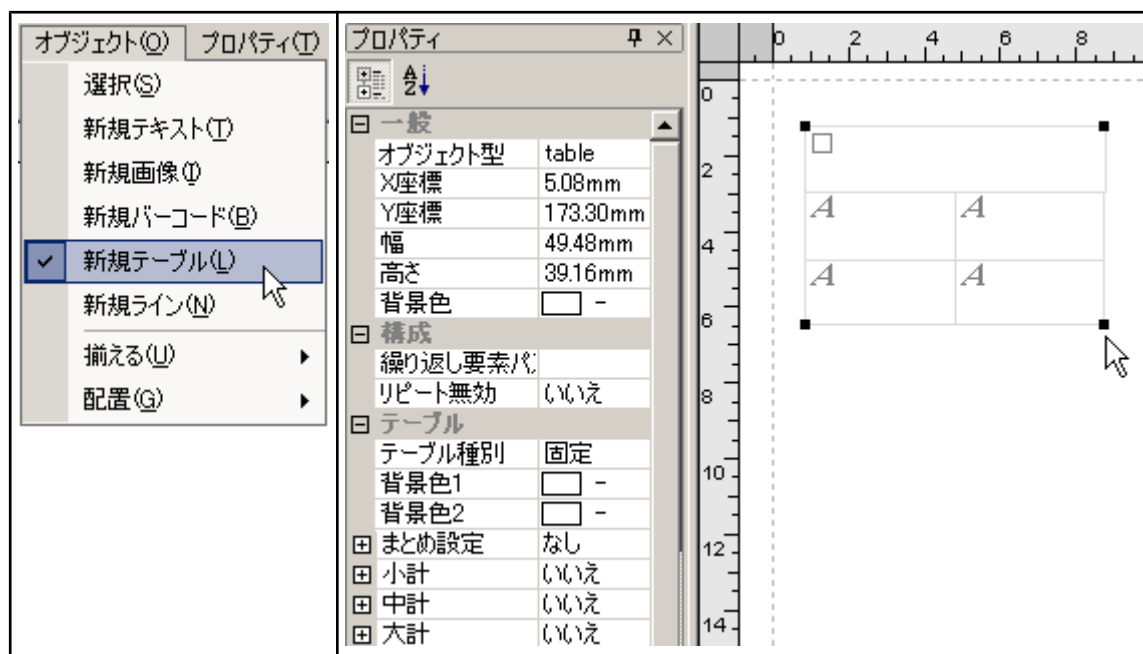
参照：枠に関するプロパティ [\(180 ページ\)](#)

印刷に関するプロパティ

参照：印刷に関するプロパティ [\(181 ページ\)](#)

22.4 テーブルオブジェクト

テーブルオブジェクトを配置するには、[オブジェクト] メニューの、[新規テーブル] を選択し、レイアウトペイン内でマウスを使って、オブジェクト枠を作成すると、新規テーブルの [テーブル設定] ダイアログが表示されるので、各種設定を行います。

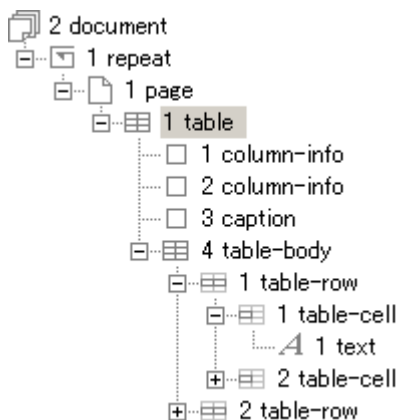


[テーブル設定] ダイアログで指定された行数・カラム数のテーブルが表示されます。セル内の初期オブジェクトはテキストオブジェクトになります。

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	table	オブジェクトの種類は、table です。

テーブル内のオブジェクト

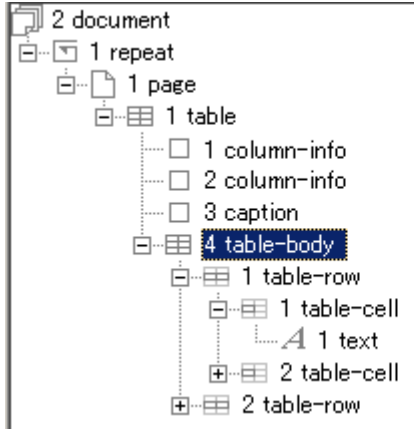
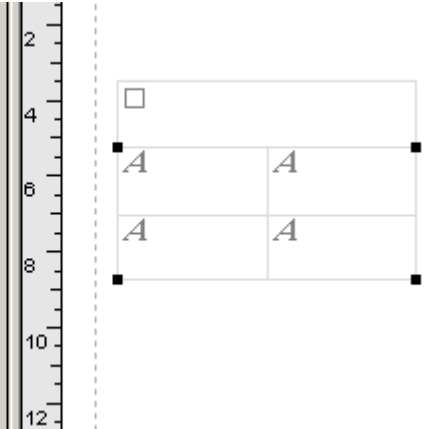
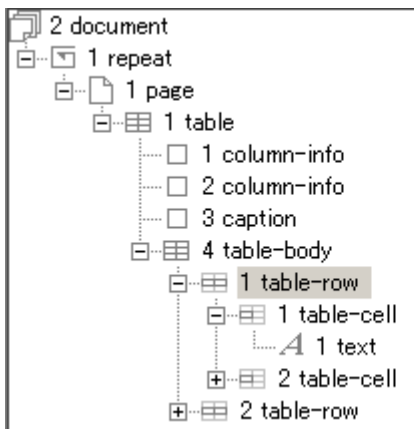
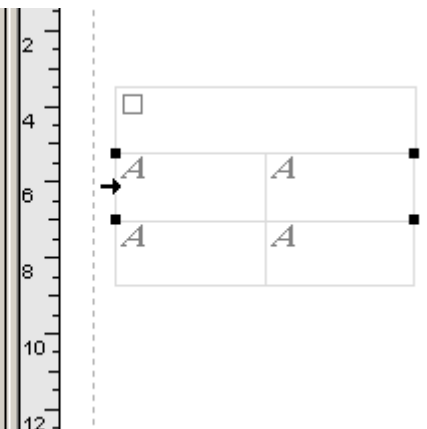
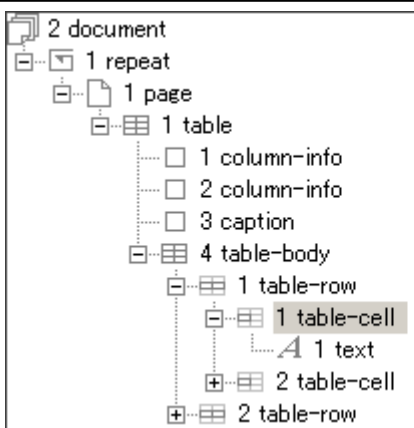
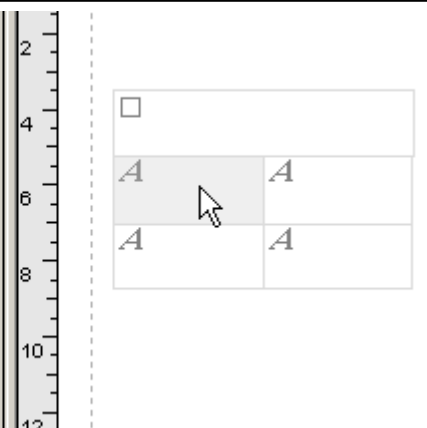
テーブルオブジェクトは、いくつかのオブジェクトのネストによって構成されます。

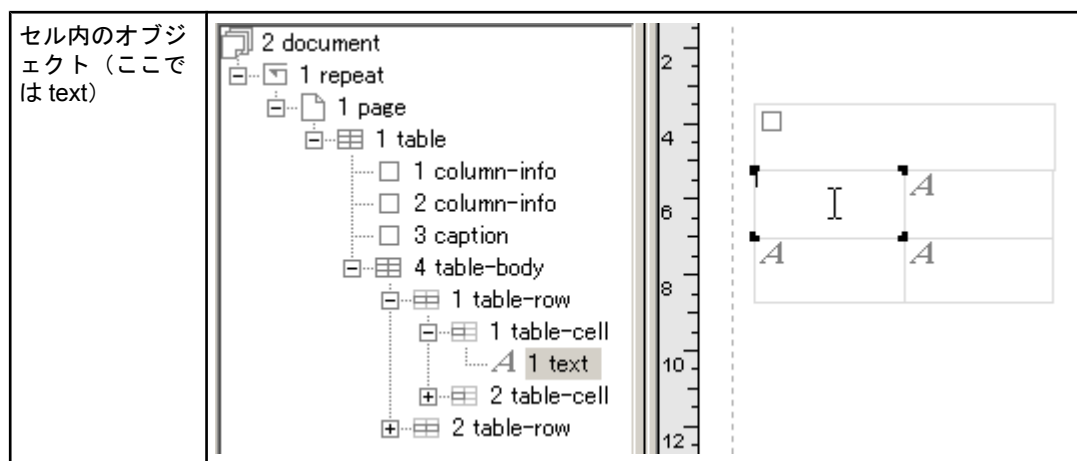


親オブジェクトのプロパティを設定/変更すると、子オブジェクトのプロパティも同じ値に変更されます。子オブジェクトのプロパティを親と別の値に変更する場合は、親オブジェクトのプロパティ設定後、子オブジェクトのプロパティを変更してください。

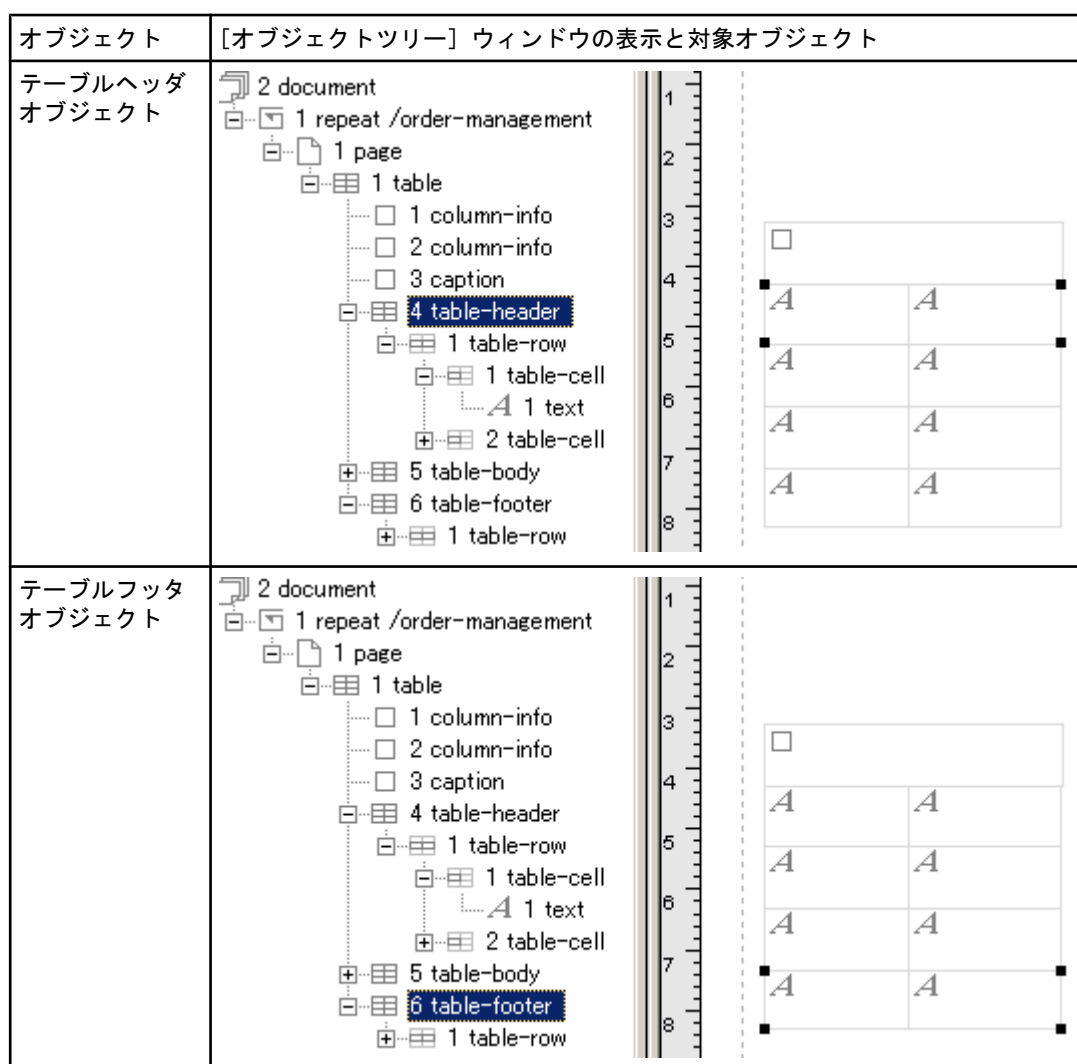
オブジェクト	[オブジェクトツリー] ウィンドウの表示と対象オブジェクト
--------	-------------------------------

<p>テーブルオブジェクト</p>		
<p>キャプションオブジェクト</p>		
<p>カラムインフォオブジェクト</p>		

<p>テーブルボディ オブジェクト</p>	 <p>2 document ├─ 1 repeat │ └─ 1 page │ │ └─ 1 table │ │ │ └─ 1 column-info │ │ │ └─ 2 column-info │ │ │ └─ 3 caption │ │ │ └─ 4 table-body │ │ │ │ └─ 1 table-row │ │ │ │ │ └─ 1 table-cell │ │ │ │ │ │ └─ 1 text │ │ │ │ │ └─ 2 table-cell │ │ │ └─ 2 table-row</p>	 <p>Diagram showing a table with 2 columns and 2 rows. The top-left cell is empty. The other three cells contain the letter 'A'. A vertical dashed line is on the left, and a horizontal dashed line is at the top. A ruler on the left shows positions 2, 4, 6, 8, 10, 12.</p>
<p>テーブルロウ オブジェクト</p>	 <p>2 document ├─ 1 repeat │ └─ 1 page │ │ └─ 1 table │ │ │ └─ 1 column-info │ │ │ └─ 2 column-info │ │ │ └─ 3 caption │ │ │ └─ 4 table-body │ │ │ │ └─ 1 table-row │ │ │ │ │ └─ 1 table-cell │ │ │ │ │ │ └─ 1 text │ │ │ │ │ └─ 2 table-cell │ │ │ └─ 2 table-row</p>	 <p>Diagram showing the same table as above. A black arrow points to the first cell of the first row. A ruler on the left shows positions 2, 4, 6, 8, 10, 12.</p>
<p>テーブルセル オブジェクト</p>	 <p>2 document ├─ 1 repeat │ └─ 1 page │ │ └─ 1 table │ │ │ └─ 1 column-info │ │ │ └─ 2 column-info │ │ │ └─ 3 caption │ │ │ └─ 4 table-body │ │ │ │ └─ 1 table-row │ │ │ │ │ └─ 1 table-cell │ │ │ │ │ │ └─ 1 text │ │ │ │ │ └─ 2 table-cell │ │ │ └─ 2 table-row</p>	 <p>Diagram showing the same table as above. The top-left cell is shaded gray, and a mouse cursor is over it. A ruler on the left shows positions 2, 4, 6, 8, 10, 12.</p>



また、ヘッダ・フッタを指定した場合は、以下のオブジェクトが作成されます。



なお、各オブジェクト内のそれぞれのオブジェクトについては、テキストオブジェクト、画像オブジェクト、バーコードオブジェクトを参照ください。

一般に関するプロパティ

レイアウトペイン内で、マウスを使って、オブジェクトを配置する位置と、そのサイズを決めることができます。

参照：一般に関するプロパティ (172 ページ)

構成に関するプロパティ

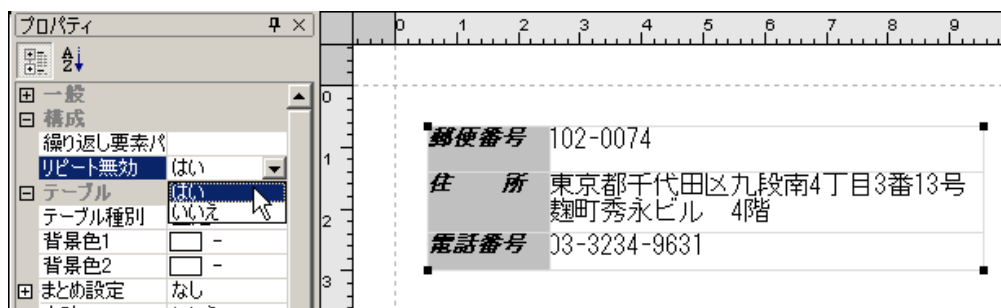
XML データから内容を取得する際に、XML パスを指定します。

プロパティ名	値	説明
繰り返し要素パス	繰り返される要素へのパス	繰り返しデータが始まる位置を XML パスで指定します。
リポート無効	はい/いいえ	[はい] で、データの繰り返しを無効にします。

XML パスの具体的な入力は、「XML データ参照のためのプロパティ」 (164 ページ) を参照ください。

リポートを反映しないテーブル

通常、テーブルは、要素を繰り返して処理しデータを表内に表示するために使用しますが、[固定] テーブルの場合、文字の配置を縦横に揃えるためなどの、レイアウト専用のテーブルとして扱うこともできます。その場合は、プロパティの [リポート無効] を [はい] に設定してください。



型に関するプロパティ

オブジェクトの種別や式の設定など、オブジェクトの型に関するプロパティを設定します。

プロパティ名	値	説明
言語	言語コードに準拠	小計・中計・大計の集計結果のフォーマットを決定するのに使用される言語情報を設定します。
国	国コードに準拠	小計・中計・大計の集計結果のフォーマットを決定するのに使用される国情報を設定します。

テーブルに関するプロパティ

プロパティ名	値	説明
テーブル種別	固定/可変	[固定] または [可変] が設定できます。ただし、[プロパティ] ウィンドウでの設定はできませんので、[テーブル] メニューの、[設定] の、[テーブル設定] ダイアログで指定してください。

背景色 1	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	テーブルボディ内で、奇数行の背景色を設定します。
背景色 2		テーブルボディ内で、偶数行の背景色を設定します。
まとめ設定	なし/ 可変/ 固定	テーブル内で、まとめ機能を使うかどうかを設定します。〔なし〕はまとめ機能を使いません。〔可変〕はまとめる行数を制限せず、同じデータが連続して出現する場合は、それらをまとめてセル結合します。〔固定〕は指定された行数で、まとめます（セル結合はされず指定された行ごとに線が引かれます）。
行数	任意	まとめ設定が〔固定〕の場合の、まとめる行数を指定します。
小計	はい/いいえ	小計の単位で集計を行うかどうかを指定します。〔はい〕で集計を行います。
中計	はい/いいえ	中計の単位で集計を行うかどうかを指定します。〔はい〕で集計を行います。
大計	はい/いいえ	大計の単位で集計を行うかどうかを指定します。〔はい〕で集計を行います。
集計カラム	テーブル内の該当するカラム番号（左から何番目）	集計の対象となるカラムを指定します。

小計、中計、大計プロパティのそれぞれには、以下を設定することができます。

プロパティ名	値	説明
ブレイク判定カラム	テーブル内の該当するカラム番号（左から何番目）	ブレイク判定を行うカラムを指定します。
改ページ	はい/いいえ	ブレイク時に改ページを行うかを指定します。
集計タイトル	任意	集計用のタイトルと指定します。指定されたタイトルは〔集計タイトルのカラム〕に出力されます。
集計タイトルのカラム	テーブル内の該当するカラム番号（左から何番目）	集計タイトルを表示（印刷）するカラムを指定します。
フォント名	一覧から選択	集計結果を表示（印刷）する行に使用する、フォントを指定します。
フォントサイズ	数値（単位は pt）	集計結果を表示（印刷）する行に使用する、フォントサイズを指定します。
フォーマット	Java に準拠（数値・通貨、日時）	集計結果を表示（印刷）する行に使用する、フォーマットを指定します。

背景色	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	集計結果を表示 (印刷) する行の、背景色を指定します。
-----	------------------------------------	------------------------------

固定テーブルと可変テーブル

[固定] テーブルは、テーブルの行数があらかじめ決まっている表です。データの量に応じて伸び縮みしません。

プロパティ

一般

オブジェクト型 table

X座標 2.96mm

Y座標 86.39mm

幅 182.27mm

高さ 127.36mm

背景色

構成

繰り返し要素パス order/order-list

リピート無効

テーブル

テーブル種別 固定

背景色1

背景色2

まとめ設定 なし

小計

ご注文明細

製品名	製品イメージ	バーコード	単価	数量	合計
A			A	A	A
A			A	A	A
A			A	A	A
A			A	A	A
A			A	A	A
A			A	A	A
A			A	A	A
A			A	A	A
A			A	A	A
検合計	A	A	A	A	A

一方、[可変] テーブルは、テーブルの行数が決まっておらず、中に埋め込まれるデータの量に応じて伸びていく表です。テーブルの行は一行分のみ設定を行います。

プロパティ

テーブル

テーブル種別 可変

背景色1

背景色2

まとめ設定 なし

小計

中計

大計

集計カラム 1

ご注文

製品名	製品イメージ	バーコード	単価	数量	合計
A			A	A	A

それぞれの表は、レイアウトタイプに関係なく設定できますので、用途に応じて使い分けます。

テーブルの背景色設定例

[背景色] ダイアログで、テーブル内の背景色を設定します。

[背景色] は、テーブル全体の背景色を設定し、[背景色 1] で奇数行の背景色、[背景色 2] で偶数行の背景色を設定します。背景色の指定は、セル、行、背景色 1 または背景色 2、テーブルボディ、テーブルの順で、優先順位をもちます。

以下は、[背景色] に Silver を、[背景色 1] に Blue を、[背景色 2] に Yellow を指定した例です。テーブルキャプションのセルは、個別に背景色を設定しています。

X座標	6.00mm	1
Y座標	8.00mm	2
幅	60.00mm	3
高さ	40.59mm	4
背景色	silver ...	5
構成		
テーブル		
テーブル種別	固定	6
背景色1	blue	7
背景色2	yellow	8
まとめ設定	なし	9
小計	いいえ	10
中計	いいえ	11
大計	いいえ	12
集計カラム	1	13
テキスト		

Caption	
Table Header	
A	Blue
A	Yellow
A	Blue
A	Yellow
A	Blue
Table Footer	

まとめ設定

「まとめ設定」は、カラム内の同一内容のデータをセルごとにまとめる機能です。「可変」は同一カラムで連続する行に、内容が同じデータのセルが出現する時、そのセルをまとめてセル結合します。「固定」は、[行数]で指定された行数でまとめます。セル結合はされず指定された行ごとに線が引かれます。まとめを行うかどうかは、カラム単位で指定します。

商品集計表 まとめ指定「なし」

商品 I D	商品名	価格
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.0	13,440
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.0	13,440
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.0	13,440
商品名合計		40,320
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.1	13,440
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.1	13,440
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.1	13,440
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.1	13,440

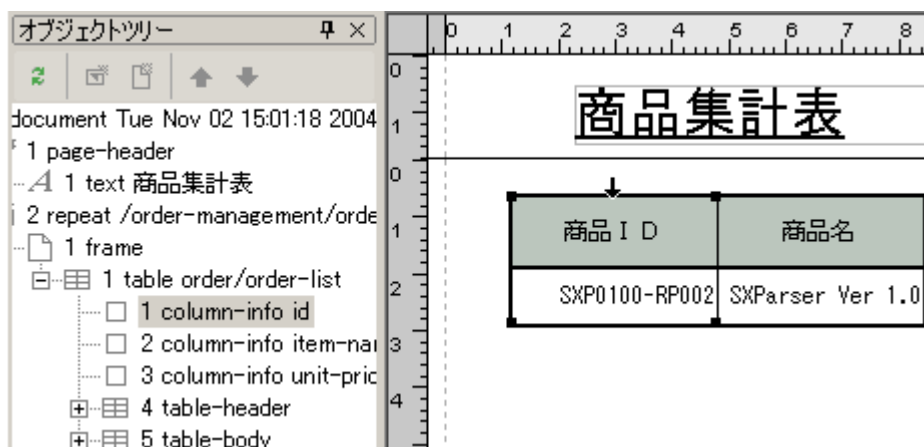
商品集計表 まとめ「可変」を指定。 同じ値をまとめて表示します。

商品 I D	商品名	価格
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.0	13,440
		13,440
		13,440
商品名合計		40,320
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.1	13,440
		13,440
		13,440
		13,440

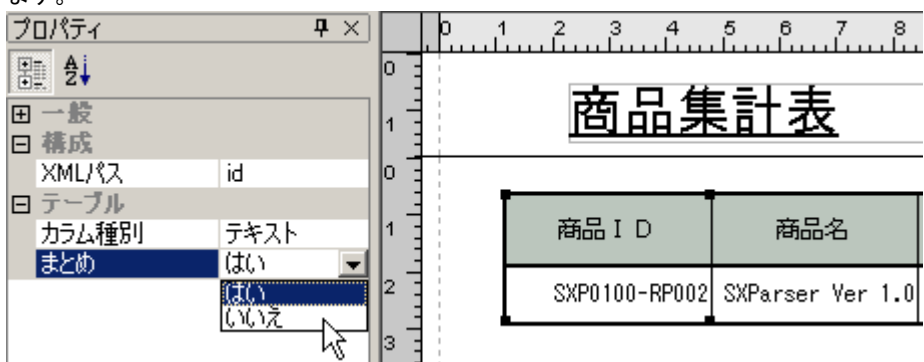
どのカラムをまとめるかを指定するには、以下の2つの方法があります。

1. [プロパティ] ウィンドウで指定する

まとめを行いたいカラムを、レイアウトペインで選択するか、あるいは [オブジェクトツリー] ウィンドウで column-info を選択します。



選択した状態で、[プロパティ] ウィンドウを開き、[まとめ] で、[はい] [いいえ] を指定します。



2. テーブル設定で指定する

まとめを行いたいテーブルを選択し、[テーブル] メニューの、[設定] で [テーブル設定] ダイアログを開きます。カラム設定タブを開き、まとめたいカラムを選択して、[まとめ] にチェックをつけます。

列ごとに集計する

指定されたカラムを、[小計] [中計] [大計] のレベルで集計し、集計された結果を [集計カラム] で指定したカラムに出します。それぞれのレベルには、タイトルを付けることができます (集計タイトル)。また、そのタイトルをどのカラムに出するか (集計タイトルのカラム)、タイトルを出すカラムのフォント (フォント名、フォントサイズ) や、フォーマット、および背景色を設定できます。

商品集計表

商品ID	商品名	価格
a id	a item-name	a unit-price
(XSL Formatter で表示)		
Xslctrl-break fo - XSLFormatterV3.2 Lite		
商品集計表		
商品ID	商品名	価格
SXParser Ver 1.0	SXParser Ver 1.0	13,440
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.0	13,440
SXParser Ver 1.0	SXParser Ver 1.0	13,440
商品名合計		40,320
SXParser Ver 1.1	SXParser Ver 1.1	13,440
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.1	13,440
SXParser Ver 1.1	SXParser Ver 1.1	13,440
SXParser Ver 1.1	SXParser Ver 1.1	13,440
商品名合計		53,760
商品ID合計		94,080

プロパティ

- 一般
 - 繰り返し要素パス: order/order-list
 - レポート無効: (いいえ)
- テーブル
 - テーブル種別: 可変
 - 背景色1: -
 - 背景色2: -
 - まとめ: 可変
 - まとめ間隔: 1
 - 小計: (はい)
 - ブレイク判定カラム: 2
 - 改ページ: (いいえ)
 - 集計タイトル: 商品名合計
 - 集計タイトルのカラム: 1
 - フォント名: MS ゴシック
 - フォントサイズ: 12.00pt
 - フォーマット: #####.###
 - 背景色: silver
 - 中計: (はい)
 - ブレイク判定カラム: 1
 - 改ページ: (いいえ)
 - 集計タイトル: 商品ID合計
 - 集計タイトルのカラム: 1
 - フォント名: MS ゴシック
 - フォントサイズ: 14.00pt
 - フォーマット: #####.###
 - 背景色: gray
 - 大計: (いいえ)
 - 集計カラム: 3
- テキスト
 - フォント名: MS ゴシック
 - フォントサイズ: 12.00pt
 - 文字スタイル: (既定)

小計を判定するカラム

中計を判定するカラム

集計された値を表示するカラム

→ タイトルの行が生成される。

集計は合計値を求めて本来無かった行を作成するため、[まとめ設定]の[固定]で、まとめる行が指定されている場合は、集計機能は使えません。

上記プロパティは、[テーブル]メニューの、[設定]で開く、[テーブル設定]ダイアログの、コントロールブレイクタブでも、設定が可能です。

テキストに関するプロパティ

テーブル全体の文字書式を指定するプロパティです。

プロパティ名	値	説明
フォント名	一覧から選択	フォント名を、[フォント設定]ダイアログで設定します。このダイアログで設定した各値は、[フォントサイズ]、[文字スタイル]、[文字飾り]プロパティにも反映されます。
フォントサイズ	数値 (単位は pt)	フォントサイズを設定します。
文字スタイル	一覧から選択	文字スタイルを、[フォント設定]ダイアログで設定します。
文字飾り	一覧から選択	文字飾りを、[フォント設定]ダイアログで設定します。

文字色	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	文字色を設定します。
-----	------------------------------------	------------

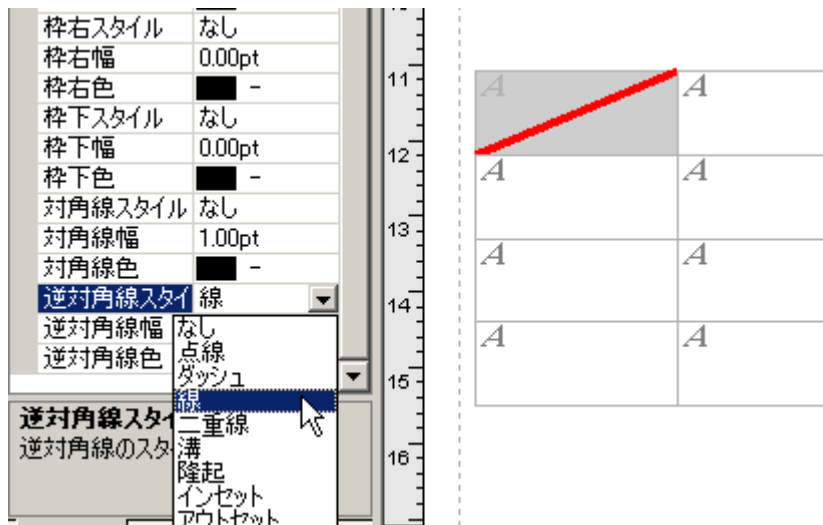
枠に関するプロパティ

オブジェクトの枠に、線を引いたり、線の色や形を指定します。また対角線を引くこともできます。

参照：枠に関するプロパティ (180 ページ)

セル内に対角線を引く

セル内に、対角線（逆対角線）を引いたり、線の色や形を指定します。



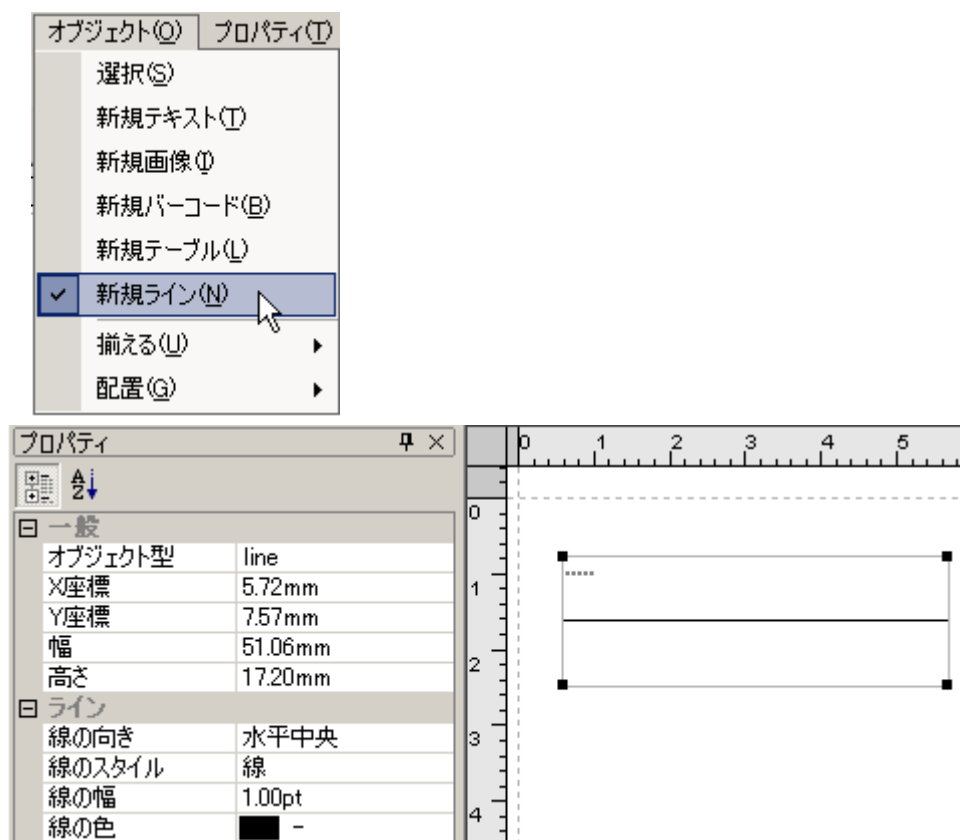
なお、対角線、逆対角線の画面表示、印刷、PDF 出力については、[Antenna House XSL Formatter V3.2](#) 以上が必要です。

印刷に関するプロパティ

参照：印刷に関するプロパティ (181 ページ)

22.5 ラインオブジェクト

水平線、垂直線など、線のみを使いたい場合に、このラインオブジェクトが便利です。[オブジェクト]メニューの、[新規ライン]を選択し、レイアウトペイン内でマウスを使って、オブジェクト枠を作成します。



オブジェクト枠の左端上に、ラインオブジェクトを意味するマーク「****」が表示されます。

プロパティ名	値	説明
オブジェクト型	line	オブジェクトの種類は、line です。

一般に関するプロパティ

レイアウトペイン内で、マウスを使って、オブジェクトを配置する位置と、そのサイズを決めることができます。

参照：一般に関するプロパティ (172 ページ)

ラインオブジェクトには、背景色プロパティは設定できません。

ラインに関するプロパティ

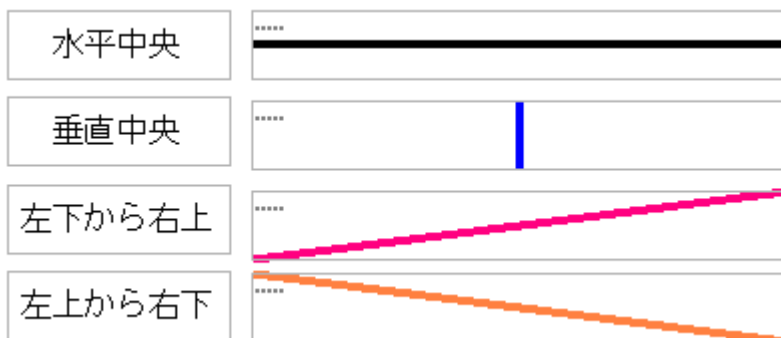
プロパティ名	値	説明
線の向き	なし/水平中央/ 垂直中央/ 左上から右下/ 左下から右上	ラインオブジェクトの線の向きを設定します。
線のスタイル	なし/線/点線/ダッシュ	ラインオブジェクトの線のスタイルを設定します。

線の幅	数値（単位は mm/in/pt）	ラインオブジェクトの線の幅を設定します。
線の色	#で始まる 16 進 RGB 値または W3C の規定する色の名前。	ラインオブジェクトの線の色を設定します。

線の向き・スタイル・幅・色を変える

ラインオブジェクトのラインの向きや、スタイル、幅、色を自由に設定できます。

ラインオブジェクトのサンプル



対応プロパティ一覧

23 rxl ファイルと XSL ファイルの出力するプロパティ一覧

以下の表は、各オブジェクトが対応しているプロパティと、そのプロパティに対する、rxl ファイル、XSL ファイルの対応（出力）をまとめたプロパティ一覧です。

記号	意味
◎	rxl、XSL の両方が対応
○または○(*)	rxl は対応、XSL は未対応。(*) は補足の説明です。
○▲(*)	rxl は対応、XSL は制限付きで対応

プロパティ名	オブジェクト名																
	ドキュメント	レポートヘッダ・フッタ	ページヘッダ・フッタ	リピート	ページ	フレーム	ラベル	テキスト	画像	バーコード	テーブル	キャプション	カラムインフォ	テーブルヘッダ・フッタ・ボディ	テーブル行	テーブルセル	ライン
オブジェクト型	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
繰り返し要素パス				◎							◎						
改ページ		◎		◎		◎											
種別							○	○	○		○						
変数名							○(*)	○(*)	○(*)		○(*)						
データ型							○				○						
XML パス							◎	◎	◎		◎						
式							○(*)			○(*)		○(*)					
フォーマット							○▲(*)					○▲(*)					
言語							○				○	○					
国							○				○	○					
属性式							○(*)	○(*)	○(*)			○(*)				○(*)	
X 座標							◎	◎	◎	◎							◎
Y 座標							◎	◎	◎	◎							◎
幅							◎	◎	◎	◎		◎					◎
高さ		◎	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎			◎			◎
印刷制御		◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎						

改行の扱い							◎				◎				
空白の扱い							◎				◎				
フォント名							◎		◎	◎	◎			◎	
フォントサイズ							◎		◎	◎	◎			◎	
文字スタイル							◎			◎	◎			◎	
文字飾り							◎			◎	◎			◎	
縦書き							◎		◎		◎				
文字色							◎		◎	◎	◎			◎	
背景色							◎		◎	◎	◎			◎	◎
文字配置							◎		◎		◎				
行配置							◎		◎		◎				◎
文字スペーシング							◎				◎				
行の高さ							◎				◎				
先頭行インデント							◎				◎				
左パディング							◎				◎				◎
上パディング							◎				◎				◎
右パディング							◎				◎				◎
下パディング							◎				◎				◎
あふれ時処理							◎				◎				
枠左スタイル	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠左幅	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠左色	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠上スタイル	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠上幅	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠上色	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠右スタイル	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠右幅	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠右色	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎
枠下スタイル	◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎

枠下幅		◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	
枠下色		◎			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎	
対角線スタイル							◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	
対角線幅							◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	
対角線色							◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	
逆対角線スタイル							◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	
逆対角線幅							◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	
逆対角線色							◎	◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎	
レイアウトタイプ	◎																
用紙	◎																
構造参照XMLファイル	○																
コメント	○																
ページヘッダを印刷する		◎															
ページフッタを印刷する		◎															
ページ数に含める		○															
繰り返し毎にページ番号を初期化				○													
ページ番号初期値				○													
親の繰り返しパス						◎											
配置						◎											
同一ページ内に収める						◎											
自動的に伸びる								◎									
最終行文字配置								◎									
あふれ時置換文字列								◎									
あふれ時詰め込み処理方法								◎									

改ページ	オブジェクトの最後で改ページを行うかどうかを指定します。
種別	データの種別を「フィールド」と「スタティック」から選択します。テキスト、画像、バーコードの場合、「フィールド」に設定すると、XML パスで指定したデータが埋め込まれます。
変数名	オブジェクトに付ける名前を設定します。この名前は、式の中から別のオブジェクトの値を参照する時に使います。
データ型	テキストデータの型を「文字」、「数値」、「通貨」、「日時」から選択します。
XML パス	XML データのどの部分をデータとして埋め込むかを指定します。「種別」プロパティが「フィールド」の場合に有効になります。
式	埋め込むデータを得るために、計算が必要な場合に式を設定します。
フォーマット	「データ型」プロパティで指定した、「数値」、「通貨」または「日付」の書式を設定します。
言語	フォーマットを決定するのに使用される言語情報を設定します。テーブルの場合は、小計・中計・大計の集計結果に反映されます。
国	フォーマットを決定するのに使用される国情報を設定します。テーブルの場合は、小計・中計・大計の集計結果に反映されます。
属性式	動的に属性の変更が必要な場合に設定します。
X 座標	オブジェクトの X 座標を設定します。ページ、フレームまたはラベルの左上（マージンが表示されている場合はマージン）を原点とした座標です。
Y 座標	オブジェクトの Y 座標を設定します。ページ、フレームまたはラベルの左上（マージンが表示されている場合はマージン）を原点とした座標です。
幅	オブジェクトの幅を設定します。
高さ	オブジェクトの高さを設定します。
印刷制御	<ul style="list-style-type: none"> ■ 印刷する 設定どおりに印刷を行います。 ■ 値のみ印刷する 枠は印刷せず、値のみ印刷を行います。市販の帳票のように、すでに枠などが描かれていて、データだけ印刷したいときに設定します。 ■ 印刷しない 設定に関わらず印刷を行いません。
改行の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無視する 改行コードを無いものとして扱います。 ■ 改行とみなす 改行コード位置で改行を行います。 ■ 空白とみなす 改行コードを空白として扱います。 ■ 幅のない空白とみなす 改行コードを幅のない空白として扱います。
空白の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無視する

	<p>空白コードを無いものとして扱います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 空白とみなす 空白コード位置に空白を入れます。 ■ 改行前の空白は無視する 改行コード前の空白は無いものとして扱います。 ■ 改行後の空白は無視する 改行コード後の空白は無いものとして扱います。 ■ 改行前後の空白は無視する 改行コード前後の空白は無いものとして扱います。
フォント名	フォント名を、[フォント設定] ダイアログで設定します。このダイアログで設定した各値は、「フォントサイズ」、「文字スタイル」、「文字飾り」プロパティにも反映されます。
フォントサイズ	フォントサイズを設定します。
文字スタイル	文字スタイルを、[フォント設定] ダイアログで設定します。
文字飾り	文字飾りを、[フォント設定] ダイアログで設定します。
縦書き	縦書きするかどうかを設定します。
文字色	文字色を設定します。
背景色	背景色を設定します。設定した背景色でオブジェクトの矩形領域が塗りつぶされます。
文字配置	オブジェクトの矩形領域の水平方向にどのように文字を配置するかを設定します。
行配置	オブジェクトの矩形領域の垂直方向にどのように文字を配置するかを設定します。
文字スペーシング	文字の間隔を設定します。
行の高さ	行の高さを設定します。
先頭行インデント	先頭行のインデント量を設定します。
左パディング	オブジェクトの矩形領域の左端とテキストとの空間の量を設定します。
上パディング	オブジェクトの矩形領域の上端とテキストとの空間の量を設定します。
右パディング	オブジェクトの矩形領域の右端とテキストとの空間の量を設定します。
下パディング	オブジェクトの矩形領域の下端とテキストとの空間の量を設定します。
あふれ時処理	<p>テキストが表示領域を越えてしまった場合の処理を設定します。「自動的に伸びる」プロパティが「いいえ」に設定されている場合のみ有効です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ クリッピングして隠す あふれた部分は印刷されません。 ■ 置き換える 「あふれ時置換文字列」に設定された文字列を印刷します。この文字列が領域いっぱいになるまで繰り返し埋められます。

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 詰め込む 「あふれ時詰め込み処理方法」に設定された方法で詰め込まれます。
枠スタイル	各枠のスタイルを個別に設定します。
枠幅	各枠線の幅を個別に設定します。
枠色	各枠の色を個別に設定します。
対角線（逆対角線）スタイル	対角線（逆対角線）のスタイルを設定します。
対角線（逆対角線）幅	対角線（逆対角線）の幅を設定します。
対角線（逆対角線）色	対角線（逆対角線）の色を設定します。
レイアウトタイプ	プロジェクトに設定されているレイアウトタイプが表示されます。変更はできません。
用紙	プロジェクトに設定されている用紙の種類が表示されます。
構造参照 XML ファイル	プロジェクトに設定されている構造を参照する XML ファイルが表示されます。
コメント	プロジェクトに関するメモなどのコメントを記述することができます。
ページヘッダを印刷する	レポートヘッダ・フッタにページヘッダを印刷するかどうかを設定します。
ページフッタを印刷する	レポートヘッダ・フッタにページフッタを印刷するかどうかを設定します。
ページ数に含める	レポートヘッダ・フッタをページ数のカウントに含めるかどうかを設定します。
繰り返し毎にページ番号を初期化	リピート単位で、ページ番号の初期化を行うかどうかを設定します。
ページ番号初期値	ページ番号をいくつから始めるか設定します。
親の繰り返しパス	親であるリピートに設定された繰り返しパスが表示されます。値を変更すると、リピートのプロパティにも反映されます。
配置	<p>フレームオブジェクトの配置を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 固定型 オブジェクトの開始 Y 座標をフレームの上端からの絶対座標で設定できます。ただし、オブジェクトの長さが伸びてもフレームの長さは変わりません。 ■ フロー型 オブジェクトの長さが伸びるとそれに応じて、他のオブジェクトおよびフレーム自身の長さも伸びます。ただし、オブジェクトどうしが水平方向に重なるような配置を行うことはできません。
同一ページ内に収める	フレーム内のオブジェクトを同じページに配置します。
自動的に伸びる	オブジェクトがデータ量に応じて伸びることができるかどうかを設定します。
最終行文字配置	最終行の「文字配置」を設定します。
あふれ時置換文字列	「あふれ時処理」が「置き換える」の場合の置き換え文字を設定します。

あふれ時詰め込み処理方法	<p>「あふれ時処理」が「詰め込む」の場合の処理を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ フォントサイズを調整 フォントサイズを調整して詰めます。 ■ 文字間を調整 文字間を調整して詰めます。 ■ 単語間を調整 単語間を調整して詰めます。 ■ フォントの幅を調整 フォントの幅を調整して詰めます。 ■ 行の高さを調整 行の高さを調整して詰めます。 ■ 自動 システムの既定値に依存します。
画像種別	画像の種別を「BITMAP」、「JPEG」、「JPEG2000」、「PNG」、「TIFF」、「GIF」および「SVG」から選択します。
ファイルパス	「スタティック」な画像のときに画像ファイルのパスを設定します。
フルパス保存	フルパスで保存するかどうかを設定します。「いいえ」の場合は相対パスでの保存となります。
スケーリング	<p>画像をどのように伸縮して置くかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 枠の横幅に合わせる 縦横比を保持して枠の横幅に合わせます。 ■ 枠の縦幅に合わせる 縦横比を保持して枠の縦幅に合わせます。 ■ 枠と同じにする 縦横比を無視して枠と同じにします。 ■ 画像データで指定された大きさ 画像データで指定された大きさにします。(ベクターグラフィックのみ) ■ 指定 dpi に合わせる 指定 dpi に合わせます。(ラスターグラフィックのみ)
dpi	「スケーリング」が「指定 dpi に合わせる」の場合の、dpi 値を設定します。
クリッピング	<p>クリッピング (枠の外にはみ出さないようにする)するかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ クリッピングする 枠の外にはみ出さないようにします。 ■ クリッピングしない 枠の外にはみ出します。 ■ 枠を画像のサイズと同じにする

	枠を画像のサイズにします。ベクターグラフィックの場合または「スケーリング」を「指定 dpi に合わせる」に設定した場合のみに有効です。
横軸配置	枠の横軸に対して「左」、「右」、「中央」のどこに配置するかを設定します。
縦軸配置	枠の縦軸に対して「上」、「下」、「中央」のどこに配置するかを設定します。
バーコードの値	バーコードとして表示したいデータを指定します。種別が「スタティック」などときのみ有効です。
バーコード種別	バーコードの種別を、CODE39、CODE128、CODABAR、EAN、EAN128、ITF、JAN、POSTNET、UPC-A、UPC-E、その他から選択します。
バーコード処理の Java クラス名	バーコードを処理する Java の完全クラス名を設定します。
スタートコード	バーコードのスタートコードを設定します。バーコードの種別によっては指定しても無視されることがあります。
ストップコード	バーコードのストップコードを設定します。バーコードの種別によっては指定しても無視されることがあります。
チェックデジット	バーコードにチェックデジットを付けるかどうかを設定します。バーコードの種別によっては指定しても無視されることがあります。
補助パラメータ	バーコードを生成するために使われる補助的パラメータです。用途は使用するバーコードとバーコードを処理するプログラム（バーコード処理の Java クラス名）によって異なります。
生成される文字列の種別	code-value なら、コード値文字列を生成します。font-code なら、フォントコード文字列を生成します。コード値文字列は、チェックデジットなどを計算して得られた文字列です。そのままではバーコードの縞模様が正しく出ない場合がありますが、人間がみてわかる数字記号などを表示するためのものです。 フォントコード文字列は、フォントさえ正しく設定すれば縞模様が正しく出る文字列です。
テーブル種別	<ul style="list-style-type: none"> ■ 固定 データの量に応じて行数が変わらない固定テーブルです。 ■ 可変 データの量に応じて行数が伸びる可変テーブルです。テーブルボディの行は一行分のみ設定を行います。
リポート無効	データの繰り返しを無効にするかどうかを設定します。
背景色 1	テーブルボディの奇数行の背景色を設定します。
背景色 2	テーブルボディの偶数行の背景色を設定します。
まとめ設定	<p>テーブル内で、まとめ機能を使うかどうかを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ なし まとめ機能を使いません。 ■ 可変 まとめる行数を制限せず、同じデータが連続して出現する場合は、それらをまとめてセル結合します。 ■ 固定

	指定された行数で、まとめます（セル結合はされず指定された行ごとに線が引かれます）。
行数	まとめ設定「固定」の場合の、まとめる行数を指定します。
小計/中計/大計	集計を行うかどうかを、小計・中計・大計の単位で指定します。
ブレイク判定カラム	ブレイク判定を行うカラムを指定します。
小計/中計/大計用改ページ	ブレイク時に改ページを行うかを指定します。
集計タイトル	集計用のタイトルと指定します。指定されたタイトルは「集計タイトルのカラム」に出力されます。
集計タイトルのカラム	集計タイトルを表示（印刷）するカラムを指定します。
小計/中計/大計用フォント名	集計結果を表示（印刷）する行に使用する、フォントを指定します。
小計/中計/大計用フォントサイズ	集計結果を表示（印刷）する行に使用する、フォントサイズを指定します。
小計/中計/大計用フォーマット	集計結果を表示（印刷）する行の、フォーマット（書式）を指定します。
小計/中計/大計用背景色	集計結果を表示（印刷）する行の、背景色を指定します。
集計カラム	集計するカラムを指定します。
キャプション位置	キャプションを「前」に付けるか「後」に付けるかを設定します。
カラム種別	テーブルボディの列に置くオブジェクトを「テキスト」、「画像」、「バーコード」から選択します。
まとめ	カラムをまとめるかどうかを指定します。「まとめ設定」でまとめ機能を使用するように指定されていても、この「まとめ」が指定されていないと集計は行われません。
セル種別	セルに指定されたオブジェクトの種類が表示されます。カラム種別に指定されたのと同じ物が表示され、変更はできません。
線の向き	ラインオブジェクトの線の向きを設定します。
線のスタイル	ラインオブジェクトの線のスタイルを設定します。
線の幅	ラインオブジェクトの線の幅を設定します。
線の色	ラインオブジェクトの線の色を設定します。

組込関数

25 組込関数一覧

XSL Report Designer の、プロパティ、「式」で使用できる組込関数は以下のとおりです。

機能	書式	引数	返り値	説明
絶対値を 求める	abs(数値)	絶対値を求めたい数値	数値	引数で指定した数値の絶対値を求める。
2つの引数 が TRUE(1) のとき、 TRUE(1) を返す	and(論理式 1, 論理式 2)	論理式 1 論理式 2	TRUE(1), FALSE(0)	2つの引数が TRUE(1) のとき、TRUE(1)を返す。引数に1つでも FALSE(0)がある場合、FALSE(0)を返す。
文字列が 含まれて いるか	contains(文字列 1, 文字列 2)	文字列 1 文字列 2	TRUE(1), FALSE(0)	文字列 1 に文字列 2 がふくまれているか調べる。含まれているとき TRUE(1)、そうでないとき FALSE(0)を返す。
現在ページ を求め る	currentPage()	なし	文字列 (String)が 戻る	fo で現在のページを表す <fo:page-number/> を返す
現在日付 を求め る	date(format, country, language)	format 文字列 country 文字列 language 文字列	文字列 (String) が戻る	現在日付を format で指定した書式にする
日付から 文字列に 変換	date2str(日付)	日付 文字列に変換したい日付 (数値)	文字列	指定した日付から日付文字列を作成する 日付文字列は、YYYY/MM/DD の形になる 指定する日付の数値は、1970年1月1日 00:00:00 GMT からのミリ秒
日付の計 算を行 う	dateCalc(日付文字列, 計算フィールド, 計算値)	日付文字列 計算したい日付の文字列。形式は、YYYY/MM/DD 計算したいフィールドを指定。 YEAR,MONTH,DATE 計算値 計算したい値を指定、減算のときは、数値にマイナスをつける	文字列 (String)が 戻る	引数で指定した日付の指定フィールド (YEAR,MONTH,DATE)に計算値を加算する。 計算結果は、文字列で YYYY/MM/DD の形で戻る
文字列の 比較を する	exact(文字列 1, 文字列 2)	文字列 1 文字列 2	TRUE(1), FALSE(0)	指定した文字列が等しい時、TRUE(1)を返す。そうでない時 FALSE(0)を返す
col 番号 を取得 する	getColNo()	なし	数値	テーブル内の col 番号を取得する。col 番号は、1 から
レコード 番号を 返す	getRecNo()	なし	数値	レコード番号を返す

リピート番号を返す	getRepeatRowNo()	なし	数値	現在のリピート番号を返す
row 番号を取得する	getRowNo()	なし	数値	テーブル内の row 番号を取得する。row 番号は、1 から。
現在のオブジェクトの値を返す	getThisValue()	なし	文字列	現在のオブジェクトの値を返す
平均値を求める	hAvg()	なし	数値 (double) が戻る	セルに置かれた横方向の平均値を求める 表の左から hAvg 関数をおいたセルの左隣のセルまでが計算対象 セルのデータタイプが文字またはセル内にデータがないものは計算対象外
件数を求める	hCount()	なし	数値 (double) が戻る	セルに置かれた横方向の件数を求める 表の左から hCount 関数をおいたセルの左隣のセルまでが計算対象 セルのデータタイプが文字またはセル内にデータがないものは計算対象外
合計を求める	hSum()	なし	数値 (double) が戻る	セルに置かれた横方向の合計を求める 表の左から hSum 関数をおいたセルの左隣のセルまでが計算対象 セルのデータタイプが文字またはセル内にデータがないものは計算対象外
論理式により処理を振り分ける	if(論理式, 真の場合, 偽の場合)	論理式 真の場合 偽の場合	真・偽の場合に指定された値	論理式の評価により真の場合と偽の場合とに処理を振り分ける。
文字列のインデックス	indexOf(文字列 1, 文字列 2)	文字列 1 文字列 2	数値	文字列 1 内で文字列 2 が最初に現れるインデックスを返す。 返されるインデックスの値は、1 から始まる。 文字列 2 が文字列 1 の部分文字列ではないときは、-1 を返す。
文字列の最後のインデックス	lastIndexOf(文字列 1, 文字列 2)	文字列 1 文字列 2	数値	文字列 1 に文字列 2 が最後に現れるインデックスを返す。 返されるインデックスの値は、1 から始まる。 文字列 2 が文字列 1 の部分文字列ではないときは、-1 を返す。

文字列のマッチ	matches(文字列, 正規表現)	文字列 正規表現	TRUE(1), FALSE(0)	文字列が、正規表現にマッチするかどうか。マッチしたとき TRUE(1)、そうでないとき FALSE(0)を返す。 Java の String クラスの matches メソッドと同じ。
文字列の長さを求める	length(文字列)	文字列	数値 (double) が戻る	引数の文字列の長さを求める JAVA の String クラスの length メソッドと同じ
大きい値を返す	max(数値 1, 数値 2)	数値 1 数値 2	数値	指定した 2 つの数値の大きい方を返す。
小さい値を返す	min(数値 1, 数値 2)	数値 1 数値 2	数値	指定した 2 つの数値の小さい方を返す。
引数が TRUE(1) のとき FALSE(0) を、FALSE(0) のとき TRUE(1) を返す	not(論理式)	論理式	TRUE(1), FALSE(0)	論理式が FALSE(0) のとき、TRUE(1) が返され、論理式が TRUE(1) のとき FALSE(0) が返される。
数値を文字列に変換	num2str(数値)	文字列に変換したい数値	文字列 (String) が 戻る	
2 つの引数のどちらかが TRUE(1) のとき、TRUE(1) を返す	or(論理式 1, 論理式 2)	論理式 1 論理式 2	TRUE(1), FALSE(0)	2 つの引数うちどちらかが TRUE(1) のとき、TRUE(1) を返す。引数が 2 つとも FALSE(0) の場合、FALSE(0) を返す。
レコードの合計を求める	recSum(名前)	名前を文字列指定	数値 (double) が戻る	名前で指定された合計を求める レコード単位でクリアされる
余りを返す e	remainder(数値 1, 数値 2)	数値 1 数値 2	数値	(数値 1 / 数値 2) の余りを返す。Java の % と同じ。
文字列の全置換	replaceAll(文字列, 正規表現, 置換文字列)	文字列 正規表現 置換文字列	文字列 (String) が 戻る	文字列内で、正規表現にマッチしたすべての部分文字列を置換文字列に置き換える。 Java の String クラスの replaceAll メソッドと同じ。
文字列の置換	replaceFirst(文字列, 正規表現, 置換文字列)	文字列 正規表現 置換文字列	文字列 (String) が 戻る	文字列内で、正規表現にマッチした最初の部分文字列を置換文字列に置き換える。 Java の String クラスの replaceFirst メソッドと同じ。

オブジェクトの属性を設定する	setProp(属性名, 属性値)	属性名文字列 属性値文字列	なし	指定した属性に指定した値を設定する
変数が指すオブジェクトの属性を設定する	setPropByName(変数名, 属性名, 属性値)	変数名文字列 属性名文字列 属性値文字列	なし	指定した変数が指すオブジェクトの指定した属性に、指定した属性値を設定する。
属性グループでオブジェクトの属性を設定する	setProps(属性グループ)	属性グループ名文字列	なし	指定した属性グループを使って属性値を設定する
変数が指すオブジェクトの属性を、属性グループで設定	setPropsByName(変数名, 属性グループ名)	変数名文字列 属性グループ名文字列	なし	指定した変数が指すオブジェクトに、指定した属性グループを使って属性値を設定する。
文字列から日付に変換	str2date(日付文字列, 書式文字列)	日付文字列 date に変換する日付の文字列 書式文字列 パージングするための書式	数値	戻り値は、1970年1月1日 00:00:00 GMT からのミリ秒
文字列を数値に変換	str2num(文字列)	数値に変換したい文字列	数値 (double) が戻る	
部分文字列を求める	substring(文字列, 開始位置)	文字列 開始位置 (先頭位置は 1)	文字列 (String) が戻る	指定した文字列の開始位置から文字列を返す
部分文字列を求める	substring(文字列, 開始位置, 文字数)	文字列 開始位置 (先頭位置は 1) 文字数	文字列 (String) が戻る	指定した文字列の開始位置から文字数までの文字列を返す
現在時刻を求める	time(format, country, language)	format 文字列 country 文字列 language 文字列	文字列 (String) が戻る	現在時間を format で指定した書式にする
文字を小文字に変換する	toLowerCase	小文字に変換する文字列	文字列 (String) が戻る	文字を小文字に変換する
総ページ数を求める	totalPages()	なし	文字列 (String) が戻る	<fo:page-number-citation id-ref="rx-page-number-citation-last-page" /> を返す
総合計を求める	totalSum(名前)	名前を文字列指定	数値 (double) が戻る	名前で指定された数値の総合計を求める
文字を大文字に変換する	toUpperCase	大文字に変換する文字列	文字列 (String) が戻る	文字を大文字に変換する

平均値を 求める	vAvg()	なし	数値 (double) が戻る	セルに置かれた縦方向の平均値を求める セル内が数値でないときは計算対象外 注意) 矛盾のないリピートが指定されているテーブルの中でのみ有効
件数を求 める	vCount()	なし	数値 (double) が戻る	セルに置かれた縦方向の件数を求める セル内が数値でないときは計算対象外 注意) 矛盾のないリピートが指定されているテーブルの中でのみ有効
合計を求 める	vSum()	なし	数値 (double) が戻る	セルに置かれた縦方向の合計を求める セル内が数値でないときは計算対象外 注意) 矛盾のないリピートが指定されているテーブルの中でのみ有効
XML デー タからデ ータを取 り出す	XPath(xpath)	xpath 文字列 上位オブジェクトのパスからの相対 path	文字列 (String)が 戻る	xpath で指定したロケーションパスを元に XML データを取り出す。 ロケーションパスは、上位のオブジェクトからの相対となる。 制限事項：繰り返しのあるテーブルやリピート内では、先頭のデータを取り出す。
XML デー タからデ ータを取 り出す	XPathEx(xpath)	xpath 文字列 メインリピートからの相対 path	文字列 (String)が 戻る	xpathEx で指定したロケーションパスを元に XML データを取り出す。 ロケーションパスは、メインリピートの下位から参照する。 制限事項：繰り返しのあるテーブルやリピート内では、先頭のデータを取り出す。

注意)

この式による計算は、矛盾のないリピートがあるテーブルの中でのみ、有効となるため、以下の条件に整合している必要があります。

- (1) テーブルプロパティの「リピート無効」が「いいえ」になっている。
- (2) XML パスが、Document→Repeat→Table(繰り返し要素パス)→Cell の順で矛盾なく設定されている。
- (3) 同じカラムのセルに指定された XML パスは、全て同じである。

ランタイムエンジン

ランタイムエンジンは、XSL Report Designer が出力するプロジェクト（レイアウト）ファイルと XML データを使って、XML データを埋め込んだ XSL-FO を出力します。出力された XSL-FO は、XSL Formatter を使って、表示、印刷、PDF 出力をすることができます。

なお、以下の説明は、Java 言語とそのプログラミング、起動法などの知識があることが前提になっています。これらの知識をお持ちでない方は、インターネット上の資料 や市販本で別途勉強しておいてください。

26 動作環境

Java の実行環境をインストールしておく必要があります。J2SDK1.5/JRE1.5 以上の環境が必要です。

27 バッチファイルによる起動

Windows のバッチファイル rxe.bat と、UNIX のシェルスクリプト rxe.sh をインストールフォルダ \bin に用意しています。

また、製品 CD の rxe フォルダにも用意しています。

コマンドプロンプトで、環境変数 JRE_HOME と RX_HOME を設定しておいてください。

以下では、Windows の例で説明します。

■ 例 環境変数の設定例

```
set JRE_HOME=c:\C:\jdk1.5.0_08\jre
set RX_HOME=c:\Program files\Antenna\XSLReportDesigner\V25
```

■ 例 起動例

```
rxe -layout mylayout.rxl -output mylayout.fo mydata.xml
```

上は、mylayout.rxl がプロジェクトファイル、出力先は mylayout.fo、そして XML データとして mydata.xml を指定しています。

起動オプション

-layout	プロジェクトファイルを指定します。
-error	エラーファイルを指定します。これが省略された場合、エラーメッセージは標準エラー出力に出力されます。
-output	出力ファイルを指定します。これが省略された場合、FO は標準出力に出力されません。
-verbose	これを指定すると饒舌（メッセージなどをいろいろ出す）モードになります。
XMLDataFile	XML データファイルの入力を指定します。これが省略された場合、標準入力から入れます。

28 コマンドラインインターフェース

rxe.bat を使わず、Java インタープリタにランタイムエンジンの class を指定して起動することもできます。

java コマンドがコマンドサーチパスの中にあるものとします。

また、CLASSPATH に、XSL Report Designer に含まれる rxe.jar などの全ての jar ファイルのパスが設定されているものとします。（あるいは java の -cp オプションで指定してください）。これらの jar ファイルは、XSL Report Designer インストールディレクトリの lib にあります。

実際にどのように起動しているかは、rxe.bat, rxe.sh を参考にしてください。

■ 呼び出し方

```
java jp.co.antenna.rx.rxe.rxe -layout LayoutFile [-error ErrorFile] [-output OutputFile]
[XMLDataFile]
```

起動オプション

-layout	プロジェクトファイルを指定します。
-error	エラーファイルを指定します。これが省略された場合、エラーメッセージは標準エラー出力に出力されます。
-output	出力ファイルを指定します。これが省略された場合、FO は標準出力に出力されません。
-verbose	これを指定すると饒舌（メッセージなどをいろいろ出す）モードになります。
XMLDataFile	XML データファイルの入力を指定します。これが省略された場合、標準入力から入力します。

戻り値

正常終了のときは0を正常終了でない時は0以外を返します。

29 Java インターフェース

Java のプログラムから、直接ランタイムエンジンを使うこともできます。

29.1 rxe

rxe は、Java からランタイムエンジンを使うためのクラスです。パラメータとして、コマンドラインインターフェースの起動オプションを使って、ランタイムエンジンを実行できます。

以下にサンプルコードを示します。コンパイルするには、rxe.jar を CLASSPATH に指定しておく必要があります。実行するには、XSL Report Designer に含まれる jar ファイル全てを CLASSPATH に指定しておく必要があります。（あるいは java の -cp オプションで指定してください。）これらの jar ファイルは、XSL Report Designer インストールディレクトリの lib にあります。

```
// import XSL Report Designer classes
import jp.co.antenna.rx.rxe.*;

public class TestRxe {
    public static void main(String[] args) {
        // create rxe object.
        rxe myRxe = new rxe();

        // setting up parameters.
        String [] params = new String[3];
        params[0] = "layout.rxl";
        params[1] = "output.fo";
        params[2] = "xmldata.xml";

        // execute(generate) XSL-FO.
        boolean rslt = myRxe.subMain(params);

        // print result
        if (rslt) {
            System.out.println("OK");
        }
    }
}
```

```

    } else {
        System.out.println("NG");
    }
}
}
}

```

以下に、rxе の API を示します。

```

rxе
public rxе()
    コンストラクタ。
subMain
public boolean subMain(java.lang.String[] argv)
    サブメインエントリ。通常は、main ではなく、subMain を使ってください。

```

■ パラメータ :

argv - コマンドラインオプション

■ 戻り値 :

成功なら true、失敗なら false。

```

main
public static void main(java.lang.String[] args)
    メインエントリ。
    通常は、main ではなく、subMain を使ってください。System.exit()を呼び出すので、使用
    の際は注意をしてください。
    終了コードは、成功時は 0、失敗時は 1 です。

```

■ パラメータ :

args - コマンドラインオプション

29.2 RxEngine

RxEngine は、Java からランタイムエンジンを使うためのクラスです。コマンドラインインターフェースの起動オプションをパラメータとして使う rxе とは違い、メソッドを使って、rxе より細かな制御を行うことができます。

以下にサンプルコードの断片を示します。コンパイルするには、rxе.jar を CLASSPATH に指定しておく必要があります。実行するには、XSL Report Designer に含まれる jar ファイル全てを CLASSPATH に指定しておく必要があります。これらの jar ファイルは、XSL Report Designer インストールディレクトリの lib にあります。

```

// import XSL Report Designer classes
import jp.co.antenna.rx.rxe.*;

public class TestRxEngine {
    public static void main(String[] args) {
        // create RxEngine object.
        RxEngine eng = new RxEngine();

        // setting up parameters.
        eng.setLayoutLocation("layout.rxl");
        eng.setOutputLocation("output.fo");
    }
}

```

```

eng.setXMLDataLocation("xmldata.xml");

// execute(generate) XSL-FO.
boolean rslt = eng.execute();

// print result
if (rslt) {
    System.out.println("OK");
} else {
    System.out.println("NG");
}
}
}

```

以下に、RxEngine の API を示します。

RxEngine
public RxEngine()
 コンストラクタ。
setLayoutLocation
public void setLayoutLocation(java.lang.String location)
 プロジェクトファイルの場所をセットします。

■ パラメータ :

location - フルパス、ファイル名、完全な URL。

setXMLDataLocation
public void setXMLDataLocation(java.lang.String location)
 XML データファイルの場所をセットします。
 setXMLDataLocation, setXMLDataStream のどちらも指定しなければ、標準入力から XML データを受け取ります。

■ パラメータ :

location - フルパス、ファイル名、完全な URL

setXMLDataInputSource
public void setXMLDataInputSource(org.xml.sax.InputSource inputSource)
 XML データファイルの入カソースをセットします。
 setXMLDataLocation, setXMLDataInputSource のどちらも指定しなければ、標準入力から XML データを受け取ります。
 InputSource については、J2SDK API の org.xml.sax の InputSource をご参照ください。

■ パラメータ :

inputSource - 入力ソース

setOutputLocation
public void setOutputLocation(java.lang.String location)
 出力場所をセットします。
 setOutputLocation, setOutputStream のどちらも指定しなければ、標準出力へ XSL-FO を出力します。

■ パラメータ :

location - フルパスまたはファイル名

setOutputStream
public void setOutputStream(java.io.OutputStream outputStream)
 出カストリームをセットします。

setOutputLocation、setOutputStream のどちらも指定しなければ、標準出力へ XSL-FO を出力します。

■ パラメータ :

outStream - 出力ストリーム

setErrorLocation
public void setErrorLocation(java.lang.String location)
エラー出力場所をセットします。

■ パラメータ :

location - フルパスまたはファイル名。null の場合は、標準エラーが仮定されます。

setLogger
public void setLogger(java.util.logging.Logger logger)
logger をセットします。
logger には様々なオプションを設定できます。これは、このメソッドが setErrorLocation よりも柔軟な logging 機能を提供することを意味します。

■ パラメータ :

logger - Java の標準 Logger オブジェクト

getLogger
public RXLogger getLogger()
logger を得ます。
RXLogger は、Java の標準 Logger のサブクラスです。

■ 戻り値 :

RXLogger

setVerbose
public void setVerbose(boolean flag)
饒舌 (メッセージなどをいろいろ出す) モードをセットします。デフォルト値は false です。

■ パラメータ :

flag - true : 饒舌にする、false : 饒舌にしない

setNoWarning
public void setNoWarning(boolean flag)
警告無しモードをセットします。true の場合、警告出力が抑圧されます。
デフォルト値は、false です。

■ パラメータ :

flag - true : 警告無しモード、false : 警告モード

setStartPos
public void setStartPos(int x, int y)
レイアウトタイプが「タックシール」の場合に、印刷開始位置をセットします。
たとえば、用紙が 5 行 × 2 列に分割される場合は以下のとおりです。

```
          0          1
+-----+-----+
|+-----+ +-----+|
||          ||          || 0
|+-----+ +-----+|
```

```

|+-----+ +-----+|
||           ||           || 1
|+-----+ +-----+|
|+-----+ +-----+|
||           ||           || 2
|+-----+ +-----+|
|+-----+ +-----+|
||           ||   S   || 3
|+-----+ +-----+|
|+-----+ +-----+|
||           ||           || 4
|+-----+ +-----+|
+-----+

```

setStartPos(1, 3)は、「S」でマークされたラベルに印刷開始をセットします。

値は0が最初です。

このメソッドは、レイアウトタイプが「タックシール」の場合にのみ有効です。

■ パラメータ :

x - 水平方向の開始位置

y - 垂直方向の開始位置

setRecordBuffers

public void setRecordBuffers(int n)

レコードバッファ数をセットします。

大きな数値をパラメータ「n」をセットした場合、データリーディングスレッドが一度により多くのデータを読むため、ランタイムエンジンの処理速度は上がるかもしれません。しかし、メモリエラーを引き起こすかもしれません。

デフォルト値は、100 です。

■ パラメータ :

n - バッファ数

execute

public boolean execute()

FOの生成を実行します。

このメソッドを呼ぶ前に、必要に応じて、setLayoutLocation、setXMLDataLocation、setXMLDataInputSource、setOutputLocation、setOutputStream等をお呼びください。

サンプルファイル

30 サンプルファイル一覧

インストール先の「Sample」フォルダにサンプルファイルが格納されています。「Sample\Japanese」フォルダには日本語のサンプルが、「Sample\English」フォルダには英語のサンプルがあります。

レイアウトタイプ	サンプルプロジェクトファイル	サンプル XML ファイル
固定型	Jorder-fix.rxl / Jorder-fix2.rxl	Jsample-data.xml
フロー型	Jorder-flow.rxl	
タックシール	Jlabel.rxl	

また、以下の機能を使用したサンプルもご用意いたしました。

機能	サンプルプロジェクトファイル	サンプル XML ファイル
バーコード	Jbarcode-flow-repeat.rxl	Jbarcode-data.xml
式	Jexp-sample1.rxl Jexp-sample2.rxl	Jsample-data.xml Jseiseki.xml
コントロールブレイクとまとめ	Jc-break.rxl	Jctrl-break.xml
ソートとグルーピング	Jsort-group.rxl	Jsort-group-data.xml
動的な属性変更	Jdyna-prop-fix.rxl Jdyna-prop-flow.rxl Jdyna-prop-order-flow.rxl	Jdyna-prop-seiseki.xml Jdyna-prop-seiseki.xml Jsample-data.xml

それぞれのサンプルでは、以下の機能も使用されていますので併せてご覧ください。

機能	説明
レポートヘッダ・レポートフッタ	レポートヘッダやレポートフッタを指定できます。
ページヘッダ・ページフッタ	ページヘッダやページフッタを設定できます。
文字スタイル（フォント、太字、斜体、サイズ、下線、文字色）	それぞれのオブジェクトのテキストに、文字スタイルを指定できます。
背景色	オブジェクトに背景色を設定できます。
文字配置・行配置	水平方向、垂直方向の、文字の配置を設定できます。
枠線（スタイル、幅、色）	各オブジェクトの枠線の形を指定したり、幅や色を設定できます。
式	縦方向・横方向の総合計や、現在日付、ページ番号やページ番号などを、式を使って設定できます。
属性式	オブジェクトの属性(文字色や背景色など)を、属性式を使って動的に変更できます。

31 「固定型」レイアウトタイプのサンプル

「Jorder-fix.rxl」は、「固定型」プロジェクトファイルのためのサンプルです。これは典型的な帳票のためのレイアウトで、固定位置に固定サイズのオブジェクトを配置し、その中にデータを印刷するタイプです。

ユーザは、ページと呼ばれる領域にオブジェクトを配置していきます。GUI画面上では、ページは用紙のように見えます。用紙から余白やページヘッダ・フッタを除いた部分が本文領域として使われます。配置できるオブジェクトは全て固定位置、固定サイズですから、フィールドやテーブルが印刷するデータによって自動的に伸び縮みはしません。テーブルの場合、指定行数よりデータの行数が多い分は捨てられます。ページヘッダ・フッタを指定することができます。レポートヘッダ・フッタをつけることができます。レポートヘッダ・フッタは必ず改ページします。これはレポートに表紙をつけたいときに有効です。

31.1 サンプルプロジェクトファイル (Jorder-fix.rxl)

The screenshot displays a report design environment. On the left, the 'プロパティ' (Properties) panel shows settings for a text object, such as 'オブジェクト型: text', 'X座標: 69.90mm', and 'フォント名: MSゴシック'. Below it, the 'オブジェクトツリー' (Object Tree) shows a hierarchical structure of the report, including 'report-header', 'page-header', 'repeat /order-main', and 'table order/'.

The main design area features a grid with a vertical axis from 0 to 27 and a horizontal axis from 0 to 18. The report content is as follows:

- Header:** 'レポートヘッダ' (Report Header) at the top, followed by the 'Antenna House, Inc.' logo and name.
- Title:** '注文書' (Order Form) in the center.
- Company Information:** 'アンテナハウス株式会社' (Antenna House Co., Ltd.), '東京都千代田区九段南4丁目5番13号' (4-5-13, Kyūjūnan, Chiyoda-ku, Tokyo), 'TEL: 03-3234-9631', and 'FAX: 03-3221-9975'.
- Table:** A table titled 'ご注文明細' (Order Details) with the following structure:

製品名	製品イメージ	単価	数量	合計
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
a item-name	[Image]	a unit_pric	a mltiplicat	a it
総合計	[Image]	A	a	a
- Footer:** '左フッタ' (Left Footer) and '右フッタ' (Right Footer) at the bottom, with 'レポートフッタ' (Report Footer) below them.

[プロパティ] ウィンドウの [種別] で [スタティック] を指定すると、入力した (固定の) 文字が常に表示されます。

サンプルファイルでは、「注文書」「アンテナハウス株式会社」などがスタティックです。

[フィールド] を選択すると、XML パスで指定された、XML のデータが埋め込まれます。

GUI 上では、フィールド部分には、「A」というマークが表示されます。

テーブルオブジェクトを新規で入力する際は、[テーブル設定] ダイアログが表示されます。

サンプル文書では、[テーブル種別] に [固定] が指定され、指定された行数 (8 行)・カラム数 (6 列) が常に表示される表が作成されています。これらの設定は、[テーブル] メニューの [設定] ダイアログで確認できます。

31.2 出力される XSL-FO ファイル (Jorder-fix.fo)

「Jsample-data.xml」と組み合わせて、このプロジェクトファイルは、以下のような FO ファイルとして XSL Formatter で表示されます。

The image displays two side-by-side screenshots of an invoice rendered from XSL-FO. Both screenshots show the header information for 'Antenna House, Inc.' (アンテナハウス株式会社) and 'First General Trading Co., Ltd.' (第一総合商社株式会社). The left screenshot shows a table of items with columns for item name, image, unit price, quantity, and total price. The right screenshot shows the same header and a table of items, but with a 'Total' (総合計) row at the bottom.

品名	品名イメージ	単価	数量	合計
SPParser Ver 1.0		13,440円	1	13,440円
TagEditor Ver 2.1		9,240円	3	27,720円
SPParser Ver 1.0		13,440円	1	13,440円
SPParser Ver 1.0		13,440円	1	13,440円
SPParser Ver 1.0		13,440円	1	13,440円
XSL Formatter Ver 1.0		207,900円	2	415,800円
SPParser Ver 1.0		13,440円	1	13,440円
TagEditor Ver 2.1		9,240円	3	27,720円
XSL Formatter Ver 1.0		207,900円	2	415,800円
総合計			14	940,800円

[フィールド] を指定した部分には、対応する XML データが埋め込まれています。

固定型のテーブルは、埋め込まれるデータの数に関わらず、常に指定された行数・カラム数で表示されます。

XML の繰り返しパスで指定した要素が 8 レコード分ある場合は、8 行が埋まります。

8 行分以上のデータがある場合は、9 行目以降は印刷されません。反対に、8 行以下のデータの場合、たとえば、3 レコード分のデータがあれば 3 行が埋まり、残りの行は空行になります。これは、この表が、印刷されるデータに依って自動的に伸縮しない [固定型] の表のためです。

31.3 出力される XSL-FO ファイルその 2 (Jorder-fix2.fo)

サンプルデータ「Jorder-fix2.rxl」で見ると、複数のページで、データベースという 1 レコード分を構成することもできます。たとえば、注文書の 1 枚目は概略、2 枚目は明細といった帳票を作ることができます。


アンテナハウス株式会社

販売実績 (2月)

お客様名	住所
第一総合株式会社	〒106-0032
	東京都港区六本木6-10-1
	03-5324-6888
	契約条件
	00001
ショップ	
東洋銀行	
1,000,000	
N/A	

Antenna House, Inc.

Antenna House, Inc. was founded in August of 1984 in Tokyo, Japan, as a software company. Focused on data usability, Antenna House, Inc. has had three generations of CEOs in Japan since August of 1984. We currently operate out of 3 International Locations and welcome New Partners from around the Globe.



ANTENNA HOUSE

1/20

アンテナハウス株式会社

ご注文明細

製品名	イメージ	バーコード	単価	数量	合計
SSParser Ver 1.0			13,440 円	1	13,440 円
TagEditor Ver 2.1			9,240 円	3	27,720 円
SSParser Ver 1.0			13,440 円	1	13,440 円
SSParser Ver 1.0			13,440 円	1	13,440 円
XSL Formatter Ver 1.0			207,900 円	2	415,800 円
SSParser Ver 1.0			13,440 円	1	13,440 円
TagEditor Ver 2.1			9,240 円	3	27,720 円
XSL Formatter Ver 1.0			207,900 円	2	415,800 円
総合計					14,940,800 円

2/20

32 「フロー型」レイアウトタイプのサンプル

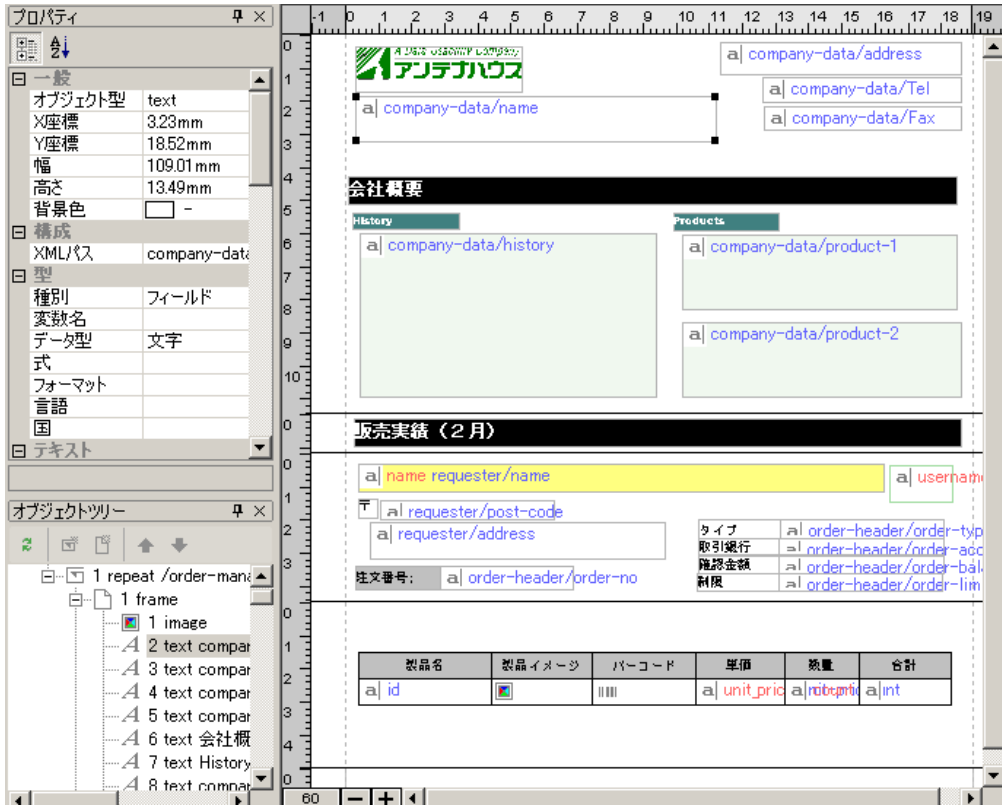
「Jorder-flow.rxl」は、「フロー型」プロジェクトファイルのためのサンプルです。これは、埋め込むデータによって、オブジェクトが伸縮するタイプのレイアウトです。たとえば、テーブルは、データの行数に合わせて、伸び縮みします。オブジェクトの伸縮に合わせて、以後のオブジェクトの位置が変わります。まるでオブジェクトが浮かんでいるようなので、フロー形式といいます。

ユーザは、「フレーム」と呼ばれる領域にオブジェクトを配置していきます。複数のフレームを置いたり、オブジェクトをフレームによってグループ化することができます。グループ化することによって、その中にあるオブジェクト全体がひとまとまりとしてフローすることができるようになります。

レポートヘッダ・フッタをつけることができます。

なお、複数ページで、レイアウトを構成することはできません。

32.1 サンプルプロジェクトファイル (Jorder-flow.rxl)



このサンプルには、5つのフレームがあります。1つめは「会社概要」のフレーム。次のフレームは「販売実績」のスタティック文字が入っているフレームです。

3番目、4番目、5番目のフレームは、「サブリピート」（「メインリピート」の中で更に繰り返されるリピートを「サブリピート」と呼びます。）の中にあります。これらは、それぞれのオーダー情報を表示します。

（オブジェクトツリーの表示を見ると、このサンプルの全体の構造がよりわかりやすいかと思えます。）

最初の2つのフレームは一度だけ表示され繰り返されることはありません。残りの3つのフレームはXMLパスの指定に従って、要素の数だけ繰り返されます。

またここでは、テーブル種別に「可変」が設定されています。この可変型テーブル6列が指定されており、行数はXMLデータに依存して増減します。

32.2 出力される XSL-FO ファイル (Jorder-flow.fo)

「Jsample-data.xml」と組み合わせて、このプロジェクトファイルは、以下のようなFOファイルとしてXSL Formatterで表示されます。

ANTENNA HOUSE
A Data Usability Company
アンテナハウス株式会社

東京都千代田区大塚4丁目3番 13号 麹町
分社ビル 4階
Tel: 03-3234-9631
Fax: 03-3221-9975

会社概要

History
アンテナハウス株式会社は、1984年8月設立以来、多種多様なデータ間の差を乗り越える、大量集積ソフト開発で、確かな地位を確立してきました。1995年より、S/Mプロジェクトを開始。2000年より「XML Formatter」を開発し、現在、世界中の市場から、その採用に注目を集めています。

Products
パソコンパッケージソフト: XML Formatter、リッチ・テキスト・コンバータ、自在電、行先番、DM/Toolbox (販売累計143万本/2002年2月末現在)
コンパイルソフトの開発とOEM供給、ライブ러리販売: RTV 라이브러리、DM/テキスト/HTML/音声 라이브러리、自在電 SDK、PDF作成 라이브러리

得意先誌 (2月)

第一総合商社株式会社 様

〒100-0032
東京都港区六本木6-10-1
タイプ: 取引銀行: ショップ
取引銀行: 東京銀行
電話会報: 1,000,000
制限: N/A

題名名	題名イメージ	バーコード	単価	数量	合計
SXP0100-RP002		■■■■■	13,440円	1	13,440円
TED0201-VS001		■■■■■	9,240円	3	27,720円
SXP0100-RP002		■■■■■	13,440円	1	13,440円
SXP0100-RP002		■■■■■	13,440円	1	13,440円
XLFP0100-NR001		■■■■■	207,900円	2	415,800円
SXP0100-RP002		■■■■■	13,440円	1	13,440円
TED0201-VS001		■■■■■	9,240円	3	27,720円
XLFP0100-NR001		■■■■■	207,900円	2	415,800円

株式会社名電エレクトロニクス 様

〒484-0852
愛知県名古屋市中区5-5-66
注文番号: 00002

題名名	題名イメージ	バーコード	単価	数量	合計
TED0201-VS001		■■■■■	9,240円	3	27,720円
SXP0100-RP002		■■■■■	13,440円	1	13,440円
SXP0100-RP002		■■■■■	13,440円	1	13,440円
SXP0100-RP002		■■■■■	13,440円	1	13,440円
XLFP0100-NR001		■■■■■	207,900円	2	415,800円
XLFP0100-NR001		■■■■■	207,900円	2	415,800円

東洋電機株式会社 様

〒723-0038
広島県三原市沼田7-88-5
注文番号: 00003

題名名	題名イメージ	バーコード	単価	数量	合計
XLFP0100-NR001		■■■■■	207,900円	2	415,800円
TED0201-VS001		■■■■■	9,240円	3	27,720円

トラベル・インターナショナル・セキュリティ株式会社 様

〒006-0838
北海道札幌市手稲区8-3-9
注文番号: 00004

題名名	題名イメージ	バーコード	単価	数量	合計
XLFP0100-NR001		■■■■■	207,900円	2	415,800円

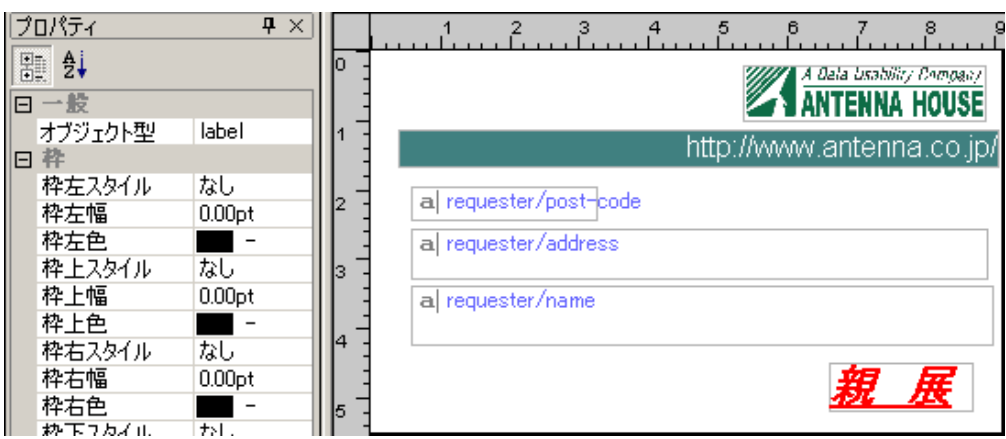
ご覧のように、データの数によって表の行数が伸縮しています。その伸縮にあわせて、以降のオブジェクトの位置も動きます。

33 「タックシール」レイアウトタイプのサンプル

「Jlabel.rxl」は、「タックシール」プロジェクトファイルのためのサンプルです。「タックシール」は、「固定型」とよく似ていますが、大きな違いは、ページを縦・横に分割して、その1つの領域にオブジェクトを配置することです。1枚の用紙に複数のレコードを順に印刷していくときに使います。配置できるのは、固定位置、固定サイズのオブジェクトです。

サンプルファイルでは、ページが5行、2列に分割されています。この設定は、[プロジェクト]メニューの[用紙設定]ダイアログの[用紙分割]で確認できます。

33.1 サンプルプロジェクトファイル (Jlabel.rxl)



33.2 出力される XSL-FO ファイル (Jlabel.fo)

「Jsample-data.xml」と組み合わせて、このプロジェクトファイルは、以下のような FO ファイルとして XSL Formatter で表示されます。



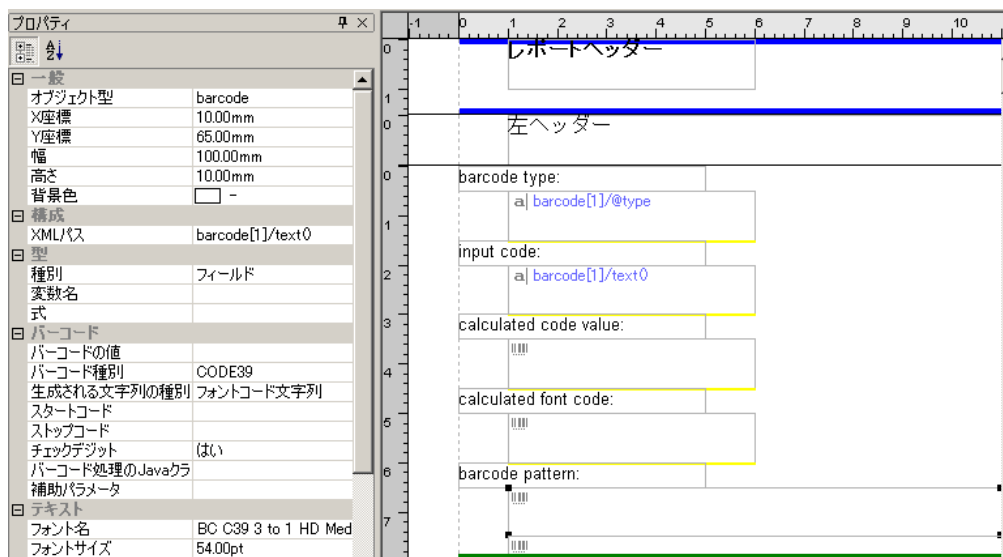
34 「バーコード」のサンプル

注意：

XSL Report Designer で作成されたプロジェクトファイルでバーコードを印刷（表示）するには、「XSL Formatter バーコードオプション」が必要です。ご使用前に、XSL Formatter と共に、「XSL Formatter バーコードオプション」がインストールされていることをご確認ください。

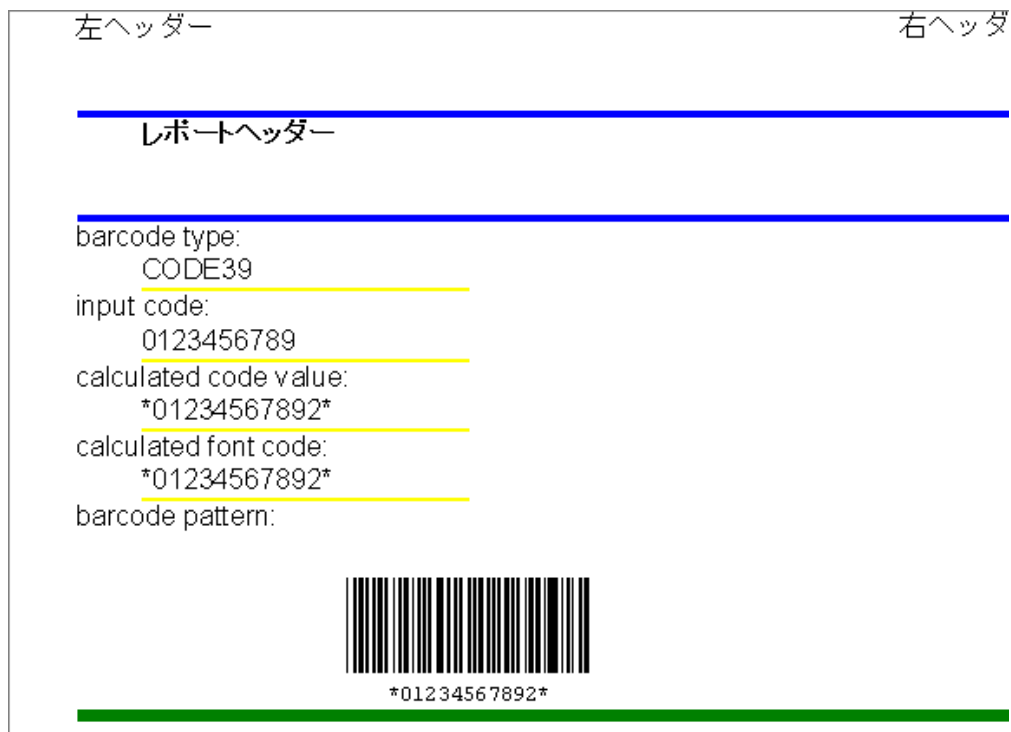
34.1 サンプルプロジェクトファイル (Jbarcode-flow-repeat.rxl)

バーコードを印刷するには、バーコードオブジェクトを使用します。バーコードのフォントやタイプを指定することにより、簡単にバーコードを表示することが可能です。



34.2 出力される XSL-FO ファイル (Jbarcode-flow-repeat.fo)

「Jbarcode-data.xml」と組み合わせて、このプロジェクトファイルは、以下のような FO ファイルとして XSL Formatter で表示されます。



35 「式」のサンプル

式を設定することにより、複雑な数式を行ったり、また現在日付やページ番号などを自動的に出力することなどが可能です。式の詳細については「組込関数」も参照ください。

35.1 サンプルプロジェクトファイル (Jexp-sample2.rxl)

このサンプルでは、以下の組込関数を使用しています。

- hAvg
- totalSum
- date
- time
- currentPage
- totalPages
- dateCalc

a
a

a requester/name				
生徒番号	国語	数学	英語	平均
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
a s-number	a koku koku	a suu sugak	a ei eigo	a
総合計	a	a	a	A

a

35.2 出力される XSL-FO ファイル (Jexp-sample2.fo)

「Jseiseki.xml」と組み合わせて、このプロジェクトファイルは、以下のような FO ファイルとして XSL Formatter で表示されます。

3-A

生徒番号	国語	数学	英語	平均
1	30	45	52	42.3
2	40	61	52	51.0
3	34	51	75	53.3
4	72	80	85	79.0
5	34	15	51	33.3
6	61	91	95	82.3
7	75	100	65	80.0
8	40	18	51	36.3
9	52	81	65	66.0
10	74	65	53	64.0
総合計	512	607	644	

日付:2004/11/15

36 「コントロールブレイクとまとめ」のサンプル

[コントロールブレイク] は、指定されたブレイクキーで集計を行う機能です。
また、[まとめ設定] は、データをまとめる機能です。[可変] は、同じデータが連続して出現する場合に、それらをまとめてセル結合します。[固定] は、指定された行数で、まとめます（セル結合はされず指定された行ごとに線が引かれます）。まとめを行うかどうかは、カラム単位で指定します。

36.1 サンプルプロジェクトファイル (Jc-break.rxl)



36.2 出力される XSL-FO ファイル (Jc-break.fo)

「Jctrl-break.xml」と組み合わせて、このプロジェクトファイルは、以下のような FO ファイルとして XSL Formatter で表示されます。

商品集計表

商品ID	商品名	価格
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
		67,200
		67,200
	SXParser Ver 1.0	13,440
		13,440
		13,440
	TagEditor Ver 2.1	9,240
		9,240
		9,240
	XSL Formatter Ver 1.0	207,900
		207,900
		207,900
	商品名	価格
	TagEditor Ver 2.1	9,240
		9,240
		9,240
	SXParser Ver 1.0	13,440
		13,440
		13,440

商品集計表

商品ID	商品名	価格
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
商品名合計		40,320
SXP0100-RP002	SXParser Ver 1.1	13,440
	SXParser Ver 1.1	13,440
	SXParser Ver 1.1	13,440
	SXParser Ver 1.1	13,440
商品名合計		53,760
商品ID合計		94,080
SXP0100-RP003	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
商品名合計		53,760
商品ID合計		53,760
SXP0100-RP004	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
	SXParser Ver 1.0	13,440
商品名合計		53,760
商品ID合計		53,760

改訂履歷

以下は、XSL Report Designer の改訂履歴です。

37 V2.5 (2009年1月28日リリース)

以下の機能が追加されました。

1. 下絵に PDF が使えるようになった。
2. オブジェクトの属性を動的に変更できるようになった。
3. 文字列関連関数追加。

38 V2.1 (2007年6月1日リリース)

以下の機能が追加されました。

1. テーブルのセル結合(スパン)機能を追加した。
2. 編集機能に吸着を追加した。
3. オブジェクトのグループ化を追加した。

39 V2.0 MR4 (2007年3月5日リリース)

以下の機能が追加されました。

1. Windows Vista に対応した。

40 V2.0 MR3 (2006年8月9日リリース)

以下の機能が追加されました。

1. XSL Formatter V4 に対応した。

41 V2.0 MR2 (2005年11月30日リリース)

以下の機能が追加されました。

1. XSL スタイルシートへの四則演算の出力
2. XSL スタイルシートへのページ番号の出力
3. 画像オブジェクトの縦軸配置プロパティが無効になってしまうバグを修正した。

41.1 XSL スタイルシートへの四則演算の出力

V2.0 MR2 より古いバージョンではオブジェクトの「式」に四則演算式を入力しても、これが XSL スタイルシートには反映されませんでした。MR2 より四則演算式を XSL スタイルシートに出力することができるようになりました。

```
例 1
<data>
  <UnitPrice>120</UnitPrice>
  <Count>4</Count>
</data>
```

上記のような XML データがあり、「 $120 * 4 = 480$ 」という出力を得たいときは、以下の手順でプロジェクトを作成し、XSL スタイルシートを保存することで、演算式をスタイルシートに出力することができます。

1. <UnitPrice>を参照するオブジェクトのプロパティ「変数名」に要素名と同じ「UnitPrice」と入力する。
2. <Count>を参照するオブジェクトのプロパティ「変数名」に要素名と同じ「Count」と入力する。
3. 計算結果を出力するオブジェクトのプロパティ「式」に「UnitPrice * Count」と入力する。

使用できる演算記号は以下の 5 種類です。

- 加算 +
- 減算 -
- 乗算 *
- 除算 div
- 剰余 mod

例 2

```
<Mathematics>74</Mathematics>
<Science>65</Science>
<Music>60</Music>
```

上記のような XML データを使って、3 科目の平均点を求め、それを XSL スタイルシートに保存する手順は以下のとおりです。

1. 計算結果を出力するオブジェクトのプロパティ「式」に「(Mathematics + Science + Music) div 3」と入力する。
2. 作成したプロジェクトを、XSL スタイルシートで保存する



注意

1. 式の中に関数を使うことはできません。
2. ひとつの要素を複数のオブジェクトから参照し、且つ、これらのオブジェクトを使って四則演算させるとき、GUI 上では「変数が重複しています」というエラー表示されますが、この場合でも演算式は正しく XSL スタイルシートに出力されます（ただしプロジェクトファイルを使った組版はできません）。

41.2 XSL スタイルシートへのページ番号の出力

V2.0 MR2 より古いバージョンではオブジェクトの「式」にページ番号を取得する関数「currentPage()」を入力しても XSL スタイルシートには反映されませんでした。MR2 より XSL スタイルシートに出力するようになりました。正確には fo:page-number という XSL-FO に変換して出力されます。

42 V2.0 MR1a (2005 年 5 月 16 日リリース)

以下の機能が追加されました。

1. XSL スタイルシートへの出力で、不正な属性名が出力されていたのを修正した。

43 V2.0 MR1 (2005 年 2 月 22 日リリース)

以下の機能が追加されました。

1. 製品マニュアル（ヘルプ）で使用しているサンプル XML ファイルを追加した。

2. 画像のプロパティに「変数名」を追加した。
3. テーブル内で対角線が正常に保存できないバグを修正。

44 V2.0 (2004年12月20日リリース)

V2.0 がリリースされました。

索引

索引

	D		環境設定.....	64
dpi.....				84, 184
	G			
GUI.....				52
	P			
PDF 生成.....				2
	T			
TSV/CSV データ.....				60, 124, 126
	X			
XML データ.....				2, 6, 60, 124, 125, 164
XML パス.....				7, 164
XSL Formatter.....				2, 4, 14
XSL Formatter バーコードオプション.....				4, 186
XSLT プロセサ.....				8
XSL-FO.....				2, 8
XSL-FO 出力とプレビュー.....				73
XSL スタイルシート.....				2, 8, 49
X 座標.....				172
XPath.....				41, 125, 167
	Y			
Y 座標.....				172
	あ			
値.....				56
あふれ時処理.....				176
あふれ時置換文字列.....				176
	い			
印刷制御.....				182
	う			
ウィンドウメニュー.....				91
	え			
	お			
オブジェクト.....				7, 9, 129, 162
オブジェクト型.....				131, 135, 138, 140, 142, 152, 159, 162
オブジェクトツリーウィンドウ.....				55
オブジェクトの種類.....				121
オブジェクトの内容.....				163
オブジェクトの配置.....				77, 79
オブジェクトの編集操作.....				102
オブジェクトメニュー.....				77
親の繰り返しパス.....				152
	か			
下位オブジェクトの選択.....				66
改行の扱い.....				174
改訂履歴.....				246
改ページ.....				141, 146, 153, 196
画像オブジェクト.....				162, 182
画像種別.....				184
カラムインフォオブジェクト.....				192
カラム種別.....				89
カラム設定タブ.....				89
	き			
			キャプションオブジェクト.....	192
			キャラクタセット.....	63
			行の高さ.....	175
			行配置.....	175
	く			
			空白の扱い.....	174
			国.....	166
			国コード.....	171
			組込関数.....	165, 166, 218
			組版.....	2
			繰り返し単位の XML パス.....	62, 71, 125, 126, 139
			繰り返し単位のページ数.....	62, 71
			繰り返しパターン.....	6
			繰り返し要素.....	10
			繰り返し要素パス.....	195
			グリッド設定.....	68
			クリッピング.....	184
	け			
			言語.....	166
			言語コード.....	171
	こ			
			構成メニュー.....	74
			構成用オブジェクト.....	129, 131
			構造を参照する XML ファイル.....	62, 71
			固定型.....	6, 124, 132
			固定型のページヘッダ・ページフッタオブジェクト.....	137
			固定型のレポートオブジェクト.....	139
			固定型のレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト.....	133
			コンテキストメニュー.....	91
			コントロールブレイクタブ.....	90
	さ			
			最終行文字配置.....	175
			サブリピート.....	10, 148
			参照 XML 構造ウィンドウ.....	57
			サンプルファイル.....	33, 232
	し			
			式.....	165
			式の入力方法.....	167
			下絵設定.....	82
			自動生成される XML ファイル.....	63, 126
			自動的に伸びる.....	180
			集計.....	200
			集計カラム.....	196
			集計タイトル.....	90, 196
			集計タイトルのカラム.....	196
			種別.....	164, 174, 183, 188
			小計.....	196
			新規作成ガイド.....	59
	す			
			スケールリング.....	184

スタートコード.....	189
スタティック.....	7, 164
ステータスバー.....	53
ストップコード.....	189

せ

生成される文字列の種類別.....	188
先頭行インデント.....	176

そ

属性グループ.....	80, 85
属性グループ編集.....	86
属性式.....	80, 166
その他タブ.....	65

た

対角線.....	180
大計.....	196
タイトルバー.....	52
高さ.....	172
タックシール.....	7, 124, 153
タックシールのページヘッダ・ページフッタオブジェクト.....	157
タックシールのリPEATオブジェクト.....	158
タックシールのレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト.....	155
縦書き.....	175
縦軸配置.....	184

ち

チェックデジット.....	189
中計.....	196

つ

ツールチップ.....	64
ツールバー.....	53
ツリー構造.....	15, 33

て

データ型.....	165
データ項目の扱い.....	61
テーブルオブジェクト.....	10, 162, 190
テーブル種別.....	87, 195
テーブル設定タブ.....	87
テーブルセルオブジェクト.....	193
テーブルの繰り返しパス.....	87
テーブルフッタオブジェクト.....	194
テーブルヘッダオブジェクト.....	194
テーブルボディオブジェクト.....	193
テーブルメニュー.....	86
テーブルロウオブジェクト.....	193
テキスト穴埋めパス.....	66
テキストオブジェクト.....	7, 19, 162, 171
デフォルトフォント.....	71

と

ドキュメントオブジェクト.....	10, 130
ドッキングウィンドウ.....	52, 92
ドッキングウィンドウを初期状態に戻す.....	65
ドラッグアンドドロップで XML パスを設定.....	57

は

バーコードオブジェクト.....	162, 186
バーコード種別.....	188
バーコード処理の Java クラス名.....	190

バーコードの値.....	188
背景色.....	173, 196
バディング.....	180
幅.....	172

ひ

表示メニュー.....	67
-------------	----

ふ

ファイルパス.....	184
ファイルメニュー.....	58
フィールド.....	7, 164
フォーマット.....	166, 170
フォーマットの入力支援.....	168
フォントサイズ.....	175
フォント名.....	174
フルパス保存.....	184
ブレイク判定カラム.....	196
フレーム移動.....	77
フレームオブジェクト.....	129, 150
フレーム挿入.....	76
フロー型.....	6, 124, 143
フロー型のページヘッダ・ページフッタオブジェクト.....	146
フロー型のリPEATオブジェクト.....	148
フロー型のレポートヘッダ・レポートフッタオブジェクト.....	144
プロジェクト.....	7, 124
プロジェクト設定.....	70, 124
プロジェクトファイル.....	2, 7, 49
プロジェクトメニュー.....	70
プロパティ.....	11, 163
プロパティ一覧.....	206
プロパティウィンドウ.....	56
プロパティの名前.....	56
プロパティメニュー.....	79

へ

ページオブジェクト.....	129, 141
ページ挿入.....	76
ページ番号.....	141
ページフッタ.....	75
ページヘッダ.....	75
ヘッダ/フッタの設定.....	75
ヘルプメニュー.....	91
編集メニュー.....	65
変数名.....	165

ほ

補助パラメータ.....	190
--------------	-----

ま

まとめ設定.....	196, 198
------------	----------

め

メインリPEAT.....	10, 139, 148, 158
メニューバー.....	53

も

文字飾り.....	175
文字色.....	175
文字スタイル.....	175
文字スペーシング.....	175
文字配置.....	175

ゆ

優先オブジェクト.....78

よ

用紙設定.....71

用紙定義.....72

横軸配置.....184

ら

ラインオブジェクト.....162, 202

ラベルオブジェクト.....129, 159

ランタイムエンジン.....2, 8, 73, 224

り

リピート移動.....77

リピートオブジェクト.....10

リピート挿入.....75

リピート無効.....195

る

ルート.....10

れ

レイアウト設計.....2

レイアウトタイプ.....61, 71, 124

レイアウトペイン.....52, 54

レイアウト用オブジェクト.....129, 162

レポート.....2

レポートフッタ.....75

レポートヘッダ.....75